

Hyogo University of Health Sciences



兵庫医療大学年報

平成24・25年度



学校法人 兵庫医科大学

兵庫医療大学

兵庫医療大学年報第4巻の発刊に当たって

兵庫医療大学 学長 馬場 明道

「2nd ステージへ」

兵庫医療大学は、平成19年の開学から平成25年3月の薬学部一期生の卒業をもって、1st ステージが終了し、新たな2nd ステージに入りました。本学がこれまで、1st ステージにおいて、順調な歩みを続けて来られましたことは、学校法人兵庫医科大学はもとより、行政、近隣大学、教育連携をお願いしている諸施設、本学保護者会、そして地域の皆様のおかげと深く感謝申し上げます。

その2nd ステージの代わり目に、初代学長 松田 暉先生の後を受けて、2代学長を拝命いたしました。1st ステージの6年間に、松田前学長のリーダーシップの下に、“チーム医療”、“ボーダレスな教育環境”をキーワードに、兵庫医科大学との密接な教学連携を中核とする、わが国でもまれな医療総合大学としての教学理念を確立してきました。この教学理念の下の包括的医療人育成教育は、我が国が直面しつつある複雑な医療状況を見据えた先進的取り組みとして、平成24年度の大学認証評価において、極めて高く評価されました。医科大学との連携をもとに、全教職員の熱い心と、学生諸君の新進の気風とが相まって、1st ステージの成功に至ったと確信しています。

本学が2nd ステージに入った現在、医療系学部を取り巻く環境は、すでに、過当競争の真っ只中にあります。加えて、平成29年度から、第2次の18歳人口の更なる減少期を迎えます。他方、我が国の大学教育は、「教育の質保障」から、「教育の質転換」へと連続的な教育改革の必要性が求められています。これらの状況の中で、大学がその基盤を確立するには、絶えず社会の要請に応える改革を継続しつつ、その掲げる人材育成教育を実践していく他ありません。

本学の教育理念である、「先進的医療人の育成とその包括的教育」については、これまでの着実な実践により、具体のものとして定着しています。従って、2nd ステージでは、それら本学の独自の教育実践をさらにブラッシュアップする中で、(1)意欲に満ちた受験生の確保、(2)入学後の徹底した全人教育、(3)卒業・国試・就職・生涯教育に至る3つの過程に戦略的に取り組み、それらを効率的に機能させるための大学ガバナンスの強化を行っています。それらにより、本学が、私立医療系大学としての安定的教学基盤を確立し、“厳しくも面倒見の良い”、“国家資格+α”を持つ大学としての立ち位置を明確にしていく所存です。

本冊子には、平成24年度分として、1st ステージの最終年度の活動、平成25年度分としては、2nd ステージの開始年の本学の諸活動を取りまとめてあります。本学が開学し、そして、発展していく過程の活動報告として、ご参照いただければ幸いです。

本学は、まだ発展途上にある大学であります。冒頭に述べましたように、兵庫医科大学をはじめとする多くの関係機関や本学関係者、更には地域の皆様方のご理解と温かいご支援が無くして、本学の更なる発展は望むべくもありません。皆様の、ご指導、ご鞭撻を切にお願い申し上げます。次第です。

目 次

年報挨拶 年報第4巻発刊にあたって

学 長 馬場 明道

目 次

I 兵庫医療大学の学事と組織

1. 沿革	1
2. 兵庫医療大学の理念	
1) 学部	2
2) 大学院	4
3. 学年歴	
1) 学部	7
2) 大学院	10
4. 学校法人兵庫医科大学組織機構図	13
5. 兵庫医療大学組織機構図	14
6. 大学協議会	15
7. 学部・大学院の構成	
1) 学部・学科	16
2) 大学院・研究科	17
8. 役員名簿	19
9. 校舎・施設設備の概要	
1) 兵庫医療大学の概要	20
2) 兵庫医療大学 施設配置図	21
10. 各委員会委員一覧	22
11. 委員会の取り組み	
1) FD委員会	26
2) 教育委員会	27
3) 自己点検・評価委員会	30
4) 学生委員会	33
5) 情報センター運営委員会	37
6) 地域連携推進委員会	37
7) 入試運営委員会	38
8) 広報委員会	39
9) 図書館委員会	43
10) 遺伝子組換え実験安全委員会	44
11) 環境安全委員会	45
12) 倫理審査委員会	46
13) 病原体等安全管理委員会	50
14) 動物実験委員会	52
15) キャリアデザイン委員会	53
16) 国際交流委員会	55
17) 研究推進委員会	56

18) 紀要委員会	58
19) キャンパス有効利用委員会	59
20) 防火防災対策委員会	60
21) 共同研究の受け入れに関する審査委員会	60
22) ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理審査専門委員会	61
23) 利益相反マネジメント委員会	62
24) 先端医薬研究センター運営委員会	
先端医薬研究センター研究プロジェクト選考委員会	63

Ⅱ 教育・研究活動

1. 教育の概要	64
2. 各部門の活動	
1) 薬学部	67
2) 看護学部	73
3) リハビリテーション学部	84
4) 共通教育センター	98
5) 医療人育成センター	103
6) 臨床薬学研修センター	104
3. 大学院の活動	
1) 薬学研究科	109
2) 看護学研究科	113
3) 医療科学研究科	120
4. 研究活動の状況	
1) 先端医薬研究センター	125
2) 共同機器室	125
3) 動物実験センター	127
4) RI実験センター	129
5) 薬物草園	130
6) 学外研究費の取得一覧	131
7) 教育・研究・社会活動における新聞記事	137

Ⅲ. 管理・運営活動

1. 学生の受け入れ	
1) 入学試験状況	140
2) 学生数の修学状況	149
2. 学生の福利厚生	
1) 奨学金の貸与状況	150
2) 学生会活動	150
3) 保健管理センター	155
3. 学内広報	
1) 学内広報誌「HUHS NOW」の刊行	163
2) IB（インフォメーションボード）における情報発信	164

4. 附属施設・活動状況	
1) 図書館	165
2) 情報センター	167
3) キャリアデザインセンター	168
4) 地域連携実践センター	172
5. 神戸ポートアイランド4大学連携事業	
1) 実務者会議	
(1) ポーアイ健康・生活支援ステーション	177
2) 部会活動	
(1) 入試広報部会	177
(2) 教務部会	178
(3) 学生部会	179
(4) 図書館部会	181
(5) キャリア部会	183
Ⅳ. 写真（カラー）	185
Ⅴ. 業績録	191
1. 薬学部	193
2. 看護学部	216
3. リハビリテーション学部	230
4. 共通教育センター	252
5. 松田暉学長（平成24年度）	258
6. 馬場明道学長（平成25年度）	259

編集後記

I 兵庫医療大学の学事と組織

1. 沿革

- 昭和46年11月 学校法人兵庫医科大学寄附行為認可及び兵庫医科大学設置認可
- 昭和47年 4 月 兵庫医科大学開学
- 4 月 兵庫医科大学病院開設
- 昭和53年 3 月 兵庫医科大学大学院医学研究科設置認可
- 10月 兵庫医科大学篠山病院開設
- 9 月 兵庫医科大学ささやま老人保健施設開設
- 平成18年11月 学校法人兵庫医科大学寄附行為変更認可及び兵庫医療大学設置認可
- 平成19年 4 月 兵庫医療大学開学
- 4 月 保健管理センター開設
- 6 月 医療人育成センター（西宮キャンパス）開設
（旧：医学・医療教育研修センター）
- 10月 地域連携実践センター開設
- 10月 兵庫医療大学先端医薬研究センター開設
（旧：医薬共同創薬研究開発センター）
- 平成20年 1 月 神戸ポートアイランドキャンパス 4 大学連携協定締結
- 4 月 動物実験センター開設
- 9 月 薬用植物園開設
- 9 月 平成21年度看護学部看護学科三年次編入学試験開始
- 10月 第1回兵庫医療大学大学祭（海梟祭）開催
- 10月 臨床薬学研修センター開設
- 12月 神戸ポートアイランドキャンパス 4 大学連携における単位互換に関する協定締結
（兵庫医療大学、神戸学院大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学）
- 平成21年 3 月 兵庫医療大学体育館（アリーナ）完成
- 3 月 防災・減災及びボランティア活動に関する 5 大学連携支援協定を締結
（兵庫医療大学、工学院大学、大妻女子大学、神戸学院大学、神戸女子大学）
- 4 月 キャリアデザインセンター開設
- 7 月 神戸夙川学院大学 大学入試センター試験の共同実施に関する協定書調印
- 9 月 RI実験センター開設
- 平成22年 1 月 平成22年度大学入試センター試験利用入学試験（薬学部、看護学部）開始
- 12月 兵庫医療大学大学院看護学研究科・医療科学研究科設置認可
- 平成23年 3 月 第1期生卒業（看護学部、リハビリテーション学部）
- 4 月 兵庫医療大学大学院開設
- 6 月 フィンランド共和国トゥルク応用科学大学との学術交流に関する協定を締結
- 平成25年 3 月 大学基準協会認定評価において大学基準適合認定
- 3 月 第1期卒業生輩出（薬学部）
- 3 月 第1期生修了（看護学研究科、医療科学研究科）
- 4 月 兵庫医療大学大学院薬学研究科設置

2. 兵庫医療大学の理念

1) 学 部

兵庫医療大学教育理念

人間への深い愛と豊かな人間性を持ち、幅広い知識と優れた技術を備え、社会とともに医療を担う医療専門職者を育成する。

兵庫医療大学教育目標

「幅広い教養と心豊かな人格の育成」、「関連分野とのボーダレスな教育環境のもと、専門性の高い知識と技術の修得」「優れたコミュニケーション能力を基礎としたチーム医療・地域医療を担える資質の育成」及び「次世代の医療科学を担う創造性と国際性の涵養」

〈薬学部〉

教育理念

基礎と臨床を融合させた薬学教育とともに、医学・医療の関連分野との横断的实践教育により、人と社会の健康と幸福に広く貢献できる薬剤師を育成する。

教育目的

薬学部では、「くすり」（医薬品、化学物質、手段）と「生体」（ヒト、生物／病原体、生体成分）に関する正しい知識とともに、生命の尊厳を畏敬し、人々の健康と幸福を真に願う医療専門職者としての適格な意識を備え、多様な分野で薬学的立場から全人的医療を支えることのできる薬剤師の養成を目指す。

教育目標

- i) 「くすり」と「生体」及びその相互作用に対する科学的理解を深め、幅広い教養とともに薬剤師として基盤となる正しい知識を身に付ける。
- ii) 生命の尊厳を尊重する高い倫理観とともに、人々の健康と幸福を願い、その治療とケアに携わることができる豊かな人間性を養う。
- iii) ボーダレスな教育環境のもと、様々な医療専門職者の役割を理解し、連携を保ち互いに協調し、患者の病態のみならず心理的・社会的背景をも理解し、適切な薬物治療を推進する総合的実践能力を身に付ける。
- iv) 医療の高度化・多様化及び科学技術の進展に適切に迅速に対応するため、高い創造性と生涯にわたり自ら学び続ける自己開発能力を身に付ける。
- v) 個人にとって安全かつ適正な薬の使用を促すため、くすりの有効性・安全性に関する正しい知識とともにリスク管理能力を身に付ける。
- vi) 優れたコミュニケーション能力を身に付けるとともに、医療・保健衛生分野における薬剤師のあり方について学び、社会的視野を広げる。

〈看護学部〉

教育理念

看護学における理論的知と臨床の知が融合した豊かな教育環境のなかで、倫理観に富んだ人間愛を育み、看護の専門的な知・技・心を培うとともに、他職種と協働し、様々な療養の場における人々のクオリティ・オブ・ライフを高め、同時に、地域で生活を営む人々の最適健康状態を導き、維持、

増進させる看護専門職者を育成する。

教育目的

看護学部は、人の生命や価値観を尊重し、基本的な看護の専門的知識・技術・態度を教授し、クオリティ・オブ・ライフの向上をめざし、最適健康状態を維持、増進させる実践力と、医療関連学部間の有機的連携をもとにしたチーム医療に必要な能力を育成するとともに、グローバルな視野で保健・医療・福祉の課題を総合的にとらえられる、感性豊かで倫理的・創造的な看護専門職者の養成を目指す。

教育目標

- i) 豊かな人間性を備え、人の痛み、苦しみや生命の尊厳を理解し、人がもつ権利や価値観を尊重して行動することができる。
- ii) 理論と実践から導き出された看護学に関する専門的知識と科学的根拠に基づく判断能力及び問題解決能力を身に付ける。
- iii) 対象者の安全・安楽と主体性を重視した科学に基づく専門的技術及び人の尊厳と権利を擁護するのに大切なコミュニケーション技法を身に付ける。
- iv) 医学、薬学、リハビリテーション学におけるそれぞれの専門性や役割について理解し、それぞれの職種の人々と有機的に連携協力するとともに調整できる能力を身に付ける。
- v) 地域的・国際的な視野で、保健・医療・福祉の課題を幅広くとらえ、看護職者の役割・機能を展望できる。
- vi) 自ら考え創造する態度を身に付け、生涯にわたって看護学を探究し続ける基盤をもつことができる。

〈リハビリテーション学部〉

教育理念

リハビリテーション学部は人の機能・活動・社会参加を心身の両面から支援し、幸福と共生に奉仕できることを目指す。そのために幅広い教養、高度な専門的知識と技術及び教育研究技術を育み、社会人として、またリハビリテーション専門職者として社会に貢献できる人材を育成する。

教育目的

リハビリテーション学部は人々の幸福と共生に奉仕する精神のもと、リハビリテーションに必要な人と社会の理解及び保健・医療・福祉に関する諸学問の知識を教授し、チーム医療実践の場においてリハビリテーション専門職者として力を発揮することができる総合的实践力、社会の多様なニーズに応え先駆的な教育・研究へ展開できる能力及び生涯にわたって自己を練成できる能力を持った人材の育成を目指します。

教育目標

- i) 多様な文化や価値観を受け容れる、地域的・国際的感覚及び豊かな人間性を備え、人々の幸福と共生に奉仕する精神をもって行動することができる。
- ii) 様々な医療専門職者の役割や専門性を理解し、チーム医療実践の場において他の医療専門職者と有機的に連携協力できる総合的实践力を身に付ける。
- iii) 地域での医療ケアや教育など社会の多様なニーズに応えることができ、さらに中核的な行動を担うことができるよう、生涯にわたって自己を練成できる能力を身に付ける。
- iv) リハビリテーションを実践するにあたり必要な基礎医学とともに、人の機能のみならず心理や行動をも深く理解し基礎学力として身に付ける。
- v) 効果的なリハビリテーションに必要な保健・医療・福祉の知識と確かな技術を有し、種々の課

題を柔軟に解決できる能力を身に付ける。

vi) 医療の高度化・多様化に対応した知識・技能を修得し、先駆的な教育・研究へ展開できる能力を身に付ける。

2) 大 学 院

兵庫医療大学大学院 博士課程理念

本学の大学院博士課程は、大学の基本理念である次世代の医療を担う医療人の育成の趣旨を発展させることを目的としています。すなわち、優れた科学的知識と研究能力を培い、創造性、科学性、そして広い視野をもって医療科学の新たな分野を開拓できる人材を育成します。そのため、基礎及び臨床の両分野において新たな展開を目指した研究領域を置いています。

〈薬学研究科〉

近年、医療の急速な進歩に伴い、すべてのメディカルスタッフに要求される能力も高度化している。薬剤師にも薬学研究者にも、これまで以上に医療現場における薬に関する問題点に主体的に係ることが要求され、それにこたえるべく薬学部で6年制教育が開始された。

本研究科は、6年制薬学部の上に立つ大学院として、入学者が将来高度な研究能力を有する薬剤師もしくは臨床経験を有する薬学研究者として自立して研究活動を継続していくのに必要な能力を獲得し、医療の質の向上に貢献していくことを目指す。

教育・研究の理念と目標

1. 教育・研究の理念

本学は、学校法人兵庫医科大学のもと兵庫医科大学の姉妹大学として平成19年4月に薬学部、看護学部、リハビリテーション学部の3学部体制で開学した。

開学時よりチーム医療の中で活躍できる専門職者の育成を目指し、学部間の垣根をなくして教育を進めるボーダレスで学際的な教育環境を提供してきた。この精神を薬物療法の分野においてさらに発展させるべく薬学研究科は設立された。

すなわち、薬学研究科の教育・研究の理念は、医療の現場における問題点を解決できる薬剤師・薬学研究者を育成し、薬物療法の進歩を通じてチーム医療の発展に貢献し、人々の健康増進に寄与することである。

2. 教育・研究の目標

薬学研究科の教育・研究の目標は以下の通りである。

- 1) 高度な研究能力、すなわち臨床現場において問題を発見し、それを解決する適切な研究計画を立案し、さらにその成果を論文化することのできる能力を以て薬剤師業務の質向上と変革を推進することができる。
- 2) 医療薬学における問題点を基礎薬学の視点から眺め、それを解決しうる基礎的・実験的研究課題を自ら設定し、それを新しい薬剤・製剤・臨床適応の開発に発展させていくことができる。

兵庫医療大学大学院 修士課程理念

本学の大学院修士課程は、大学の基本理念である次世代の医療を担う医療人の育成の趣旨を発展させることを目的としています。すなわち、優れた科学的知識と実践的能力を培い、創造性、科学性、そして広い視野をもって医療科学の新たな分野を開拓できる人材を育成します。そのため、新たな展開を目指した研究領域と、社会の期待に対応すべく高度実践専門職者を育てる領域の二つの柱を置いています。

〈看護学研究科〉

看護学は実践の科学として、その価値を高め進歩発展してきている。同時に、医療の高度化・複雑化は、安全安心を第一とする看護実践の質を問い、さらなる質向上の必要性を求めている。看護現場の発展のためには、科学的根拠に基づく看護学の教育・研究並びに高度な実践能力が必要である。

兵庫医療大学大学院看護学研究科は、建学の精神に則り、看護学が真に人々にとって必要とされる専門的知識・技能を修得し、看護実践能力を強化して、社会の求めに応じて役割・機能を果たすことの出来る看護専門職者を育成する。

看護学研究科のモットーは、大学院生と教員・指導者とが学修の目標を共有し、大学院生の自律を導き、一体となって学修を促進しつつ、常に相互交流を通して互いに成長することを目指すものである。

教育・研究の理念と目標

1. 教育・研究の理念

看護学研究科の理念は、保健・医療・福祉及び社会の変動に対応して、生命と人権を尊重し、看護学の専門的知識と技術に立脚し、創造的かつ科学的に看護が実践できる人材ならびに看護学の教育と研究に携わる人材を育成し、人々の健康とQOLの向上及び看護学の進歩・発展に寄与することにある。

さらに、保健・医療・福祉の場で行う看護実践の科学的根拠となる基礎理論及びその応用について体系的に学修し、人々の尊厳を護り人間性豊かな看護専門職者として、看護学の専門的知識と技術に立脚し、先駆的・創造的に高度看護実践できる能力、並びに看護現象を科学的に解明する看護学の教育・研究能力を育成することを目的とする。

2. 教育・研究の目標

- 1) 専攻する看護学専門分野に関連する科学的根拠と理論を修得し、看護実践に応用することができる。
- 2) 専攻する看護学専門分野において、専門性の高い知識・技術を以て看護を実践し、相談・教育・調整機能を高め、看護の質向上と変革を推進することができる。
- 3) 人間愛と高い倫理観を持ち、複雑な倫理的問題を的確に判断し調整することができる。
- 4) 先進医療における看護実践を先導的に行うことを通じて、地域医療の向上に資することができる。
- 5) 専攻する看護学専門分野に関する研究課題に取り組み、研究能力を高める。

〈医療科学研究科〉

近年の医療の進歩発展の中では安全安心の医療と共に、その質の向上及び先進性、専門性が求められており、より高度な知識と技術の修得が学部教育のみならず卒後の生涯教育においても重要となってきました。医療科学分野においても次世代の教育研究並びに高度な実践能力を持つ人材育成を推

進めることは時代の要請となっています。

兵庫医療大学大学院医療科学研究科は、リハビリテーション科学領域の2分野（病態運動学分野・人間活動科学分野）を設け、高度実践専門職者を養成する課題研究プログラムと研究を主体として科学研究論文を作成する科学研究プログラムの2プログラムによって、教育・研究を実施していきます。

教育・研究の理念と目標

1. 教育・研究の理念

医学・医療科学の発展ならびに急速な高齢化の進行、個人の価値観の多様性等によって、疾病や障害を有した方が社会で生活していくためのニーズは多様化・複雑化してきており、これらの変化に対応していくことが求められています。その中で、リハビリテーション科学の学問的発展に寄与するとともに、より高度な専門的知識と技術を有するリハビリテーション専門職の育成に寄与することを理念としています。

2. 教育・研究の目標

前記の理念達成のために、以下の4つを目標として掲げています。

- ① 医療科学における科学的根拠ならびに最新の専門的知識を修得し、幅広い医療人としての教養を培います。
- ② 専攻する分野において、より高度な専門的知識ならびに技術を修得し、臨床現場で実践するとともに、更なる発展・向上に努めることができる素養を培います。
- ③ 高度な臨床的推論に基づく臨床実践を展開するとともに、後進の育成に寄与できる指導者としての素養を培います。
- ④ 専攻する分野における研究課題に取り組み、研究能力を培います。

3. 学 年 暦

1) 学 部

[平成24年度]

【前 期】

入 学 式	4月6日 (金)
オリエンテーション (第1学年次)	4月6日 (金) 午後～11日 (水)
〃 (薬学部第2・3・4・5・6学年次)	4月3日 (火)
〃 (看護学部第2・3・4学年次)	4月2日 (月)
〃 (リハビリテーション学部第2・3・4学年次)	4月2日 (月)
前期授業開始 (第1・2・3・4・6学年次)	4月12日 (木)
〃 (薬学部第5学年次)	4月6日 (金)
アドバイザー懇談会・BLS講習会 (第1学年次)	4月7日 (土)
前期履修登録期間 (第1・2・3・4・6学年次)	4月12日 (木) ～ 4月18日 (水)
前期単位認定試験期間 (第1学年次)	7月30日 (月) ～ 8月3日 (金)
〃 (薬学部第2・3・4・6学年次)	8月1日 (水) ～ 8月9日 (木)
〃 (看護学部第2・3学年次)	8月1日 (水) ～ 8月9日 (木)
〃 (看護学部第4学年次)	(別途通知)
〃 (リハビリテーション学部第2・3・4学年次)	8月1日 (水) ～ 8月9日 (木)
Early Clinical Exposure (第1学年次) 【※場所：兵庫医科大学病院】	8月6日 (月) ～ 11日 (土)
前期単位認定試験 (再試験) 期間 (薬学部第1・2・3・4・6学年次)	8月20日 (月) ～ 24日 (金)
〃 (看護学部第1・2・3学年次)	8月20日 (月) ～ 24日 (金)
〃 (看護学部第4学年次)	(別途通知)
〃 (リハビリテーション学部第1・2・3・4学年次)	8月20日 (月) ～ 24日 (金)

【後 期】

後期授業開始	9月18日 (火)
医学部との合同チュートリアル (第4学年次) 【※場所：西宮キャンパス】	9月10日 (月) ～ 14日 (金)
医学部との合同チュートリアル (第1学年次)	9月20日 (木)・21日 (金)
後期履修登録期間 (薬学部第1・2・3・4・6学年次)	9月18日 (火) ～ 24日 (月)
〃 (看護学部第1・2・3・4学年次)	9月18日 (火) ～ 24日 (月)
〃 (リハビリテーション学部第1・2・4学年次)	9月18日 (火) ～ 24日 (月)
〃 (リハビリテーション学部第3学年次)	10月22日 (月) ～ 26日 (金)
大学祭 (第5回海梟祭)	10月5日 (金) ～ 8日 (月)
【※薬学部第5学年次、看護学部・リハビリテーション学部第3学年次は、通常通り学外実習を行う】	
法人創立記念日	11月22日 (木)
後期授業再開	1月7日 (月)
後期単位認定試験期間 (第1学年次)	1月21日 (月) ～ 25日 (金)
〃 (薬学部第2・3・4・6学年次)	1月21日 (月) ～ 29日 (火)
〃 (看護学部第2学年次)	1月21日 (月) ～ 29日 (火)
〃 (看護学部第3・4学年次)	(別途通知)

後期単位認定試験期間（リハビリテーション学部第2学年次）	1月21日（月）～29日（火）
〃（リハビリテーション学部第3学年次）	12月17日（月）～21日（金）
〃（リハビリテーション学部第4学年次）	1月21日（月）・22日（火）
後期単位認定試験（再試験）期間（第1・2学年次）	2月4日（月）～8日（金）
〃（薬学部第3・4・6学年次）	2月4日（月）～8日（金）
〃（看護学部第3・4学年次）	（別途通知）
〃（リハビリテーション学部第3学年次）	12月25日（火）・26日（水）
〃（リハビリテーション学部第4学年次）	（別途通知）
薬学共用試験OSCE（薬学部第4学年次）	12月24日（月）〈予定〉
〃 CBT（薬学部第4学年次）	1月29日（火）〈予定〉
学位授与式	3月10日（日）

※健康診断日・抗体検査日・ワクチン接種説明会・4種ワクチン接種日

健康診断日（第1学年次）	4月7日（土）
〃（薬学部第2・3・4・5・6学年次）	4月3日（火）
〃（看護学部第2・3・4学年次）	4月2日（月）
〃（リハビリテーション学部第2・3・4学年次）	4月2日（月）
抗体検査日（第1学年次）	4月10日（火）
ワクチン接種説明会（第1学年次）	5月11日（金）
4種ワクチン接種日（第1学年次）第1回目	5月18日（金）
〃第2回目	6月15日（金）
〃第3回目	7月20日（金）

※授業時間表

第1時限	9時30分	～	11時00分（90分間）
第2時限	11時10分	～	12時40分（90分間）
第3時限	13時40分	～	15時10分（90分間）
第4時限	15時20分	～	16時50分（90分間）
第5時限	17時00分	～	18時30分（90分間）

[平成25年度]

【前期】

入学式	4月5日（金）
オリエンテーション（第1学年次）	4月5日（金）午後～10日（水）
〃（薬学部第2・3・4・5・6学年次）	4月2日（火）
〃（看護学部第2・3・4学年次）	4月1日（月）
〃（リハビリテーション学部第2・3・4学年次）	4月1日（月）
前期授業開始（第1・2・3・4・6学年次）	4月11日（木）
〃（第5学年次）	4月8日（月）

アドバイザー懇談会・BLS講習会（第1学年次）	4月6日（土）
前期履修登録期間（第1・2・3・4・6学年次）	4月11日（木）～4月17日（水）
前期単位認定試験期間（第1学年次）	7月30日（火）～8月3日（土）
〃（第2学年次以上）	7月30日（火）～8月9日（金）
〃（薬学部5学年次、看護学部4学年次）	（※8月3日（土）含む） （別途通知）
Early Clinical Exposure（第1学年次）【※場所：兵庫医科大学病院】	8月5日（月）～10日（土）

【後 期】

後期授業開始（第1学年次）	9月19日（木）
後期授業開始（第2・3・4・5・6学年次）	9月17日（火）
医学部との合同チュートリアル（第4学年次）【※場所：西宮キャンパス】	9月9日（月）～13日（金）
医学部との合同チュートリアル（第1学年次）	9月17日（火）・18日（水）
後期履修登録期間（第1学年次）	9月19日（木）～25日（水）
〃（第2学年次以上）	9月17日（火）～25日（水）
〃（リハビリテーション学部第3学年次）	10月21日（月）～25日（金）
秋季学位授与式	9月30日（月）
大学祭（第6回海泉祭）	10月11日（金）～14日（月）
【※薬学部第5学年次、看護学部・リハビリテーション学部第3学年次は、通常通り学外実習を行う】	
法人創立記念日	11月22日（金）（※授業日）
後期授業再開	1月6日（月）
後期単位認定試験期間（下記以外）	1月15日（水）～24日（金） （※1月17日（金）除く）
〃（看護学部第3・4学年次）	（別途通知）
〃（リハビリテーション学部第3学年次）	12月10日（火）～20日（金） （※授業日含む）
薬学共用試験OSCE（薬学部第4学年次）	12月1日（日）〈予定〉
〃 CBT（薬学部第4学年次）	1月28日（火）〈予定〉
学位授与式	3月15日（土）

※健康診断日・抗体検査日・ワクチン接種説明会・4種ワクチン接種日

健康診断日（第1学年次）	4月6日（土）
〃（薬学部第2・3・4・5・6学年次）	4月2日（火）
〃（看護学部第2・3・4学年次）	4月1日（月）
〃（リハビリテーション学部第2・3・4学年次）	4月1日（月）
抗体検査日（第1学年次）	4月6日（土）
ワクチン接種説明会（第1学年次）	5月10日（金）
4種ワクチン接種日（第1学年次） 第1回目	5月17日（金）
〃 第2回目	6月14日（金）
〃 第3回目	7月19日（金）

※授業時間表

第1時限	9時30分	～	11時00分（90分間）
第2時限	11時10分	～	12時40分（90分間）
第3時限	13時40分	～	15時10分（90分間）
第4時限	15時20分	～	16時50分（90分間）
第5時限	17時00分	～	18時30分（90分間）
第6時限	18時40分	～	20時10分（90分間）

2) 大 学 院

【平成24年度】

【前期】

入学式	4月6日（金）
オリエンテーション	4月6日（金）
前期授業開始（看護学研究科）	4月12日（木）
前期授業開始（医療科学研究科）	4月7日（土）
前期授業終了（看護学研究科）	7月26日（木）
前期授業終了（医療科学研究科）	7月22日（日）

【後期】

後期授業開始（看護学研究科）	10月1日（月）
後期授業開始（医療科学研究科）	9月30日（日）
法人創立記念日	11月22日（木）
後期授業終了（看護学研究科）	2月1日（金）
後期授業終了（医療科学研究科）	1月6日（日）

※健康診断日・ワクチン接種日

健康診断日（第1学年次）	4月7日（土）
〃（第2学年次）	4月2日（月）、3日（火）、7日（土）
4種ワクチン接種日 第1回	5月18日（金）
〃 第2回	6月15日（金）
〃 第3回	7月20日（金）
接種後の抗体検査日	10月1日（月）、15日（月）

※授業時間表

第1時限	9時30分	～	11時00分（90分間）
第2時限	11時10分	～	12時40分（90分間）
第3時限	13時40分	～	15時10分（90分間）
第4時限	15時20分	～	16時50分（90分間）
第5時限	17時00分	～	18時30分（90分間）
第6時限	18時40分	～	20時10分（90分間）
第7時限	20時20分	～	21時50分（90分間）

【平成25年度】

【前期】

入学式	4月5日（金）
オリエンテーション	4月5日（金）
前期授業開始（薬学研究科）	4月11日（木）
前期授業開始（看護学研究科）	4月11日（木）
前期授業開始（医療科学研究科）	4月11日（木）
前期授業終了（薬学研究科）	7月29日（月）
前期授業終了（看護学研究科）	7月29日（月）
前期授業終了（医療科学研究科）	7月7日（日）

【後期】

後期授業開始（薬学研究科）	10月1日（火）
後期授業開始（看護学研究科）	10月1日（火）
後期授業開始（医療科学研究科）	9月17日（火）
法人創立記念日	11月22日（金）
後期授業終了（薬学研究科）	3月31日（月）
後期授業終了（看護学研究科）	2月2日（日）
後期授業終了（医療科学研究科）	1月5日（日）
学位授与式（看護学研究科、医療科学研究科）	3月10日（日）

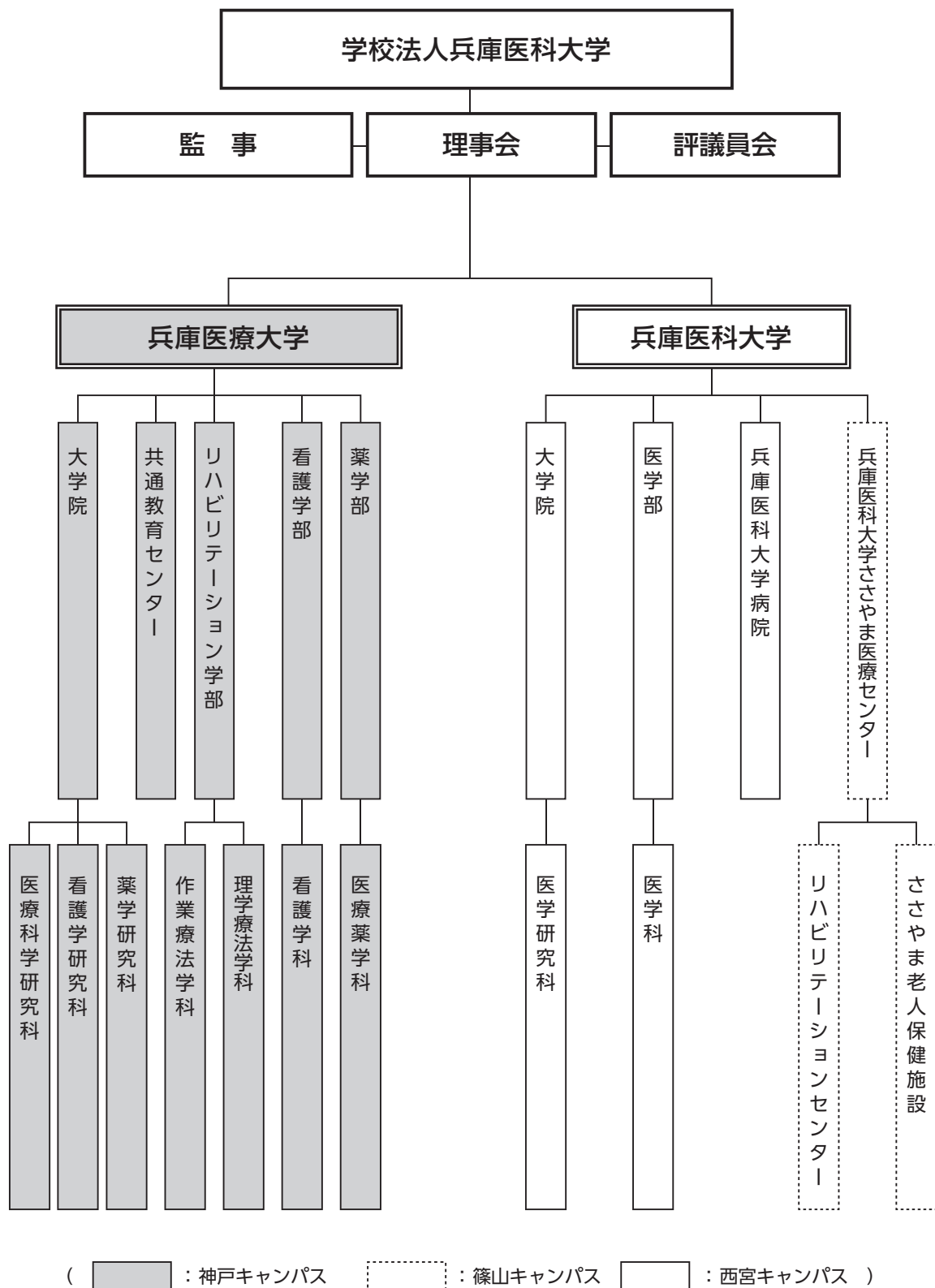
※健康診断日・ワクチン接種日

健康診断日（第1学年次）	4月6日（土）
〃（第2学年次）	4月1日（月）、2日（火）、6日（土）
4種ワクチン接種日 第1回	5月16日（木）
〃 第2回	6月13日（木）
〃 第3回	7月18日（木）
接種後の抗体検査日	10月7日（月）、31日（木）

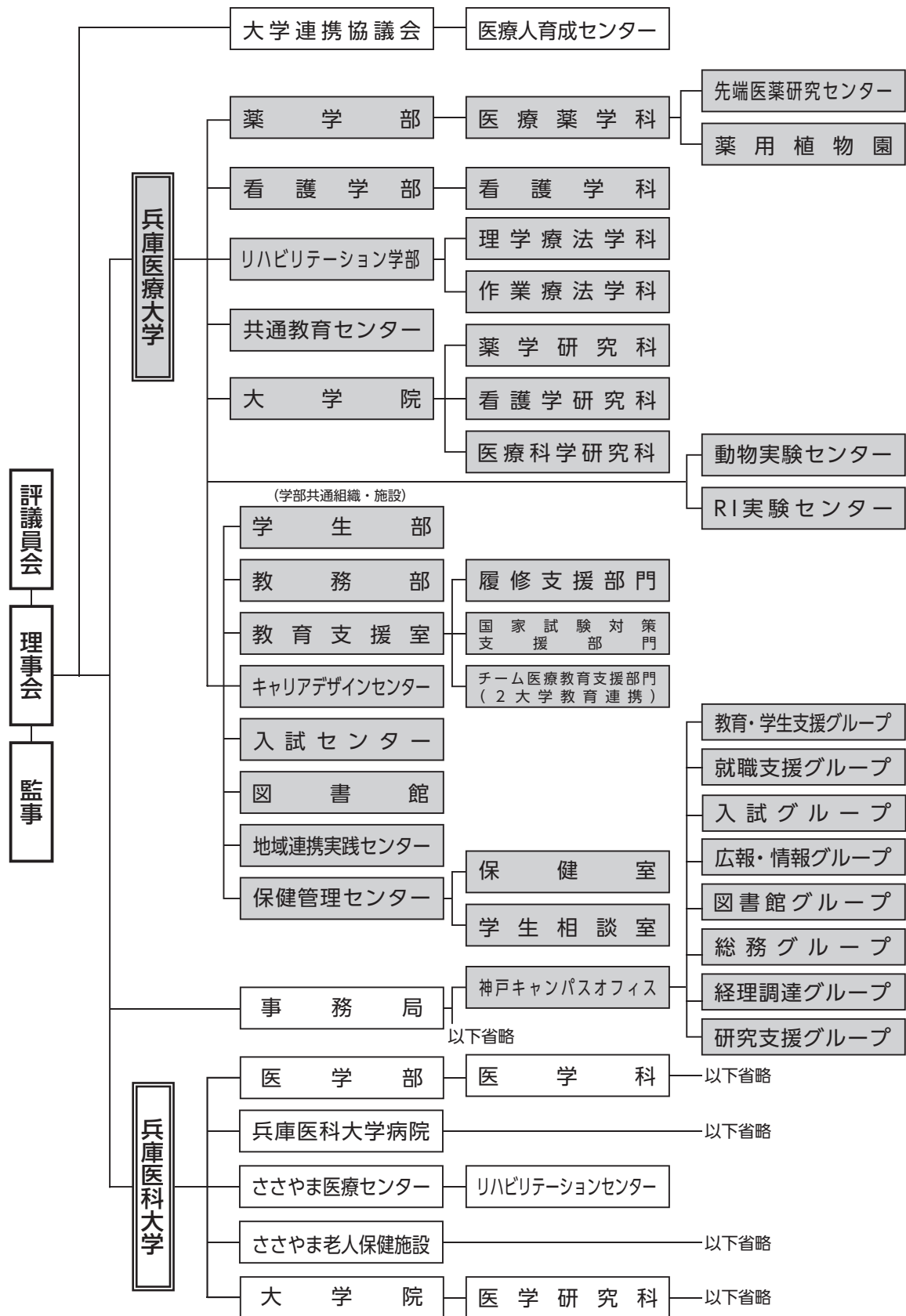
※授業時間表

第1時限	9時30分	～	11時00分（90分間）
第2時限	11時10分	～	12時40分（90分間）
第3時限	13時40分	～	15時10分（90分間）
第4時限	15時20分	～	16時50分（90分間）
第5時限	17時00分	～	18時30分（90分間）
第6時限	18時40分	～	20時10分（90分間）
第7時限	20時20分	～	21時50分（90分間）

4. 学校法人兵庫医科大学組織機構図



5. 兵庫医療大学組織機構図



(: 神戸キャンパス)

6. 大学協議会

i) 概要

大学協議会は、本学の最高意思決定機関であり、通常、月一回開催している。構成メンバーは学長、副学長、学部長、共通教育センター長、教務部長、学生部長、ゼネラルマネージャーである。平成25年度より、研究科長をメンバーにぐわえ、併せて、学長補佐（事務担当）、次長の陪席を認めている。

協議事項は、大学の教学、管理運営などの実務的な事項から、社会活動、将来構想などに亘る全ての活動に係るものである。教授会、各種委員会などであらかじめ、十分に検討を加えた事項について、全学的立場から審議し、大学としての最終意思決定を行っている。さらに、特定事項については、学校法人兵庫医科大学常務会、同理事会に附議し、承認を得る。

ii) 特記すべき活動状況

教務、人事、予算、社会貢献活動などにかかる通常の審議内容以外で、特記すべきものの抜粋のみを掲載。

(1) 平成24年度

・教育支援室の設置・認証評価への自己点検評価報告書の策定と評価受審・学校法人兵庫医科大学中医薬孔子学院設立への対応・薬学部国家試験対策・大学紀要の創刊・学長選考規定の策定・手術認定看護師コース（医療人育成センター）の設置・学内禁煙への取り組みなど。

(2) 平成25年度

・新執行部の発足と2ndステージの戦略的取り組み事項の策定・大学ガバナンスの強化のための、管理運営体制の改善（3副学長による業務の分掌体制と学長補佐（事務担当）の設置）
・学長・副学長会議の設置（喫緊の課題への対応方針の策定・学長・学部長懇談会（学学懇）の設置（大学協議会の前段階としての予備的審議）・学部昇任人事における内規策定・健康上の学生ケアシステムの策定・教育支援室の3部門化（チーム医療、履修支援、国試対策）
・履修支援制度（若手教育研究助成制度）による学生の進級支援・薬学部国試対策の強化（薬学部、大学）・北京中医薬大学への短期留学（薬学）など。

学長・副学長会議

大学に係る諸案件の中で、特にリスクマネジメントや、大きな方向性の決定などの重要な案件について、論点と課題を抽出し、その基本方針を決定するもの。学長・学部長懇談会（後述）、大学協議会での審議、決定を効率的に、かつ、適切に行うための会議。平成25年9月に設置し、月1回定例開催。

学長・学部長懇談会（学学懇）

主に、大学協議会の審議案件について、学部間での共通認識を図り、事前の検証、審議を十分行うことにより、大学協議会での決定を効率的、かつ、適切に行うための懇談会。併せて、学部・研究科に派生する諸問題を審議することにより、迅速な対応を図ることを目的。平成25年度5月より設置し、月1回定例開催。

7. 学部・大学院の構成

1) 学部・学科

i) 概要・教員構成

本学は、薬学部、看護学部、及びリハビリテーション学部、及び共通教育センター、3学部4学科及び1センターにより構成されている。

本学の特色ある教育の一つである共通教育センターは、これら3学部4学科の全学生に対して、医療人としての人格形成のための一般教養科目からチーム医療関連など、多彩な基礎科目と専門基礎科目を含めたボーダレスな教育を行っている。

表1. 学部等の概要

学 部	学 科	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号
薬学部	医療薬学科	6	150	—	900	学士 (薬学)
看護学部	看護学科	4	100	—	420	学士 (看護学)
リハビリテーション学部	理学療法学科	4	40	—	160	学士 (理学療法学)
	作業療法学科	4	40	—	160	学士 (作業療法学)
合 計		—	330	—	1,640	

表2. 教育課程の授業科目数

平成24年度

学部等の名称	授業科目の総数				卒業要件 単 位 数
	講 義	演 習	実 習	合 計	
薬学部医療薬学科	107科目	17科目	15科目	139科目	205.5単位
看護学部看護学科	55科目	52科目	12科目	119科目	129単位
リハビリテーション学部理学療法学科	80科目	20科目	19科目	119科目	130単位
リハビリテーション学部作業療法学科	88科目	23科目	14科目	125科目	133単位

平成25年度

学部等の名称	授業科目の総数				卒業要件 単 位 数
	講 義	演 習	実 習	合 計	
薬学部医療薬学科	99科目	16科目	15科目	130科目	195.5単位
看護学部看護学科	57科目	47科目	13科目	117科目	130単位
リハビリテーション学部理学療法学科	62科目	15科目	18科目	95科目	129単位
リハビリテーション学部作業療法学科	68科目	21科目	13科目	102科目	132単位

表 3. 教員組織の概要

学部等の名称	専任教員等 (人数)					合 計
	教 授	准教授	講 師	助 教	助 手	
薬学部医療薬学科	17	4	8	14	6	49
看護学部看護学科	7	8	7	13	2	37
リハビリテーション学部理学療法学科	5	0	5	0	0	10
リハビリテーション学部作業療法学科	3	2	4	0	1	10
共通教育センター	4	4	4	0	0	12
合 計	36	18	28	27	9	118

2) 大学院・研究科

i) 概要・教員構成

平成23年度から、大学の基本理念である次世代の医療を担う医療人の育成の趣旨を発展させることを目的として、社会の期待に対応すべく高度実践専門職を育てる大学院修士課程の看護学研究科と医療科学研究科を設置し、また、すぐれた科学的知識と高度な研究能力を培い、創造性、科学性、そして広い視野をもって医療科学の新たな分野を開拓できる人材の育成を目的とし、平成25年4月に薬学研究科を開設した。

学生募集においては、社会人に門戸を広げ現在医療現場で活躍している人達が入学しやすいよう配慮している。

表 1. 大学院・研究科等の概要（平成24年度）

	学 科	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号
看護学研究科	看護学専攻	2	8	—	16	修士 (看護学)
医療科学研究科	医療科学専攻	2	6	—	12	修士 (医療科学)
合 計		—	14	—	28	

表 1. 大学院・研究科等の概要（平成25年度）

	学科	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号
看護学研究科	看護学専攻	2	8	—	16	修士 (看護学)
医療科学研究科	医療科学専攻	2	8	—	16	修士 (医療科学)
薬学研究科	医療薬学専攻	4	3	—	12	博士 (薬学)
合 計		—	19	—	44	

表 2. 教育課程の授業科目数（平成24年度）

研究科等の名称	授業科目の総数				修了要件 単位数
	講義	演習	実験・実習	合計	
看護学研究科看護学専攻	36科目	24科目	4科目	64科目	32単位
医療科学研究科医療科学専攻	15科目	12科目	0科目	27科目	32単位

表 2. 教育課程の授業科目数（平成25年度）

研究科等の名称	授業科目の総数				修了要件 単位数
	講義	演習	実験・実習	合計	
看護学研究科看護学専攻	39科目	52科目	4科目	95科目	32単位
医療科学研究科医療科学専攻	15科目	12科目	0科目	27科目	32単位
薬学研究科医療薬学専攻	4科目	17科目	0科目	21科目	30単位

表 3. 教員組織の概要（平成24年度）

研究科等の名称	専任教員等（人数）				合計
	教授	准教授	講師	助教	
看護学研究科看護学専攻	10	8	1	5	24
医療科学研究科医療科学専攻	10	2	8	0	20
合計	21	7	12	5	45

表 3. 教員組織の概要（平成25年度）

研究科等の名称	専任教員等（人数）				合計
	教授	准教授	講師	助教	
看護学研究科看護学専攻	7	7	4	5	23
医療科学研究科医療科学専攻	8	2	7	0	17
薬学研究科医療薬学専攻	16	5	8	11	40
合計	21	7	12	5	45

8. 役員名簿

表1. 平成24年度役員一覧

役 職 名	氏 名	所 属
学 長	医 学 博 士 松 田 暉	兵庫医療大学
副 学 長	保 健 学 博 士 佐 藤 禮 子	看護学部
副 学 長	薬 学 博 士 馬 場 明 道	薬学部
副 学 長	医 学 博 士 末 廣 謙	共通教育センター
薬 学 部 長	医 学 学 士 東 純 一	薬学部（～1.31）
薬 学 部 長	薬 学 博 士 西 山 信 好	薬学部（2.1～）
看 護 学 部 長	看 護 学 修 士 竹 田 千 佐 子	看護学部
リハビリテーション学部長	医 学 博 士 藤 岡 宏 幸	リハビリテーション学部
理 学 療 法 学 科 長	医 学 博 士 藤 岡 宏 幸	リハビリテーション学部
作 業 療 法 学 科 長	医 学 博 士 山 崎 せつ子	リハビリテーション学部
共 通 教 育 セ ン タ ー 長	医 学 博 士 磯 博 行	共通教育センター
研 究 科 長	教 育 学 修 士 上 原 ます子	大学院看護学研究科
研 究 科 長	医 学 博 士 野 崎 園 子	大学院医療科学研究科
図 書 館 長	薬 学 博 士 西 原 力	図書館
学 生 部 長	工 学 博 士 藤 田 幸 久	学生部
教 務 部 長	医 学 博 士 末 廣 謙	教務部
入 試 セ ン タ ー 長	薬 学 博 士 前 田 初 男	入試センター
保 健 管 理 セ ン タ ー 長	医 学 博 士 岩 崎 剛	保健管理センター
地 域 連 携 実 践 セ ン タ ー 長	獣 医 学 博 士 清 宮 健 一	地域連携実践センター
キャリアデザインセンター長	薬 学 博 士 田 中 明 人	キャリアデザインセンター

表2. 平成25年度役員一覧

役 職 名	氏 名	所 属
学 長	薬 学 博 士 馬 場 明 道	兵庫医療大学
副 学 長	薬 学 博 士 前 田 初 男	薬学部
副 学 長	工 学 博 士 藤 田 幸 久	兵庫医療大学（6.1～）
副 学 長	医 学 博 士 末 廣 謙	共通教育センター
薬 学 部 長	薬 学 博 士 西 山 信 好	薬学部
看 護 学 部 長	看 護 学 修 士 竹 田 千 佐 子	看護学部
リハビリテーション学部長	医 学 博 士 藤 岡 宏 幸	リハビリテーション学部
理 学 療 法 学 科 長	医 学 博 士 玉 木 彰	リハビリテーション学部
作 業 療 法 学 科 長	医 学 博 士 山 崎 せつ子	リハビリテーション学部
共 通 教 育 セ ン タ ー 長	医 学 博 士 磯 博 行	共通教育センター
薬 学 研 究 科 長	薬 学 博 士 西 山 信 好	大学院薬学研究科
看 護 学 研 究 科 長	看 護 学 博 士 網 島 ひづる	大学院看護学研究科
医 療 科 学 研 究 科 長	医 学 博 士 藤 岡 宏 幸	大学院医療科学研究科
図 書 館 長	医 学 博 士 末 廣 謙	図書館
学 生 部 長	看 護 学 修 士 新 井 信 之	学生部
教 務 部 長	医 学 博 士 川 口 浩 太 郎	教務部
入 試 セ ン タ ー 長	保 健 学 博 士 日 高 正 巳	入試センター
保 健 管 理 セ ン タ ー 長	医 学 博 士 岩 崎 剛	保健管理センター
地 域 連 携 実 践 セ ン タ ー 長	獣 医 学 博 士 清 宮 健 一	地域連携実践センター
キャリアデザインセンター長	薬 学 博 士 田 中 明 人	キャリアデザインセンター

9. 校舎・施設設備の概要

1) 兵庫医療大学の概要

i) 施設設備の概要

(1) 教員研究室

校舎の建物区分・延床面積及び施設の使用区分を表1に示す。

表1. 校舎面積（平成26年3月31日現在）

建物区分	規模・構造	延床面積 m ²	使用区分	敷地面積 m ²
P棟	SRC造3階	8,753.86	管理部門、講堂、図書館、食堂、売店、 グループ学習室、保健室 地域連携実践センター	49,138
M棟	SRC造4階	17,025.71	講義室、学生実習室、教員研究室、 カンファレンス室、臨床薬学研修センター キャリアデザインセンター	
G棟	SRC造4階	9,296.26	研究室、動物実験室、RI実験室、 先端医薬研究センター、 リハビリテーションラボ教員研究室、 カンファレンス室	
G棟アリーナ (体育館)	SRC造2階	2,792.26	アリーナ、部室、多目的室	
附属棟	RC造平屋建	125.06	薬用植物園・温室・倉庫	
守衛所	RC造平屋建	4.20	警備員詰所	
合 計		37,997.35	——	49,138

ii) 設備設置工事関係

[平成24年度]

- ・G棟アリーナ1階空調増設
課外活動エリアに空調を増設した

[平成25年度]

- ・非常放送設備の設置
地震・津波対策のために外構向け放送設備とM棟3・4階向け放送設備を設置した。

iii) 建物・設備等の主な改修及び更新

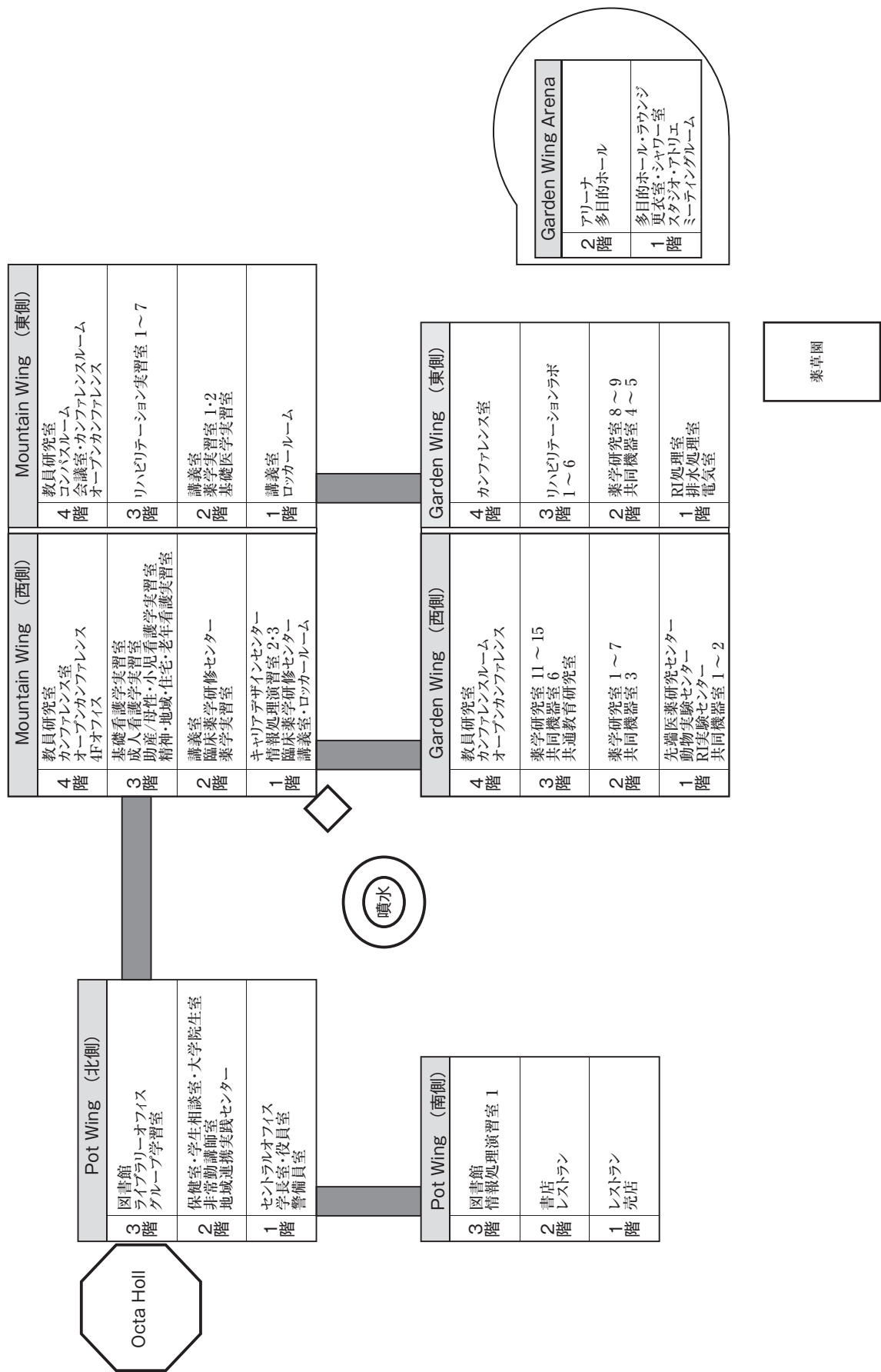
[平成24年度]

- ・なし

[平成25年度]

- ・大学院生室の移転
P棟2階リハビリ療法室を大学院生室に転用したため、コンセント配線及び出入り扉の電気錠への改修工事を実施した。

2) 兵庫医療大学 施設配置図



10. 各委員会委員一覧

(太字：委員長)

自己点検・評価委員会		学生委員会	
馬場 明道	学長	新井 信之	学生部長
末廣 謙	副学長・図書館長	大河原知水	薬学部教授
藤田 幸久	副学長	九川 文彦	薬学部教授
前田 初男	副学長	森山 雅弘	薬学部教授
西山 信好	薬学部長・薬学部研究科長	齋藤 雅子	看護学部准教授
竹田千佐子	看護学部長	山田 千春	看護学部講師
藤岡 宏幸	リハビリテーション学部長・医療科学研究科長	山田 大豪	リハビリテーション学部教授
磯 博行	共通教育センター長	坂口 顕	リハビリテーション学部准教授
網島ひづる	看護学研究科長	香川 真二	リハビリテーション学部講師
新井 信之	学生部長	柏村信一郎	共通教育センター教授
川口浩太郎	教務部長	賀屋 光晴	共通教育センター准教授
田中 明人	キャリアデザインセンター長	岩崎 剛	学校医
日高 正巳	入試センター長	岩佐 義久	神戸キャンパスオフィスGM
清宮 健一	地域連携実践センター長	梶 勝博	教育・学生支援グループM
安屋敷和秀	薬学部教授		
辻野 健	薬学部教授		
鈴木 久美	看護学部教授		
山崎せつ子	リハビリテーション学部教授		
秦 正哲	共通教育センター教授		
岩佐 義久	神戸キャンパスオフィスGM		

ファカルティ・ディベロップメント委員会		教育委員会	
紀平 知樹	共通教育センター准教授	川口浩太郎	教務部長
辻野 健	薬学部教授	清宮 健一	薬学部教授
戴 毅	薬学部准教授	斎藤あつ子	薬学部教授
小西美ゆき	看護学部講師	土田 敏恵	看護学部教授
山田 千春	看護学部講師	細見 明代	看護学部教授
松井 徳造	リハビリテーション学部教授	松井 徳造	リハビリテーション学部教授
坂口 顕	リハビリテーション学部准教授	森沢 知之	リハビリテーション学部講師
賀屋 光晴	共通教育センター准教授	伊東 久男	共通教育センター教授
西田喜平次	共通教育センター講師	紀平 知樹	共通教育センター准教授
		梶 勝博	教育・学生支援グループM

入試運営委員会		広報委員会	
日高 正巳	入試センター長	青木 俊二	薬学部教授
甲谷 繁	薬学部准教授	上田 晴康	薬学部教授
南畝 晋平	薬学部講師	藤野 秀樹	薬学部講師
鈴木 久美	看護学部教授	石原 あや	看護学部准教授
松本 麻里	看護学部准教授	岸 あゆみ	看護学部講師
佐野 恭子	リハビリテーション学部准教授	有吉 正則	リハビリテーション学部講師
森 明子	リハビリテーション学部講師	宮本 俊朗	リハビリテーション学部講師
加藤 精一	共通教育センター教授	賀屋 光晴	共通教育センター准教授
赤井 一之	入試グループM	赤井 一之	広報・情報グループM

医療人育成センター運営委員会	
末廣 謙 大河原知水 藤井眞理子 藤岡 宏幸 常見 幸 川口浩太郎	共通教育センター教授 薬学部教授 看護学部教授 リハビリテーション学部教授 共通教育センター講師 教務部長

地域連携推進委員会	
清宮 健一 桂木 聡子 工藤 里香 坂本 浩 常見 幸 高田 泰彦	地域連携実践センター長 薬学部講師 看護学部講師 リハビリテーション学部講師 共通教育センター講師 総務グループM

倫理審査委員会	
藤岡 宏幸 九川 文彦 網島ひづる 松井 徳造 紀平 知樹 塚田 哲之 式 實 岩佐 義久	リハビリテーション学部教授 薬学部教授 看護学部教授 リハビリテーション学部教授 共通教育センター准教授 神戸学院大学教授 神戸キャンパスオフィスGM

図書館委員会	
末廣 謙 上田 寛樹 大田 直実 野崎 園子 坂本 利恵 福田 範子 松原 良知	図書館長 薬学部講師 看護学部准教授 リハビリテーション学部教授 リハビリテーション学部講師 共通教育センター講師 図書館グループM

動物実験委員会	
辻野 健 戴 毅 伊藤 崇志 岡田 公江 坂本 浩 伊東 久男 紀平 知樹 山本 悟史 関 真 木原 淳彦	薬学部教授 薬学部准教授 薬学部助教 看護学部講師 リハビリテーション学部講師 共通教育センター教授 共通教育センター准教授 動物実験センター長 学外学識経験者 研究支援グループM

情報倫理委員会	
田中 明人 西村 明子 山田 大豪 加藤 精一 岩佐 義久 高田 泰彦 赤井 一之	薬学部教授 看護学部准教授 リハビリテーション学部教授 共通教育センター教授 神戸キャンパスオフィスGM 総務グループM 広報・情報グループM

遺伝子組換え実験安全委員会	
田中 稔之 大河原知水 三浦 大作 小西美ゆき 柏村信一郎 岩崎 剛 木原 淳彦	遺伝子組換え実験安全主任者 薬学部教授 薬学部講師 看護学部講師 共通教育センター教授 保健管理センター長 研究支援グループM

動物実験センター運営委員会	
山本 悟史 長野 基子 三浦 大作 岡田 公江 坂本 浩 磯 博行 伊東 久男 木原 淳彦	動物実験センター長 薬学部講師 薬学部講師 看護学部講師 リハビリテーション学部講師 共通教育センター教授 共通教育センター教授 研究支援グループM

環境安全委員会	
西山 信好 宮部 豪人 斎藤あつ子 大田 直実 野崎 園子 芝崎 誠司 木原 淳彦	薬学部長 薬学部教授 薬学部教授 看護学部准教授 リハビリテーション学部教授 共通教育センター准教授 研究支援グループM

病原体等安全管理委員会	
斎藤あつ子 前田 拓也 野崎 園子 岩崎 剛 木原 淳彦	薬学部教授 薬学部准教授 リハビリテーション学部教授 保健管理センター長 研究支援グループM

RI実験センター運営委員会		
藤野 秀樹	放射線取扱主任者	
長野 基子	薬学部講師	
府川 晃子	看護学部講師	
松井 徳造	リハビリテーション学部教授	
伊東 久男	共通教育センター教授	
前田 拓也	管理区域責任者	
上田 寛樹	安全管理責任者	
田中 昭二	施設管理責任者	
木原 淳彦	研究支援グループM	

キャリアデザイン委員会		
田中 明人	キャリアデザインセンター長	
天野 学	薬学部教授	
南畝 晋平	薬学部講師	
青木菜穂子	看護学部准教授	
府川 晃子	看護学部講師	
玉木 彰	リハビリテーション学部教授	
櫛邊 勇	リハビリテーション学部講師	
芝崎 誠司	共通教育センター准教授	
後藤 伸光	就職支援グループM	

国際交流委員会		
辻野 健	薬学部教授	
戴 毅	薬学部准教授	
鈴井江三子	看護学部教授	
山崎せつ子	リハビリテーション学部教授	
秦 正哲	共通教育センター教授	

キャンパス有効利用委員会		
磯 博行	共通教育センター教授	
前田 初男	薬学部教授	
藤井眞理子	看護学部教授	
野崎 園子	リハビリテーション学部教授	
福田 範子	共通教育センター講師	
岩佐 義久	神戸キャンパスオフィスGM	
高田 泰彦	総務グループM	

研究推進委員会		
前田 初男	副学長（研究担当）	
田中 明人	薬学部教授	
土井有羽子	看護学部准教授	
森 明子	リハビリテーション学部講師	
加藤 精一	共通教育センター教授	
田中 稔之	共同機器室長	
山本 悟史	動物実験センター長	
藤野 秀樹	RI実験センター長	
岩佐 義久	神戸キャンパスオフィスGM	

将来構想委員会		
山本 悟史	薬学部教授	
上田 晴康	薬学部教授	
田中 稔之	薬学部教授	
宮部 豪人	薬学部教授	
鈴木 久美	看護学部教授	
藤井眞理子	看護学部教授	
西村 明子	看護学部准教授	
玉木 彰	リハビリテーション学部教授	
山崎せつ子	リハビリテーション学部教授	
加藤 精一	共通教育センター教授	

共同研究の受け入れに関する審査専門委員会		
馬場 明道	学長	
前田 初男	副学長（研究担当）	
田中 稔之	薬学部教授	
山本 悟史	薬学部教授	
藤野 秀樹	薬学部講師	
森 明子	リハビリテーション学部講師	
岩佐 義久	神戸キャンパスオフィスGM	

ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理審査専門委員会		
大河原知水	薬学部教授	
大野 雅子	薬学部講師	
南畝 晋平	薬学部講師	
青木菜穂子	看護学部准教授	
松井 徳造	リハビリテーション学部教授	
紀平 知樹	共通教育センター准教授	
岩江 莊介		
竹内 勝一		

利益相反マネジメント委員会		
田中 稔之	薬学部教授	
鈴井江三子	看護学部教授	
野崎 園子	リハビリテーション学部教授	
秦 正哲	共通教育センター教授	
森田 泰夫	財務担当理事	
坂元 譲次	事務局長	
岩佐 義久	神戸キャンパスオフィスGM	
元岡 城作	法務・知的財産室長	
塩野 悟	学外有識者	

紀要編集委員会		
安屋敷和秀	薬学部教授	
伊藤 壮一	薬学部准教授	
藤井眞理子	看護学部教授	
堀口 和子	看護学部講師	
野崎 園子	リハビリテーション学部教授	
松井 徳造	リハビリテーション学部教授	
秦 正哲	共通教育センター教授	
末廣 謙	図書館長	
松原 良知	図書館グループM	

情報センター運営委員会	
馬場 明道 前田 拓也 西村 明子 櫛邊 勇 西田喜平次 加藤 精一	学長 薬学部准教授 看護学部准教授 リハビリテーション学部講師 共通教育センター講師 情報センター長

衛生委員会	
末廣 謙 上田 寛樹 増田富美子 奥谷 研 岩崎 剛 岩佐 義久 江端 弘樹	共通教育センター教授 薬学部講師 看護学部助教 リハビリテーション学部助教 衛生管理者・産業医 神戸キャンパスオフィスGM 教育・学生支援グループL

防火防災対策委員会	
馬場 明道 末廣 謙 藤田 幸久 前田 初男 西山 信好 竹田千佐子 藤岡 宏幸 磯 博行 新井 信之 岩佐 義久	学長 副学長 副学長 副学長 薬学部長 看護学部長 リハビリテーション学部長 共通教育センター長 学生部長 神戸キャンパスオフィスGM

放射線障害予防委員会	
藤野 秀樹 前田 拓也 上田 寛樹 堀口 和子 松井 徳造 末廣 謙 木原 淳彦	放射線取扱主任者 薬学部准教授 薬学部講師 看護学部講師 リハビリテーション学部教授 共通教育センター教授 研究支援グループM

共同機器室運営委員会	
田中 稔之 清宮 健一 田中 明人 坂口 顕 木原 淳彦	共同機器室長 薬学部教授 薬学部教授 リハビリテーション学部准教授 研究支援グループM

(H25.10.1現在)

11. 委員会の取り組み

1) FD委員会

i) 概要

兵庫医療大学ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会の目的は、教員個人及び教員組織としての教育能力を開発・改善し、兵庫医療大学の教育研究機能の向上を図ることであり、以下を具体的目標としている。①教員個々の教育力の向上、②集団・組織としての教育力の向上、③学部間の相互理解力の向上、④教員の研究力の向上及び相互協力体制による研究力の向上、⑤本学としての教育及び研究の質の向上、⑥教員と協働する職員の資質の向上である。

ii) 委員会の構成

3学部・共通教育センターから選出された教員各2名ずつと委員長の計9名により組織され、全学FD活動の企画・運営にあっている。また、学部・センターから選出された教員は、3学部および共通教育センターがそれぞれ独自に企画・運営するFD・SD活動との連携を責務としている。

iii) 委員会の活動実績

(1) 全学FDワークショップ開催

○平成24年度

日 時：平成25年2月27日（水）9:30～16:00

全 体 テ ー マ：「授業評価をすることの意義を考える」

特 別 講 演：佐藤 浩章 講師（愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室副室長・准教授）

講 演 テ ー マ：「授業改善に活かせる授業評価とは」

グループワーク：「授業評価の現状とこれからの課題

—現状の授業評価で何が問題か・改善のためのアクション—」

○平成25年度

日 時：平成26年3月7日（金）9:00～17:00

全 体 テ ー マ：「学習動機を高める」

特 別 講 演：佐藤 浩章 講師（大阪大学 全学教育推進機構・准教授）

講 演 テ ー マ：「授業に活かせる理解と記憶と動機の教育学」

グループワーク：「授業案の作成」

(2) FD委員会

○平成24年度委員会協議内容

前年度の「学生の自学自習する態度」を引き出す教育のあり方」をテーマとして開催された全学FDワークショップを受けて、平成24年度のワークショップテーマを委員会で協議した。前年度の午後のグループワークでは、「よい授業とは何か」をテーマにしてグループディスカッションが行われたが、よい授業とは何かを測る尺度として、本学で行われている授業評価が適切なものかどうかを検討する必要があるという結論に至った。そこで平成24年度のFDワークショップの全体テーマを「授業評価することの意義を考える」とし、愛媛大学教育企画室副室長の佐藤浩章先生を講師としてお招きし、「授業改善に活かせる授業評価とは」というタイトルで講演をし

ていただいた。また午後のグループワークは、「授業評価の現状とこれからの課題—現状の授業評価で何が問題か・改善のためのアクション—」とし、学部混成教員グループを作り、本学の授業評価の問題点を議論した。

また本ワークショップの成果を24年度FD委員会報告書としてまとめ授業評価の問題点を全学的に共有できるようにし、その成果が本学の授業評価アンケート項目の改変のための土台となった。

○平成25年度委員会協議内容

前年度の全学FDワークショップの活動をふまえ、委員会において平成25年度の全学FDワークショップのテーマについて話し合いを行った。全学FDワークショップ終了後の参加者へのアンケートなどから平成25年度の全体テーマが「学習動機を高める」に決定された。このテーマに関連する講師として前年度に引き続き佐藤浩章先生（大阪大学）に講師依頼を行った。

またワークショップに先立ち、本学の教員が学生の学習動機をどのように考えているか、また授業を行うにあたってどのような問題点を感じているかのアンケート調査を行った。その調査結果を講師の佐藤先生にもお送りした。その結果「授業に活かせる理解と記憶と動機 of 教育学」というタイトルで講演を行なっていただいた。また午後のグループワークも例年通り、学部教員教職員混成のグループを形成し、学部を超えた教員間の交流、また教員、事務職員間の交流をはかった。

2) 教育委員会

i) 概要

教育委員会では、本学におけるカリキュラム、兵庫医科大学との連携カリキュラム、教育実習、試験など、教務に関する基本方針や3学部共通課題案を作成し、大学協議会に上申（答申）している。具体的・詳細事項については、教授会に付議するなど本学における学部教育に関する企画立案並びに調整を行っている。

一方、本学の教育の特徴であるチーム医療を担う人材の育成を実践するため、医療関連分野の講義科目・内容及び臨床実習に関する企画を検討するなど、兵庫医科大学に設置の医療人育成センターとの連携を担う役割を果たしている。本学と兵庫医科大学との教育連携に係る事項については、本委員会において協議のうえ医療人育成センター運営委員会へ上程する流れとしている。

薬学部の完成年度を迎えた平成24年度より基礎科目についての見直しを教育委員会で行い、平成25年度より基礎科目の改変を行った。

ii) 委員の構成

委員会は、教務部長、共通教育センター2名、薬学部2名、看護学部2名、リハビリテーション学部2名、教育・学生支援グループマネージャーで構成している。委員長には教務部長がこの任に当たっている。

iii) 活動状況

教育委員会の開催については、平成24年度は10回（臨時1回含む）、25年度では16回（臨時2回、

持ち回り3回含む）開催している。

(1) チーム医療教育

開学以来、チーム医療教育の一部として1年次の早期臨床体験実習（ECE）、4学部合同チュートリアル（第1学年次対象）、4学部合同チーム医療論演習（本学第4学年次対象）に取り組んでおり、平成24年度、25年度は以下の日程で開催された。

なお、チーム医療教育については、平成25年度から教育支援室「チーム医療教育支援部門」が担当することとなった。

・早期臨床体験実習（ECE）の実施

平成24年8月6～11日の6日間

平成25年8月5～9日の5日間

兵庫医科大学病院における20病棟、薬剤部及び、リハビリテーション部において実施した。

・4学部合同チュートリアル教育の実施（第1学年次対象）

平成24年度

9月20日・21日本学において兵庫医科大学第1学年次と本学の第1学年次を対象に合同チュートリアルを行った。4学部混成の60グループをA：午前、B：午後に分け、両大学の計480名が「終末期医療」について小グループで討議し、様々な問題点毎にグループ単位でレポート提出する形式で行った。延命治療の可否などの理論的問題も含めた、他学部学生と意見交換の機会となった。

平成25年度

9月17・18日に開催した。昨年と同様に両大学の計490名が30台のディスカッションボードを用い、授業でまだ扱っていない臨床症例について自分たちで調査し検討することを通して、他学部学生と意見交換する機会となった。

・4学部合同チーム医療演習の実施（第3・4学年次対象）

平成24年9月10日～14日の5日間

平成25年9月9日～13日の5日間

西宮キャンパスにおいて兵庫医科大学第3学年次生と兵庫医療大学第4学年次生を対象に合同チーム医療演習を実施した。医学部生と薬学部・看護学部・リハビリテーション学部の学生が一堂に会して、チーム医療の立場で医療を考え、様々な問題を解決することを目的に行われた。この教育を通じて、短時間ではあるが将来一緒に働く医療人としてお互いを意識し、チーム医療について更に考える機会となった。

(2) 教育支援室

学部等における教育体制を支援するために平成24年6月に教育支援室が設置された。平成25年10月21日付で「兵庫医療大学教育支援室規程」及び「兵庫医療大学教育支援室部門内規」の一部改正が施行された。規程に基づき、教育支援室に「履修支援部門」「国家試験対策支援部門」及び「チーム医療教育支援部門」の3部門を設置し、各部門に部門長を配置した。

「履修支援部門」の学習支援員を募集し、14名の支援員が低学年次（第1・2学年次）の前期試験成績不良者に対して、個別面談及び勉強会を実施した。

「国家試験対策支援部門」では薬学部高学年次（第6学年次）の支援を必要とする学生に対して、

合宿を2回実施した。(7/8～7/12：参加者50名、12/2～12/6：参加者50名)

(3) 北京中医薬大学 短期留学

医学・医療の変容と時代が求めるニーズに応えるべく、近代西洋医学をベースとした医療のみならず、伝統医学も取り入れた全人的医療の推進を本学の特色の1つとすべく、兵庫医科大学、兵庫医療大学及び北京中医薬大学の日中3大学間連携による、日本における最初の中医学教育・研究機関「学校法人兵庫医科大学 中医薬孔子学院」が平成24年11月に設立された。

ボーダレスを大学の理念の1つとしており、兵庫医療大学においては、「人間への深い愛と豊かな人間性を持ち、幅広い知識と優れた技術を備え、社会とともに医療を担う医療専門職を育成する」との理念のもと、現代医療のみならず伝統医薬学の教育にも力を入れ、「統合医療」が実践できる人材の育成に全力で取り組んでいる。

以上を踏まえて、学生が異文化に触れることにより、グローバルな視野を涵養する機会と、統合医療の専門職に求められる知識・技術を学習する機会を提供することを目的として、短期留学が実施された。

留学先：北京中医薬大学（中国・北京）

参加者：薬学部第5学年次13名

日 程：平成25年11月20日～29日

(4) 基礎科目の改変

○アカデミックリテラシー

平成25年度より「アカデミックリテラシー」教育を1年次の全学部共通の必修科目として開講した。この授業は、ディスカッションボード（平成24年度私立大学等教育研究活性化設備整備事業に採択）を活用したグループ学習により展開され、大学生としての学習の基本を身に付けることを目標にしている。

○英語の能力別クラス分け

平成24年度から全学部新入生を対象にTOIECブリッジIPテストを実施し、新入生の学力把握、学力格差の改善並びに現行英語の教育内容等を検証し、第1学年次の英語クラス編成の参考とした。

○ブリッジ教育（薬学部）

入学前に学力低下と学習意欲低下問題の基本的な解決を図るとともに入学後の授業困難を解決し、中途退学率を低下させるために平成25年度より薬学部入学生を対象にブリッジ教育を実施した。

○早期臨床体験実習の単位化

従来、「医療科学概論」の一部として実施されていた「早期臨床体験実習」を、兵庫医科大学病院での見学実習と4学部合同チュートリアル（第1学年次対象）からなる単独の科目として設定した。

(5) 教務に関する課題の検討

平成24年5月の教育委員会で教員や事務職員から教務に関する問題点を挙げ、それらをまとめ、当委員会でブラッシュアップしている。教務システムに関してはワーキンググループを立ち上げて検討した。対応策として学生カルテ及びポートフォリオシステムの補助金を申請し、当該システムが採択された。

(6) 学生カルテ・ポートフォリオシステムの採択

本学は平成25年度「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」に当該システムを申請し、採択された。

学生カルテは一元化された教育情報から学習に対する学生個人の課題を明確化し、その情報を教員と学生が共有するとともに、学生個人の課題にあった具体的な学習支援を行う際に用いる。ポートフォリオは教員とのコミュニケーションツールとして双方向の学習支援に役立ち、大学生として自ら学ぶ学習態度を身に付けるツールとして使用する。両システムを活用することにより教育効果の向上が期待できる。

(7) 授業評価の見直し

教育委員会と教育支援室合同で、授業評価の内容を見直し、平成25年度後期より新たな授業評価用紙を用いた授業評価を実施した。

3) 自己点検・評価委員会

i) 概要

本学は、平成22年度に自己点検・評価委員会（以下（本委員会という。））の中に、認証評価対応委員会（委員長は馬場副学長）を設置し、平成23年度中に「自己点検・評価報告書」をまとめ上げ、平成24年度4月に、大学基準協会へ大学認証評価の申請を行った。平成24年度前期に書面審査が行われ、10月25・26日に実地調査を受験した。平成25年3月には「適合」の認証評価結果の通知があり、平成25年度4月1日付で「大学基準適合認定書」「大学基準協会正会員証」が交付された。

以上の業務に連動し、本委員会及び各部会の活動が後述のとおり行われている。

ii) 本委員会の構成

本委員会は、学長、副学長、学部長、共通教育センター長、大学院研究科長、学生部長、教務部長、図書館長、キャリアデザインセンター長、入試センター長、地域連携実践センター長、各学部から選出された教授若干名及びゼネラルマネージャーで構成され、委員長は、学長がこの任に当たっている。

表1. 平成24年度 自己点検・評価委員会構成 平成24年5月16日 自己点検・評価委員会確認

委員選出種別	委 員 名			備 考
第3条1号委員	松田学長（委員長）			
第3条2号委員 （役職指定）	馬場副学長（副委員長）	佐藤副学長（看護）	末廣副学長（教務部長・共通）	
	東葉学部長	竹田看護学部長	藤岡リハビリテーション学部長	
	磯共通教育センター長	上原看護学研究科長	野崎医療科学研究科長	
	藤田学生部長（共通）	西原図書館長（薬）	田中キャリアデザインセンター長（薬）	
	前田入試センター長（薬）	清宮地域連携実践センター長（薬）		
第3条3号委員 （教授会選考）	西山教授（薬）	安屋敷教授（薬）	土居教授（看護）	
	鈴木教授（看護）	山崎教授（リハ）	玉木教授（リハ）	
第3条4号委員 （学識経験者）				

委員選出種別	委 員 名	備 考
第3条5号委員	菊地GM	
事務局（総務G）	高田泰彦（次長・総務グループマネージャー）	

表2. 平成25年度 自己点検・評価委員会構成

平成25年4月15日

大学協議会検討

平成25年4月17日 大学協議会持回り承認

委員選出種別	委 員 名	備 考
第3条1号委員	馬場学長（委員長）	
第3条2号委員 （役職指定）	末廣副学長・図書館長 前田副学長 藤田副学長 西山薬学部長・薬学研究科長 竹田看護学部長 藤岡リハ学部長・医療科学研究科長 磯共通教育センター長 新井学生部長 川口教務部長 田中キャリアデザインセンター長 日高入試センター長 清宮地域連携実践センター長 網島看護学研究科長	
第3条3号委員 （教授会選考）	辻野薬学部教授 安屋敷薬学部教授 鈴木看護学部教授 山崎リハ学部教授 秦共通教育センター教授	
第3条4号委員 （学識経験者）		
第3条5号委員	岩佐GM	
事務局（総務G）	高田次長（総務Gマネージャー）	

iii) 本委員会・各部会の活動

(1) 平成24年度

平成24年度の本委員会各部会の活動は、年度当初に提出した「自己点検・評価報告書」に、点検評価基準ごとに記載している「効果が上がっている事項」「改善すべき事項」について、再度精査して自己評価内容を把握し、大学基準協会の実地調査に備えた。

表3. 平成24年度 各部会構成と業務分担

平成24年5月16日

自己点検・評価委員会確認

部会	部会長	構成メンバー	事務担当者	点検・評価対象基準
自己点検・評価委員会 （親委員会）	松田学長	別紙	高田次長	基準1 理念・目的 基準10 内部質保証
教育部会	末廣副学長 （教務部長）	西山教授（薬） 竹田看護学部長 鈴木教授（看護） 山崎教授（リハ） 磯共通教育センター長	岩佐次長	基準3 教員・教員組織 基準4 教育内容・方法・成果 基準6 学生支援
研究部会	馬場副学長	東薬学部長 安屋敷教授（薬） 末原教授（看護） 上原看護学研究科長 野崎医療科学研究科長 玉木教授（リハ）	村上研究支援Gマネージャー	基準7 教育研究等環境
管理運営部会	佐藤副学長	藤岡リハ学部長 西原教授（薬） 菊地GM 高田次長	金岡経理調達Gリーダー	基準2 教育研究組織 基準5 学生の受け入れ 基準9 管理運営・財務

部会	部会長	構成メンバー	事務担当者		点検・評価対象基準
地域貢献部会	土居教授 (看護)	清宮地域連携実践センター長(薬) 前田入試センター長(薬) 田中キャリアデザインセンター長(薬) 藤田学生部長(共通)	高田次長		基準 8 社会連携・社会貢献

(2) 平成25年度

平成25年度は全学部完成年を経て、馬場新学長のもと、本学の第2ステージが発進した。これを機に、大学ガバナンスの改善と管理運営の明確化が図られ、自己点検・評価活動を通して、より活発にPDCAサイクルを廻すこととした。本委員会各部会の活動は、部会の所掌により表4のとおり分担して、平成25年度事業計画を中心とした本学の取組みについて、その進捗状況及び達成度を点検・評価することとした。

表4. 平成25年度 各部会構成と業務分担

平成25年4月15日 大学協議会検討

平成25年4月17日 大学協議会持回り承認

部会	部会長	構成メンバー	事務担当者	点検・評価対象事業計画	点検・評価対象基準
自己点検・評価委員会 (親委員会)	馬場学長	別紙	高田次長		基準1 理念・目的 基準10 内部質保証
教育部会	末廣副学長	末廣副学長・図書館長 新井学生部長 川口教務部長 西山薬学部長 田中キャリアデザインセンター長 鈴木看護学部教授	梶次長 後藤就職支援Gマネージャー 江端教育・学生支援Gリーダー	②学部教育の充実による教育力向上と国家試験対策の強化等活力ある教育支援体制の確立 ④優良な就職先の確保と卒業生フォローシステムの構築	基準3 教員・教員組織 基準4 教育内容・方法・成果 基準6 学生支援
研究部会	前田副学長	前田副学長 安屋敷薬学部教授 網島看護学研究科長 山崎リハ学部教授	高田次長 木原研究支援Gマネージャー	⑥研究環境の整備と研究活動の活性化及び外部資金の獲得	基準7 教育研究等環境
管理運営部会	馬場学長	馬場学長 藤岡リハ学部長 磯共通教育センター長 日高入試センター長 岩佐GM	赤井次長 金岡経理調達Gリーダー	①管理運営体制（ガバナンス）の整備と経営基盤の強化 ③さらなる受験者数獲得と高学力入学者確保のための戦略的広報	基準2 教育研究組織 基準5 学生の受け入れ 基準9 管理運営・財務
地域貢献部会	藤田副学長	藤田副学長 竹田看護学部長 清宮地域連携実践センター長 辻野薬学部教授 秦共通教育センター教授	小川総務Gリーダー 計総務G	⑤海外大学との学術交流協定の締結と交流プログラムによる国際教育の実践	基準8 社会連携・社会貢献

なお、平成25年度の本委員会活動日程は表5の計画のとおり行われた。

表 5. 平成25年度 自己点検・評価委員会活動日程

日 程	親委員会 / 部会	自己点検・評価事項	
5月20日(月)	大学協議会終了後	自己点検・評価委員会	・平成25年度活動方針等
9月中	随時	同各部会	・平成25年度事業計画中間進捗状況評価 (担当別ヒアリング等)
10月21日(月)	大学協議会終了後	自己点検・評価委員会	・平成25年度事業計画中間進捗度評価 ・平成26年度事業計画原案立案
2月中	随時	同各部会	・平成25年度事業計画達成状況評価 (担当別ヒアリング等)
3月17日(月)	大学協議会終了後	自己点検・評価委員会	・平成25年度事業計画達成度評価 ・平成26年度事業計画確認

4) 学生委員会

i) 概要

学生委員会は、人間形成を目的として行われる課程外の教育活動及び大学教育に対する適応を図り学習効果を高めることを目的とし活動を行っており、学生委員会規程に基づいて学生の修学に係る指導・助言や学生の生活相談、学生の健康管理、奨学金に関すること等、学生会活動及び課外活動に関することを協議し、問題の解決に当たっている。

ii) 委員会の構成

委員は、開学以来、学生委員会規程に基づき11名で構成していたが、平成25年4月1日に規程改正が行われ、14名の構成員となった。また、兵庫医療大学貸与奨学金の選考や、学生会、課外活動団体への対応など、継続的な調整や、詳細な検討が必要な事項については、担当委員を当て対応を行うとともに、必要に応じてワーキンググループを設置し対応している。

iii) 委員会の活動実績

(1) 委員会の開催及び委員の活動

委員会の開催は、夏季期間を除き年11回開催した。また、健康診断、ワクチン接種での学生誘導や、奨学金担当委員による奨学生への面談、学生団体担当委員によるキャップ会への出席、学生会との打ち合わせへの出席、顧問懇談会での顧問に対する説明及び課外活動団体ヒアリングへの参加、課外活動リーダーズキャンプへの参加、交通信号無視学生への指導立哨、喫煙マナー指導巡回等、会議以外でも積極的に活動を行った。

(2) 主たる活動状況

① アドバイザーシステムについて

[平成24年度]

- a. 平成23年度と同様、ECEの実施に合わせて40グループで実施した。
- b. 学生相談室より、アドバイザー教員に対して、コンサルテーション制度について説明、周知を行った。

[平成25年度]

- a. 平成24年度と同様に、ECEの実施に合わせて40グループで実施した。
- b. 学生相談室より、アドバイザー教員に対して、コンサルテーション制度について説明、周知を行った。
- c. 各グループに2～3名の学生アドバイザーを加えてアドバイザー懇談会を実施した。

②新入生・在学生に対するオリエンテーションについて

[平成24年度]

- a. 4月2日（月）に看護、リハビリテーション学部在学生に対し、4月3日（火）に薬学部在学生に対しオリエンテーションを実施した。また、第3学年次を対象として、薬物乱用に関するオリエンテーションを実施した。なお、オリエンテーション当日、暴風警報が発令されたため、午後から予定していた第4学年次及び第5学年次のオリエンテーションをそれぞれ6日（金）、9日（月）に実施した。
- b. 4月6日（金）に新入生に対し大学生活に関するオリエンテーションを行った。また4月7日（土）にアドバイザーグループ懇談会、健康診断、BLS講習会を実施した。4月11日（水）にマナーモラルに関するオリエンテーション、危機管理に関するオリエンテーションとして、悪徳商法、カルト集団、薬物乱用防止、飲酒に関するオリエンテーションを行った。
- c. 大学行事実行委員会主催による新入生歓迎会が催され、それ以外にも各課外活動団体による勧誘が活発に行われた。

[平成25年度]

- a. 4月1日（月）に看護、リハビリテーション学部在学生に対し、4月2日（火）に薬学部在学生に対しオリエンテーションを実施した。また、第3学年次を対象として、薬物乱用に関するオリエンテーションを実施した。
- b. 新入生への学生生活に関するオリエンテーションは、4月5日（金）の入学式後に実施した。また、4月6日（土）にアドバイザーグループ懇談会、健康診断・抗体検査、BLS講習会を実施し、4月9日（火）にはマナーモラルに関するオリエンテーション、4月10日（水）には危機管理に関するオリエンテーションとして、悪徳商法、金融取引の基礎知識、カルト集団、薬物乱用防止、飲酒に関するオリエンテーションを行った。
- c. 大学行事実行委員会主催による新入生歓迎会が催され、それ以外にも各課外活動団体による勧誘が活発に行われた。

(3) 健康管理とワクチン接種について

[平成24年度]

- a. 健康診断については、在学生は学部別に実施されるオリエンテーションと同日に2日間実施し、新入生も全新生対象のオリエンテーションにあわせて実施した。しかし、暴風警報が発令されたため、薬学部の健康診断を午後から中止とし、その後2日間の健康診断を振替実施した。未受診者の個別受診対応については、学生委員が協力し受診勧奨をした。
- b. 新入生の健康診断検査項目については、大学生活を始めるに際し、健康状態を把握して運動許容を決める安全配慮目的と生活習慣を見直し健康増進を支援するため、在学生の健診項目に心電図検査、血圧測定、血液検査、尿検査、聴力検査等の項目を追加して実施した。
- c. 「健康調査票」を学生が健康診断時に提出し、学生生活での健康管理に役立つように、学校医、保健師が指導、助言したり、救急時等必要に応じて、情報が開示され対応できる体制となった。
- d. 抗体検査、ワクチン接種については、新入生のオリエンテーション時に抗体検査を実施し、ワクチン接種対象者を選定した。ワクチン接種は、授業の空き時間等を利用し、学内で実施す

ることができた。ワクチン接種後も抗体検査を実施し、免疫状態を確認した。

[平成25年度]

- a. 健康診断については、前年度と同様に在學生は学部別に実施されるオリエンテーションに実施し、新入生はオリエンテーションにあわせて実施した。オリエンテーションと同日であったため、受診率は高く、円滑に進めることができた。
- b. 健康診断委託業者の変更に伴い、胸部X線検査直接撮影からデジタル撮影に変更となった。在學生は、従来の健診項目に血圧測定を追加した。新入生も、従来の健診項目に腹囲測定を追加した。
- c. 抗体検査、ワクチン接種についても、委託業者を変更した。新入生の健康診断時に抗体検査をして、ワクチン接種対象者を選定した。ワクチン接種と確認抗体検査は、委託先を変更したが、前年度と同様に実施した。
- d. 保健室イベントとして、7月に食生活支援を実施し、朝食の摂取を促した。平成25年10月21日に株式会社エイチ・アイからインボディ（高機能体組成計測器）が兵庫医療大学に寄贈された。保健室に設置し、周知のため体組成測定についてのイベントを11月に実施した。

(4) メンタルヘルスと学生相談室の活動について

[平成24年度]

- a. 昨年度に引き続き、学生と相談員との交流を行い、学生相談室の存在を身近に感じてもらえるよう、4月と11月の2回学生相談室イベントを実施した。イベントでは心理テストやリラクゼーション法を行った。

[平成25年度]

- a. 昨年度に引き続き、学生と相談員との交流を行い、学生相談室の存在を身近に感じてもらえるよう、7月、11月、2月の3回学生相談室イベントを実施した。イベントではコミュニケーションワークショップや、バレンタインの季節にデコチョコを作って参加者でお茶会をした。

(5) 学生団体への支援について

[平成24年度]

- a. G棟アリーナ1階にエアコンを設置した。
- b. 熱中症講習会を保健管理センター主催で賀屋講師の協力により実施した。
- c. 学生会、大学行事実行委員会、公認課外活動団体の幹部学生に対し、各学生団体の役割やあり方について理解を深め、学生会を中心とした組織作りを行うことを目的として、1泊2日にてリーダーズキャンプを実施した。
- d. 兵庫医科大学との各課外活動団体間で交流戦が実施されることに合わせて、各団体で実施される親睦会の経費に補助を行い、両大学の交流支援を行った。
- e. 在学期間中に学生会活動、クラブ活動、人道活動等の諸活動を通じて兵庫医療大学の発展に功労のあった学生に対し、課外活動功労賞を設け、当該年度卒業生5名を学位授与式にて表彰した。
- f. 兵庫医科大学及び兵庫医療大学を卒業する学生のうちから、学業成績が優秀でかつ課外活動にも特に功績があった者を表彰する理事長特別賞についても、1名を推薦し、学位授与式にて表彰した。

[平成25年度]

- a. 関電グラウンド閉鎖に伴い、兵庫医科大学鳴尾浜グラウンドの使用要請、環境整備を行った。

- b. 学生が使用できる楽器として、コンサートシロフォン、ティンパニー、ビブラフォン、教育用マリンバ、グロッケンを購入し、保管場所となるアトリエを整備した。
- c. 熱中症講習会を保健管理センター主催で賀屋講師の協力により実施した。
- d. 熱中症予防対策として、G棟アリーナ2階に熱中症指数計を設置した。また、同場所に救護用担架を設置した。
- e. 前年度に引き続き学生会、大学行事实行委員会、公認課外活動団体の幹部学生に対し、各学生団体の役割やあり方について理解を深め、学生会を中心とした組織作りを行うことを目的とし1泊2日にてリーダーズキャンプを実施した。
- f. 前年度と同様に在学期間中に学生会活動、クラブ活動、人道活動等の諸活動を通じて兵庫医療大学の発展に功労のあった学生に対し、課外活動功労賞として、当該年度卒業生4名を学位授与式にて表彰した。

(6) 学生団体の活動について

[平成24年度]

- a. 第5回海梟祭を開催した。
- b. 第6回クリスマスイルミネーション点灯式を行った。
- c. 第4回スポーツ大会を実施した。
- d. 卒業生により卒業アルバムの作成及び卒業記念パーティーが開催された。

[平成25年度]

- a. 第6回海梟祭を開催した。
- b. 第7回クリスマスイルミネーション点灯式を行った。
- c. 第5回スポーツ大会を実施した。
- d. 卒業生により卒業アルバムの作成及び卒業記念パーティーが開催された。

(7) 奨学金について

[平成24年度]

- a. 教育委員会と合同で在学生特別奨学生候補者の選考を行い、平成24年度在学生特別奨学生として薬学部6学年次3名、平成25年度在学生特別奨学生として薬学部26名、看護学部10名、リハビリテーション学部理学療法学科5名、同作業療法学科5名を選出した。

[平成25年度]

- a. 教育委員会と合同で在学生特別奨学生候補者の選考を行い、平成25年度在学生特別奨学生として薬学部6学年次3名、平成26年度在学生特別奨学生として薬学部33名、看護学部12名、リハビリテーション学部理学療法学科6名、同作業療法学科6名を選出した。

(8) 学生生活の調査について

- a. 平成22・23年度に引き続き、24・25年度においても、学生の生活実態調査を実施した。
- b. 平成24年度より、卒業生に対するアンケートを開始した。
- c. 平成25年度において、学生アンケート分析ワーキンググループを設置し、平成23年度及び24年度に実施した学生の生活実態調査や卒業生に対するアンケートの分析を行い、学生生活白書を作成した。作成した学生生活白書は、教職員や学生に公開した。

5) 情報センター運営委員会

i) 概要

情報センター運営委員会は、情報センターの適正な運営について審議するために置かれた委員会であり、学長を委員長とし、大学協議会の構成員若干名と、各学部・センターの教員1名、情報センター長によって組織されている。

ii) 活動状況

平成24、25年度は、開学後初の大規模な情報システムのリプレイス案件があり、これについての予算、更新部分、リプレイススケジュール、手続きの面で情報センターからの案について議論を行った。常務会等に提出する調達の方針、選定方法、契約方法、スケジュールについて確認を行い、常務会での決定後、本委員会を通して各社へ仕様書の送付が行われ、機種選定委員会の委員選出を行った。また、情報センターが行う以下の案件の案や実施状況についても審議した。

平成24、25年度に審議した内容

- ・ Gmailの利用
- ・ キャリア就職支援システムの導入検討
- ・ 仮想化基盤システムの導入検討
- ・ moodleの拡大利用について
- ・ 次期情報システム（平成25年度リプレイス分）についてのユーザアンケート実施と公開
- ・ 情報システムのリプレイスの予算立案、計画
- ・ 英語e-learningシステムの導入サポート
- ・ ウイルス対策ソフトの更新
- ・ 次年度の保守内容
- ・ グループウェアの情報保存期間について
- ・ 大学院生のプリンタ利用

6) 地域連携推進委員会

i) 概要

本学では、地域との連携を推進するために地域連携推進委員会を設置している。本委員会は地域連携実践センター長と薬学部、看護学部、リハビリテーション学部、共通教育センターからそれぞれ1名ずつ選出された教員（計4名）と事務職員1名で構成し、地域連携実践センターの運営及び本学の地域連携に関する企画立案を行っている。本委員会を中心に各学部、共通教育センターの教員による市民健康公開講座の開催、及び個別の健康相談事業、地域交流プロジェクト等を実施している。

ii) 活動状況

公開講座・個別健康相談は、薬学部、看護学部、リハビリテーション学部、共通教育センターが各々企画し、地域連携推進委員会が中心となって「神戸ポートアイランド・キャンパス4大学連携事業」によって本学に設置された「ボーアイ健康・生活支援ステーション」と連動して開催している。各公

開講座の様子は、ビデオ撮影してアーカイブとしてDVDに収め一般にも公開している。

地域交流プロジェクトは、地域の方々の健康の維持・増進・回復のために本学教員が主体的に企画し、平成20年度から開始した。平成21年度までは、「ポアアイ健康・生活支援ステーション」と連動して開催してきたが、平成22年度から、本委員会が独自で実施している。本プロジェクトは、学内教員を対象に公募して、地域連携推進委員会で審査し、採択している。平成24年度及び25年度は、各プロジェクトに10万円の予算を配分した。

「全国同時七夕記念講演会」、「HIV講演会」は、平成24年度及び25年度も継続開催した。前者は、本委員会が独自として、後者は「ポアアイ健康・生活支援ステーション」と連動して実施した。

平成24年度及び25年度も「ポアアイ健康・生活支援ステーション」が企画申請書並びにヒアリングに基づき厳選したポアアイ健康推進プロジェクトを「ポアアイ健康・生活支援ステーション」と連動して実施した。

平成24年度は、兵庫県と大学コンソーシアムひょうご神戸が協働する少子化対策及び子育て支援推進事業「まちの寺子屋師範塾」に参画し、薬学部がワークショップを実施した。平成25年度からは、コムスタこうべ 神戸市生涯学習支援センターが開催する「こうべ生涯学習カレッジ」に参画し、共通教育センターがセミナーを実施した。また、みなとじま地域包括支援センターの依頼により、リハビリテーション学部が講演会を実施した。

iii) 活動内容

公開講座・個別健康相談、講演会、地域交流プロジェクト、ポアアイ健康推進プロジェクト等の活動内容については、Ⅲ．管理・運営活動 3．附属施設・活動状況 4) 地域連携実践センターの項（137～175頁の表1～5を参照）及び5．神戸ポートアイランド 4 大学連携 1) 実務者会議 i) ポアアイ健康・生活支援ステーション（ポアアイ健康推進プロジェクト）（177頁を参照）に掲載する。

7) 入試運営委員会

i) 概要

入試運営委員会は、入学者選抜要領の作成及び入学試験実施に関する業務等について協議するとともに、志願者数及び入学者数の確保を図るための最善な入試制度について協議している。

ii) 委員会の構成

当委員会は、入試運営委員会規程に基づき、入試センター長、薬学部教員2名、看護学部教員2名、リハビリテーション学部教員2名、共通教育センター教員1名及び入試グループマネージャーの9名の委員をもって構成され、委員長は入試センター長が務めている。

なお、委員長（入試センター長）は、平成21年度から薬学部 前田初男教授が4年間務め、平成25年度からリハビリテーション学部 日高正巳教授が務めている。

iii) 委員会の活動状況

当委員会では、平成23年度入学試験から、入学生・在学生特別奨学金制度の導入とともに、入試制度の改革（新たな一般入学試験の導入、薬学部試験科目の化学重視型への変更、調査書評価方法の変更等）を実施した。さらに、当該入学試験の結果を踏まえ、更なる検証・分析を行い、平成25年度入

学試験以降、新たな入試種別の追加及び入試種別ごとの募集人員の見直しを実施した。

加えて、入試問題の出題ミスを防ぐため、出題責任者及び出題委員のほかに、検証委員による検証及び入試担当副学長と入試センター長による検証を導入し、入学試験実施体制の強化を図った。

また、高等学校学習指導要領の改訂に伴い、平成27年度入学試験から変更の対象となる数学及び理科について、出題範囲等の検討を行い、変更後の出題範囲について、ホームページ等を通して公表を行った。

(1) 新たに追加した入試種別

①平成25年度入学試験

- a 薬学部…大学入試センター試験利用入学試験後期日程
- b リハビリテーション学部理学療法学科…一般入学試験前期B日程

②平成26年度入学試験

- a 看護学部…推薦入学試験公募制A日程

さらに、平成27年度入学試験以降の改革に向け、学外会場による入学試験を導入すべく、出願者の出身地の分析及び学外会場設置時の受験者見込数等の検討を行い、岡山市（JR岡山駅近辺）及び大阪市天王寺区（JR天王寺駅近辺）で実施することを決定した。

また、入試制度の徹底分析を行うため、分析ツール「QlikView」を導入し、入学試験結果、学業成績結果、国家試験結果の相関分析等を進めている。

8) 広報委員会

i) 委員会の目的

当委員会は、下記事項に関して協議し、課題解決にあたることを目的として、活動するものである。

1. 本学の大学広報の企画・立案に関すること
2. 入試広報施策の企画・立案及び実施に関すること
3. 大学のホームページの運用方針及び内容の企画・立案に関すること
4. 法人の広報関連部署及び広報戦略との連携、強調、情報の共有等に関すること
5. その他本学の広報全般に関すること

ii) 委員会の構成

当委員会は、委員長、薬学部教員2名、看護学部教員2名、リハビリテーション学部教員2名、共通教育センター教員1名及び広報・情報グループマネージャーの9名の委員をもって構成されている。

委員長は平成21年度から薬学部 青木俊二教授が務めている。

iii) 委員会の活動状況

当委員会は、オープンキャンパス等イベントの企画・運営、大学案内やWebサイト等各種広報媒体の企画・編集・制作、高等学校への出張講義・ガイダンスやキャンパス見学会・体験実習の企画調整・実施等を行っており、各委員は日常的にこれらの業務に携わっている。

(1) オープンキャンパス等学生募集イベント

①平成24年度

a オープンキャンパス

8月18日(土)・19日(日)、9月1日(土)・2日(日)の計4日間開催し、例年好評な各学部実習室における体験実習を主として、在学生によるキャンパスツアー、在学生・教員との交流コーナーなどのプログラムで構成した。

来場者数は表1のとおり、8月開催と9月開催とに偏りがあったが、全4日間を通しての総来場者数は受験生・高校生ベースで前年度とほぼ同じの1,650名であった。

8月19日(日)にオープンキャンパスと同時開催で行った薬学部一日体験入学には34名の参加があった。

b 本学薬学部・兵庫医科大学病院薬剤部合同イベント

7月21日(土)、「絶対に”他”では聞けない“クスリ”の話」をテーマに西宮キャンパスで開催した。このイベントは、本学薬学部をPRする学生募集イベントではなく、薬学に興味のある高校生に広く呼びかけ、薬学部を卒業した後の具体的な職業イメージを持ってもらうことを目的としたもので、本学薬学部教員による薬学研究に関する講演、兵庫医科大学病院薬剤師によるパネルトーク及び薬剤部見学などで構成し、高校生20名をはじめ44名の参加があった。

c 職業理解イベント

10月7日(日)、「医療のお仕事体験してみませんか?」をテーマに、大学祭との同時開催で開催した。このイベントは、医療の仕事に興味を持つ高校低学年及び中学生等を対象として、医師、薬剤師、看護師、理学療法士、作業療法士の5つの職業を疑似体験することにより、幅広い層の方に本学を知ってもらうことを目的としたもので、小さな子供から大人まで約80名の参加があった。

d 入試対策講座&大学見学会

11月18日(日)、受験生に出願を促すとともに、オープンキャンパスに参加できなかった受験生にキャンパスを見学してもらうことを目的として、入試ガイダンスの後、英語、化学、生物の入試対策講座、併せてキャンパスツアーを実施した。約270名の参加があった。

e 3学部合同1日体験入学イベント

3月27日(水)、医療系に興味のある新高校2年生・3年生を対象に、実際の大学生活に近い講義と実習を受けることができるイベントとして、初めて3学部合同により、次のプログラムを開催した。定員150名に対して277名の申し込みがあり、抽選により142名が参加した。

・薬学部：「薬学の世界を知ろう！」

・看護学部：「足湯によるからだの変化について分析しよう」

・リハビリテーション学部理学療法学科：「スポーツ理学療法を体験しよう」

・リハビリテーション学部作業療法学科：「ひらめきと工夫で生活に夢を！

—作業療法士の仕事—」

②平成25年度

a オープンキャンパス

8月10日(土)・11日(日)・24日(土)・25日(日)の計4日間開催したが、前半の2日間は猛暑、後半の2日間は大雨洪水警報が発令される中、4日間で過去最多の1,839名(受験生・高校生ベース)の来場があった。

内容としては、例年の各学部学科イベント等に加え、次のとおり特別イベントを実施した。

- ・ 8月10日（土）：オープニングイベント「Special Live」
- ・ 8月11日（日）：薬学部特別イベント「1日体験入学」（参加者36名）
- ・ 8月24日（土）：チーム医療特別講義
- ・ 8月25日（日）：卒業生によるパネルトーク「兵庫医療、そして今」

b 本学薬学部・兵庫医科大学病院薬剤部合同イベント

6月1日（土）、「“絶対に”他では聞けない“クスリ”の話」をテーマに西宮キャンパスで開催した。4回目の開催となる今回は、例年と同じく、本学薬学部教員による薬学研究に関する講演、兵庫医科大学病院薬剤師によるパネルトークなどで構成し、高校生19名をはじめ23名の参加があった。

c 職業理解イベント

10月13日（日）、前年度と同じく、「医療のお仕事体験してみませんか？」をテーマに、大学祭との同時開催で開催した。小さな子供から大人まで236名の参加があった。

d 入試対策講座&大学見学会

11月24日（日）、前年度と同じく、入試ガイダンスの後、英語、化学、生物の入試対策講座、併せてキャンパスツアーを実施し、326名の参加があった。

e 3学部合同1日体験入学イベント

3月26日（水）、オープニングガイダンス、在学生スタッフによるキャンパスツアーの後、「チーム医療」を学ぶ特別講演を実施した。在学生及び教員との昼食の後、各学部学科に分かれて、次のとおり体験実習等を行った。約280名の申し込みがあり、抽選により154名が参加した。

- ・ 薬学部：実験実習「薬学の世界を知ろう！」
- ・ 看護学部：体験実習「生命誕生を支える看護」
- ・ リハビリテーション学部理学療法学科：体験実習「スポーツ理学療法体験」
- ・ リハビリテーション学部作業療法学科：体験実習「手の発達に合わせたサポート道具を作ろう」

表1. 平成24年度オープンキャンパス参加者数
(8月18日)

志望学科	受験生数	同伴者数	合計
医療薬学科	108	84	192
看護学科	332	232	564
理学療法学科	159	123	282
作業療法学科	48	30	78
合計	647	469	1,116

(8月19日)

志望学科	受験生数	同伴者数	合計
医療薬学科	109	76	185
看護学科	264	173	437
理学療法学科	145	101	246
作業療法学科	45	38	83
合計	563	388	951

表2. 平成25年度オープンキャンパス参加者数
(8月10日)

志望学科	受験生数	同伴者数	合計
医療薬学科	142	89	231
看護学科	290	210	500
理学療法学科	185	159	344
作業療法学科	58	21	79
合計	675	479	1,154

(8月11日)

志望学科	受験生数	同伴者数	合計
医療薬学科	82	72	154
看護学科	198	153	351
理学療法学科	126	67	193
作業療法学科	38	15	53
合計	444	307	751

(9月1日)

志望学科	受験生数	同伴者数	合計
医療薬学科	39	37	76
看護学科	97	58	155
理学療法学科	35	31	66
作業療法学科	21	14	35
合計	192	140	332

(8月24日)

志望学科	受験生数	同伴者数	合計
医療薬学科	73	46	119
看護学科	224	94	318
理学療法学科	115	114	229
作業療法学科	36	22	58
合計	448	276	724

(9月2日)

志望学科	受験生数	同伴者数	合計
医療薬学科	36	31	67
看護学科	135	105	240
理学療法学科	49	43	92
作業療法学科	28	14	42
合計	248	193	441

(8月10日)

志望学科	受験生数	同伴者数	合計
医療薬学科	47	33	80
看護学科	144	88	232
理学療法学科	59	31	90
作業療法学科	22	15	37
合計	272	167	439

表3. 平成24年度(4日間合計)

志望学科	受験生数	同伴者数	合計
医療薬学科	292	228	520
看護学科	828	568	1396
理学療法学科	388	298	686
作業療法学科	142	96	238
合計	1,650	1190	2,840

表4. 平成25年度(4日間合計)

志望学科	受験生数	同伴者数	合計
医療薬学科	344	240	584
看護学科	856	545	1401
理学療法学科	485	371	856
作業療法学科	154	73	227
合計	1,839	1,229	3,068

(2) 大学案内等の制作

平成25年度学生募集用大学案内を制作するに当たり、第1期卒業生を輩出し、薬学部最高学年が5年生となり実務実習が始まったことなどから、大学案内の内容もリニューアルすべき時期であると判断し、複数社からの提案を受け、コンベ形式による業者選定を行うことにした。選定に際しては、入試広報の主要媒体であることから、技術力など完成品のクオリティが見込めるかに重点を置き、かつ大学案内を中心に他のサブツール開発などへの企画力及び戦略性も加味し、評価を行った。また、大学案内の制作に併せて、各学部リーフレットを新たに制作した。その他、イベント動員及び出願促進のためのダイレクトメールを制作した。

(3) ホームページ(大学公式Webサイト)のリニューアル

大学公式Webサイト(<http://www.huhs.ac.jp/>)について、平成20年12月のリニューアル以降、本学の魅力をより引き出すためトップページ等の既存ページの一部更新を進めてきたが、本学Webサイト内で受験生に特化したページの制作には限界があり、伝えたい情報や思いを具現化することが困難な状況にあったことから、既存ページの一部リニューアルに加えて、本学公式Webサイトとは切り離れた受験生向けスペシャルサイトを設けた。

(4) 大学合同進学相談会等への参加

進学情報業者等主催による大学合同進学相談会に参加し、オープンキャンパス等イベントへの誘導、入試相談等による出願促進を行った。また、教員による高等学校内ガイダンス及び模擬授業に

も精力的に参加した。平成24・25年度における大学合同進学相談会への参加等の広報活動件数を表5に示す。

(5) 高等学校・予備校教員対象入試説明会

次年度学生募集要項の確定に合わせて、高等学校進路指導教員及び予備校進路指導担当者を対象とした入試説明会及び希望者への施設見学、個別相談を実施した。平成24年度は40校、25年度には37校の参加があった。

(6) 高校訪問の実施

平成24・25年度ともに、全教員及び職員による近畿地区、中国・四国地区の高等学校への訪問を実施し、当該年度の入試説明、オープンキャンパス告知とともに大学のPRを行った。平成24・25年度における高校訪問件数を表5に示す。

(7) 入試説明会

平成23年度から開催している中国地方での本学主催の入試説明会を、平成24・25年度ともに、岡山市、広島市及び松江市で開催した。

(8) 高大連携への取組み

高等学校内での出張講義・進学ガイダンス、大学キャンパスでのキャンパス見学とあわせた模擬講義、体験実習等を実施した。多くは進学情報業者主催のものではあるが、高等学校との積極的な交流・連携を図るため、これら模擬講義、体験実習等の内容をパッケージ化しWebサイトに情報公開するなど広報してきた結果、高等学校からの直接依頼によるものも徐々に増えつつある。

表5. 平成24・25年度入学試験関連の広報活動

項 目	平成24年度	平成25年度
大学合同進学相談会	55 件	61 件
高等学校校内ガイダンス・模擬授業（薬学部）	26 件	35 件
高等学校校内ガイダンス・模擬授業（看護学部）	16 件	20 件
高等学校校内ガイダンス・模擬授業（理学療法学科）	4 件	5 件
高等学校校内ガイダンス・模擬授業（作業療法学科）	32 件	32 件
広報グループ	55 件	45 件
高大連携出張講義・進学ガイダンス	30 件	24 件
キャンパス見学会	22 件	23 件
高校訪問	415 件	420 件
入試説明会	3 件	3件

9) 図書館委員会

i) 概要

図書館委員会は、学習支援・研究支援のためにより良い図書館運営を図ることについて協議すると

ともに、図書館資料や学術情報の選定・収集・管理に関することについて協議している。

ii) 委員会の構成

当委員会は、図書館長、薬学部教員1名、看護学部教員1名、リハビリテーション学部教員2名（うち1名オブザーバー）、共通教育センター教員1名及び図書館グループマネージャーの7名の委員をもって構成され、委員長は図書館長が務めている。

iii) 委員会の協議事項

年間を通じて、以下の事項について協議を行っている。

- ・ 図書館経費、図書購入費についての予算
- ・ 図書館利用マナー
- ・ 年間開館予定
- ・ 教員選書依頼と選書図書購入について
- ・ シラバス掲載の教科書・参考書の購入について
- ・ 学生からの希望図書購入について
- ・ 購読雑誌（電子ジャーナル含む）契約・データベース契約
- ・ 寄贈図書・雑誌の受入について
- ・ 除籍
- ・ PI4大学合同巡回展示の展示内容について

iv) 特記すべき協議事項

- ・ 孔子学院から寄贈された図書の受入を決定した。
- ・ 旧兵庫医科大学附属看護専門学校で所蔵していた図書・製本雑誌の受入を決定した。
- ・ 図書管理規程を一部改正した。
- ・ 図書閲覧規程を一部改正した。
- ・ 教員研究費等で購入した図書・視聴覚資料で、教員研究室所在のものについて、所在調査を行った。

10) 遺伝子組換え実験安全委員会

i) 概要

遺伝子組換え実験安全委員会は、遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律（平成15年6月18日法律第97号）および関係する政令・省令・告示等に定められる遺伝子組換え実験の安全な実施を確保することを目的とし、兵庫医療大学遺伝子組換え実験安全管理規程に基づいて設置されている。本委員会は、本学における遺伝子組換え実験の安全確保を総括する学長の諮問に応じ、実験計画の法令等に対する適合性、実験従事者の教育訓練と健康管理などにつき調査審議し、学長に対して答申または勧告を行っている。

ii) 委員会の構成

本委員会には遺伝子組換え実験安全主任者をおき、委員として遺伝子組換え実験研究者である教員および遺伝子組換え実験研究者ではない自然科学系の教員とともに保健管理センター長と研究支援グ

ループマネージャーを構成員としている。

iii) 活動状況

平成24年度は、委員会を2回開催した。平成25年度は、委員会を5回開催し、研究課題9件を審査し承認した。また本委員会は、新たに遺伝子組換え実験を開始する学生・教職員を対象に遺伝子組換え実験に関わる法令や拡散防止措置および遺伝子組換え生物等の使用等に関する遺伝子組換え実験講習会を年度ごとに開催している。

11) 環境安全委員会

i) 概要

環境安全委員会は、兵庫医療大学の教育・実験や研究活動における安全確保並びに環境保全を図ることを目的としている。

委員会は、次の事項について協議し、かつ具体的問題の処理をしている。

1. 廃液処理に関する必要事項及び運用
2. 毒物及び劇物管理に関する必要事項及び運用
3. 廃棄物（感染性含）処理に関する必要事項及び運用
4. その他環境安全に関する必要な事項

本委員会の平成24年度・25年度の構成は表1・2のとおりである。

表1. 平成24年度「環境安全委員会」

	所 属	職 名	氏 名	区 分	任 期 等
委員長	薬学部	教 授	東 純一	第3条第1項第1号	職指定（薬学部長）
委員1	薬学部	教 授	宮部 豪人	第3条第1項第2号	職指定（有機化学）
委員2	薬学部	教 授	斎藤あつ子	第3条第1項第3号	2011/4/1～2013/3/31
委員3	看護学部	准教授	大田 直実	第3条第1項第3号	2011/4/1～2013/3/31
委員4	リハビリテーション学部	教 授	野崎 園子	第3条第1項第3号	2012/4/1～2014/3/31
委員5	共通教育センター	教 授	磯部 孝彦	第3条第1項第3号	2011/4/1～2013/3/31
委員6	研究支援G	M	木原 淳彦	第3条第1項第4号	職指定（研究支援GのM）

表2. 平成25年度「環境安全委員会」

	所 属	職 名	氏 名	区 分	任 期 等
委員長	薬学部	教 授	西山 信好	第3条第1項第1号	職指定（薬学部長）
委員1	薬学部	教 授	宮部 豪人	第3条第1項第2号	職指定（有機化学）
委員2	薬学部	教 授	斎藤あつ子	第3条第1項第3号	2013/4/1～2015/3/31
委員3	看護学部	准教授	大田 直実	第3条第1項第3号	2013/4/1～2015/3/31
委員4	リハビリテーション学部	教 授	野崎 園子	第3条第1項第3号	2012/4/1～2014/3/31
委員5	共通教育センター	准教授	芝崎 誠司	第3条第1項第3号	2013/4/1～2015/3/31
委員6	研究支援G	M	木原 淳彦	第3条第1項第4号	職指定（研究支援GのM）

ii) 活動状況

本委員会の活動状況は、平成24年度から神戸市の廃棄物の分別方法に従った「廃棄物処理マニュアル」を作成し、運用を開始した。また、実験排水の4項目（銅、ジクロロメタン、ベンゼン、1,2-ジクロロエタン）については外部業者に依頼し、毎月自主検査を行っている。

12) 倫理審査委員会

i) 概要

倫理審査委員会は、本学および本学と連携した施設において行われる臨床研究、疫学研究、観察研究などが、ヘルシンキ宣言の趣旨にそって倫理的配慮のもとに行われるように、研究実施計画の内容を学長の諮問に基づいて審査している。

ii) 委員会構成

委員会は、副学長あるいは学部長から1名、薬学部、看護学部、リハビリテーション学部、共通教育センターから1名、人文社会科学の学外学識経験者1名、一般の立場を代表する学外者1名、神戸キャンパスオフィスの代表者1名の8名で構成されている。委員長は委員の互選によって選出される。

表1. 倫理審査委員（太文字は委員長）

	平成24年度	平成25年度
副学長あるいは学部長	藤岡 宏幸	藤岡 宏幸
薬学部	九川 文彦	九川 文彦
看護学部	土居 洋子	網島ひづる
リハビリテーション学部	松井 徳造	松井 徳造
共通教育センター	紀平 知樹	紀平 知樹
学外学識経験者（神戸学院大学）	塚田 哲之	塚田 哲之
一般学外者	式 實	式 實
神戸キャンパスオフィスGM	菊地 良平	岩佐 義久

iii) 活動状況

平成24年度57件（薬学部5件、看護学部27件、リハビリテーション学部22件、共通教育センター2件、その他1件）、平成25年度32件（薬学部3件、看護学部13件、リハビリテーション学部15件、共通教育センター1件）の研究を承認した（表2、3）。

表2. 平成24年度承認課題一覧

承認番号	所 属	職 名	氏 名	研究課題名	実施期間
12001	薬学部	教授	辻野 健	サイアザイド系利尿薬少量内服による代謝性副作用発現の危険因子の検討	H24.4.10～ H25.3.31
12002	看護学部	助教	増田富美子	基礎看護学実習Ⅱのリフレクション導入の成果—振り返りシートの学びの内容の分析より	H24.5.7～ H26.3.31
12003	看護学部	助教	萩野 待子	学生の統合看護実習（看護管理）における学び	H24.5.7～ H26.10.31

承認番号	所 属	職 名	氏 名	研究課題名	実施期間
12004	静岡県立大学 看護学部	准教授	水野 暢子	看護技術の学生過程における振り返りによる学び	H24.5.7～ H25.3.31
12005	リハビリ テーション学部	教授	野崎 園子	頭頸部肢位の違いが嚥下時の舌口蓋接触に及ぼす 影響—舌圧センサーシートシステムによる嚥下時 舌圧の検討—	H24.5.7～ H26.3.31
12006	看護学部	教授	鈴木江三子	助産外来の妊婦健診時における超音波診断装置を 用いた助産診断課題に関する研究	H24.5.7～ H25.1.15
12007	リハビリ テーション学部	教授	野崎 園子	干渉波刺激装置を用いた嚥下訓練効果の検討	H24.5.21～ H26.3.31
12008	看護学部	教授	末原紀美代	ダウン症児の母親が周産期に医師から児の疾患に 関する説明を受けた場面での看護職に求める支援	H24.6.6～ H25.3.31
12009	看護学部	教授	網島ひづる	ICUにおける安楽をもたらす看護実践に対する心 臓血管外科患者の体験と看護師の認識	H24.6.6～ H25.3.31
12010	看護学部	教授	藤井真理子	入院中の学童期にある子どもの「教育的支援」に 対する看護師の考え	H24.6.6～ H25.3.31
12011	看護学部	助教	大山 末美	セルフハンドマッサージの縦断的研究	H24.6.6～ H25.3.31
12012	薬学部	教授	辻野 健	慢性心不全患者における薬物治療反応性を決定す る因子の検討	H24.5.28～ H26.3.31
12013	薬学部	教授	辻野 健	赤血球粒度分布幅に影響を及ぼす因子の検討	H24.5.28～ H26.3.31
12014	リハビリ テーション学部	講師	森沢 知之	効果的な腸管運動促進手法の検証	H24.7.23～ H24.12.31
12015	リハビリ テーション学部	教授	野崎 園子	慢性閉塞性肺疾患を合併した脳梗塞患者の摂食嚥 下機能の予後に関する研究	H24.8.3～ H26.3.31
12016	リハビリ テーション学部	講師	森 明子	脳卒中患者の随意的咳嗽力とその関連因子	H24.8.3～ H26.3.31
12017	リハビリ テーション学部	講師	森 明子	尿失禁に対する骨盤底筋体操の予防的取り組みに 関する検討	H24.10.4～ H26.3.31
12018	リハビリ テーション学部	教授	玉木 彰	人工股関節全置換術後のリハビリテーションプロ グラム確立のための基礎的研究～術後早期の電気 刺激の実施による検討～	H24.8.3～ H24.12.31
12019	リハビリ テーション学部	教授	玉木 彰	COPD患者の上肢支持姿勢の特徴について —肺気量位変化と呼吸様式の観点から—	H24.8.3～ H24.12.31
12020	リハビリ テーション学部	教授	玉木 彰	腰痛に対する呼吸法を用いた体幹筋分節安定化ト レーニングの開発	H24.8.3～ H25.8.31
12021	リハビリテ ーション学部	教授	玉木 彰	呼吸器疾患患者に対する3週間のLocomotor Respiratory Coupling誘発下での下肢ペダリング トレーニングの効果	H24.8.3～ H24.12.31
12022	看護学部	講師	小西美ゆき	看護師が認知する転移性肝がんで手術を受ける患 者の看護の特徴	H24.8.3～ H25.3.31
12023	看護学部	教授	新井 信之	幻聴の訴えへの認知行動療法的看護の在り方 —慢性期統合失調症患者の幻聴に対する思いから の考察—	H24.8.3～ H25.1.14
12024	看護学部	准教授	土田 敏恵	集団感染予防のための環境を汚染しない陰部洗浄 とおむつ交換技術の開発 —全国調査のための質問紙の作成—	H24.8.3～ H24.12.31
12025	看護学部	教授	網島ひづる	心筋梗塞患者の急性期から回復期における病気に 対する危険性認知と自己管理行動	H24.8.3～ H25.3.31
12026	看護学部	教授	上原ます子	病院における退院支援の効果把握に関する取り組 みの現状と課題	H24.8.24～ H25.3.31

承認番号	所 属	職 名	氏 名	研究課題名	実施期間
12027	看護学部	助教	増田富美子	看護学生による車椅子移乗技術の経年的変化	H24.8.3～ H27.3.31
12028	看護学部	教授	鈴木 久美	乳がん早期発見のためのセルフケアを促すDVD教材の妥当性の検討	H24.8.3～ H25.3.31
12029	リハビリ テーション学部	講師	森沢 知之	心臓血管外科手術後のリハビリテーション進行に関連する因子の検討	H24.10.4～ H26.3.31
12030	リハビリ テーション学部	助手	奥谷 研	学生のストレス対処様式と演習形式の授業の関連性について	H24.9.11～ H24.12.25
12031	看護学部	講師	工藤 里香	月経に関する思春期女子の健康行動の関連要因	H24.10.4～ H26.3.31
12032	リハビリ テーション学部	教授	玉木 彰	病病連携による慢性呼吸不全患者に対する呼吸リハビリテーションの効果	H24.10.4～ H25.9.31
12033	看護学部	助教	藤田 優一	入院している小児の転倒・転落防止プログラムに対する看護師および小児の家族の意見・要望に関する調査 ―質的統合法（KJ法）による分析―	H24.10.4～ H26.3.31
12034	リハビリ テーション学部	教授	野崎 園子	パーキンソン病のメトロノームによる嚥下訓練 ―呼吸と嚥下の同期性に関する検討―	H24.10.4～ H26.3.31
12035	リハビリ テーション学部	講師	坂口 顕	電気刺激療法による生理痛に対する効果検討	H24.10.4～ H26.3.31
12036	看護学部	助教	勝田真由美	模擬患者を対象とした母性看護技術演習におけるビデオを用いた学生の自己評価と実習での効果	H24.10.4～ H26.3.31
12037	リハビリ テーション学部	教授	川口浩太郎	長腓骨筋と後脛骨筋のエクササイズが踵上げ動作に及ぼす影響について ―踵上げ動作開始時に着目して―	H24.10.4～ H26.3.31
12038	薬学部	講師	桂木 聡子	災害時における薬局の避難対応と薬剤情報提供に関する調査	H24.10.4～ H25.3.31
12039	看護学部	助教	藤田 優一	入院している小児の転倒・転落防止プログラム第2版に対する看護師の意見に関するアンケート調査	H24.11.26～ H26.3.31
12040	看護学部	准教授	西村 明子	父親と母親の産後のメンタルヘルスに関する研究	H24.11.26～ H25.3.31
12041	リハビリ テーション学部	教授	山崎せつ子	学生の「作業活動学」学習に高齢者を対象とした作品作成指導体験が与えた効果	H24.11.26～ H27.12.31
12042	看護学部	教授	鈴井江三子	学童保育における「学童保育版児童虐待対応マニュアル」の開発に関する研究	H25.2.20～ H27.3.31
12043	共通教育 センター	講師	賀屋 光晴	大腿基部に対する加圧刺激が歩行およびスクワット動作に及ぼす影響	H25.1.30～ H25.3.31
12044	看護学部	教授	土田 敏恵	「集団感染予防のための環境を汚染しない陰部洗浄とおむつ交換技術の開発」 ―陰部洗浄とおむつ交換技術に関する全国調査	H25.1.30～ H25.4.30
12045	リハビリ テーション学部	講師	櫛辺 勇	手指の関節可動域制限による日常生活動作への影響～固定角度によるADL制限と隣接関節の代償動作の関係	H25.2.8～ H25.12.31
12046	リハビリ テーション学部	教授	野崎 園子	音楽聴取による視覚的注意への影響	H25.2.8～ H26.3.31
12048	薬学部	教授	九川 文彦	多変量解析に基づく、免疫抑制剤の新しい処方設計	H25.1.30～ H29.3.31
12049	リハビリ テーション学部	講師	佐野 恭子	関節リウマチ者に対して作業療法士が作成・提供する自助具の使用状況と課題	H25.4.8～ H25.6.30
12050	リハビリ テーション学部	講師	森 明子	頭頸部角度が随意的咳嗽力へ及ぼす影響	H25.4.8～ H27.3.31

承認番号	所 属	職 名	氏 名	研究課題名	実施期間
12051	看護学部	教授	鈴木 久美	がん疼痛のある患者の情動体験に対する早期看護介入のあり方	H25.4.8～ H26.3.31
12052	看護学部	准教授	青木菜穂子	訪問看護師の在宅療養者に対するアドヒアランスアプローチの現状に関する調査	H25.4.8～ H25.9.30
12053	看護学部	助教	鈴木みゆき	回復期脳卒中患者における筋肉量及び日常生活活動（動作）からみた「能動的動作を最大限に引き出す排尿誘導法」の有用性	H25.4.8～ H27.3.30
12054	看護学部	教授	竹田千佐子	リフレクションのプロセスにおける新人看護師の自己への気づきの分析	H25.4.8～ H26.3.31
12055	看護学部	講師	工藤 里香	薬局を基点とした女性の健康支援システム構築の試みー地域医療における助産師と薬剤師の専門職間連携ー	H25.4.8～ H27.3.31
12056	看護学部	教授	鈴井江三子	開業助産師を対象にしたNCPRの再履修研修プログラム受講後の促進因子と阻害因子に関する研究	H25.4.8～ H26.1.15
12057	リハビリテーション学部	講師	櫛邊 勇	生活関連動作における上肢の関節可動域に関する研究ー化粧品動作に着目してー	H25.4.8～ H25.12.31
12058	共通教育センター	講師	賀屋 光晴	高体温および精神疲労が高温環境下での持久性運動能力に及ぼす影響	H25.4.8～ H26.3.31

表 3. 平成25年度承認課題一覧

承認番号	所 属	職 名	氏 名	研究課題名	実施期間
12047	薬学部	教授	前田 初男	色弱に配慮した服薬安全に資する「服薬トレー」の開発研究	H25.6.3～ H27.3.31
13001	リハビリテーション学部	教授	野崎 園子	要介護高齢者の嚥下障害と服薬方法に関する研究	H25.6.3～ H28.3.31
13002	薬学部	教授	天野 学	抗がん剤を経管投与する場合の介護者における暴露に対する検討	H25.5.13～ H26.3.31
13003	看護学部	教授	網島ひづる	冠状動脈バイパス術を受ける高齢者の回復意欲を引き出す看護援助	H25.6.3～ H26.3.31
13004	リハビリテーション学部	講師	森 明子	患者講師による学内教育プログラムの開発に関する研究	H25.6.3～ H27.3.31
13005	看護学部	助教	増田富美子	車椅子移乗技術習得におけるコーチングソフトウェアを用いたビデオフィードバックの有効性の検証	H25.6.3～ H26.4.30
13006	共通教育センター	講師	西田喜平次	医療サービス施設の立地に関する空間計量分析	H25.6.3～ H26.3.31
13007	リハビリテーション学部	教授	野崎 園子	薬剤による嚥下障害の実態調査と危険因子の分析	H25.7.31～ H27.3.31
13008	薬学部	講師	桂木 聡子	スポーツ選手のドーピング防止及びスポーツファーマシストに対する意識調査	H25.7.31～ H26.5.31
13009	看護学部	助教	藤田 優一	小児が転倒・転落した際のインシデントレポートの報告基準に関する調査	H25.7.31～ H26.7.30
13010	リハビリテーション学部	教授	川口浩太郎	膝前十字靱帯損傷予防プログラムの効果ーPoint Cluster法を用いた動作解析による着地、切り返し動作の評価ー	H25.7.31～ H26.3.31
13011	看護学部	准教授	土田 敏恵	集団感染予防のための環境を汚染しない陰部洗浄とおむつ交換技術の開発ー全国で一般的に実施されている陰部洗浄/おむつ交換方法による環境汚染状況の検証と望ましい方法の構築ー	H25.7.31～ H26.3.31
13012	看護学部	助教	鈴木みゆき	成人女性における4つの動作が上肢の皮膚温に与える影響	H25.7.31～ H27.3.30

承認番号	所 属	職 名	氏 名	研究課題名	実施期間
13013	リハビリ テーション学部	教授	玉木 彰	遠心性収縮ペダリングと求心性収縮ペダリングとのトレーニング比較について ―最高酸素摂取量で規定した運動強度での比較検討―	H25.7.31～ H27.3.31
13014	リハビリ テーション学部	教授	野崎 園子	摂食嚥下障害患者の在宅医療に関する検討	H25.9.27～ H27.6.31
13015	リハビリ テーション学部	講師	坂口 顕	電気刺激による月経痛軽減の効果	H25.10.7～ H28.3.31
13016	リハビリ テーション学部	教授	川口浩太郎	歩行立脚終期における立脚側骨盤帯後退と大殿筋活動の関係ならびに大殿筋セッティングエクササイズ介入が及ぼす影響について	H25.10.7～ H27.3.31
13017	リハビリ テーション学部	教授	玉木 彰	臥位姿勢の変化が呼吸・咳嗽機能に与える影響	H25.10.7～ H27.3.31
13018	リハビリ テーション学部	教授	玉木 彰	男女間における最大膝伸展筋力発揮時の筋疲労率と筋出力特性、エネルギー代謝の変化	H25.10.7～ H27.3.31
13019	リハビリ テーション学部	教授	玉木 彰	肺葉切除術施行患者の術後Stair-climbing testと6分間歩行試験評価に関する研究	H25.10.7～ H25.9.4
13020	リハビリ テーション学部	講師	宮本 俊朗	骨格筋電気刺激によるトレーニング効果の検証	H25.10.7～ H27.3.31
13021	看護学部	助教	藤田 優一	小児の転倒・転落を防止するために実施すべき対策	H25.12.2～ H27.3.31
13022	看護学部	助教	藤田 優一	小児用転倒・転落リスクアセスメントツールの評価者間信頼性の検証	H25.12.2～ H27.3.31
13023	看護学部	助教	片田 千尋	出生前診断を受けるか否か自己決定するために女性が望む支援	H26.3.27～ H26.8.31
13024	リハビリ テーション学部	教授	野崎 園子	薬剤性嚥下障害の実態調査	H26.1.30～ H27.3.31
13025	リハビリ テーション学部	教授	藤岡 宏幸	変形性膝関節症における歩行時筋活動の解析	H26.1.9～ H27.3.31
13026	看護学部	講師	岡田 公江	女子大学生における睡眠と血圧の関係	H26.1.30～ H27.3.31
13027	看護学部	助教	大谷 利恵	精神看護学実習において学生が捉えたコミュニケーションの学びに関する分析	H26.1.30～ H26.8.31
13028	リハビリ テーション学部	准教授	佐野 恭子	高次脳機能障害者家庭における家族メンバー間の関係と家族機能を複眼的にとらえる	H26.3.27～ H27.5.31
13029	看護学部	准教授	土田 敏恵	女性高齢者モデルにおける看護師が行なうおむつ装着技術の工学的動作分析 ―快適で漏れないおむつ装着技術を言語化する試み―	H26.3.27～ H27.3.31
13030	看護学部	准教授	西村 明子	初めて父親になった男性の産後4か月までの体験	H26.3.27～ H27.3.31
13031	看護学部	講師	堀口 和子	認知症高齢者の独居生活の限界に関する研究 ―介護支援専門員の語りから―	H26.3.27～ H27.3.31

13) 病原体等安全管理委員会

i) 概要

病原体等安全管理委員会は、兵庫医療大学における研究および教育に利用する病原体等の実験、受入、保管、廃棄および分与／譲渡の安全管理を目的とする。

委員会は、次の事項について協議し、かつ具体的問題の処理をしている。

1. 病原体等の管理体制に関する事項
2. 病原体等の管理基準に関する事項
3. 病原体等の取扱い等の教育に関する事項
4. 病原体等による感染症の発生の予防に関する事項
5. 病原体等を使用する実験計画の審議に関する事項
6. その他病原体等の取扱いに関し必要な事項

ii) 委員会の構成

本委員会の平成24年度・25年度の構成は表1・2のとおりである。

表1. 平成24年度「病原体等安全管理委員会」

	所 属	職 名	氏 名	区 分	任 期 等
委員長	薬学部	教授	西原 力	第3条第1項第1号	職指定（薬学部教員で衛生薬学を専攻する教授）
委員1	薬学部	教授	斎藤あつ子	第3条第1項第1号	薬学部教員
委員2	リハビリテーション学部	教授	野崎 園子	第3条第1項第2号	リハビリテーション学部教員
委員3	保健管理センターの長	教授	岩崎 剛	第3条第1項第3号	職指定（保健管理センター長）
委員4	研究支援G	マネージャー	木原 淳彦	第3条第1項第4号	職指定（研究支援グループマネージャー）

表2. 平成25年度「病原体等安全管理委員会」

	所 属	職 名	氏 名	区 分	任 期 等
委員長	薬学部	教授	斎藤あつ子	第3条第1項第1号	職指定（薬学部教員で衛生薬学を専攻する教授）
委員1	薬学部	准教授	前田 拓也	第3条第1項第1号	薬学部教員
委員2	リハビリテーション学部	教授	野崎 園子	第3条第1項第2号	リハビリテーション学部教員
委員3	保健管理センターの長	教授	岩崎 剛	第3条第1項第3号	職指定（保健管理センター長）
委員4	研究支援G	マネージャー	木原 淳彦	第3条第1項第4号	職指定（研究支援グループマネージャー）

iii) 活動状況

平成21年8月21日に「病原体等安全管理委員会」を設置し、「兵庫医療大学における病原体等の安全管理に関する内規」を作成し、平成22年9月16日より運用を開始し、現在に至っている。

研究および教育に利用する病原体等の実験、受入、保管、廃棄および分与／譲渡が安全に行われるよう、病原体等実験申請／届出、病原体等実験終了／届出、病原体等受入・保管、申請、病原体等保管終了届出、病原体等分与／譲渡、申請／届出、感染動物実験申請について、安全面の審査を行っている。

表 1. 平成24年度審査

審査内容	審査件数	承認件数
病原体等実験 申請/届出	10	10
病原体等受入・保管 申請	2	2
病原体等分与・譲渡/届出	0	0
感染動物実験 申請	2	2

表 2. 平成25年度審査

審査内容	審査件数	承認件数
病原体等実験 申請/届出	9	9
病原体等受入・保管 申請	0	0
病原体等分与・譲渡/届出	0	0
感染動物実験 申請	0	0

14) 動物実験委員会

i) 概要

本委員会は、兵庫医療大学における動物実験に関する事項を審議し、科学的にはもとより、動物福祉、環境保全、並びに動物実験に携わる者の安全確保等の観点から、適正な動物実験の実施を図ることを目的とする。

ii) 委員会の構成

委員は、動物実験等に関して優れた識見を有する者として、各学部及び共通教育センターの教員よりそれぞれ3名以内、学識経験を有する教員1名、実験動物管理者、兵庫医療大学動物実験センター長及び研究支援グループ マネージャーで構成する。

iii) 委員会の活動実績

動物実験の在り方を倫理面から審議する機関として、平成20年7月に「動物実験委員会」を設置し現在に至っている。

平成18年6月に告示された「研究機関等における動物実験に関する基本指針」（文部科学省）に基づきRefinement（苦痛の軽減）、Replacement（代替法の利用）、Reduction（必要最少数利用）の「3R」に配慮しながら、適切に審査を行っている。平成24・25年度に実施した審査は表1・2に示す通りである。

表 1. 平成24年度審査

審査内容	審査件数	承認件数
動物実験責任者	1	1
動物実験実施者	8	8
実験室設置許可	0	0
動物実験計画書	29	23
動物実験計画変更	8	6
実習室動物実験一時許可	2	2

表 2. 平成25年度審査

審査内容	審査件数	承認件数
動物実験責任者	2	2
動物実験実施者	58	58
実験室設置許可	0	0
動物実験計画書	23	21
動物実験計画変更	21	21
実習室動物実験一時許可	3	3

iv) 「兵庫医療大学動物実験の実施体制に関する検証」に係る訪問調査の実施

平成25年10月17日に国立大学法人動物実験施設協議会・公私立大学実験動物施設協議会の動物実験に関する相互検証プログラムに則した訪問調査があり、平成26年1月31日付の検証結果通知書において良好な評価を受けている。

尚、検証結果については、本学ホームページにおいて公表している。

v) 実験動物慰霊祭の実施

全教職員・学生を対象に下記の実験動物慰霊祭を挙行し、本学における研究及び教育のために犠牲となり、生命科学の研究に貢献された諸霊に対し心から慰霊の言葉を捧げた。

- ・平成25年1月11日 第5回実験動物慰霊祭
- ・平成26年1月10日 第6回実験動物慰霊祭

15) キャリアデザイン委員会

i) 概要

本学は、キャリアデザイン教育を支援し、社会に有為な人材を送り出すことを目的に、キャリアデザインセンター（以下「センター」という。）を設置し、その目的を達成するため、キャリアデザイン委員会（以下「委員会」という。）を置いている。委員会は、キャリアデザイン教育支援を達成するための企画・調整・運営方針に関すること、センターが推進する就職活動支援、社会人教育支援、生涯学習支援等のキャリアデザイン業務に関すること、他センターの活動に関することを協議し、センターの活動の推進と遂行を行うため、毎月開催している。

ii) 委員会の構成

委員会は、センター長、副センター長、共通教育センター教員1名、薬学部教員2名、看護学部教員2名、リハビリテーション学部教員2名、就職支援グループマネージャー、その他委員長が必要と認めた者をもって委員会を組織している。

iii) 活動内容

詳細は、3. 附属施設・活動状況 3) キャリアデザインセンターに示す。

＜平成24年度＞

開 催 日	議 題
4月11日（水）	新旧キャリアデザイン委員会委員、就職支援システム導入に向けた現状の課題、「連携病院の会」合同説明会、薬学部 企業説明会開催、（看護学部）仕事研究セミナー、（薬学部）兵庫医科大学病院 薬剤師学内推薦応募、（薬学部）就職活動における複数受験
5月17日（木）	（作業療法学科）仕事研究セミナー、就職支援システム説明会、（薬学部）兵庫医科大学病院レジデント説明会、（薬学部）病院薬剤部に向けて『薬学部就職支援のお願い』パンフレット配布、就職活動中における証明書の無料発行、（看護学部）東京医科歯科大学病院 指定校推薦
6月20日（水）	（薬学部）社会人スキル対策講座、キャリアデザインセンター事務職員の委員会の出席者、就職関連証明書発行の郵送対応
7月18日（水）	（看護学部）保健師ガイダンス、（リハビリテーション学部）社会人スキル対策講座、外部講師によるグループディスカッション講座、ミニセミナーの実施、（看護学部）社会人スキル対策講座、キャリアデザインセンターHPのメンテナンス、
9月12日（水）	（リハビリテーション学部）兵庫医科大学病院レジデント説明会、（リハビリテーション学部）仕事研究セミナー
10月15日（月）	（看護学部）仕事研究セミナー
11月13日（月）	（薬学部）第3回就職・実務実習説明会、（看護学部）兵庫医大病院・ささやま医療センター合同病院説明会、第4回学校法人兵庫医科大学連携病院の会 合同病院説明会、（リハビリテーション学部）仕事研究セミナー、（リハビリテーション学部）社会人スキルガイダンス、公務員採用試験対策講座
12月18日（火）	就職用ガイドブックの変更、（薬学部）企業説明会での学生への就職希望アンケート、（看護学部）社会人スキル対策講座
1月23日（水）	保健師ガイダンス～内定者懇談会～、学生ハンドブックの校正、（薬学部）各研究室教員への学生の就職希望情報の通知
2月18日（月）	（薬学部）就職・実務実習説明会での学生への就職希望アンケート、（薬学部）推薦に伴う推薦者
3月19日（火）	平成25年度オリエンテーション、（看護学部）社会人スキル対策講座、兵庫医科大広報誌に対する就職実績の提供

＜平成25年度＞

開 催 日	議 題
4月22日（月）	平成25年度キャリア・就職支援プログラム、連携病院の会 合同病院説明会
5月20日（月）	規程の一部改正、（薬学部）仕事研究セミナー、（薬学部）学校推薦の対応、（薬学部）合同企業説明会
6月17日（月）	連携病院の会 合同病院説明会の日程、（薬学部）病院・企業への求人採用のお願いのツール、卒業生（国家試験不合格者）支援、（看護学部）東京医科歯科大学病院 指定校推薦のアンケート回答、（薬学部）学内ガイダンス、（リハビリテーション学部）仕事研究セミナー、（薬学部）ブナナビ薬学特別講座
7月24日（水）	（リハビリテーション学部）社会人スキル対策講座、（看護学部）社会人スキル対策講座、（看護学部）保健師ガイダンス、（薬学部）グループディスカッション講座、成功報酬型の人材紹介会社に対する学生への注意喚起、兵庫医科大学同窓会「緑樹会」会報誌の掲載
9月13日（金）	（リハビリテーション学部）兵庫医科大学病院レジデント説明会、（リハビリテーション学部）社会人スキル対策講座（接遇マナー）、（薬学部）企業説明会の参加企業、（卒業生）ホームカミングディおよび同窓会設立に向けた発起人会
10月18日（金）	就職関連行事における学生教育研究災害傷害保険・学研災付帯賠償責任保険（通称、学研賠）の適応範囲、（薬学部）仕事研究セミナー、（リハビリテーション学部）仕事研究セミナー
11月12日（火）	（リハビリテーション学部）（看護学部）仕事研究セミナー、（全学部対象）公務員採用試験対策講座

開催日	議題
12月16日（月）	（看護学部）社会人スキルガイダンス、兵庫医科大学病院、ささやま医療センターの合同病院説明会、（薬学部）就職・実務実習説明会
1月21日（火）	病院への求人依頼DM出状対象先
2月20日（木）	平成26年度キャリア・就職支援プログラム、（看護学部）社会人スキル対策講座、連携病院の会 合同病院説明会実施の病院参加状況
3月19日（木）	平成26年度前期オリエンテーション、（薬学部）就職支援、（看護学部）連携病院の会 合同病院説明会の動員

16) 国際交流委員会

i) 概要

本委員会は、外国の大学及び教育研究機関との連携のもとに、国際学術研究・国際教育及び国際協力を推進することを目的とする。

ii) 委員会の構成

学長が指名する国際交流担当教授が委員長を務める。委員は、共通教育センター教員1名、薬学部教員1名、看護学部教員1名、リハビリテーション学部教員1名、その他委員会が必要と認めた者で構成する。

iii) 委員会の活動実績

国際交流委員会は平成22年2月8日の大学協議会で制定された「兵庫医療大学国際交流委員会規程」に則り、外国の大学及び教育研究機関との連携のもとに、国際学術研究・国際教育及び国際協力を推進することを目的として活動している。平成24・25年度は、中期事業計画（国際交流プログラムと国際活動体制の構築 平成23～25年度）に基づき活動を行った。

(1) 国際交流における安全管理体制の構築

安全に国際交流プログラムを実施する体制を整備するため、以下の講演会をFD委員会の共催を得て主催した。

講演タイトル：「学生海外渡航時の危機管理体制」

講師：大阪大学グローバルコラボレーションセンター センター長 大橋 一友 教授

日時：平成25年8月29日（木）17:00～18:30

場所：M202教室

この講演の内容を参考にして、危機管理体制を構築するとともに、海外渡航時マニュアルを作成した。

(2) 国際交流プログラムの実施

各部署の国際交流活動に支援を行なった。

①兵庫医療大学欧州研修

看護学部を中心に、デンマークにおける医療・福祉・教育の実際を学ぶ研修旅行が実施され

た。

第6回欧州研修は平成25年3月11日～22日に実施され、13名の学生が参加した（看護学科2年生7名・3年生5名・4年生1名）。第7回欧州研修は平成26年3月16日～25日に実施され、12名の学生が参加した（看護学科1年生1名・2年生7名、作業療法学科1年生4名）

②北京中医薬大学短期留学プログラム

学校法人兵庫医科大学中医薬孔子学院の開設（平成24年11月9日）に伴い、その連携校である北京中医薬大学への短期留学プログラムが開始された。その第1回が平成25年11月20日～29日に実施され、薬学部5年生13名が参加した。

③トゥルク応用科学大学との学術交流

フィンランド、トゥルクのトゥルク応用科学大学（Turku University of Applied Sciences）との学術交流協定（平成23年5月30日締結）に基づき、以下の講演会が実施された。

講演タイトル：Development and commercialization of functional food product with health claim – case Benecol

講師：Dr. Jukka Kaitaranta, Turku University of Applied Sciences

日時：平成25年2月20日15:00～16:00

場所：M115教室

④アデレード大学との学術交流協定締結

オーストラリアのアデレード大学（The University of Adelaide）との学術交流協定を平成26年3月31日に締結した。

⑤その他

各部署で実施される国際交流に関連する講演会に支援を行った。

(3) 国際交流寄付金使用に関する内規の制定

兵庫医療大学に国際交流推進の目的でなされた寄付金（国際交流寄付金）の取扱いに関し必要な事項を定める内規を制定した（平成24年1月20日）。

17) 研究推進委員会

i) 概要

当委員会は、学術講演会、研究セミナーなどを企画開催するとともに、研究者倫理の啓発や、競争的外部資金獲得の支援などを通して、本学の研究推進に取り組んでいる。

ii) 委員会の構成

当委員会は、研究推進委員会規程に基づき、副学長（研究担当）、共同機器室長、動物実験センター長、RI実験センター長と、看護学部、リハビリテーション学部および共通教育センターから各1名、ゼネラルマネージャーの8名の委員により構成され、委員長は副学長（研究担当）が務めている。

iii) 委員会の活動状況

(1) 共同研究助成・若手研究助成事業

平成24年度には、3学部1センターの教員間での共同研究を支援するため、共同研究助成事業を

実施し、「物理療法の発展的可能性 ―神経因性疼痛予防に関する研究―」(代表：リハビリテーション学部・川口浩太郎教授)「在宅医療を支援する「モノ」と「コト」のインクルーシブデザイン研究」(代表：薬学部・前田初男教授)の2課題について、助成額50万円を助成した。また、若手教員の研究を支援するため、研究助成事業を実施し、応募者の中から研究課題の内容だけでなく教育への取り組み状況を踏まえ、平成24年度には11名、平成25年度は前期8名および後期6名を採用し、各20万円を助成した。尚、平成25年度助成事業については、本学の喫緊の課題に取り組むため、共同研究助成事業を休止するとともに、若手研究助成事業において後期募集分から、要学習支援学生の支援に取り組むことを助成の一条件として募集した。

(2) 研究者倫理の啓蒙と競争的外部資金獲得の支援

平成24年度から本学ホームページ (<http://www.huhs.ac.jp/index.php/kenkyu-shien/assistance.html>) にて民間団体からの助成公募情報を提供するだけでなく、科学研究費助成事業の公募説明会ならびに公的研究費執行に関する説明会などを開催し、教員の研究者倫理の啓蒙と研究支援に務めている。

表1. 平成24～25年度に開催した研究倫理啓蒙・研究支援説明会

開催日	実施説明会
平成24年6月28日	公的研究費執行に関する説明会(参加者51名)
平成24年9月29日	科学研究費助成事業公募説明会(参加者39名)
平成25年7月18日	公的研究費執行に関する説明会(参加者76名)
平成25年10月4日	公的研究費執行に関する説明会(参加者46名)

(3) 学術講演会、セミナーの開催

本学主催の学術講演会を学外から講師を招き年2回、薬学部、看護学部、リハビリテーション学部、共通教育センターの教員が講師を務めるセミナーを年2回開催し、教員に最先端の科学情報を提供することにより、研究推進に取り組んでいる。尚、本学主催の学術講演会は一般に公開し、地域社会への貢献活動としても位置づけている。

表2. 平成24～25年度に開催した学術講演会・セミナー

開催日	講演者と演題
平成24年9月6日	学校法人金城学院学院長 柏木 哲夫 先生 “「死にざま」こそ人生―「ありがとう」と言って逝くための10のヒント”(参加者235名)
平成24年9月20日	看護学部 講師 藤田 優一 先生 「入院している小児の転倒・転落に関する研究」(参加者37名)
平成25年2月21日	リハビリテーション学部 学部長 藤岡 宏幸 先生 「生体吸収性高分子材料を用いた軟骨再生」(参加者40名)
平成25年3月26日	神戸市立医療センター中央市民病院 院長補佐・薬剤部長 橋田 亨 先生 「病院薬剤師の新たな役割とキャリアパス」(参加者170名)
平成25年6月6日	関西大学 社会安全学部・社会安全センター理事・センター長・教授 河田 恵昭 先生 「来る南海トラフ大地震という「国難」と対策」(参加者351名)
平成25年10月31日	共通教育センター 柏村 信一郎 先生 「タンパク質多項目同時測定法」(参加者26名)

開催日	講演者と演題
平成26年 2 月 6 日	iPS アカデミアジャパン株式会社応用研究部長 中島 秀典 先生 「ヒストンデアセチレース阻害剤が示す創薬の未来 デトランスフォーメーションと iPS 細胞から学ぶ」(参加者148名)
平成26年 3 月19日	兵庫医科大学 皮膚科学講座 主任教授 山西 清文 先生 「アトピー性皮膚炎の謎を解き明かす!」(参加者191名)

18) 紀要委員会

i) 概要

本委員会は、本学の学術研究の成果を発表する目的として兵庫医療大学紀要の発行を行う。

ii) 委員会の構成

当委員会は紀要委員会規程に基づき、共通教育センター教員 1 名、薬学部教員 2 名、看護学部教員 2 名、リハビリテーション学部教員 2 名、図書館長及び図書館グループマネージャーの 9 名の委員をもって構成され、平成24年度は土居教授、平成25年度は末廣教授が委員長を務めている。

iii) 委員会の活動実績

平成24年度

第 1 巻第 1 号 (平成25年 3 月発行)

原稿種類	タ イ ト ル	著 者 名
総説	重症心不全治療における最近の進歩と展望 —心臓移植と補助「人工心臓から見た展開」—	松田暉
	天然物有機化学の研究回顧	磯部孝彦
原著	新卒看護師の職業準備性の測定ツール「レディネ尺度」の信頼性と妥当性の検討	富永真己、朝倉隆司、朝倉京子
	小児用転倒・転落リスクアセスメントツール28件の分析	藤田優一
	統合失調症患者における主観的ウェルビーイング評価尺度と社会生活評価尺度の関連	山田大豪、奥谷研、坂本浩、古橋淳夫
研究報告	模擬患者を対象にした母性看護技術演習の学習効果	勝田真由美、工藤里香、西村明子、末原紀美代
	子ども虐待の早期発見・予防的支援のために看護職が重視する子どもと家族の言動や状況—看護職の背景要因による比較—	石原あや、鎌田佳奈美
研究ノート	天然有機化合物の抗HIV活性	磯部孝彦
実践報告	(ポーアイ 4 大学連携事業) 健康って、なに？ ポーボキ・ピース・ネットワーク —あなたもピースマップを一緒に作りませんか？—	桂木聡子
	ユーザー参加型医療デザインワークショップ —みんなで一緒に医療を考えよう—	前田初男、石崎真紀子
	知っておきたいがんの基礎知識—がんはどう付き合うか—	田中稔之、岩崎剛、青木修二、西山信好、清宮健一、西原力、戴毅
地域交流プロジェクト	血圧の自己測定と自己管理プログラムの開発 —介入プログラムの作成—	土居洋子、吉岡なつき、土屋智洋、辻野健

平成25年度

第1巻第2号（平成25年9月発行）

原稿種類	タ イ ト ル	著 者 名
総説	安全確保の観点から医療用医薬品の使用性を考える	門林宗男
	親子相互作用の臨床評価に関する文献検討 —NCAST；Nuesing Child Assessment Satellite Training Projectの2000年～2012年—	齋藤雅子、大橋一友
	入院している小児の転倒・転落に関する文献検討	藤田優一
原著	腸脛靱帯組織硬度が外側広筋組織硬度ならびに下腿内旋可動域に及ぼす影響	北風浩平、山田哲、日高正巳、川口浩太郎
実践報告	看護学部における初年次教育の導入と成果	鈴木久美、西村明子、工藤里香、藤井真理子、堀口和子、高山京子、大山末美、荻野待子、飯尾祐加
資料	助産外来における超音波診断を用いた妊婦健康診査の課題に関する文献検討	高垣麻衣、鈴井江三子
実践報告	(地域交流プロジェクト) がんグループサポートプログラム 「語りあい・学びあい、・支えあい ―がんと共に生きる―	上原ます子、高山京子、小西美ゆき、濱田麻美子、梅田節子、笠垣八重子

19) キャンパス有効利用委員会

開学以来、毎年、学生および教職員数は増え、大学院も設置された。薬学部、看護学部、リハビリテーション学部、共通教育センターなどでの学生教育、教員の研究、大学院での研究指導など大学での活動が活発になるほど、キャンパスが手ぜまになる。

キャンパス有効利用委員会は、限りあるキャンパスを効率よく活用するために、学長の諮問機関として平成22年度より活動を行ってきた。委員会では適宜召集されてさまざま案件の検討を行ってきた。委員会の構成は表1のとおりである。

表1. キャンパス有効利用委員会

	平成24年度	平成25年度
学長が定める担当責任者(委員長)	磯 博行	磯 博行
共通教育センター	福田 範子	福田 範子
リハビリテーション学部	野崎 園子	野崎 園子
看護学部	末原紀美代	藤井真理子
薬学部	前田 初男	前田 初男
総務Gマネージャー	橋本 幸哉(6月より岩佐 義久)	高田 泰彦
学長が必要と認めた者	岩佐 義久	岩佐 義久

これまでに、検討を行った案件の代表的なものは次のとおりである。

- ・大学院生室について
- ・実習室や研究室の整備について
- ・国家試験対策のための自学・自習室の確保、および、国家試験関連資料等のコーナー設置について
- ・図書館ブラウジングゾーンの改装工事に伴う木製雑誌架の移動場所について

20) 防火防災対策委員会

本委員会の構成は表1のとおりである。

開学年度より防火訓練（自衛消防訓練）を毎年1回実施している（表2）。

地震・津波防災訓練は平成24年度から毎年1回実施している（表3）。阪神大震災のような都市直下型地震や今後起こるかもしれない地震による津波災害に対する啓発と教育、訓練を行っている。訓練当日の1週間前から備蓄品や救助工具の実物、および、神戸市・ポートアイランドの防災情報のパネルなどを学内に展示している。防災備蓄品として、毛布900枚、飲料水2L×1,800本、簡易トイレ6,000回分を保管している。

防火訓練および地震・津波防災訓練の約1ヶ月前に委員会を招集し、訓練内容を決定している。

表1. 防火防災対策委員会

	平成24年度	平成25年度
学長（委員長）	松田 暉	馬場 明道
副学長	馬場 明道	前田 初男
副学長	末廣 謙	末廣 謙
副学長	佐藤 禮子	藤田 幸久
薬学部長	東 純一(25年2月から西山信好)	西山 信好
看護学部長	竹田千佐子	竹田千佐子
リハビリテーション学部長	藤岡 宏幸	藤岡 宏幸
共通教育センター長	磯 博行	磯 博行
学生部長	藤田 幸久	新井 信之
ゼネラルマネージャー	菊地 良平	岩佐 義久

表2. 防火訓練（自衛消防訓練）

実施日	対象学生	参加人数
平成24年11月20日	全学1年生	180
平成25年10月2日	薬学部1年生	180

表3. 地震・津波防災訓練

実施日	対象学生	参加人数
平成24年9月26日	薬学部4年生、リハ学部2年生	180
平成25年7月3日	全学1年生、リハ学部3年生	260

21) 共同研究の受入れに関する審査委員会

i) 概要

共同研究の受入れに関する審査委員会は、平成24年5月15日に施行された「学校法人兵庫医科大学共同研究規程」に基づき、平成24年7月に発足した。本委員会は、企業、国、地方公共団体又はその他の機関との共同研究を対象に共同研究の受入れ事項について審議することを目的とする。

ii) 委員会の構成

委員会は、学長、研究担当副学長、大学協議会において選出された者5名で構成される。委員長は、学長がこれにあたる。委員会の構成については、表1に示す。

表1. 共同研究の受入れに関する審査委員会の構成

区 分	委 員 名
学長	馬場明道 学長（委員長）
研究担当副学長	前田初男 副学長
大学協議会において選出された者（5名）	田中稔之 教授（薬学部）、山本悟史 教授（薬学部）、藤野秀樹 講師（薬学部）、森明子 講師（リハビリテーション学部）、岩佐義久 ゼネラルマネージャー（神戸キャンパスオフィス）

iii) 活動状況

申請のあった共同研究課題について平成24・25年度に審議し、受入れたものを表2に示す。

表2. 平成24・25年度に受入れた共同研究課題

年 度	共同研究課題名	共同研究機関名	研究期間	本学研究者
平成24年度	宇宙環境を利用した高品質タンパク質結晶生成（第6回実験）と精密立体構造の解析	（独）宇宙航空研究開発機構 宇宙環境利用センター	H24/9/1～ H25/12/28	中野博明（薬学部）
	創傷治癒に対するヒアルロン酸と糖鎖誘導体の作用	生化学工業(株)	H23/2/1～ H26/1/31	田中稔之（薬学部）
	HGF-Met受容体系を標的とする抗癌剤の開発	大阪大学、三井化学(株)、大阪府立大学、金沢大学	H24/3/9～ H25/3/31	田中明人（薬学部）
	タウリントランスポーター欠損マウスの生理的特徴のメカニズム解析	大正製薬(株)	H25/3/1～ H26/2/28	東 純一（薬学部）
平成25年度	ABHファミリー分子の機能解明とがん分子標的治療創薬	大阪大学、産業技術総合研究所、都市活力研究所、三井化学(株)	H24/9/25～ H26/3/31	田中明人（薬学部）
	個別化医療のための遺伝子多型解析による医薬品の差異化与薬実施システムの構築	倉敷紡績(株)	H23/10/1～ H25/9/30	東 純一（薬学部）

22) ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理審査委員会

i) 概要

本委員会は、兵庫医療大学ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理審査専門委員会規程に基づき、本学において行われるヒトゲノム・遺伝子解析研究が、兵庫医療大学におけるヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する規程に合致し、文部科学省、厚生労働省の定める倫理指針、およびヘルシンキ宣言の趣旨に沿った倫理的配慮のもとに行われるよう、実験計画書を審査し、計画の適否について学長に報告すること、および、承認された実験計画について適切に実施されているかどうかを調査し、報告を受けることにより本学におけるヒトゲノム・遺伝子解析研究が円滑かつ適切に実施されることに資することを目的として設置されている。

ii) 委員会の構成

当委員会は、委員会規定に基づき、下記委員をもって構成されている。

- ①薬学部教員（3名）
- ②科学面から研究を総合的に審査するに必要な優れた知識と経験を有する者（2名）
- ③倫理面、法律面及び社会面から研究を総合的に審査するに必要な優れた知識と経験を有する者（2名）
- ④一般の立場の者（1名）

②として看護学部、リハビリテーション学部の教員各1名、③として共通教育センター教員2名が指名され、任に就いている。

iii) 委員会の活動

当委員会は平成23年に発足した。まず、申請書式および審査手続きを整え、その後、年4回を原則に申請課題の締め切りを設定し、申請があれば委員会を招集し課題審査を実施している。今までに、6つの新規課題の審査申請があり、そのうち治験に係わるものとして審査の対象外とされた1課題を除く5課題について審査の結果、当該研究の実施が適当である旨を学長に報告し、課題は承認された。また、1課題について延長申請があり、迅速審査により適切である旨を学長に報告した。課題審査に加えて、年度ごとに実施課題の報告書を受け取り、研究が適切に実施されていることを担保している。

表1. 承認済み課題一覧

課題番号	課 題 名	申請者	研究期間
11-001	遺伝子多型情報に基づくワルファリンの適正投与量設定へ向けた前向き臨床試験（新規）	東 純一	承認日～2014/3/31
12-001	統合失調症患者に対する個別化適正薬物投与のための薬物感受性遺伝子に関する研究（新規）	東 純一	承認日～2015/3/31
12-002	プリン代謝拮抗薬の臨床効果の個人差に関する研究（新規）	大野雅子	承認日～2015/3/31
12-003	うつ病患者に対する個別化適正薬物投与のための薬物感受性遺伝子に関する研究（新規）	東 純一	承認日～2017/3/31
13-001	ワルファリンの個別化適正投与に関する研究（新規）	東 純一	承認日～2014/3/31
14-001	遺伝子多型情報に基づくワルファリンの適正投与量設定に向けた前向き臨床試験（延長）	東 純一	承認日～2015/3/31

23) 利益相反マネジメント委員会

i) 概要

利益相反マネジメント委員会は、本学の教職員等の産学連携活動に関わる利益相反を適切に管理することを目的とし、学校法人兵庫医科大学利益相反ポリシーの下、学校法人兵庫医科大学利益相反マネジメント規程に基づいて設置されている。本委員会は教職員等の利益相反を未然に防止するために、利益相反に関する個々の案件の審査と必要な勧告や利益相反マネジメントのための調査や関連する情報公開に関する事項について審議する。

ii) 委員会の構成

本委員会は各学部および共通教育センター教授会において選出された教授各1名、財務担当理事、事務局長、ゼネラルマネージャー、法務・知的財産室長、学外有識者からなる委員で構成されている。

iii) 活動状況

平成25年度は、委員会を3回開催した（持ち回り委員会を含む）。委員会では21件の自己申告書を審査し、いずれも問題なしと判断した。詳細な状況については、表1に示す。

表1. 利益相反マネジメント委員会 審査件数

審査年月	申告件数	
		うち利益相反ありとした件数
平成26年2月	10	0
3月	11	0
平成25年度 計	21	0

※平成26年2月から活動を開始

24) 先端医薬研究センター運営委員会 先端医薬研究センター研究プロジェクト選考委員会

平成25年度に「兵庫医療大学先端医薬研究センター規程」の改正を行った（平成26年4月1日施行）。これに伴い「兵庫医療大学先端医薬研究センター運営委員会規程」の改正（平成26年4月1日施行）、および「兵庫医療大学先端医薬研究センター研究プロジェクト選考委員会規程」の制定（平成26年4月1日施行）を行った。

Ⅱ 教育・研究活動

1. 教育の概要

i) 概要

本学では、開学以来、「チーム医療」を教育の一つの柱として前面に打ち出し、本学を巣立った学士が臨床の場で活躍し始めている。平成24年度には薬学部の第1期生が卒業し、開学当初のカリキュラムの完成を迎えた。看護学部、リハビリテーション学部では既に完成年度を迎え、カリキュラムの改変を行っているが、薬学部の完成年度に合わせて平成25年度には大幅な基礎科目の改変を行った。また、平成24年6月には「教育支援室」が設置され「履修支援」「国家試験対策支援」「チーム医療教育支援」を行うこととなった。

平成24年度には大学基準協会の認証評価を受け、平成25年度から7年間「大学基準に適合している」と認められた。

平成24年11月には法人内に学校法人兵庫医科大学中医薬孔子学院が開設され、本学内に「研究部門」が設置された。平成25年度には北京中医薬大学へ本学より第1回目の短期留学生を送り出した。このことにより本学の教育目標の一つである「国際性の涵養」も現実のものとなりつつある。

ii) チーム医療教育

開学以来、行ってきたチーム医療教育であるが、平成24年度から検討を始め、25年度に行われた基礎科目の改変により、ひとつの節目を迎えた。平成24年度までは「医療科学概論」の一部として行われていた早期臨床体験実習(ECE)、第1学年次4学部合同チュートリアルが、平成25年度から「早期臨床体験実習」として兵庫医科大病院での見学実習と4学部合同チュートリアル(第1学年次)からなる単独科目となった。第2学年次には「チーム医療概論」で本学3学部の学生が学部の枠組みを越えてグループ討議を行い、第4学年次には兵庫医科大学医学部学生を交えて4学部合同の「チーム医療論演習」でチュートリアル教育も継続して行っている。将来、他職種として医療現場でチームとして働く者同士が、同じ課題について検討することは、他職種を理解するとともに、自らが将来なろうとしている専門職の専門性をより深く考える機会となっている。

また、平成24年6月に「教育支援室」が設置され、「チーム医療教育支援部門」が中心となってチーム医療教育を行うこととなった。

iii) 教育機能の強化

平成25年度に基礎科目の大幅な改変を行った。大学教育への導入科目として「アカデミックリテラシー」を新規に開講し、大学生としてのstudy skillを身につけることを目的とし、3学部合同での講義、グループディスカッション、プレゼンテーションを行っている。この「アカデミックリテラシー」開講に向けて、共通教育センター教員が「医療系大学生のためのアカデミックリテラシー」という教科書を作成し、各学部の教員も授業に参加している。また、薬学部では入学生を対象としたブリッジ教育を行い、大学での教育にスムーズに移行できるようにした。

さらに、英語教育では入学時に行ったTOEIC Bridge IP testの結果に基づく能力別クラス編成を一部の英語科目で導入した。

通常の授業内で授業の到達目標に達することができなかった学生に対しては、教育支援室の「履修支援部門」が窓口となって、学習支援員と面談を行い、今までの履修の課題を明確にするとともに

に、課題を解決の方向へ導くよう指導を行っている。学生への履修指導では、学生の履修状況、成績等の情報を基に行うこととなるが、本学が導入している教務システムでは学生の履修状況、成績等をWEB上で教員は閲覧できず、履修指導上の問題となっていたが、その問題を解決するため、平成25年度「私立大学等教育研究活性化設備整備事業」に「学生カルテ・ポートフォリオシステム」を申請し、採択された。

学生カルテは一元化された教育情報から学習に対する学生個人の課題を明確化し、その情報を教員と学生が共有するとともに、学生個人の課題にあった具体的な学習支援を行う際に用いられる。ポートフォリオは教員とのコミュニケーションツールとして双方向の学習支援に役立ち、大学生として自ら学ぶ学習態度を身に付けるツールとして使用される。両システムを活用することにより教育効果の向上が期待できるとともに、よりスムーズな学生指導が可能になるものと思われる。

iv) 教育支援室の運営体制

学部等における教育体制を支援するために平成24年6月に教育支援室が設置された。

教育支援室の具体的な業務は

1. 学部等における教育の質の向上に関すること
2. 履修支援対象者対策及び成績優秀者へのアドバンスト教育に関すること
3. 国家試験対策支援に関すること
4. 兵庫医科大学との教育連携に関すること
5. 教育評価（教員評価を含む。）に関すること

である。

平成25年10月21日付で「兵庫医療大学教育支援室規程」及び「兵庫医療大学教育支援室部門内規」の一部改正が施行され、規程に基づき、教育支援室に「履修支援部門」「国家試験対策支援部門」及び「チーム医療教育支援部門」の3部門を設置した。学習支援室の組織は以下の通りである。

〔履修支援部門〕

- 1 部門長
- 2 学習支援員

〔国家試験対策支援部門〕

- 1 部門長
- 2 薬学部、看護学部及びリハビリテーション学部の国家試験担当教員 若干名
- 3 客員教授

〔チーム医療教育支援部門〕

- 1 部門長
- 2 教育支援室兼務教員

「履修支援部門」では学習支援員を募集し、14名の支援員が低学年次（第1・2学年次）の前期試験成績不良者に対して、個別面談及び勉強会を実施した。

「国家試験対策支援部門」では薬学部高学年次（第6学年次）の支援を必要とする学生に対して、合宿を2回実施した。（平成25年7月8日～12日：参加者50名、12月2日～6日：参加者50名）

v) 大学基準協会の評価

看護学部、リハビリテーション学部の完成年度を迎えた翌年の平成23年に大学院を含む全学的な自己点検・評価を行い、薬学部の完成年度を迎えた平成24年度に大学基準協会の認証評価を受けた。その結果、「大学基準に適合する」との評価を受け、大学基準認定証が交付された（平成25年4月1日

～平成32年3月31日)。この評価の中でも、本学が取り組んでいる「チーム医療教育」は高く評価された。

また、この評価を受ける際に、各学部のアドミッション、カリキュラム、ディプロマの3つのポリシーをブラッシュアップし、本学が求める学生像、本学の教育方針、本学の卒業要件がより分かりやすくなった。入学した学生が医療人になるというモチベーションを保ちつつ勉学に励むことができるようにするためにも、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーについては、教育をする側・受ける側ともに共通の認識としていかなければならない。

今後、さらにブラッシュアップを進め、「本学に入学すると将来どのような医療人になれるのか？」という点を、入学を希望する高校生にも分かりやすく伝えていくことが重要であり、次回の大学基準協会認証評価でも「適合」と判断されるよう改善に務める必要がある。

vi) 中医薬孔子学院

医学・医療の変容と時代が求めるニーズに応えるべく、近代西洋医学をベースとした医療のみならず、伝統医学も取り入れた全人的医療の推進を本学の特色の1つとすべく、兵庫医科大学、兵庫医療大学及び北京中医薬大学の日中3大学間連携による、日本における最初の中医学教育・研究期間「学校法人兵庫医科大学 中医薬孔子学院」が平成24年11月に設立された。本学薬学部学部長 東純一教授が初代学院長に、戴毅准教授が副学院長に就任した。

平成25年5月23日には「学校法人兵庫医科大学 中医薬孔子学院開設記念学術講演会」が本学で開催され、法人関係者、本学教員、学生、一般市民も参加した。

兵庫医療大学においては、「人間への深い愛と豊かな人間性を持ち、幅広い知識と優れた技術を備え、社会とともに医療を担う医療専門職を育成する」との教育理念のもと、ボーダレスな教育環境下で、現代医療のみならず伝統医薬学の教育にも力を入れ、「統合医療」が実践できる人材の育成に全力で取り組んでいる。以上のことを踏まえ、中医薬孔子学院開設の趣旨に基づいて、学生が異文化に触れることにより、グローバルな視野を涵養する機会と、統合医療の専門職に求められる知識・技術を学習する機会を提供することを目的として、短期留学が実施された。

留学先：北京中医薬大学（中国・北京）

参加者：薬学部第5学年次13名

日 程：平成25年11月20日～29日

2. 各部門の活動

1) 薬学部

i) 学部の概要

平成19年の開学以来7ヵ年が経過し、薬学部では平成25年度末に第二期の卒業生を社会に輩出した。薬学部においては、医療薬学教育に重きを置き、兵庫医科大学における長年にわたる医学教育を通じて培った臨床教育資源を有効に活用しながら、臨床現場に根ざした教育研究を行うことを主眼に教員組織を構成している。その特徴的な例は薬剤師としての実務経験を持つ8名の教員の他、臨床医として医療機関を兼務する教員を5名配することで医療の現場に即した教育をも可能にすることを方策としている。

教育研究組織においては、講座制ではなく、科目毎に教員を配置する科目分野制を敷いている。この体制では、個々の教員が連動して柔軟に教育研究活動に取り組むことができ、また、個々の教員では対応しきれない新しい必修科目についても全教員の協力並びに経験に基づき、より良い形で実施できるといえる。

薬学部の特徴的な教育研究のための施設としては、薬学部の附属施設である薬用植物園、臨床薬学研修センターおよび先端医薬研究センターがある。先端医薬研究センターは、医薬・医療に関する最先端の研究開発を行い、その成果を疾病の治療及び予防に反映させることを目的として、医学及び薬学等の関連分野の研究推進を図るために設置されたもので、現在、本学薬学部と兵庫医科大学との共同研究プロジェクトが稼働している。

ii) 概要

薬学部では、下記のような教育理念、教育目的、教育目標およびこれに基いた学生受け入れ方針、教育課程の編成・実施方針、学位授与方針の3つのポリシーを掲げている。

【教育理念】

基礎と臨床を融合させた薬学教育とともに、医学・医療の関連分野との横断的実践教育により、人と社会の健康と幸福に広く貢献できる薬剤師を育成する。

【教育目的】

薬学部では、「くすり」（医薬品、化学物質、手段）と「生体」（ヒト、生物／病原体、生体成分）に関する正しい知識とともに、生命の尊厳を畏敬し、人々の健康と幸福を真に願う医療専門職者としての適格な意識を備え、多様な分野で薬学的立場から全人的医療を支えることのできる薬剤師の養成を目指す。

【教育目標】

1. 「くすり」と「生体」及びその相互作用に対する科学的理解を深め、幅広い教養とともに薬剤師としての基盤となる正しい知識を身に付ける。
2. 生命の尊厳を尊重する高い倫理観とともに、人々の健康と幸福を願い、その治療とケアに携わることができる豊かな人間性を養う。
3. ボーダレスな教育環境のもと、様々な医療専門職者の役割を理解し、連携を保ち互いに協調し、患者の病態のみならず心理的・社会的背景を理解し、適切な薬物治療を推進する総合的実践能力

を身に付ける。

4. 医療の高度化・多様化及び科学技術の進展に適切に迅速に対応するため、高い創造性と生涯にわたり自ら学び続ける自己開発能力を身につける。
5. 個人にとって安全かつ適切な薬の使用を促すため、くすりの有効性・安全性に関する正しい知識とともにリスク管理能力を身に付ける。
6. 優れたコミュニケーション能力を身に付けるとともに、医療・保健衛生分野における薬剤師のあり方について学び、社会的視野を広げる。

【アドミッションポリシー（学生受け入れ方針）】

薬学部では、クスリの構造や効力・副作用などについてのエビデンスに基いた「専門的な知識」と日々進歩し続けるあらゆる薬処方に対応できる「高度な技術」とを持ち、チーム医療や地域医療の現場において優れたコミュニケーション能力に基づき「自ら考え、行動できる」薬剤師・薬学人を育成する。

したがって、以下のような学生を求めている。

- 1) 患者さんや高齢者だけでなく、周りの人達の気持ちを理解できる豊かな人間性をもつ人。
- 2) 将来、「自ら考え、行動できる」薬剤師としてチーム医療や地域医療を支え、薬のプロフェッショナルとして医療現場で活躍したい人。
- 3) 感性豊かな創造力と合理的な思考力とに基づき、薬学を科学するチャレンジ精神旺盛な人。

【カリキュラムポリシー（教育課程の編成・実施方針）】

- 1) 基礎分野・専門基礎分野・専門分野に関する授業科目と実習科目を有機的に連携させ、薬学部教育課程で修得するべき知識・技能および態度を網羅するとともに、人と社会の健康と幸福に広く貢献できる力を育むための教育課程を編成し提供する。
- 2) 人と社会とのつながりを理解し、コミュニケーションの技法や科学的な思考法を身につけるための基礎的な教育の機会を提供し、教育課程全般を支える学修基盤を作る。
- 3) 医療職者としての倫理的な判断力や問題を発見し解決する能力を養い、専門分野科目への円滑な導入を支援する専門基礎教育を実施し、専門分野を習得する意義を理解する教育機会を提供する。
- 4) 高度な専門性の習得を目的とし、医薬品と生体の働きおよびその相互作用を理解する幅広い生命科学に関する体系的な専門教育の機会を提供する。
- 5) 疾病に対する臨床医学的な理解に基づき、薬物治療を実践するために必要な医療薬学に関する能力を身につける専門教育の機会を効果的に提供する。
- 6) 薬剤師が他の専門職者と協調してチーム医療や地域医療を推進するために必要な知識・技能および態度を習得する実践的な専門教育の機会を提供する。
- 7) 薬剤師としての研究的視野を育み、医療や科学技術の発展に貢献する研究に関する基礎的な知識・技能および態度を習得するための実践的な教育機会を提供する。
- 8) 臨床現場における医学・薬学を基盤とした実務的活動への参加を通じて、医療職者としてより専門性の高い知識・技能および態度を習得するための実践的な教育機会を提供する。

【ディプロマポリシー（学位授与方針）】

- 1) 医療専門職者に相応しい普遍的な教養と倫理的な判断力を身につける。
- 2) 優れたコミュニケーション能力と人々の健康と幸福に貢献できる豊かな人間性を身につける。
- 3) 医薬品と生体の働きを理解するために必要な基礎薬学に関する幅広い知識と技能を身につける。

- 4) 病態の理解に基づく薬物療法の実践に必要な医療薬学に関する専門知識と技能を身につける。
- 5) 医薬品を中心とする化学物質の安全性や環境衛生の保全に必要な基礎知識と技能を身につける。
- 6) チーム医療や地域医療における薬剤師の役割を理解し、これに必要な技能と態度を身につける。
- 7) 医療や科学技術に対する探求心とその発展に貢献するための基礎となる実践力を身につける。

iii) 学部の教員組織

表1. 平成25年度薬学部教員一覧

領 域	職 位	氏 名	専 門 分 野	着任年月日
基礎薬学 (化学系) 7名	教 授	青木 俊二	天然薬物学	H 19. 4. 1
	教 授	前田 初男	生体分析化学	H 19. 4. 1
	教 授	宮部 豪人	有機化学	H 19. 4. 1
	講 師	甲谷 繁	物理化学	H 19. 4. 1
	助 教	塚本 効司	生体分析化学	H 19. 4. 1
	助 教	吉岡 英斗	有機化学	H 20. 4. 1
	助 教	岩岡恵実子	天然薬物学	H 19. 4. 1
基礎薬学 (生物系) 7名	教 授	田中 稔之	免疫学	H 19. 4. 1
	教 授	山本 悟史	生理学	H 19.10. 1
	教 授	大河原知水	生化学	H 20. 4. 1
	准 教 授	上田 晴康	免疫学	H 20. 4. 1
	助 教	大野 喜也	免疫学	H 20. 4. 1
	助 教	是金 敦子	生化学	H 19. 4. 1
	助 手	小暮 洋子	生理学	H 21. 4. 1
衛生薬学 7名	教 授	清宮 健一	毒性学	H 20. 4. 1
	教 授	斎藤あつ子	微生物学	H 21. 4. 1
	准 教 授	前田 拓也	微生物学	H 19. 4. 1
	講 師	長野 基子	微生物学	H 20. 4. 1
	助 教	佐藤江利子	衛生化学	H 19. 4. 1
	助 教	三浦 大作	毒性学	H 20. 4. 1
	助 教	大森 志保	微生物学	H 21. 4. 1
医療薬学 14名	教 授	安屋敷和秀	薬理学	H 21. 4. 1
	教 授	岩崎 剛	薬物治療学	H 20. 4. 1
	教 授	九川 文彦	薬物動態学	H 20. 4. 1
	教 授	西山 信好	薬理学	H 19. 4. 1
	教 授	辻野 健	薬物治療学	H 21.10. 1
	准 教 授	伊藤 壮一	薬剤学、製剤科学	H 20. 4. 1
	准 教 授	戴 毅	漢方医学	H 20. 4. 1
	助 教	田中 康一	薬理学	H 19.10. 1
	助 教	中野 博明	薬剤学、製剤科学	H 20. 4. 1
	助 教	王 勝蘭	漢方医学	H 25. 4. 1
	助 手	小淵 修平	薬理学	H 21. 4. 1
	助 手	芝田 宏美	薬物治療学	H 19. 4. 1
	助 手	森家 望	薬物動態学	H 20. 4. 1
	助 手	佐々木尚子	薬物治療学	H 21. 4. 1

領 域	職 位	氏 名	専 門 分 野	着任年月日
臨床薬剤学 6 名	教 授	森山 雅弘	医薬品情報学（実務家）	H 22.10. 1
	教 授	天野 学	臨床薬剤学	H 25. 4. 1
	講 師	大野 雅子	臨床薬理学	H 22. 4. 1
	講 師	桂木 聡子	社会薬学	H 22. 4. 1
	助 教	竹下 治範	調剤学	H 19. 4. 1
	助 手	重松 誠	調剤学	H 23. 4. 1
未来医療薬学 8 名	教 授	東 純一	臨床ゲノム薬理学	H 21. 4. 1
	教 授	田中 明人	創薬化学	H 19. 4. 1
	講 師	上田 寛樹	先端医療薬剤学	H 20. 4. 1
	講 師	藤野 秀樹	薬物動態学	H 20. 4. 1
	講 師	前田真貴子	臨床ゲノム薬理学	H 19. 4. 1
	講 師	南畝 晋平	薬物動態学	H 21.10. 1
	助 教	清水 忠	創薬化学	H 20. 4. 1
	助 教	伊藤 崇志	臨床ゲノム薬理学	H 21. 4. 1

iv) 学生の受け入れ

	1 年生	2 年生	3 年生	4 年生	5 年生	6 年生
平成24年度在籍者数	181	204	107	138	155	146
平成24年度進級／卒業数	160	168	101	135	155	125
平成25年度在籍者数	179	192	173	104	135	176
平成25年度進級／卒業数	157	122	129	100	134	136

v) 教育活動

病院・薬局実務実習については「臨床薬学研修センター」の項を参照

CBT、OSCE 結果

	CBT			OSCE		
	受験者数	合格者数	合格率 (%)	受験者数	合格者数	合格率 (%)
平成24年度	104	100	96.2	104	104	100
平成25年度	138	135	97.8	138	138	100

薬剤師国家試験結果

	6 年制（新卒）			6 年制（既卒）		
	受験者数	合格者数	合格率 (%)	受験者数	合格者数	合格率 (%)
平成24年度	125	81	64.8	—	—	—
平成25年度	117	60	51.3	59	26	44.1

就職状況

卒業生のうち、就職した学生はそれぞれ85人（24年度）・84人（25年度）で、進学した学生は1人（24年度）・3人（25年度）であった。就職先は、兵庫医科大学病院薬剤部など28施設（24年度）・23施設（25年度）の病院薬剤部、イオンリテール(株)・(株)インファーマシーズ、(株)オーパスなど23社（24年度）・

24社（25年度）の調剤・ドラッグ関係、エーザイ(株)、日本イーライ・リリー(株)、大塚製薬(株)、持田製薬(株)、協和発酵キリン(株)などMR職を中心とした13社(24年度)・9社(25年度)の一般企業などであった。

vi) 研究活動

(1) 研究費の取得状況

1) 科学研究費（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）

薬学部における科学研究費は、平成24年度では26件、総額37,400,000円、25年度には24件、総額33,300,000円が採択された。詳細については、4. 研究活動の状況 6) 学外研究費の取得一覧の項（131～136頁、表1～8参照）に掲載する。

2) その他学外からの資金（研究助成金・受託研究費・共同研究費）

学外からの資金は、平成24年度では8件、総額26,475,000円、25年度は4件、総額11,780,000円であった。詳細については、4. 研究活動の状況 6) 学外研究費の取得一覧の項（131～136頁、表1～8参照）に掲載する。

vi) 社会活動（高大連携活動）

平成24年度は、計45件の出張講義を実施し、そのうち兵庫の県立高校および大阪の私立高校各1校の計2校に対して年間計画による高大連携プログラムを実施。

平成25年度は、56件の出張講義を実施し、そのうち大阪の私立高校1校に対して年間計画による高大連携プログラムを実施。

対象は、主に兵庫県下と大阪府下の高校。対象となる受講学生によって反応は様々だが、概ね薬学に対する興味喚起に寄与していると考えられる。実際に出張講義をきっかけに薬学部に興味を持ち、最終的に本学への受験、入学に至った学生も増えてきている。

vii) その他の活動

(1) 薬学部FDセミナー

薬学部教員の教育能力の向上を目的として、下記の薬学部FDセミナーを開催した。

日 時：平成25年3月8日（金）午後5時15分より

場 所：M106講義室

講 師：飛谷 渉先生（大阪教育大学保健センター・准教授）

演 題：大学生のころ ―彼らの心理的問題の性質と援助のあり方を考える

参加者35名

講演後のアンケートでは、後期青年期における危機について基本的な理論はよく理解できたので、次は具体的な対応法について聞きたい、という意見が多かった。

日 時：平成25年11月14日（木）午後5時00分より

場 所：M487A会議室

テーマ：新カリキュラム作成に向けて

演題1. 学習成果基盤型教育（outcome-based education）とは

第3回薬学教育者のためのアドバンスワークショップ報告

辻野 健 薬学部教授

演題2. 薬学教育モデル・コアカリキュラム改訂の概要と今後のスケジュール

清宮 健一 薬学部教授

参加者28名

平成27年度から実施される新コアカリキュラムに準拠した新カリキュラム作成について議論した。

日 時：平成25年12月19日（木）午後5時00分より

場 所：M106講義室

講師：成瀬 均先生（兵庫医科大学医学教育学・教授）

演 題：Active learningとしてのチーム基盤型学習（TBL）

参加者43名

実際にクリッカーなどを使用してteam based learningをやってみることにより、具体的な実施方法がよくわかった、という意見が多かった。

(2) 北京中医薬大学への短期留学

学校法人兵庫医科大学中医薬孔子学院の平成25年度事業により、選抜された薬学部5年次生15名が平成25年11月20日から11月29日までの9泊10日間、北京中医薬大学で東洋医学について包括的なカリキュラムに基づき学習してきた。留学した学生諸君は受入先である北京中医薬大学の先生方からも高い評価を頂き、学生達自身からも実りのある留学であったとの振り返りがあった（平成25年12月4日北京中医薬大学短期留学報告会開催）。

(3) 模擬患者養成事業

本学では近隣の住民の皆様のご協力を仰ぎ、模擬患者（Simulated Patients; 以下SP）になって頂いている。薬学部第4学年次生は「実務実習事前学習」の授業内で、学生はこれらのSPさんを相手に、患者接遇の実習を行っている。また、SPさんには薬学共用試験OSCE課題である患者接遇、情報提供の領域において標準SPとして参加して頂いた（平成24年度：54名、平成25年度：51名）。SPさんは平成20年度から毎年募集し、現在（平成26年3月）51名が登録している。平成24年度、平成25年度は、10名の薬学教員がタスクフォースとして実習、OSCEのためのSPおよび標準SP養成講習会を実施した。

2) 看護学部

i) 学部の概要

看護学部では、次項に示す卒業到達時目標を目指し教育を実施している。この教育目標の成果の一つの指標として、平成24年度より在学生・卒業生・看護学部教員を対象に看護学部ブランドイメージ調査を実施してきた。その結果、「尊厳の遵守」「価値観・信条への理解」「対象者の権利の擁護」「専門的知識の必要性」「理論的思考に基づく判断能力」「問題解決能力」「的確な看護技術の実施」「コミュニケーション技術」「チーム連携」に関しては70%以上の学生への意識付けができていた結果となったが、「地域的な視野での看護に対する展望」や「国際的動向への関心」「創造性」への意識はまだ低く、多くの課題が示唆される結果であった。これらの結果を受け、平成24年度・平成25年度は、看護学部教育目標Ⅴ「地域的・国際的な視野で、保健・医療・福祉の課題を幅広くとらえ、看護職者の役割・機能を展望できる」・看護学部教育目標Ⅵ「自ら考え創造する態度を身に付け、生涯にわたって看護学を探究しつづける基盤をもつことができる」を重点課題として取り組むこととした。

また、平成24年度カリキュラム改正に伴い、保健師国家試験受験資格の取得を選択性（30名以内）とし、さらなる教育の質担保に向け、看護の専門的知識・技術、問題解決能力、コミュニケーション能力、倫理的配慮・態度を万遍なく身につけることができ、それらを統合して看護実践ができる能力を育成することを考慮した科目編成とした。

ii) 看護学部の教育理念・教育目的・教育目標

学校法人兵庫医科大学の建学の精神、兵庫医療大学の教育理念のもとに、次のような看護学部の教育理念、教育目的、教育目標を定めている。

＜教育理念＞

看護学における理論的知と臨床の知が融合した豊かな教育環境のなかで、倫理観に富んだ人間愛を育み、看護の専門的な知・技・心を培うとともに、他職種と協働し、様々な療養の場における人々のクオリティ・オブ・ライフを高め、同時に、地域で生活を営む人々の最適健康状態を導き、維持、増進させる看護専門職者を育成する。

(1) 教育目的

看護学部は、人の生命や価値観を尊重し、基本的な看護の専門的知識・技術・態度を教授し、クオリティ・オブ・ライフの向上をめざし、最適健康状態を維持、増進させる実践力を養う。

医療関連学部間の有機的連携をもとにしたチーム医療に必要な能力を育成するとともに、グローバルな視野で保健・医療・福祉の課題を総合的にとらえられる、感性豊かで倫理的・創造的な看護専門職者の養成を目指す。

(2) 教育目標

1. 豊かな人間性を備え、人の痛み、苦しみや生命の尊厳を理解し、人がもつ権利や価値観を尊重して行動することができる。
2. 理論と実践から導き出された看護学に関する専門的知識と、科学的根拠に基づく判断能力及び問題解決能力を身に付ける。
3. 対象者の安全・安楽と主体性を重視した科学に基づく専門的技術及び人の尊厳と権利を擁護するのに大切なコミュニケーション技法を身に付ける。
4. 医学、薬学、リハビリテーション学におけるそれぞれの専門性や役割について理解し、それぞ

れの職種の人々と有機的に連携協力するとともに調整できる能力を身に付ける。

5. 地域的・国際的な視野で、保健・医療・福祉の課題を幅広くとらえ、看護職者の役割・機能を展望できる。
6. 自ら考え創造する態度を身に付け、生涯にわたって看護学を探究しつづける基盤をもつことができる。

(3) アドミッションポリシー（学生受け入れ方針）

看護学部は、生命の尊厳や個人の権利・価値観を尊重できる「倫理観に富んだ人間愛」と、高度化・複雑化する医療現場に対応できる「確かな看護実践能力」を育み、地域的・国際的な視野で保健・医療・福祉の課題を総合的に捉え、他職種と協働して人々のクオリティ・オブ・ライフ（生命の質、生活の質）の向上に寄与できる感性豊かで倫理的・創造的な看護専門職者を育成します。

したがって、以下のような学生を求めています。

1. 看護専門職者になる強い意思を持ち、人間や健康に関心を持ち続けることができる
2. 他者の気持ちや立場を理解し関わることができる
3. 将来医療チームの一員となる自覚を持ち、他者と協力して行動できる
4. 自ら問題を見出し解決しようとする意欲と行動力を持っている
5. 常に探究心を持ち、自ら学びを深めきわめようと努力できる

(4) カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

看護学部の6つの教育目標を達成するために、教育課程を「基礎分野」と「専門基礎分野」、「専門分野」の3分野から構成し、看護学の「人間」「健康」「環境」「看護」のメタパラダイム概念および人間の成長・発達、療養環境に応じた看護をもとに効果的かつ体系的に編成している。

学年進行にともなって基礎分野から専門基礎分野、専門基礎分野から専門分野へと積み上がるように科目を配置し、講義・演習・実習を織り交ぜた教育方法を用いて実施している。また、基礎分野・専門基礎分野と専門分野との卒業要件単位数の比率を3:4として専門分野に偏らない工夫や、126単位の卒業要件単位数に対して必修科目は106単位（85%）、選択科目は20単位（15%）として過密な教育課程とならないように工夫している。なお、カリキュラム変更に伴い、平成24年度入学生以降の学生は、卒業要件単位数129単位、必修科目109単位（84%）、選択科目20単位（16%）となっている。

(5) ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

看護学部は学位授与方針として、学士力と看護実践能力育成を加味し、看護学部の教育目標に対応させ、学生が卒業時に身につけておく能力を以下のように設定している。教育課程に規定している所定の単位、基礎分野26単位以上、専門基礎分野28単位以上、専門分野72単位以上の計126単位の修得をもって卒業時到達目標の達成とみなし、学士課程学位（看護学）を授与する。

(6) 看護学部卒業時到達目標

- ・ 人間および生命の尊厳に対して真摯に向き合うことができる。
- ・ 対象者がもつ価値観・信条、権利を理解し、それを受けとめて、権利を擁護できる。
- ・ 看護を提供する上で必要な専門的知識を身につけることができる。
- ・ 看護を提供する上で必要な論理的思考に基づく判断能力を身につけることができる。
- ・ 看護を提供するための問題解決に向けての方略を選択し実践できる。

- ・看護の基本技術を的確に実施できる。
- ・対象者と信頼関係が築けるコミュニケーション技法を用いることができる。
- ・保健・医療・福祉チームにおける各専門職種と看護の専門性および役割を理解できる。
- ・チームの中で他職種と有効かつ協力的にコミュニケーションをとり、専門職としての自分の意見を述べるができる。
- ・チームにおける自己の役割を認識し、責任ある行動をとることができる。
- ・人々の健康生活に関わる文化に多様性があることを理解し、それに対応できる柔軟な姿勢を身につけることができる。
- ・保健・医療・福祉の課題をそれぞれの国や地域の文化を通して把握でき、看護職者の役割を理解することができる。
- ・保健・医療・福祉の地域的・国際的動向に関心をもつことができる。
- ・自己の知識・行動・態度を客観的に評価し、その評価に基づき課題を見出し主体的に取り組むことができる。
- ・自ら学習課題を見出し、課題に創造的に取り組む姿勢を身につけることができる。

iii) 看護学部教育組織

開学当初より本学の教育・研究、大学運営に尽力された教員のうち、5名の教授を含む15名の教員が定年や転出に伴い退職し、新たな教員を迎えて教育・研究活動を行っている。人事に際しては、教員選考基準と選考手順を看護学部教授会・大学協議会での審議を経て明確にしながら人事選考を行った。

また、学生の臨床（地）教育の充実を図ることを目的とし、学生実習の教育指導等に関与する兵庫医科大学病院の指導的医療専門職者6名に兵庫医療大学臨床実習教授の称号を、2名に兵庫医療大学臨床実習准教授の称号を付与した（表1 看護学部における臨床実習教授等の委嘱）。この申請及び付与手続きは、学部長が学部教授会の議を経て、候補者を学長に付議し、大学協議会の議を経て臨床実習教授等を決定し、協力機関の長の承認を得たうえで称号を付与している。なお学部長および教員の一覧は、表2.「平成24年度・25年度看護学部教員一覧」に示すとおりである。

表1. 看護学部における臨床実習教授等の委嘱（称号付与）

称 号	氏 名	役 職（現在の勤務部署）
臨床実習教授	山田 明美	兵庫医科大学病院 看護部長（副院長）
臨床実習教授	平川 弘美	兵庫医科大学病院 看護次長
臨床実習教授	丸山美津子	兵庫医科大学病院 看護次長
臨床実習教授	加地 靖子	兵庫医科大学病院 看護次長
臨床実習教授	笠松 由利	兵庫医科大学病院 教育担当看護師長
臨床実習教授	片岡 優実	兵庫医科大学病院 地域医療総合センター看護師長
臨床実習准教授	長嶋 智美	兵庫医科大学病院 医療人育成センター看護師長
臨床実習准教授	藤井 利江	兵庫医科大学病院 看護師長

表 2. 平成24年度・平成25年度看護学部教員一覧

平成24年度・平成25年度学部長 竹田千佐子			
【基盤看護学】			
土居 洋子	教 授	基礎看護学（理論）	平成25年 3 月退職
竹田千佐子	教 授	基礎看護学（理論・技術）	
土田 敏恵	准教授	基礎看護学（技術・感染）	
岸 あゆみ	講 師	基礎看護学（技術）	平成24年 3 月採用
鈴木みゆき	助 教	基礎看護学（理論・技術）	
増田富美子	助 教	基礎看護学（技術）	
荻野 待子	助 教	基礎看護学（技術・看護マネジメント）	
吉岡なつき	助 教	基礎看護学（技術）	
【療養支援看護学】			
佐藤 禮子	教授・副学長	がん看護学	平成25年 3 月退職
網島ひづる	教 授	成人看護学（急性）	
鈴木 久美	教 授	成人看護学（慢性）	平成26年 3 月退職
新井 信之	教 授	精神看護学	
大田 直実	准教授	成人看護学（急性）	平成26年 3 月退職
清水 玲子	准教授	成人看護学（慢性）	平成25年 3 月退職
小西美ゆき	講 師	成人看護学（急性）	平成26年 3 月退職
松本 麻里	准教授	成人看護学（慢性）	
府川 晃子	講 師	成人看護学（慢性）	平成25年 4 月採用
平岡 玲子	助 教	成人看護学（急性）	平成25年 3 月退職
高山 京子	助 教	がん看護学	平成25年 3 月退職
梶 喜子	助 教	成人看護学（急性）	平成25年 4 月採用
田中 真弓	助 教	成人看護学（急性）	平成25年 4 月採用
大谷 利恵	助 教	精神看護学	
大山 末美	助 教	精神看護学	
酒井 謙	助 手	成人看護学（慢性）	平成26年 3 月退職
【家族支援看護学】			
藤井真理子	教 授	小児看護学	
末原紀美代	教 授	母性看護学	平成25年 3 月退職
鈴井江三子	教 授	助産学	
齋藤 雅子	准教授	助産学	
石原 あや	准教授	小児看護学	
西村 明子	准教授	母性看護学	
工藤 里香	講 師	母性看護学	
岡田 公江	講 師	母性看護学	平成25年 4 月採用
飯尾 祐加	助 教	助産学	
藤田 優一	助 教	小児看護学	
勝田真由美	助 教	母性看護学	平成25年3月退職
片田 千尋	助 教	母性看護学	

【生活支援看護学】			
上原ます子	教 授	地域看護学（公衆衛生看護学）	平成25年 3 月退職
細見 明代	教 授	老年看護学	
富永 真己	准教授	地域看護学（公衆衛生看護学）	平成25年 3 月退職
青木菜穂子	准教授	在宅看護学	平成26年 3 月退職
土井有羽子	准教授	地域看護学（公衆衛生看護学）	
山田 千春	講 師	老年看護学	
堀口 和子	講 師	在宅看護学	
岡野 明美	講 師	地域看護学（公衆衛生看護学）	平成24年10月採用
松本 佳子	助 教	地域看護学（公衆衛生看護学）	平成25年 3 月退職
足立 安正	助 教	公衆衛生看護学	平成25年 4 月採用
衣斐 響子	助 教	在宅看護学	平成24年 4 月採用
中澤 仁美	助 教	老年看護学	平成24年 4 月採用
末安 明美	助 手	老年看護学	平成24年 4 月採用

iv) 看護学部の新入生の受け入れ

ここ数年、看護学部の入試志願者数が増加せず横ばい状態であることや、現在もなお関西圏で看護学部が増設されていることから、今後本学部の志願者数が減少する可能性がある現状を鑑み、本学部のアドミッションポリシーに適合したよりよい学生を獲得し、志願者数を増加させること（目標：偏差値を1～2ポイントあげて、全体の志願者数を1,000人以上とする）を目的に、平成26年度入試より表3「入試制度」に示すように入試回数を5回から6回に変更し、推薦入試公募制A日程（試験科目：外国語・調査書）を追加した。

表 3. 入試制度

現 行		平成26年度以降入試	
入試制度・方式	人 数	入試制度・方式	人 数
推薦入学試験（専願公募制）	30	推薦入学試験（専願公募制）	25
		推薦入学試験（公募制A日程）	10
一般入学試験（前期）	57	一般入学試験（前期）	50
一般入学試験（後期）	5	一般入学試験（後期）	7
大学センター試験利用入試（前期）	5	大学センター試験利用入試（前期）	5
大学センター試験利用入試（後期）	3	大学センター試験利用入試（後期）	3
合 計	100	合 計	100

平成24年度入学試験・平成25年度入学試験の受験者数・合格者数・入学者数は表4.「平成24年度入学試験」・表5「平成25年度入学試験」に示すとおりである。兵庫医科大学病院看護部との連携した臨地実習、学生への高校進路指導教員説明会、高校訪問による高校生へのガイダンスやオープンキャンパスなどを通じて広く周知することが、本学への受験生を増やす作用にも働いている。

推薦入試公募制A日程の導入も功を奏し、受験者数の減少には至っていないが、看護系大学の増加は必至の情勢であり、安閑としてはおられない状況にある。今後も社会・経済情勢を視野に入れながら、受験生の確保を図っていく必要がある。

表 4. 平成24年度入学試験

	推薦入試 (専願公募制)	一 般 入 試		大学入試センター利用試験	
		前 期	後 期	前 期	後 期
募集人員	30	57	5	5	3
志願者数	178	568	91	72	18
受験者数	178	555	86	72	18
合格者数	33	152	12	10	3
入学者数	33	64	8	0	3
試験科目	外国語・小論文・ 調査書	外国語・国語・理科	外国語・国語・理科	外国語・ 国語・理科	外国語・ 国語・理科

表 5. 平成25年度入学試験

	推薦入試		一 般 入 試		大学入試センター利用試験	
	専願公募制	公募制 A	前 期	後 期	前 期	後 期
募集人員	25	10	50	7	5	3
志願者数	175	273	532	86	74	14
受験者数	175	273	528	85	74	14
合格者数	25	30	119	7	11	4
入学者数	25	16	55	5	0	2
試験科目	外国語・小論文・ 調査書	外国語・ 調査書	外国語・ 国語・理科	外国語・ 国語・理科	外国語・ 国語・理科	外国語・ 国語・理科

v) 看護学部 of 教育活動

(1) 学生指導および支援

看護学部では、開学以来、学生が安定した快適な学生生活を送ることができるよう、学生個々の生活相談に応じるためのクラス担任（学年アドバイザー）制度を設けており、1クラス25名前後に一人のクラス担任（学年アドバイザー）を配置している。学年アドバイザーは、その年の目標を設定、それを学生と共有し、学年度末にはその評価を行いながら、生活面・学習面の相談に応じている。もし、学生の生活面・学習面で問題が生じた場合には、速やかに学年アドバイザー主任と補佐に報告、補佐は状況に応じて学生委員、教育委員と連携し対応、必要時には学部長に報告するというシステムに則って役割を遂行している。

また、学生支援の一環として看護学部では保護者会を設立しており、看護学部に保護者会担当委員を中心に保護者会の企画運営を行っている。年1回の「定期総会及び保護者懇談会」においては、保護者間や保護者と教員との交流を深め、大学側への要望等を汲み取るとともに「保護者・学生」とともに大学を運営する意識を高めている。

教育活動においては、平成24年度からの“保健師国家試験受験資格に伴う教育カリキュラム改訂”に準じ、平成24年度入学生より保健師国家試験受験資格の取得を選択性（30名以内）とし、新たに「ケアマネジメント論」「国際医療福祉論」「看護研究セミナー」を新設し、「国際看護」をこれまでの選択科目から必修科目へと変更した。また、特色ある授業として、対等な話し合いを通して参加者一人ひとりの学習と理解を深め、記憶中心から思考中心の学習へと促す学習法である“LTD（Learning Through Discussion）話し合い学習法”を低学年次（1年前期の基礎看護方法論演習リフレクション等）から取り入れ、「主体的に学ぶために必要な態度や能力」「他者を尊敬し信頼できる力」「良好な人間関係をたもつ力」を育成している。

平成24年度・25年度の各学年の学生数と進級認定数については、表6「平成24年度進級認定数等」・表7「平成25年度進級認定数等」に示す。

表6．平成24年度進級認定数等

	学生数	進級者	留年者	退学者	除籍者
1年生	108	104	2	2	0
2年生	106	103	3	0	0
3年生	103	102	1	0	0
4年生	109	108	1	0	0

表7．平成25年度進級認定数等

	学生数	進級者	留年者	退学者	除籍者
1年生	110	104	5	1	0
2年生	107	101	2	4	0
3年生	104	101	1	2	0
4年生	103	101	2	0	0

(2) 国家試験

平成24年度・平成25年度の国家試験合格率は、表8「看護学部国家試験」に示すとおりである。
看護師国家試験については、例年100%の合格率を達成している。

看護学部では学生部会と教員部会からなる国家試験研究会を設けており、学生と教員が協働して国家試験対策を行っている。学生が主体的に国家試験対策を行うことが合格率を高める鍵であると考え、4年生の学生部会が年間の目標設定や具体的な学習方法について考え、学生全員で共有し、教員部会は学生部会のサポートと学習方法に不安のある学生や模試の結果などで個別対応が必要な学生のサポートを行い高い国家試験合格率を維持している。

表8．看護学部国家試験結果

看護師国家試験 区分	新 卒			既卒(前年度卒業生の希望者が一括出願の対象)		
	受験者数	合格者数	合格率(%)	受験者数	合格者数	合格率(%)
平成24年度本学	106	106	100			
全 国	51,458	48,413	94.1	5,072	1,811	35.7
平成25年度本学	101	101	100			
全 国	52,914	50,349	95.2	5,977	2,551	42.7

保健師国家試験 区分	新 卒			既卒(前年度卒業生の希望者が一括出願の対象)		
	受験者数	合格者数	合格率(%)	受験者数	合格者数	合格率(%)
平成24年度本学	106	102	96.2	2	2	100
全 国	15,136	14,751	97.5	1,284	1,013	78.9
平成25年度本学	101	97	96.0	2	0	0.0
全 国	16,555	14,698	88.8	753	272	36.1

助産師国家試験 区分	新 卒			既卒(前年度卒業生の希望者が一括出願の対象)		
	受験者数	合格者数	合格率 (%)	受験者数	合格者数	合格率 (%)
平成24年度本学	8	8	100	1	1	100
全 国	2,010	1,987	98.9	103	85	82.5
平成25年度本学	7	6	85.7			
全 国	2,042	1,993	97.6	37	22	59.5

(3) 学生の進路

平成22年度卒業生（第一期生）・平成23年度（第二期生）卒業生の就職状況については、表9。「就職状況」に示すとおりである。

表9. 就職状況

看護学部		平成24年度	平成25年度
卒業者数		108名	101名
内 訳	就職者数	106名	101名
	進学者数	2名	0名
	その他	0名	0名

vi) 看護学部の研究活動

(1) 研究費の取得状況

看護学部における科学研究費助成事業は、平成24年度では10件、総額（直接経費）14,300,000円、25年度では11件、総額（直接経費）16,800,000円が採択された。詳細については、4. 研究活動の状況 6) 学外研究費の取得一覧の項（131～136頁、表1～8参照）に掲載する。

(2) 研究活動

- ①平成24年6月：米国での看護学の大学院教育の現状と将来の講演（講師：ノースカロライナ大学チャペルヒル校余善愛博士）を平成24年度国際セミナーとして開催した。
- ②平成25年8月：学生海外渡航時の危機管理体制についての講演（講師：大阪大学グローバルコラボレーションセンター長の大橋一友教授）を実施し、教職員75名の参加があった。
- ③平成25年10月：大学と臨床現場を繋ぐ—デンマークにおける臨床教育責任者の役割—（講師 Marianne Fock Felldt-Rasmussen：ホーセンス病院臨床教育責任者）を、兵庫医科大学病院看護部との共催による平成25年度第1回国際セミナーとして開催した。

vii) 看護学部の活動

(1) 学部内活動

看護学部では、平成23年度より「看護学部内委員会」を発足し、全教員がそれぞれの役割をもち看護学部運営に関わるように組織している（看護学部運営会議、FD、教務関係：教務部会・臨地実習部会・ブランディングプロジェクト、学生関係：学年アドバイザー・国家試験研究会・保護者懇談会・キャリア開発委員会、倫理審査学部内申請書チェックグループ、広報関連）。その主な活動内容をFD委員会、国際交流委員会を取り上げ述べる。

1) 看護学部FD委員会報告

教員の教育・研究能力の向上を目的とし、下記の内容で看護学部FD研究会を独自に実施して

いる。

表10. 平成24年度・平成25年度看護学部FD研究会活動報告

	開催日時	テ ー マ	講 師 他	参加者
平成24年度	4月・10月	新採用教員オリエンテーション	看護学部FD委員	4名
	2013年 1月28日	新任教員研修セミナー 「授業に活用したセミナー内容」	報告者 土井有羽子准教授	25名
	2月26日	本学看護学部学生における学びの傾向の理解と教育用の方策について 1) 本学部教員によるアンケート結果の解説 2) グループワーク「本学部学生の学びの傾向を踏まえた効果的な対応（教育上の方略について）」	小西美ゆき講師（FD委員）	37名
平成25年度	4月	新採用教員オリエンテーション	看護学部FD委員	4名
	9月6日	看護学部及び看護学研究科の教育の現状と課題 1) 看護学部自己点検・評価委員会による解説 2) グループワーク	報告者 鈴木久美教授	34名 他学部 1名
	2014年 2月28日	研究におけるシステマティック・レビューの活用方法（講義と演習）	関西国際大学保健医療学部 今野理恵准教授	34名
	3月12日	リフレクションの効果的な活用 1) 講演「リフレクションの概要とリフレクションを促進するための方法」 2) グループワーク「リフレクションを効果的に活用するための方策」	神戸常盤大学保健科学部 看護学科 中田康夫准教授	36名

2) 国際交流委員会

本学における国際交流委員会は、「①アデレード大学学術交流」「②欧州研修」「③アフリカ研修支援」に関し活動を行っている。

①アデレード大学学術交流

アデレード大学看護学部学術交流の締結を目指し、平成25年5月豪州アデレード大学看護学部への訪問（竹田学部長と鈴木国際交流委員の両名）、12月にはアデレード大学看護学部から姉妹校締結に向けての事前調査団（アデレード大学副学長 Kent Anderson教授、看護学部副学部長Judith Magarey教授、国際看護学担当者Francis Dinnelly講師）の来校を受けている。

②欧州研修

デンマーク王国における医療・福祉・教育の実際を知り、日本の医療・福祉の現状を見つめなおすとともに、グローバルな視野を養うことを目的として毎年実施している。

研修先については、日欧文化交流学院を拠点に重度身体障害者入居施設や高齢者施設、Middelfart病院精神病棟認知症対策班、州立病院、保育園、看護大学等の施設を主としている。

第6回欧州研修参加者13名：看護学部2年生7名・3年生5名・4年生1名

第7回欧州研修参加者12名：看護学部8名（1年生1名・2年生7名）

リハビリテーション学部作業療法学科1年生4名

③アフリカ研修支援

平成25年7月には、アフリカ6か国からの幹部看護管理者（助産師）11名を対象に、助産技術向上に向けた研修を実施、アフリカ母子保健看護管理コースの研修を実施し、学部学生・大学院生との合同講義を行った。

(2) 社会貢献等の活動

看護学部教員が行った校内ガイダンス・模擬授業数は、表11「平成24年度校内ガイダンス・模擬授業等一覧」・表12「平成25年度校内ガイダンス・模擬授業等一覧」に示すとおり、平成24年度22校・平成25年度26校であり、高等学校の依頼や対象学年に合わせ、看護専門職とその役割、看護専門職への道のり、看護学などの内容の講義・看護学部の体験実習などを行った。

表11. 平成24年度（2012年度）校内ガイダンス・模擬授業等一覧

ガイダンス名称	種 別	開催日	都道府県	担当者
兵庫県立高砂南高等学校	高校内ガイダンス	2013-03-08	兵庫県	末原 紀美代
兵庫県立神戸高塚高等学校	高校内ガイダンス	2013-03-08	兵庫県	堀口 和子
兵庫県立伊丹西高等学校	高校内ガイダンス	2013-03-06	兵庫県	青木 菜穂子
兵庫県立三田西陵高等学校	高校内ガイダンス	2013-03-06	兵庫県	小西 美ゆき
兵庫県立東灘高等学校	高校内ガイダンス	2013-02-05	兵庫県	松本 麻里
兵庫県立宝塚高等学校	高校内ガイダンス	2012-12-17	兵庫県	山田 千春
兵庫県立須磨東高等学校	高校内ガイダンス	2012-12-14	兵庫県	斉藤 雅子
兵庫県立高砂南高等学校	高校内ガイダンス	2012-12-12	兵庫県	大田 直実
(高大連携)帝塚山学院高等学校	高校内ガイダンス	2012-12-01	大阪府	土井 有羽子
姫路市立琴丘高等学校	高校内ガイダンス	2012-11-19	兵庫県	土居 洋子
兵庫県立姫路南高等学校	高校内ガイダンス	2012-11-15	兵庫県	鈴木 江三子
兵庫県立明石城西高等学校	高校内ガイダンス	2012-11-15	兵庫県	藤井 真理子
兵庫県立社高等学校	高校内ガイダンス	2012-11-15	兵庫県	新井 信之
三田松聖高等学校	高校内ガイダンス	2012-11-06	兵庫県	富永 真己
(高大連携) 兵庫県立伊丹西高等学校	大学見学会	2012-10-18	兵庫県	土井 有羽子
(見学会) 兵庫県立鳴尾高等学校	大学見学会	2012-07-18	兵庫県	土井 有羽子 松本 麻里
兵庫県立尼崎小田高等学校	高校内ガイダンス	2012-07-11	兵庫県	土井 有羽子
兵庫県立西宮北高等学校	高校内ガイダンス	2012-07-10	兵庫県	工藤 里香
兵庫県立東播磨高等学校	高校内ガイダンス	2012-06-18	兵庫県	鈴木 久美
(高大連携)帝塚山学院高等学校	高校内ガイダンス	2012-06-16	大阪府	松本 麻里
兵庫県立北須磨高等学校	高校内ガイダンス	2012-06-12	兵庫県	松本 麻里
(高大連携) 兵庫県立伊丹西高等学校	高校内ガイダンス	2012-06-05	兵庫県	松本 麻里

表12. 平成25年度（2013年度）校内ガイダンス・模擬授業等一覧

ガイダンス名称	種 別	開催日	都道府県	担当者
兵庫県立三田西陵高等学校	高校内ガイダンス	2014-03-10	兵庫県	藤井 真理子
兵庫県立川西明峰高等学校	高校内ガイダンス	2014-03-10	兵庫県	岡野 明美
兵庫県立伊川谷北高等学校	高校内ガイダンス	2014-03-06	兵庫県	工藤 里香
神戸市立須磨翔風高等学校	高校内ガイダンス	2014-03-05	兵庫県	鈴木 江三子
兵庫県立西宮南高等学校	高校内ガイダンス	2014-03-05	兵庫県	土井 有羽子
大阪府立千里青雲高等学校	高校内ガイダンス	2014-01-23	大阪府	小西 美ゆき
兵庫県立尼崎高等学校	高校内ガイダンス	2013-12-18	兵庫県	青木 菜穂子
大阪府立狭山高等学校	高校内ガイダンス	2013-12-18	大阪府	斉藤 雅子
兵庫県立高砂南高等学校	高校内ガイダンス	2013-12-16	兵庫県	堀口 和子

ガイダンス名称	種 別	開催日	都道府県	担当者
(見学会) 福崎高等学校	大学見学会	2013-12-13	兵庫県	大田 直実 梶 喜子
仁川学院高等学校	高校内ガイダンス	2013-12-05	兵庫県	府川 晃子
(高大連携) 帝塚山学院高等学校	高校内ガイダンス	2013-11-30	大阪府	松本 麻里
金蘭会高等学校	高校内ガイダンス	2013-11-21	大阪府	岡田 公江
兵庫県立香寺高等学校	高校内ガイダンス	2013-11-20	兵庫県	山田 千春
兵庫県立神戸鈴蘭台高等学校	高校内ガイダンス	2013-11-20	兵庫県	新井 信之
姫路市立琴丘高等学校	高校内ガイダンス	2013-11-18	兵庫県	土田 敏恵
(見学会) 和歌山信愛高等学校	大学見学会	2013-11-08	兵庫県	鈴井 江三子
(見学会) 伊丹北高等学校	大学見学会	2013-10-23	兵庫県	石原 あや
(高大連携) 兵庫県立伊丹西高等学校	大学見学会	2013-10-22	兵庫県	岸 あゆみ 土井 有羽子
兵庫県立神戸高塚高等学校	高校内ガイダンス	2013-07-16	兵庫県	細見 明代
兵庫県立明石北高等学校	高校内ガイダンス	2013-07-09	兵庫県	鈴木 久美
尼崎市立尼崎高等学校	高校内ガイダンス	2013-06-20	兵庫県	鈴木 久美
兵庫県立姫路南高等学校	高校内ガイダンス	2013-06-20	兵庫県	藤井 真理子
兵庫県立東灘高等学校	高校内ガイダンス	2013-06-20	兵庫県	岸 あゆみ
(高大連携) 兵庫県立伊丹西高等学校	高校内ガイダンス	2013-06-04	兵庫県	石原 あや
兵庫県立北須磨高等学校	高校内ガイダンス	2013-05-01	兵庫県	石原 あや

3) リハビリテーション学部

i) リハビリテーション学部の概要

リハビリテーションは、疾病や外傷の治療から、健康増進、障がいの予防まで多種多様な分野を担っているため、その実践には、理学療法士、作業療法士、医師、看護師、薬剤師などさまざまな医療専門職者が協力して行う。

本学部には、理学療法士を育成する理学療法学科と作業療法士を育成する作業療法学科がある。学部および学科での専門教育に加えて、学部の枠組みを超えて薬学部や看護学部との連携教育を行っている。また、兵庫医科大学およびその関連施設との連携では病態や治療を詳しく学ぶとともに、実習を通じて実践に役立つ医療人の育成を行っている。

開学以来、学生の受け入れ、学生教育、国家試験合格、就職などの重要な課題に教職員一同で取り組み成果を上げてきた。リハビリテーション医学・医療・研究をリードする魅力ある大学を目指して、平成22年度から毎年度「学校法人兵庫医科大学リハビリテーション関連施設合同セミナー」を開催している。

ii) リハビリテーション学部の教育理念・教育目的・教育目標

学校法人兵庫医科大学の建学の精神、兵庫医療大学の教育理念のもとに、次のようなりハビリテーション学部の教育理念、教育目的、教育目標を定めている。

〈教育理念〉

リハビリテーション学部は人の機能・活動・社会参加を心身の両面から支援し、幸福と共生に奉仕できることを目指す。そのために幅広い教養、高度な専門的知識と技術及び教育研究技術を育み、社会人として、また、リハビリテーション専門職者として社会に貢献できる人材を育成する。

〈教育目的〉

リハビリテーション学部は人々の幸福と共生に奉仕する精神のもと、リハビリテーションに必要な人と社会の理解及び保健・医療・福祉に関する諸学問の知識を教授し、チーム医療実践の場においてリハビリテーション専門職者として力を発揮することができる総合的実践力、社会の多様なニーズに応え先駆的な教育・研究へ展開できる能力及び生涯にわたって自己を練成できる能力を持った人材の育成を目指す。

〈教育目標〉

- ・多様な文化や価値観を受け容れる、地域的・国際的感覚及び豊かな人間性を備え、人々の幸福と共生に奉仕する精神をもって行動することができる。
- ・様々な医療専門職者の役割や専門性を理解し、チーム医療実践の場において他の医療専門職者と有機的に連携協力できる総合的実践力を身に付ける。
- ・地域での医療ケアや教育など社会の多様なニーズに応えることができ、さらに中核的な行動を担うことができるよう、生涯にわたって自己を練成できる能力を身に付ける。
- ・リハビリテーションを実践するにあたり必要な基礎医学とともに、人の機能のみならず心理や行動をも深く理解し基礎学力として身に付ける。
- ・効果的なりハビリテーションに必要な保健・医療・福祉の知識と確かな技術を有し、種々の課題を柔軟に解決できる能力を身に付ける。
- ・医療の高度化・多様化に対応した知識・技能を修得し、先駆的な教育・研究へ展開できる能力を身

に付ける。

上記のような教育理念、教育目的、教育目標のもとに、次のようなアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを掲げて教育を行っている。

〈アドミッションポリシー〉

1. 医学・健康科学を学びたい学生
2. 医療や保健、福祉の分野に貢献したい学生
3. 人の身体活動や精神・心理に興味がある学生
4. 人とのコミュニケーションを大切にする学生
5. 基本的なスタディースキルを有する学生
6. 様々な課題に対して前向きで柔軟に取り組むことができる学生
7. 地域社会や国際社会において障がい者等の支援や援助に関心のある学生

〈カリキュラムポリシー〉

1. リハビリテーションを実践するために必要な医学、医療、保健、福祉、行政などに関する知識の修得。
2. 人の身体的機能や精神心理、行動を深く理解できる幅広い教養の修得と心豊かな人格の育成。
3. 効果的なリハビリテーションの実践に必要な専門知識と確かな技術の修得。
4. リハビリテーションの実践にあたって生じる種々の課題に対して柔軟に対応・解決できる能力の修得。
5. チーム医療を担う一員として、様々な医療専門職者の役割の理解と円滑なコミュニケーションをもって連携・協力できる実践力の修得。
6. 医療の高度化や多様化に対応して、チーム医療を担う一員として関連分野と連携できる知識や技能の修得。
7. 先駆的な教育や研究へ展開できるための知識や能力の修得。
8. 生涯にわたって自己を練成できる能力の修得。
9. 多様な文化や価値観を理解し、地域的・国際的感覚および豊かな人間性の涵養。
10. 地域社会において、医療や福祉、教育など多様なニーズに応えることが出来る能力の修得。
11. 地域社会や国際社会において医療や福祉、教育などの分野でリーダーシップを発揮できる知識の修得と人間性の育成。

〈ディプロマポリシー〉

1. 本学部の規定のカリキュラムを修了する。
2. リハビリテーションを実践するために必要な医学、医療、保健、福祉、行政などの知識を修得し、人の身体的機能や精神心理・行動を深く理解する。
3. 効果的なリハビリテーションの実践に必要な専門知識と確かな技術を修得し、リハビリテーションの実践にあたって生じる種々の課題に対して柔軟に対応・解決できる能力を修得する。
4. チーム医療を担う一員として、様々な医療専門職者の役割や専門性を理解し、円滑なコミュニケーションをとって連携・協力できる総合的実践力を修得する。
5. 先駆的な研究・教育を展開できるための知識・技能および生涯にわたって自己を練成できる能力を修得する。
6. 地域社会において、医療や福祉、教育など多様なニーズに応えることが出来る能力を修得する。
7. 多様な文化や価値観を理解し、国際的感覚及び豊かな人間性を備え、人々の幸福と共生に奉仕す

る精神をもって行動する人間力を身に付ける。

iii) リハビリテーション学部の教育組織

学部長、理学療法学科長、作業療法学科長および教員の一覧は次のとおりである（表1～3）。

開学当初から本学の教育に運営に尽力された教員のうち、数人の教員が定年や転出などのため退職し、新たな教員を迎えて教育活動を行っている。

たいへん残念なことに、本学開学の準備からご尽力され、平成19年4月の開学と同時にリハビリテーション学部教授・学部長として着任され、学生指導や大学運営に貢献された土肥信之先生が平成24年11月4日にご病気のためご逝去されました。故土肥信之先生は、長年にわたる医療専門職者の育成や大学運営、リハビリテーション医学における学術研究などに大きなご功績を残されましたことにより、叙位正五位、叙勲瑞宝中綬章を受章されました。故土肥信之先生を偲んで平成24年12月22日に兵庫医療大学葬を本学オクタホールで行いました。

〈故土肥信之教授兵庫医療大学葬 式次第〉

黙祷

故土肥信之先生を偲ぶスライド上映

告別の辞（葬儀委員長 兵庫医療大学学長 松田暉）

功績顕彰（リハビリテーション学部長 藤岡宏幸）

弔辞

公益社団法人 日本リハビリテーション医学会 水間正澄 理事長（佐浦隆一理事代読）

公立大学法人県立広島大学 堂本時夫 学長補佐

藤田保健衛生大学医療科学部 金田嘉清 学部長

一般社団法人全国リハビリテーション学校協会 椿原彰夫 会長

兵庫医療大学リハビリテーション学部教授 川口浩太郎

弔電紹介

挨拶

献花

ここにあらためて故土肥信之先生のご功績と本学でのご指導に感謝の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

表1. 学部長学科長

	平成24年度	平成25年度
リハビリテーション学部長	藤岡 宏幸	藤岡 宏幸
理 学 療 法 学 科 長	藤岡 宏幸	玉木 彰
作 業 療 法 学 科 長	山崎せつ子	山崎せつ子

表 2. 理学療法学科教員一覧

職 位	氏 名	主な専門分野	在任期間
教 授	P.D. Andrew	運動学	平成19年 4 月 1 日～平成25年 3 月31日退職
教 授	川口浩太郎	運動器理学療法学・スポーツ理学療法学	平成19年 4 月 1 日～現在
教 授	玉木 彰	内部障害理学療法学	平成23年 4 月 1 日～現在
教 授	野崎 園子	神経内科学	平成20年 4 月 1 日～現在
教 授	日高 正巳	地域理学療法学	平成19年 4 月 1 日～現在
教 授	藤岡 宏幸	整形外科学	平成23年 1 月 1 日～現在
准教授	坂口 顕	物理療法学	平成19年 4 月 1 日～現在 (平成25年12月 1 日講師から准教授に昇任)
講 師	香川 真二	義肢装具学	平成20年 4 月 1 日～平成26年 3 月31日退職
講 師	塚越 累	バイオメカニクス	平成25年10月 1 日～現在
講 師	宮本 俊朗	運動学	平成25年 4 月 1 日～現在
講 師	森 明子	臨床運動学・神経系理学療法学	平成21年 4 月 1 日～現在
講 師	森沢 知之	内部障害理学療法学	平成21年 4 月 1 日～現在
講 師	山田 哲	バイオメカニクス	平成20年 4 月 1 日～平成25年 3 月31日退職

表 3. 作業療法学科教員一覧

職 位	氏名	主な専門分野	在任期間
教 授	土肥 信之	リハビリテーション医学	平成19年 4 月 1 日～平成24年11月 4 日退職
教 授	松井 徳造	精神医学	平成23年10月 1 日～現在
教 授	山崎せつ子	身体障害作業療法学	平成20年 4 月 1 日～現在
教 授	山田 大豪	精神障害作業療法学	平成19年 4 月 1 日～現在
准教授	伊藤 斉子	発達障害作業療法学	平成19年 4 月 1 日～現在
准教授	稲富 宏之	精神障害作業療法学	平成20年 4 月 1 日～平成25年 3 月31日退職
准教授	佐野 恭子	身体障害作業療法学	平成20年 4 月 1 日～現在 (平成25年 4 月1日講師から准教授に昇任)
講 師	有吉 正則	発達障害作業療法学	平成19年 4 月 1 日～現在
講 師	櫛邊 勇	身体障害作業療法学	平成19年 4 月 1 日～現在
講 師	坂本 浩	日常生活援助・精神障害作業療法学	平成21年 4 月 1 日～現在
講 師	坂本 利恵	老年期障害作業療法学	平成21年 4 月 1 日～現在
講 師	平上 尚吾	身体障害作業療法学	平成25年10月 1 日～現在
助 教	奥谷 研	精神障害作業療法学	平成21年 4 月 1 日～現在 (平成25年10月 1 日助手から助教に昇任)

iv) リハビリテーション学部の学生の受け入れ

理学療法学科および作業療法学科では、特色ある科目を開講し、学生が学習しやすいような環境作りや支援を行ってきた。兵庫医科大学および兵庫医科大学病院やささやま医療センターとの連携による臨床に密接した教育、国家試験の高合格率、および、良い就職先の確保などの本学の特色を、高校進路指導教員説明会、高校訪問による高校生へのガイダンスやオープンキャンパスなどを通じて広く周知することが、本学への受験生を増やす作用にも働いている。入試結果と試験科目を表 4～7 に示す。

両学科ともいずれの年度においても定員40名を超える入学者数を確保できている（表 8、9）。平成25年度入試からは理学療法学科でも作業療法学科と同様に一般入試前期B日程を行い一層の受験者数増加に努力している。

表 4. 平成25年度入試 リハビリテーション学部理学療法学科

	推薦入試 (専願公募制)	一般入試 (前期A)	一般入試 (前期B)	一般入試 (後期)	一般入試 (センター利用)
募集人員	10	20	6	2	2
志願者数	100	185	115	34	61
受験者数	100	182	115	34	60
合格者数	13	45	9	3	6
入学者数	13	26	3	2	0
試験科目	外国語、小論文、 調査書	外国語、数学、理科	外国語、数学	外国語、小論文、 理科	外国語、数学、国語、 理科

表 5. 平成25年度入試 リハビリテーション学部作業療法学科

	推薦入試 (専願公募制)	一般入試 (前期A)	一般入試 (前期B)	一般入試 (後期)	一般入試 (センター利用)
募集人員	15	13	8	2	2
志願者数	40	67	62	12	18
受験者数	40	65	62	12	18
合格者数	15	27	16	3	5
入学者数	15	20	5	3	3
試験科目	外国語、小論文、 調査書	外国語、国語、理科	外国語、数学	外国語、小論文、 理科	外国語、数学、国語

表 6. 平成26年度入試 リハビリテーション学部理学療法学科

	推薦入試 (専願公募制)	一般入試 (前期A)	一般入試 (前期B)	一般入試 (後期)	一般入試 (センター利用)
募集人員	10	20	6	2	2
志願者数	120	253	124	19	43
受験者数	120	250	124	18	42
合格者数	14	47	16	2	8
入学者数	14	23	5	2	1
試験科目	外国語、小論文、 調査書	外国語、数学、理科	外国語、数学	外国語、小論文、 理科	外国語、数学、国語、 理科

表 7. 平成26年度入試 リハビリテーション学部作業療法学科

	推薦入試 (専願公募制)	一般入試 (前期A)	一般入試 (前期B)	一般入試 (後期)	一般入試 (センター利用)
募集人員	15	13	8	2	2
志願者数	52	75	42	8	22
受験者数	51	75	41	7	22
合格者数	15	31	20	2	6
入学者数	15	18	12	2	1
試験科目	外国語、小論文、 調査書	外国語、国語、理科	外国語、数学	外国語、小論文、 理科	外国語、数学、国語

表 8. 平成24年度リハビリテーション学部学生数（平成24年 5 月 1 日時点）

学部・学科	学 年	学 生 数
リハビリテーション学部（理学療法学科）	1	44
	2	48
	3	46
	4	46
リハビリテーション学部（作業療法学科）	1	54
	2	45
	3	49
	4	46

表 9. 平成25年度リハビリテーション学部学生数（平成25年 5 月 1 日時点）

学部・学科	学 年	学 生 数
リハビリテーション学部（理学療法学科）	1	45
	2	44
	3	47
	4	45
リハビリテーション学部（作業療法学科）	1	46
	2	52
	3	50
	4	43

Ⅴ) リハビリテーション学部の教育活動

1) 学生指導および支援

理学療法学科および作業療法学科では、各学年 2 名の担任制度を設けるとともに学科会議を毎週行い、学業や生活に問題のある学生情報を共有して学生の支援・指導を行っている。学業や生活、進路などになんらかの不安を抱えている学生には個別に適切な対応を行った。

2) 国家試験

普段の授業においても国家試験を意識した指導を行うとともに、4 年生の後期には少人数のゼミ形式で教員が密着して指導を行っている。学部教員による集中講義の実施、全国模擬試験(年 4 回)や定期的な小テストによる学習状況の確認、学習が伸び悩む学生に対しては各教員が学生に合わせた補習を行った。国家試験直前の年末年始には、特に不安を抱える学生（約10名程度）に対して集中的に教員が指導を行った。このような支援は既卒者に対しても同様に行った。

リハビリテーション学部の国家試験合格率については表10および11に示す。

国家試験合格率の全国平均は、平成24年度が理学療法士88.7%、作業療法士77.3%で、平成25年度は理学療法士83.7%、作業療法士86.6%であったので、両学科とも高い合格率を確保することができた。

表10. 理学療法学科国家試験合格率

年 度	全 体			新 卒			既 卒		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
平成24年度	43	42	97.7%	43	42	97.7%	—	—	—
平成25年度	46	45	97.8%	45	45	100.0%	1	0	0%

表11. 作業療法学科国家試験合格率

年 度	全 体			新 卒			既 卒		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
平成24年度	46	44	95.7%	44	43	97.7%	2	1	50.0%
平成25年度	41	40	97.6%	39	38	97.4%	2	2	100.0%

3) 学生の進路

(1) 理学療法学科

平成24年度卒業生43名のうち41名が、平成25年度卒業生45名のうち45名全員が就職した。

卒業生の地域別就職先内訳を記す（表12）。平成25年度卒業生のうち3名は、卒業後直ちに兵庫医療大学大学院医療科学研究科に進学した。

表12. 平成24・25年度の理学療法学科卒業生の地域別就職先

	東京都	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	岡山県	就 職 計	卒業生 総 数
平成24年度	1	2	12	24	1	1	41	43
平成25年度	1	1	12	26	3	2	45	45

(2) 作業療法学科

平成24年度卒業生44名のうち43名が、平成25年度卒業生39名のうち37名全員が就職した。卒業生の地域別、領域別内訳を記す（表13）。平成24年度卒業生のうち1名は、卒業後直ちに兵庫医療大学大学院医療科学研究科に進学した。

表13. 平成24・25年度の作業療法学科卒業生の地域別就職先

	群馬県	千葉県	福井県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	岡山県	広島県	香川県	愛媛県	就職者 計	卒業生 総 数
平成24年度	0	0	1	1	7	29	2	0	1	1	1	43	44
平成25年度	1	1	0	3	9	22	0	1	0	0	0	37	39

vi) リハビリテーション学部の研究活動

(1) 研究費の取得状況

リハビリテーション学部における文部科学省科学研究費補助金および他機関などからの研究助成の獲得状況は表14—17のとおりである。これに伴って、教員の研究活動や大学院生の指導など学部全体の研究も活発になっており、教員が本学倫理審査委員会に申請して承認を受けた研究課題は、平成24年度22件（大学全体57件）、平成25年度15件（大学全体32件）であった。

表14. 平成24年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）

（太文字は本学部教員）

	研究種目	研究課題名	研究代表者	研究分担者
1	基盤研究（C）	在宅嚥下リハビリテーションのEBMの確立—高齢者の誤嚥性肺炎予防プログラムの構築	野崎 園子	道免 和久（兵庫医科大学） 芳川 浩男（兵庫医科大学） 石蔵 礼一（兵庫医科大学） 安藤久美子（兵庫医科大学）
2	挑戦的萌芽研究	関節拘縮予防のための安全な他動運動の実施に関する研究	日高 正巳	なし
3	若手研究（A）	微弱電流刺激のエビデンスを創造する	坂口 顕	なし
4	若手研究（B）	効果的な腸管運動促進手法の検討	森沢 知之	なし

表15. 平成24年度科学研究費 他機関から受ける研究分担金

（太文字は本学部教員）

	研究種目	研究課題名	研究代表者	研究分担者
1	基盤研究（C）	集団認知行動療法が統合失調症患者のセルフスティグマに及ぼす影響に関する研究	田中 悟郎（長崎大学）	稲富 宏之

表16. 平成25年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）

（太文字は本学部教員）

	研究種目	研究課題名	研究代表者	研究分担者
1	基盤研究（C）	要介護高齢者の嚥下障害と服薬方法に関する研究	野崎 園子	桂木 聡子（薬学部） 市村久美子（茨城県立医療大学）
2	若手研究（A）	微弱電流刺激のエビデンスを創造する	坂口 顕	なし
3	若手研究（B）	効果的な腸管運動促進手法の検討	森沢 知之	なし
4	若手研究（B）	患者講師による学内教育プログラムの開発に関する研究	森 明子	なし
5	研究活動スタート支援	骨格筋電気刺激による新たな糖尿病運動療法の確立	宮本 俊朗	なし

表17. 平成24・25年度 科学研究費以外の研究助成金

（太文字は本学部教員）

助成金名	研究課題名	研究代表者	研究分担者
平成24年度兵庫医療大学共同研究推進助成	物理療法の発展的可能性 — 神経因性疼痛予防に関する研究—	川口浩太郎	坂口顕、藤岡宏幸、山本悟史（薬学部）、戴毅（薬学部）、小暮洋子（薬学部）
平成24年度兵庫医療大学共同研究推進助成	在宅医療を支援する『モノ』と『コト』のインクルーシブデザイン研究（関節リウマチ者に対して作業療法士が作成・提供する自助具の使用状況と課題）	前田初男（研究責任者：佐野 恭子）	坂本利恵、坂本浩
平成25年度 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会研究助成（日本摂食・嚥下リハビリテーション学会）	パーキンソン病のメトロノームによる嚥下訓練 — 呼吸と嚥下の同期性に関する検討—	野崎 園子	道免和久（兵庫医科大学） 芳川浩男（兵庫医科大学）

助成金名	研究課題名	研究代表者	研究分担者
平成25年～26年度第2回杉浦地域医療振興助成（杉浦地域医療振興財団）	薬剤による摂食嚥下障害の実態調査と危険因子の分析	野崎 園子	桂木聡子（薬学部）
平成25年度理学療法にかかわる研究助成（公益社団法人日本理学療法士協会）	2型糖尿病患者における骨格筋機能を探る —NIRSを用いた骨格筋酸素動態の解析—	宮本 俊朗	渡邊航平、森谷敏夫

（2）研究セミナーの活動状況

平成22年度から毎年度「学校法人兵庫医科大学リハビリテーション関連施設合同セミナー」を開催している（表18）。学校法人兵庫医科大学内でのリハビリテーション医学・医療にかかわる医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などを中心に、法人内外から医療専門職者（参加者約200名）が意見交換を行うセミナーに発展している。

また、各教員の専門分野での活動も活発に行われ、会長として学術集会などを開催する教員や学術集会などで表彰される教員も増えてきている（表19、20）。リハビリテーション学部内における教員の教育・研究能力の向上及び、情報交換を行い教員の交流を深めるため、リハビリテーションセミナーを開催した。平成24年度は7回、25年度は10回開催された（表21、22）。

表18. 学校法人兵庫医科大学リハビリテーション関連施設合同セミナー

	開催日	場 所	特別講演	講師所属	講 師	一 般 演題数
第1回	平成23年 1月8日	兵庫医療大学	先端医療としてのリハビリテーション ～現状と今後の展望～	兵庫医科大学リハビリテーション医学教室 主任教授	道免和久	7
第2回	平成23年 9月3日	兵庫医科大学	東日本大震災とリハビリテーション —被災地の中の格差にどう立ち向かうか—	東北大学大学院医学系研究科障害科学専攻内部障害学分野 教授	上月正博	6
第3回	平成24年 9月8日	兵庫医療大学	臨床神経生理学とリハビリテーション	慶應義塾大学リハビリテーション医学医工連携担当 教授	木村彰男	6
第4回	平成25年 8月31日	兵庫医科大学	重症心不全治療の進歩とリハビリテーションの役割	兵庫医療大学名誉学長、公益財団法人神戸国際医療交流財団理事長	松田 暉	6

表19. 学術集会などの開催

学術集会名	日 時	会 長	開催場所
第2回日本基礎理学療法学会学術大会 テーマ「基礎から考える理学療法の現状と今後の展開」 「移植・再生医療と理学療法」	平成24年5月24日	玉木 彰	兵庫医療大学 オクタホール
第33回近畿作業療法学会 テーマ「グローバルな視点からみた日本の作業療法 —視野を広げると‘今’が違って見えてくる—	平成25年9月1日	山崎せつ子	兵庫医療大学 オクタホール

表20. 学術集会などでの表彰

学術集会	受 賞	タイトル	発表者（太文字は本学教員）
日本言語聴覚学会総会 （平成24年 6 月福岡）	第 3 回日本言語 聴覚研究優秀論 文賞	嚥下障害患者に対する随意咳嗽の空 気力学的測定と誤嚥の関連（言語聴 覚研究8(3); 131-138. 2011）	福岡達之、川阪尚子、 野崎園子 、 寺山修史、福田能啓、 道免和久
第32回近畿作業療法学会 （平成24年10月大阪）	学会長賞	高次脳機能障害者と家族の相互作用 に着目した支援の意義	佐野恭子
第61回日本心臓病学会学 術集会 （平成25年 9 月熊本）	Medical Staff Award	心臓外科手術後患者の退院前の身体 活動は生活活動量より歩行量、歩行 速度に特徴がある	高橋哲也、熊丸めぐみ、湯口聡、 大浦啓輔、齋藤正和、 森沢知之
第19回日本摂食嚥下リハ ビリテーション学術大会 （平成25年 9 月倉敷）	奨励賞	Chin-down肢位のバリエーションが 嚥下時の舌口蓋接触に及ぼす影響	福岡達之、 野崎園子 、小野高裕、 堀一浩、川阪尚子、荻野直子、 新宮正美、児玉典彦、 道免和久
第48回日本理学療法学術 集会 （平成25年11月名古屋）	優秀演題賞	心臓外科手術後リハビリテーション 進行における遅延因子の検討	森沢知之 、大浦啓輔、上坂建太、 加藤倫卓、齋藤正和、櫻田弘治、 澁川武、田原将之、花房祐輔、 湯口聡、高橋哲也
第17回日本病態栄養学会 （平成26年1月大阪）	会長賞	心不全患者における低Alb血症と心 臓リハビリテーションの関連	尾崎泰、堀田旭、 森沢知之 、 片岡豊、北谷直美、多田英司、 石井克尚、清野裕

表21. 平成24年度 リハビリテーション学部セミナー

	開催日	講師所属	講 師	演 題
第 1 回 （学部FD）	平成24年 6 月 7 日	本学講師	森 明子	患者講師による学内教育がもたらす教育的 効果について
第 2 回	平成24年 7 月 5 日	株式会社イマック	大内 淳平	靴型床反力測定装置の開発と下肢リハビリ テーションへの応用
第 3 回	平成24年 8 月 2 日	本学講師	櫛辺 勇	ハンドセラピーとの出会いと今
第 4 回	平成24年 9 月 6 日	本学准教授	稲富 宏之	精神科リハビリテーションにおける樹木画 を用いた評価
第 5 回	平成24年11月 1 日	本学准教授	伊藤 斉子	発達障害（自閉症スペクトラム、学習障害、 ADHD等）の補助診断法の開発に関する研究
第 6 回 （学部FD）	平成24年11月29日	千里リハビリテーショ ン病院 副院長	吉尾 雅春	認定・専門理学療法士の現状と今後
第 7 回 （学部FD）	平成25年 2 月 5 日	先端医療振興財団 専務理事	村上 雅義	医療産業都市神戸のトランスレーショナル リサーチ（基礎から臨床への橋渡し）

表22. 平成25年度 リハビリテーション学部セミナー

	開催日	講師所属	講 師	演 題
第 1 回	平成25年 4 月 5 日	福島県理学療法士会 会長	山口 和之	リハビリテーション専門職の未来のために
第 2 回	平成25年 5 月 2 日	本学准教授	佐野 恭子	高次脳機能障害者を有する家族に対する支援
第 3 回	平成25年 6 月 6 日	本学教授	日高 正巳	理学療法士教育研究に取り組んで
第 4 回	平成25年 7 月 4 日	本学講師	宮本 俊朗	Surface Electromyogram update
第 6 回	平成25年 9 月 5 日	本学教授	川口浩太郎	ユニバーシアード競技大会に帯同して
第 7 回	平成25年10月 3 日	本学講師	森沢 和之	効果的な腸管運動促進手法の検討

	開催日	講師所属	講 師	演 題
第 8 回	平成25年12月 5 日	本学講師	平上 尚吾	脳卒中片麻痺患者の立位姿勢制御に対してレーザーポインター課題が内包している効果
第10回 (学部FD)	平成26年2月26日	大阪市立大学医学研究 科神経精神医学講座 講師	宮脇 大	青年期における発達障害

vii) リハビリテーション学部の社会貢献などの活動

スポーツ大会などに関する活動

日本ホッケー協会情報・医・科学委員としてリハビリテーション学部理学療法学科の川口浩太郎教授、藤岡宏幸教授、坂口顕准教授が、さまざまな大会に帯同し、選手の健康管理や外傷に対する処置などを行った。これらの活動は社会貢献にもなるとともに、スポーツ医学の分野で活躍を希望する学生への教育にも反映されている。

- ・ホッケーアジアカップ2013（平成25年 8 月23～31日 マレーシア イポー）：日本代表チームフィジオとして坂口准教授が帯同した。
- ・第 3 回アジアチャンピオンズトロフィー（平成25年11月 2 ～10日 日本 各務原）：男子日本代表チームフィジオとして坂口准教授が帯同、本部医務班として川口教授が参加した。
- ・第27回ユニバーシアード競技大会（平成25年 7 月 6 ～17日 ロシア カザン）：女子日本代表チームにフィジオとして川口教授が帯同した。

広報活動および模擬授業など

理学療法士および作業療法士などの医療人の職業理解とリハビリテーション分野の専門性理解を目的として、高等学校におけるガイダンスや模擬授業などを行った。このような活動は、高校生の学習意欲の向上や将来の目標設定への一助になるものと期待される。次年度以降も、対象学年の拡大や内容の充実を図りながら、継続して開催する予定である。

表23. 平成24年度校内ガイダンス・模擬授業等一覧

平成24年度校内ガイダンス・模擬授業等一覧				
NO.	ガイダンス名称	開催日	分 類	担 当
1	兵庫県立北須磨高等学校	2012-04-19	模擬授業 / 3 年生	香川 真二
2	大阪府立豊島高等学校	2012-05-17	2 年生 / リハビリテーション分野別	奥谷 研
3	兵庫県立北須磨高等学校	2012-05-29	模擬授業 / 3 年生	有吉 正則
4	兵庫県立加古川北高等学校	2012-06-15	1 年生 / リハビリテーション分野別	日高 正巳
5	兵庫県立加古川南高等学校	2012-06-21	2 年生 / リハビリテーション分野別	香川 真二
6	兵庫県立北須磨高等学校	2012-06-21	3 年生 / リハビリテーション分野別	有吉 正則
7	兵庫県立尼崎北高等学校	2012-07-10	1 年生 / リハビリテーション分野別	稲富 宏之
8	神戸学院大学附属高等学校	2012-07-11	2 年生 / リハビリテーション分野別	伊藤 斉子
9	兵庫県立尼崎小田高等学校	2012-07-11	1 年生 / リハビリテーション分野別	有吉 正則
10	兵庫県立社高等学校	2012-07-12	2 年生 / リハビリテーション分野別	有吉 正則
11	プール学院高等学校	2012-07-17	1 年生 / リハビリテーション分野別	櫛辺 勇
12	兵庫県立尼崎稲園高等学校	2012-07-17	2 年生 / リハビリテーション分野別	坂本 浩
13	伊丹市立伊丹高等学校	2012-09-26	1 年生 / リハビリテーション分野別	櫛辺 勇

平成24年度校内ガイダンス・模擬授業等一覧				
NO.	ガイダンス名称	開催日	分 類	担 当
14	兵庫県立柏原高等学校	2012-10-02	模擬授業／3年生／2年生／1年生／リハビリテーション分野別	山崎せつ子
15	西宮市立西宮東高等学校	2012-10-03	1年生／2年生／リハビリテーション分野別	森 明子
16	兵庫県立篠山鳳鳴高等学校	2012-10-03	1年生／リハビリテーション分野別	坂本 利恵
17	大阪高等学校	2012-10-04	2年生／リハビリテーション分野別	有吉 正則
18	兵庫県立明石北高等学校	2012-10-11	1年生／リハビリテーション分野別	伊藤 斉子
19	兵庫県立東播磨高等学校	2012-10-22	模擬授業／2年生／リハビリテーション分野別	山崎せつ子
20	兵庫県立神戸甲北高等学校	2012-10-29	2年生／リハビリテーション分野別	坂本 浩
21	大阪府立旭高等学校	2012-11-01	模擬授業／2年生／リハビリテーション分野別	奥谷 研
22	兵庫県立神戸鈴蘭台高等学校	2012-11-14	模擬授業／2年生／リハビリテーション分野別	山田 大豪
23	兵庫県立山崎高等学校	2012-11-16	模擬授業／2年生／リハビリテーション分野別	坂本 利恵
24	兵庫県立明石西高等学校	2012-11-26	2年生／リハビリテーション分野別	稲富 宏之
25	兵庫県立明石南高等学校	2012-12-12	2年生／1年生／リハビリテーション分野別	稲富 宏之
26	兵庫県立高砂南高等学校	2012-12-12	1年生／リハビリテーション分野別／職業理解	有吉 正則
27	兵庫県立須磨東高等学校	2012-12-14	1年生／リハビリテーション分野別	佐野 恭子
28	兵庫県立三田西陵高等学校	2012-12-17	2年生／リハビリテーション分野別	坂本 利恵
30	兵庫県立淡路三原高等学校	2012-12-20	2年生／リハビリテーション分野別	坂本 浩
31	兵庫県立三木北高等学校	2013-02-06	2年生／リハビリテーション分野別	坂本 浩
32	兵庫県立舞子高等学校	2013-03-05	1年生／リハビリテーション分野別	有吉 正則
33	兵庫県立西脇高等学校	2013-03-07	2年生／リハビリテーション分野別	奥谷 研
34	兵庫県立福崎高等学校	2013-03-08	模擬授業／2年生	坂本 浩
35	兵庫県立高砂南高等学校	2013-03-08	模擬授業／1年生／看護・医療系	有吉 正則
36	兵庫県立津名高等学校	2013-03-12	模擬授業／2年生／1年生	山田 大豪
平成24年度高大連携活動・体験実習等一覧				
NO.	ガイダンス名称	開催日	分 類	担 当
1	兵庫県立伊丹西高等学校	2012-05-10	1年生／高大連携	奥谷 研
2	帝塚山学院高等学校	2012-05-26	1年生／リハビリテーション分野別／高大連携	香川 真二
3	兵庫県立東灘高等学校	2012-05-29	高大連携	櫛辺 勇
4	大阪高等学校	2012-07-20	本学（高校直接依頼分）	佐野 恭子
5	兵庫県立社高等学校	2012-07-23	施設見学（学校説明含む）／体験実習	坂本 浩
6	兵庫県立伊丹西高等学校	2012-07-30	1年生／高大連携／体験実習	日高 正巳・ 櫛辺 勇
7	県立伊丹北高校	2012-10-23	模擬授業／1年生	坂本 浩
8	兵庫県立伊丹西高等学校	2012-11-06	2年生／リハビリテーション分野別／高大連携	香川 真二
9	帝塚山学院高等学校	2012-11-24	1年生／リハビリテーション分野別／高大連携	香川 真二
10	神戸市立神港高等学校	2012-12-12	2年生／施設見学（学校説明含む）／体験実習	伊藤 斉子
11	兵庫県立加古川南高等学校	2012-12-18	1年生／施設見学（学校説明含む）／体験実習	櫛辺 勇

表24. 平成25年度校内ガイダンス・模擬授業等一覧

平成25年度（2013年度）校内ガイダンス・模擬授業等一覧				
NO.	ガイダンス名称	開催日	分類	担 当
1	神戸市立須磨翔風高等学校	2013-04-24	2年生/リハビリテーション分野別	奥谷 研
2	兵庫県立北須磨高等学校	2013-05-15	3年生/リハビリテーション分野別	香川 真二
3	兵庫県立加古川北高等学校	2013-05-31	1年生/リハビリテーション分野別	伊藤 斉子
4	兵庫県立北須磨高等学校	2013-06-12	3年生/リハビリテーション分野別	有吉 正則
5	兵庫県立東灘高等学校	2013-06-18	2年生/リハビリテーション分野別	坂本 利恵
6	兵庫県立加古川北高等学校	2013-06-26	学校別/3年生	山崎せつ子
7	兵庫県立北須磨高等学校	2013-06-26	3年生/リハビリテーション分野別	有吉 正則
8	兵庫県立東播磨高等学校	2013-06-28	2年生/リハビリテーション分野別	坂本 浩
9	兵庫県立明石北高等学校	2013-07-09	3年生/リハビリテーション分野別	森 明子
10	兵庫県立三田西陵高等学校	2013-07-10	1年生/リハビリテーション分野別/職業理解	坂口 顕
11	兵庫県立神戸甲北高等学校	2013-07-11	2年生/リハビリテーション分野別	奥谷 研
12	兵庫県立尼崎北高等学校	2013-07-11	1年生/リハビリテーション分野別	有吉 正則
13	兵庫県立宝塚高等学校	2013-07-18	2年生/リハビリテーション分野別	佐野 恭子
14	兵庫県立伊丹高等学校	2013-09-05	2年生/リハビリテーション分野別	坂本 利恵
15	兵庫県立明石北高等学校	2013-09-27	1年生/リハビリテーション分野別	佐野 恭子
16	兵庫県立尼崎稲園高等学校	2013-09-30	1年生/リハビリテーション分野別	佐野 恭子
17	兵庫県立柏原高等学校	2013-10-04	1年生/2年生/3年生/リハビリテーション分野別	山崎せつ子
18	兵庫県立伊丹西高等学校	2013-10-08	2年生/リハビリテーション分野別	有吉 正則
19	兵庫県立篠山鳳鳴高等学校	2013-10-09	模擬授業/2年生/リハビリテーション分野別	櫛辺 勇
20	兵庫県立尼崎小田高等学校	2013-11-06	2年生/1年生	有吉 正則
21	兵庫県立赤穂高等学校	2013-11-12	2年生/1年生/模擬授業	奥谷 研
22	兵庫県立八鹿高等学校	2013-11-14	2年生/1年生/リハビリテーション分野別	奥谷 研
23	姫路市立姫路高等学校	2013-11-21	模擬授業/2年生/リハビリテーション分野別	日高 正巳
24	神戸学院大学附属高等学校	2013-11-27	1年生/リハビリテーション分野別	有吉 正則
25	兵庫県立三木東高等学校	2013-12-11	1年生/リハビリテーション分野別/職業理解	佐野 恭子
26	兵庫県立有馬高等学校	2013-12-11	2年生/リハビリテーション分野別	坂本 浩
27	兵庫県立伊丹高等学校	2013-12-12	1年生/リハビリテーション分野別	奥谷 研
28	兵庫県立高砂南高等学校	2013-12-16	1年生/リハビリテーション分野別	坂本 浩
29	兵庫県立加古川北高等学校	2013-12-17	2年生/1年生/リハビリテーション分野別	坂本 浩
30	兵庫県立高砂高等学校	2013-12-17	2年生/リハビリテーション分野別	山田 大豪
31	兵庫県立川西北陵高等学校	2013-12-17	模擬授業/2年生/リハビリテーション分野別	山崎せつ子
32	兵庫県立淡路三原高等学校	2013-12-20	2年生/リハビリテーション分野別	坂本 利恵
33	兵庫県立篠山鳳鳴高等学校	2014-01-22	1年生/リハビリテーション分野別	坂本 浩
34	兵庫県立西宮南高等学校	2014-03-05	2年生/リハビリテーション分野別	坂本 浩
35	兵庫県立明石清水高等学校	2014-03-05	2年生/1年生/リハビリテーション分野別	宮本 俊朗
36	兵庫県立明石南高等学校	2014-03-06	1年生/リハビリテーション分野別	奥谷 研
37	兵庫県立西宮甲山高等学校	2014-03-19	1年生/リハビリテーション分野別	平上 尚吾

平成25年度 高大連携活動・体験実習等一覧				
NO.	ガイダンス名称	開催日	分類	担 当
1	兵庫県立伊丹西高等学校	2013-06-06	1年生/高大連携	有吉 正則
2	帝塚山学院高等学校	2013-06-15	1年生/高大連携	香川 真二
3	帝塚山学院高等学校	2013-06-22	1年生/高大連携	有吉 正則
4	兵庫県立伊丹西高等学校	2013-07-29	1年生/高大連携/体験実習	坂本 浩
5	兵庫県立明石西高等学校	2013-09-27	2年生/看護・医療系/施設見学(学校説明含む) /体験実習	森沢 知之
6	兵庫県立伊丹北高等学校	2013-10-23	1年生/看護・医療系/体験実習	伊藤 斉子
7	兵庫県立伊丹西高等学校	2013-11-05	1年生/高大連携	香川 真二
8	兵庫県立福崎高等学校	2013-12-13	1年生/看護・医療系/体験実習	坂本 浩
9	帝塚山学院高等学校	2014-01-11	1年生/高大連携	香川 真二

4) 共通教育センター

i) 共通教育センターの概要

共通教育センターは、薬学部、看護学部、リハビリテーション学部の基礎教育及び一部の専門基礎教育を担当し、また兵庫医科大学医学部との教育連携を図る目的で、本学の教育の中心的理念であるボーダレス教育を支える部署として開学時に設けられた。平成24～25年度は磯博行教授が3代目のセンター長を務めた。

本学の卒業生が将来、医療チームの一員として心の通った医療を提供するためには、それぞれの患者を理解できる人間性、社会人としての常識が必要である。また、高度化する医療技術と複雑化する各種疾病に対応するために、医療専門職者は自分の担当領域のみならず、幅広い知性を備えることが求められている。こうした素養を身につけるため、自然科学、人文科学、語学、スポーツ健康科学など多彩な基礎科目とともに、幾つかの専門基礎科目の学びを支えるのが「共通教育センター」の役目である。

本学では、開学以来、各学部での専門教育に加えて、学内の学部の枠を超えた連携教育を行っている。また、兵庫医科大学およびその関連施設と連携して、病態や治療に関する知識を教育するとともに、実習を通じて実践に役立つ医療人の育成を行っている。すなわち3学部合同、さらには兵庫医科大学医学部をも交えた4学部合同で学ぶチーム医療関連科目及び合同実習・演習・討論・発表会のコーディネートなど、医療系総合大学である本学の最大の特徴であるボーダレスな教育体制を整えることも共通教育センターの役割である。

ii) 教員組織

開学当初から本学の教育・運営に尽力された教員のうち、定年のため、平成24年度末に2名、平成25年度末に1名の教員が退職された。一方、平成25年度より後任として2名の教員が着任した。また平成24年度、学生支援の強化および医科大学との連携教育充実のために学長留保定員として2名の教員が追加された。平成25年度末の時点で共通教育センターは12名の教員にて教育活動を行っている。

共通教育センターの専任教員の一覧は下表のとおりである。

職 位	氏 名	専門分野	在任期間
教 授	磯 博行	心 理 学	平成19年4月1日～平成26年3月31日退職
教 授	末廣 謙	内 科 学	平成19年4月1日～現在
教 授	磯部 孝彦	化 学	平成19年4月1日～平成25年3月31日退職
教 授	藤田 幸久	物 理 化 学	平成19年4月1日～平成25年3月31日退職
教 授	伊東 久男	解 剖 学	平成19年4月1日～現在
教 授	秦 正哲	英語教育学	平成19年4月1日～現在
教 授	柏村信一郎	生 物 学	平成24年9月1日～現在
准教授	加藤 精一	物 理 学	平成19年4月1日～現在(平成25年1月1日准教授から教授に昇任)
准教授	紀平 知樹	倫 理 学	平成21年4月1日～現在
准教授	芝崎 誠司	化 学	平成25年4月1日～現在
講 師	賀屋 光晴	体 育	平成19年4月1日～現在(平成25年1月1日講師から准教授に昇任)
講 師	福田 範子	英 文 学	平成19年4月1日～現在
講 師	常見 幸	内 科 学	平成24年7月1日～現在
講 師	西田喜平次	統 計 学	平成25年4月1日～現在

iii) 教育活動

共通教育センターとして、前頁の表に示した12名の常勤専任教員及び30名以上の非常勤講師が全学部の基礎教育科目と一部の専門基礎科目を担当している。共通教育センターの教育の特徴は、授業体系で可能なものについては、ボーダレスな環境で実施する、つまり3学部合同で教育を行う点である。センターが主として対象とする学生は、第1学年次の学生であるが、後記のように一部は高学年次の学生も対象としている。

また平成25年度には、大学教育に求められるコミュニケーション力、総合学習力、社会人としての能力と生涯学習能力の育成を踏まえ、医療人にとって必要な基礎教育の充実を図るために、全学部共通科目の全面的な見直しを検討し、教育課程の変更を行った。この変更での重点項目は、以下の5点である。

- (1) 高校教育から大学教育につなげるための導入教育の強化
- (2) 日本語の読み書き及びIT能力育成のためのアカデミックリテラシー科目の新設
- (3) 実践的な語学能力育成のための新教育プログラムの導入
- (4) 早期臨床体験実習の重視
- (5) チーム医療教育におけるチュートリアル導入による自学自習科目の増設

以下、各要点について概説する。

(1) 高校教育から大学教育につなげるための導入教育の強化

平成24年度までは、高等学校で理系科目の未履修者への支援科目として薬学部においてのみ、「物理学入門」と「生物学入門」が開講されてきた。平成25年度のカリキュラム改訂において、導入教育科目を全学部に提供し、科目の種類も「数理科学入門」「生物学入門」「化学入門」「計算演習」と自然科学の学びの基礎学力涵養のために、全分野をカバーするように整備した。

(2) 日本語の読み書き及びIT能力育成のためのアカデミックリテラシー科目の新設

アカデミックリテラシーは今回のカリキュラム改訂において新たに開設された科目であり、紀平准教授が科目責任者として、共通教育センター教員全員、さらには各学部からも一部の教員の協力を得て、第1学年次前期金曜日の午後に全学部合同で実施された。その教育目標は①将来の医療人としての勉学への動機づけ②社会生活に必要なマナーの理解③情報検索の方法の理解④作文とレポートの違いの理解⑤情報機器による情報伝達手段、表現手法の基礎の習得⑥情報機器やインターネットのしくみの理解⑦他人との議論を通じた問題探究の手法の習得等である。下表に平成25年度の本授業のスケジュール等を示す。

月日	時限	内 容	主担当	グループ	使用場所	担当教員
4月12日	3	大学生活の基本	磯	1	オクタホール	センター教員
	4	大学で学ぶ意味を考える	紀平	1	オクタホール	
4月19日	3	情報リテラシー	加藤	2	情報処理演習室	センター教員
	4	図書館の利用法	津田	当日決定	図書館	
4月26日	3	情報検索の実践	加藤	2	情報処理演習室	センター教員、山脇、福井、中村
	4	図書館利用の実践	津田	当日決定	図書館	
5月10日	3	Word/Excelの利用法	加藤	2	情報処理演習室	センター教員、山脇、福井、中村
	4	ノートテイキング	紀平	15	カンファレンス	
5月17日	3	Word/Excelの利用法	加藤	2	情報処理演習室	センター教員、山脇、福井、中村
	4	文章を読む	紀平	15	カンファレンス	

月日	時限	内 容	主担当	グループ	使用場所	担当教員
5月24日	3	レポートを書く (1)	紀平	30	カンファレンス	センター教員、各学部教員、 山脇、福井、中村
	4	レポートを書く (2)	紀平	30	カンファレンス	
5月31日	3	レポートを書く (3)	紀平	30	カンファレンス	センター教員、各学部教員、 山脇、福井、中村
	4	レポートを書く (4)	紀平	30	カンファレンス	
6月7日	3	レポートの講評と評価	加藤	2	情報処理演習室	センター教員、各学部教員、 山脇、福井、中村
	4	PowerPointの使用法	紀平	15	カンファレンス	
6月14日	3	LTDの説明	鈴木	1	オクタホール	センター教員、各学部教員、 山脇、福井、中村
	4	議論する	紀平	30	カンファレンス	
6月21日	3	議論する	紀平	30	カンファレンス	センター教員、各学部教員、 山脇、福井、中村
	4	議論する	紀平	30	カンファレンス	
6月28日	3	グループワーク発表会	紀平	1	オクタホール	センター教員、各学部教員、 山脇、福井、中村
	4					
7月5日	3	議論する (1) シナリオ提示	紀平	30	カンファレンス	センター教員、各学部教員、 山脇、福井、中村
	4	議論する (2)	紀平	30	カンファレンス	
7月12日	3	議論する (3)	紀平	30	カンファレンス	センター教員、各学部教員、 山脇、福井、中村
	4	議論する (4)	紀平	30	カンファレンス	
7月19日	3	グループワーク発表会	紀平	1	オクタホール	センター教員、各学部教員、 山脇、福井、中村
	4					
7月26日	3	まとめ	紀平	1	オクタホール	センター教員、各学部教員、 山脇、福井、中村
	4	ECEガイダンス	末廣	1	オクタホール	

担当教員

共通教育センター専任教員：紀平、末廣、磯、伊東、秦、加藤、柏村、芝崎、賀屋、福田、常見、西田

共通教育センター非常勤講師：山脇、福井、中村

薬学部：大河原、清水、是金

看護学部：鈴木

リハビリテーション学部：川口、日高、坂本（浩）

(3) 実践的な語学能力育成のための新教育プログラムの導入

第1学年次前期には全学部共通として「基礎英語」を開講し、英語発音、文法、異文化理解等、英語の基礎力の涵養にあてた。また第1学年次後期には全学部共通として「英語会話」を開講し、国際人として実践に役立つ会話力を身につけることを目的として、外国人講師を中心として少人数クラスでの教育を実施した。学生個々の英語力に添った教育を行うために、入学直後にTOEIC Bridgeテストを実施し、学部混成の能力別クラス分けを行い、個々の学生のレベルに合った教育を実施した。第二外国語は、近年の東アジアとの密接な交流を視野に入れ、「中国語」と「韓国語」を全学部共通の科目として提供した。

(4) 早期臨床体験実習の重視

医療専門職としての知識や技術を習得するにあたり、医療の実際に直接触れることによって、入院患者の生活や看護業務の現状、病院各部署の機能を知り、医療者としての自覚を培い、勉学のモチベーションを高揚させることを目指し、3学部4学科の学生の混成グループを編成し、夏期休暇

前の1週間（平成24年度は8月6日から11日の6日間、平成25年度は8月5日から10日の6日間）、兵庫医科大学病院（各病棟・薬剤部・リハビリテーション部）において早期臨床体験実習を実施した。この実習は平成24年度までは「医療科学概論」の一部の授業とされていたが、25年度より「早期臨床体験実習」と名称を新設し、新しい実習系科目（1単位）として独立させた。

(5) チュートリアル教育を導入したチーム医療教育の実施

全学部混成の合同教育は、本学のモットーである「チーム医療」教育を支える中心となっている。チーム医療に関する教育は、センターが主として対象とする初年次においてのみならず、第2学年次、及び第4学年次においても実施しており、第1学年次と第4学年次においては、3学部に加えて姉妹校である兵庫医科大学医学部生も加えた4学部合同で行われている。将来の薬剤師・看護師・理学療法士・作業療法士・医師が一同に会し、同一の課題症例について、それぞれの視点から調査・討論・発表するという、他職種候補生との交流を含めてチーム医療の学びを様々な段階でレベルにあわせて経験できる、日本でもあまり類を見ない教育を展開している。以下、兵庫医科大学との連携授業である第1学年次の「合同チュートリアル」と第4学年次の「チーム医療論演習（チュートリアル）」の概要を示す。

第1学年次対象の4学部合同チュートリアル教育の実施

平成24年度は9月20日・21日に、平成25年度は9月17日・18日に、本学において、兵庫医科大学第1学年次と本学の第1学年次を対象に合同チュートリアルを行った。4学部混成の60グループを午前と午後に分け、両大学の合計480～490名の学生がディスカッションボードを用いて、小グループで討議し、さまざまな問題点毎にグループ単位でレポート提出する形式で行った。また短時間ではあったが、発表会も開催した。学生にとっては、授業でまだ扱っていない臨床症例について自分たちで調査し検討することを通して、また延命治療の可否などの倫理的問題も含めて、学部の垣根を越えた意見交換の機会となる教育企画であった。

第4学年次対象の4学部合同チーム医療論演習（チュートリアル）の実施

平成24年度は9月10日から14日、平成25年度は9月9日から13日のそれぞれ5日間にわたり、西宮キャンパスにおいて兵庫医科大学第3学年次と本学第4学年次を対象に合同のチーム医療論演習を行った。参加した医学部の3年次の学生はすでに臨床系の知識を授業で学んでおり、薬学部・看護学部・リハビリテーション学部の4年次の学生は、すでに臨床での実習を病院等で経験している。それぞれの学生がチュートリアル形式で症例の問題解決を一緒に考え、実践に即した検討が行われた。この授業を通じて短期間ではあるが、将来一緒に働く医療人としてお互いを意識し、チーム医療について更に深く考える良き機会となった。

iv) 研究活動

(1) 研究費の取得状況

共通教育センターにおける文部科学省科学研究費補助金の採択状況は、平成24年度が1件、総額1,200,000円、平成25年度が3件、総額3,600,000円であった。詳細は、4. 研究活動の状況 6) 学外研究費の取得一覧の項（131～136頁、表1～8参照）に掲載する。

(2) 学術講演会

学術講演会は、学内教職員が最新の知見を習得する目的で年4回開催され、そのうちの2回は学部輪番制となっており、共通教育センターは平成25年度の第2回学術講演会を以下のとおり担当した。

開催日	講演テーマ	講 師	参加数
平成25年10月31日（木）	タンパク質多項目同時測定法	柏村信一郎	26名

v) 社会貢献などの活動状況

公開講座・特別講演会・出前授業など

平成24年度および平成25年度、ポアアイ4大学連携事業（公開講座等）、特別講演会及び出前授業等を以下の通り担当した。

平成24年度

開催日	講演テーマ・活動テーマ	担当者	対象者 参加数
平成24年5月11日（金）	出前授業「子どもの知的好奇心をくすぐる体験授業」 （京都府立大江高等学校）	加藤 精一	高校生
平成24年5月15日（火）	出前授業 （福知山市立豊富小学校）	加藤 精一	小学生
平成24年5月21日（月）	金環日食観望会講師 （神戸市立青少年科学館）	加藤 精一	小学生 中学生
平成24年7月1日（日）	臨床心臓病学研究セミナー「心肺トレーニングからロコモ対策へ：家庭で手軽にできる運動―体幹を中心に腕・脚を鍛える―」	賀屋 光晴	一般
平成24年7月6日（金）	全国同時七夕講演会「太陽活動と地球、そして人類」	加藤 精一	一般
平成24年9月24日（月）	運動部活動指導者総会「運動中の事故に対する対応」	賀屋 光晴	教員 指導者
平成24年10月13日（土）	神戸astroクラブ講演「太陽活動とその影響」 （神戸市立青少年科学館）	加藤 精一	小学生 中学生
平成24年10月14日（日）	コズミックカレッジ・ファンダメンタルコース講演 「太陽活動とその影響」 （神戸市立青少年科学館）	加藤 精一	小学生 中学生
平成24年10月23日（火）	出前授業 （福知山市立庵我小学校）	加藤 精一	小学生
平成24年11月1日（木）	出前授業 （南丹市立殿田小学校）	加藤 精一	小学生
平成25年3月16日（土）	兵庫医療大学公開講座「身近な健康づくり～毎日の正しい入浴法・温泉の楽しみ方など～」	常見 幸	一般 99名

平成25年度

開催日	講演テーマ・活動テーマ	担当者	対象者 参加数
平成25年7月12日（金）	全国同時七夕講演会「宇宙の大きさ」	加藤 精一	一般
平成25年8月8日（木）	中学校教員武道・ダンス指導力向上事業「体育実技における事故の防止について」「安全で楽しく取組める柔道の授業に向けて」	賀屋 光晴	中学校 教員
平成25年10月8日（火）	出前授業 （大山崎町立第二山崎小学校）	加藤 精一	小学生
平成25年10月21日（月）	阪神地区運動部活動指導者講習会「運動部活動における効果的なトレーニングと安全対策」「運動部活動におけるケガの予防と応急処置」	賀屋 光晴	教員 指導者
平成25年10月31日、12月27日、平成26年1月24日、2月6日	禁煙キャンパス地区を目指した禁煙支援活動の実践「クリーンなキャンパス地区を目指して～ボイ捨て吸殻収集活動」	賀屋 光晴	一般 65名
平成25年12月14日（土）	スポーツ講習会「レクリエーションスポーツを体験しよう！」	賀屋 光晴	一般

5) 医療人育成センター

i) 概要

医療人育成センターは、兵庫医療大学3学部学生、兵庫医科大学病院での実習の活動拠点としての機能を果たすとともに、医学部学生の実習支援、臨床研修医・新人看護師の実践能力向上研修及び学外からの看護実習生を受入れ支援を行うなど、学校法人兵庫医科大学における医療人育成への幅広い取り組みを実施している。また、他大学薬学部学生の実習支援に加え、兵庫医療大学大学院生への講義支援も実施している。

本センターは、平成25年9月30日に1号館4階へ移転した。また、平成25年7月31日付をもって、公益社団法人日本看護協会の認定看護師教育課程手術看護分野の設置が認可され、平成25年10月15日より開講し、翌年3月28日に研修生30名全員が本課程を修了した。

ii) 活動支援の内容

① 兵庫医療大学・兵庫医科大学連携教育及び学生教育への支援

- ・早期臨床体験実習、チーム医療演習（チュートリアル教育）、エスコート実習、レベル選択科目アップ、プレクリニカル教育等の指導等を一部担当

② 学生実習の支援・調整

③ 兵庫医科大学病院における臨床研修医、看護師の研修受入れ

④ 研修等の支援及びセンター見学

- ・シミュレータ貸出 : 1,921件
- ・相談 : 10人
- ・見学 : 304人（看護師募集に係る病院見学者への施設紹介）

iii) 活動実績

表1. 平成24年度学生実習等の支援受入者数

(単位: 人)

兵庫医療大学		兵庫医療大学大学院		兵庫医科大学		他大学等	
学部等	延人数	研究科	延人数	学部	延人数	学部等	延人数
薬学部	2,462	看護学研究科	20	医学部	2,495	神戸学院大学等 薬学部等	581
看護学部	5,054	—	—	—	—	—	—
リハビリテーション 学部理学療法学科	797	—	—	—	—	—	—
リハビリテーション 学部作業療法学科	154	—	—	—	—	—	—

表2. 平成25年度学生実習等の支援受入者数

(単位: 人)

兵庫医療大学		兵庫医療大学大学院		兵庫医科大学		他大学等	
学部等	延人数	研究科	延人数	学部	延人数	学部等	延人数
薬学部	2,459	看護学研究科	62	医学部	1,381	神戸学院大学等 薬学部等	678
看護学部	4,625	—	—	—	—	—	—
リハビリテーション 学部理学療法学科	800	—	—	—	—	—	—
リハビリテーション 学部作業療法学科	201	—	—	—	—	—	—

6) 臨床薬学研修センター

i) 概要

臨床薬学研修センターは、M棟の1階（M-105）と2階（M-205）に位置しており、保険薬局や病院薬局における薬剤師業務を模擬的に演習・実習できるように設置された施設である。

施設の構成は、学生が臨場感をもって臨床現場での薬剤師業務の実習ができるように、室内デザイン、設置機器及びシステムなどに工夫が施されており、調剤はもちろんのこと服薬指導やバイタルチェックなどの実習も可能になっている。

本センターは、実務実習事前学習の実習室として中心的な役割を果たしているほか、第4学年次に受験する全国統一薬学共用試験（OSCE）の試験会場の一部に充てている。さらに、学内のゼミナールや地域の薬剤師関連研修施設としても活用している。施設の主な構成と機能を表1・2に示す。

表1. M-105臨床薬学研修センター（311㎡）

室 名	主な設備機器・システム等	機 能
服薬指導室 (薬局カウンター)	一般用医薬品陳列棚、薬歴・調剤報酬算定システム 他	薬局カウンターでの患者対応の実習
調剤実習室	散剤調剤台（監査システム付）、水剤調剤台、錠剤・外用剤調剤台、薬剤監査台、処方オーダーリングシステム、薬剤一包化システム 他	計数・計量調剤実習
クリニカルトレーニング室	血圧・採血シミュレーター、バイタルシミュレーター、がん化学療法シミュレーター（リクライニングチェア・輸液ポンプ）、視聴覚教育コーナー 他	薬剤監査・交付実習、バイタルサイン実習、視聴覚教育
無菌調製室 (前室、手洗い設備付属)	更衣ロッカー、パスボックス、エアシャワー、クリーンベンチ、安全キャビネット 他	手洗い実習、無菌薬剤（注射薬）調製実習

表2. M-205臨床薬学研修センター（311㎡）

室 名	主な設備機器・システム等	機 能
医薬品情報演習室	パソコン27台（外部アクセス可能）、液晶プロジェクター 他	薬剤情報検索実習
模擬薬局・病室	患者面談デスク16台、病室ベッド3台 他	服薬指導実習 (薬剤管理指導)
TDM・製剤実習室	高速液体クロマトグラフ、蛍光分光光度計、蒸留水製造装置、リーンベンチ、崩壊試験器、人工気象器、アンプル熔閉機 他	薬物血中濃度測定実習、院内製剤・薬局製剤調製実習、品質試験実習
実習準備室	薬品庫、保冷库、実習材料 他	実習準備

実務実習支援室は、近畿地区調整機構での近畿地区の薬学部・薬科大学生の実務実習である病院や薬局の振り分け作業の準備・補助、実習施設との契約業務等を主業務としつつ、（標準）模擬患者SPの養成に係る事務、OSCE試験における事務作業や謝金処理等も担当する組織である。

ii) 薬学共用試験・OSCE

平成24年度OSCEは、平成24年12月24日（月・祝）に実施した。OSCE委員会を5月10日に立ち上げ、SP（標準模擬患者）委員会とも連携を取りながら準備にあたった。試験当日まで4回のOSCE委員会を開催し、前年度までの運用方式を継承しつつ、効率的な運営ができるように検討を加えた。本年度の大きな変更点としては、受験生の動線を片流れ方式からローテーション方式へ変更したことであ

る。この方式への変更により、より効率的な時間配分が可能になり、試験時間の短縮が可能となった。その結果、本試験当日に2回目の直前講習会も開催することも可能となった。ローテーション方式への変更により、学生の動線は一部複雑になったが、薬学部教員によるシミュレーションの実施等により、大きな混乱も無く無事に本試験が実施された。受験生：薬学部4年次生138名、評価者：97名（学内評価者18名、学外評価者79名）、標準模擬患者：26名、補助者：教員32名、事務職員22名、学生補助者68名で実施した。薬学共用試験センターからモニター員として京都大学薬学部・栄田敏之 教授が派遣され無事に終了した。終了後の講評でも大きな問題点の指摘は無く、公正な試験が実施できているとの総評であった。受験生138名は、本試験当日において欠席・遅刻なく無事に全員受験した。判定基準は薬学共用試験センター基準に準拠して行った。その基準は、課題単位で判定し、次の2項目を満足した受験生を合格と判断し、不合格者はその課題の再試験を受けることとした。1)細目評価：各課題の評価項目について、評価者が「1：はい」と評価した項目数につき、評価者2名の合計平均70%以上、2)概略評価：各課題の概略評価について、評価者2名の合計値が「5」以上。試験結果は、12月27日薬学部OSCE判定会議にて受験者全員が合格と判定され、1月9日共用試験センターへの試験結果報告をもって合格率100%が確定した。

今後の課題として、評価の課題移動のインターバルが10分と長かったとの指摘、試験場内での時間表示が少なかった等の問題点が評価者アンケートから指摘された。また、次年度以降の本試験実施日の設定において12月第1日曜日への移行準備が挙げられた。また、追再試験日においても学内行事との調整が指摘された。

平成25年度OSCEは、平成25年12月1日（日）に実施した。本年度より従来12月第4日曜日を基軸に実施していた試験日を12月第1日曜日に変更することとなった。これには評価者として協力いただいている薬剤師会、病院薬剤師会、兵庫県下の薬学部を有する大学の協力・承認を得て、実施日の変更を行った。OSCE委員会は7月10日に薬学部教授会で承認を得て立ち上げ、SP（標準模擬患者）委員会とも連携を取りながら準備にあたった。試験当日まで3回のOSCE委員会を開催し、前年度までの運用方式を継承しつつ、効率的な運営ができるように検討を加えた。本年度の大きな変更点としては、昨年度までは受験生を3グループに分けて試験を実施していたが、受験生の減少もあって2グループに分けた試験を実施したことである。この変更により、より効率的な試験実施が可能となり、試験時間短縮により受験生の待ち時間での精神的負担の軽減が得られたと共に、評価者に対しても時間的負担の軽減ができた。また、本年度も試験当日に2回目の直前講習会も開催し、評価者ならびに運営側の負担の軽減が図れた。加えて、本年度もシミュレーションの実施等により、大きな混乱も無く無事に本試験が実施された。受験生：薬学部4年次生104名、評価者：97名（学内評価者25名、学外評価者72名）、標準模擬患者：30名、補助者：教員26名、事務職員27名、学生補助者60名で実施した。薬学共用試験センターからモニター員として摂南大学薬学部・山下 伸二 教授が派遣され無事に終了した。終了後の講評でも大きな問題点の指摘は無く、公正な試験が実施できているとの総評であった。受験生104名は、本試験当日において欠席・遅刻なく無事に全員受験した。判定基準は、上記平成24年度OSCEと同様に薬学共用試験センター基準に準拠して行った。試験結果は、12月5日薬学部OSCE判定会議にて受験者103名合格、1名が領域4のみ不合格と判定され、12月6日共用試験センターへの試験結果報告をもって本試験結果が確定した。1名の領域4不合格に伴って、再試験実施計画を策定し、共用試験センターに提出して承認を得た。平成26年2月20日に再試験を実施し、領域4を再受験した1名は、本試験と同様の合格基準を満足して合格となった。

今後の課題として、評価の課題移動のインターバル10分が長いと継続して指摘されており、次年度では受験者の増加も想定されることから、対応を検討することとなった。

iii) 病院・薬局実務実習

平成24年度は、薬学部5年生155名を対象に行った。実習先の選定は、一般社団法人薬学協議会病院・薬局実務実習近畿地区調整機構（以下「近畿地区調整機構」という。）の実習施設調整担当者会議に参画し行った。実習内容は実務実習モデル・コアカリキュラムに従い、病院実習11週間並びに薬局実習11週間を実施することとし、原則として年間を3期制（一部の病院では4期制）で、地域・通学時間等を考慮して実習生の割り振りを実施することとした。対象学生には、実務実習調整に関して居住地や希望施設等の調査を行い、ふるさと実習の希望については、病院実習についてのみ可能な限り対応した。その結果、ふるさと実習を実施する学生は中四国地区、東海地区、九州地区で合計10名であった。また、関連施設である兵庫医科大学病院並びに兵庫医大ささやま医療センターを実習施設の核として調整を進めた結果、対象学生155名の実習施設が決定し、平成24年2月23日・24日に学生に実習施設の説明等を行った。近畿地区内では、本年度も実習生数に対して実習受入施設数・受入人数が不足しており、調整に難航した。また、薬剤師不足の影響等により、本年度も実習直前に実習施設の変更等が発生した。平成24年度病院・薬局実務実習の地域ごとの実習施設は下表のとおりである。

平成24年度 病院・薬局実務実習の地域別実習施設数及び学生数

	病院実習施設数	実習生数	薬局実習施設数	実習生数
兵 庫 県	37	105	85	99
大 阪 府	21	26	39	39
京 都 府	6	6	6	6
滋 賀 県	3	3	4	4
奈 良 県	4	4	6	6
和 歌 山 県	1	1	1	1
ふるさと病院実習	10	10	0	0
合 計	82	155	141	155

平成24年度の病院・薬局実務実習は4月16日（月）から順次開始され、翌年3月24日（日）までの間において、病院および薬局での実務実習は全員無事終了した。この間、一人の学生において、体調不良による実習時期の変更に伴う実習施設の変更が発生したが、近畿地区調整機構との協議により対応できた。実習施設と大学間の連携については近畿地区調整機構の指針に従った。実務実習記録は、実務実習指導・管理システム（FUJI XEROX Webシステム）を本年度も導入し、実習の進捗状況の把握や実習生の日報、週報等の授受並びにメールによる連絡や指導を行ったが、一部の施設では引き続き手書き方式の実習記録を使用する必要がある。また、本年度も全教員で地域ごとの実習施設を分担し、実習施設への訪問指導を原則3回実施するとともに、実務実習のセンター的機能を果たす実務実習支援室を設置して実習の円滑化を図った。実習の評価は、指導薬剤師の形成的評価を参考に、学生ごとの担当教員が出席状況、実習態度、実習報告書などを評価資料として作成した評価総括評価表を実務実習委員会が判定し、教授会の承認により行った。病院・薬局実務実習に関する報告会（公開）として、学生個々のポスター発表（示説付）を平成25年4月13日（土）に開催された。

今後の課題として、近畿地区調整機構において実習施設への訪問指導を原則3回実施の緩和、学生の履歴書の統一化などが議論されており、議論が集約されれば本学も追従することになると考えられる。

平成25年度は、薬学部5年生135名を対象に行った。実習先の選定は、本年度も近畿地区調整機構

の実習施設調整担当者会議に参画し行った。実習内容は実務実習モデル・コアカリキュラムに従い、病院実習11週間並びに薬局実習11週間を実施することとし、原則として年間を3期制（1部の病院では4期制）で、地域・通学時間等を考慮して実習生の割り振りを実施することとした。対象学生には、実務実習調整に関して居住地や希望施設等の調査を行い、ふるさと実習の希望については、病院実習についてのみ可能な限り対応した。その結果、ふるさと実習を希望する学生は多数あったものの、受入施設の確保ができず、実施する学生は九州地区での1名のみであった。また、関連施設である兵庫医科大学病院並びに兵庫医大ささやま医療センターを実習施設の核として調整を進めた結果、対象学生135名の実習施設が決定し、平成25年3月7日・8日に学生に実習施設の説明等を行った。近畿地区内では、本年度も実習生数に対して実習受入施設数・受入人数が不足しており、調整に難航した。近畿地区調整機構での協議において学生の履歴書などの書式が変更となり、本学も新書式を利用した。また、薬剤師不足の影響等により、本年度も実習直前に実習施設の変更等が発生した。平成25年度病院・薬局実務実習の地域ごとの実習施設は下表のとおりである。

平成25年度 病院・薬局実務実習の地域別実習施設数及び学生数

	病院実習施設数	実習生数	薬局実習施設数	実習生数
兵 庫 県	36	93	76	79
大 阪 府	26	30	39	42
京 都 府	4	5	7	7
滋 賀 県	1	1	1	1
奈 良 県	3	3	4	4
和 歌 山 県	2	2	2	2
ふるさと病院実習	1	1	0	0
合 計	73	135	129	135

平成25年度の病院・薬局実務実習は4月15日（月）から順次開始され、翌年3月23日（日）までの間において、病院および薬局での実務実習は全員無事終了した。この間、一人の学生において、体調不良による薬局実務実習の未実施が発生し、当該学生の留年が確定した。その後の病院実務実習前までに当該学生の体調回復により、病院実務実習を開始したが、体調不良に伴う休みが多かった。不足する実習日（1日）については、実習終了後、学内で補実習を行うことにより対応した。この薬局実務実習の未実習（単位未修得）については、近畿地区調整機構との協議により、次年度での配属により受入施設を確保した。実習施設と大学間の連携については近畿地区調整機構の指針に従った。実務実習記録は、実務実習指導・管理システム（FUJI XEROX Webシステム）を本年度も導入し、実習の進捗状況の把握や実習生の日報、週報等の授受並びにメールによる連絡や指導を行ったが、一部の施設では引き続き手書き方式の実習記録を使用する必要があった。また、本年度も全教員で地域ごとの実習施設を分担し、実習施設への訪問指導を原則3回実施するとともに、実務実習のセンター的機能を果たす実務実習支援室を設置して実習の円滑化を図った。実習の評価は、指導薬剤師の形成的評価を参考に、学生ごとの担当教員が出席状況、実習態度、実習報告書などを評価資料として作成した評価総括評価表を実務実習委員会が判定し、教授会の承認により行った。病院・薬局実務実習に関する報告会（公開）として、学生個々のポスター発表（示説付）を平成26年4月12日（土）に開催の予定である。

今後の課題として、近畿地区調整機構において実習施設への訪問指導を次年度以降は原則3回実施の緩和が承認されたことから、学内での対応確認が求められると考える。

iv) その他

兵庫医科大学病院薬剤部との交流

兵庫医科大学の兄弟校である本学は、教育連携、共同研究、人的交流、実習支援など多方面な連携・交流を行っている。薬学部では、特に関係の深い兵庫医科大学病院薬剤部との交流を学部創設時から継続してきた。5年次・病院実務実習ならびに1年次・病院早期体験学習の受入施設として薬剤部の存在が非常に大きいことはもちろんのこと、薬剤部職員に「みなし専任教員」を委嘱し、実務実習事前学習、病院・薬局実務実習教育の分担、医療現場における医療人としての知識・技能・態度についても指導していただいている。また、兵庫医科大学病院における各種実習を実施する際には、「医療人育成センター」から協力をいただいております。また、教育面のみならず実習の運営面においても、スムーズな実習の実施が可能となっている。さらに、定期的に薬剤部職員との懇談会などを開催して相互理解と情報交換を行っている。

3. 大学院の活動

1) 薬学研究科

i) 研究科の方針

本学は、学校法人兵庫医科大学のもと兵庫医科大学の兄弟校として平成19年4月に薬学部、看護学部、リハビリテーション学部の3学部体制で開学し、これまで学生募集、学部教育、学生進路指導等において順調に経過してきた。看護学部、リハビリテーション学部は、平成22年度に完成年度を迎え、両分野において研究者並びに高度実践専門職者の育成のため、平成23年4月にそれぞれの学部を基礎とした大学院修士課程、すなわち看護学研究科と医療科学研究科とを開設した。薬学部も平成25年3月に最初の卒業生を社会に送り出すことになるため、同年4月、大学院博士課程を開設することを計画し、平成24年度に文部科学省に設置申請を行い、認可された。

近年の医療技術の高度化、医薬分業の進展等に伴い、医薬品の適正使用という社会ニーズに応え、医療人として質の高い薬剤師を養成するため、平成18年度から6年制の学部教育が開始された。しかしその目標は学部教育だけで完結するものではない。質の高い薬剤師は臨床の場で新たな問題点を見つけ出し、自らそれを研究し解決する能力を持つことが必要である。また、高度治療の開発には臨床経験を有する医師による基礎医学の分野での貢献が著しい。新たな薬物療法の開発には薬剤師資格を有し、高度な研究能力を併せ持つ研究者の養成が必要である。基礎薬学の研究においても、臨床経験を有する薬剤師が純粋な基礎科学者とは異なる視点から関与することにより、新たな展開が期待される。かかる社会的状況を踏まえ、兵庫医療大学では大学院博士課程を置いて次世代の薬学研究者並びに高度な研究能力を持つ薬剤師の育成を推進することが時代の要請であり本学の使命と考えている。

本学は開学時より将来の医療現場におけるチーム医療の中で活躍できる専門職者の育成を目指し、学部間の垣根をなくして教育を進めるボーダレスで学際的な教育環境を提供してきた。かかる背景のもと、大学院博士課程の設置においてもその精神を継続し、同一学校法人に属する兵庫医科大学との協力関係を最大限に活用し、横断的かつ学際的な研究教育体制を構築する。医療の分野で薬物治療は大きな役割を担うが、その安全性と有効性とを担保することが薬剤師に与えられた重要な任務である。本大学院では、兵庫医科大学との協働を通じ、薬物治療の安全性と有効性とを向上させる能力を持つ人材を育成する。以上、本学の基本理念である次世代の医療を担う医療人の育成の趣旨を発展させるべく薬学分野において、新たな展開を目指す研究を推進するとともに、社会の期待に対応すべく高度な研究能力を持つ薬剤師、薬学研究者を育成する大学院博士課程を設置した。

なお、学生募集において社会人にも門戸を広げ、現在医療現場で活躍している薬剤師のアカデミック志向キャリアパスにも配慮している。

ii) 概要

【教育理念・目的、教育目標】

兵庫医療大学大学院薬学研究科の理念は、高度な研究能力を有する薬剤師、そして臨床経験を有する薬学研究者を養成することにより、人々の健康の増進及び薬学の進歩・発展に寄与することである。そのために、以下の2つを目標とする。

- ①高度な研究能力、すなわち臨床現場において問題点を発見し、それを解決する適切な研究計画を立案し、さらにその成果を論文化することのできる能力を持って薬剤師業務の質向上と変革を推進することができる。
- ②医療薬学における問題点を基礎薬学の視点から眺め、それを解決しうる基礎的・実験的研究課題を

自ら設定し、それを新しい薬剤・製剤・臨床適応の開発に発展させていくことができる。

【アドミッションポリシー】

兵庫医療大学大学院薬学研究科の理念に共感し、高度な研究能力を有する薬剤師、そして臨床経験を有する薬学研究者を養成することにより、人々の健康の増進及び薬学の進歩・発展に寄与するという目標をともに達成しようとする次のような人材を求めます。

1. 臨床現場における問題点を明確化し、それを解決する研究能力を身につけ、将来薬剤師業務の質向上と変革を推進する意欲を持つ人物
2. 医療薬学における問題点を基礎薬学の手法を用いて解決することにより、薬物治療の進歩に貢献しようという志を持つ人物

【カリキュラムポリシー】

薬学研究科博士課程は高度な研究能力の養成を通じて、薬学の世界に新しい展開をもたらすことのできる人材を養成することがその目的であることから、その教育課程は研究能力を養成するためのものが中心となる。そのために、我々は以下の3つの科目で教育課程を編成する。

- A. 専門基礎科目：先端医薬学特論Ⅰ～Ⅳ（各1単位、計4単位）
- B. 専門演習科目：各専門演習Ⅰ・Ⅱ（各4単位、計8単位）
- C. 研究指導科目：医療薬学特別研究（18単位）

なお本大学院では薬学部卒業者以外は受け入れていない。

【ディプロマポリシー】

我々が養成したい人材の第一は、医療の質の向上に貢献する医療薬学研究マインドを持つ研究者／薬剤師である。第二は、臨床経験を有する薬学研究者である。すなわち、医療の現場を体験した事があり、医療薬学における問題点を基礎薬学の視点から眺め、それを解決する基礎的・実験的研究課題を自ら設定し、それを新しい薬剤・製剤・臨床適応の開発に発展させていくことができる人材を育てたいと考える。

上記の目的を達成するために、本研究科においては、以下の基準を満たした者に対して、博士の学位が授与される。

1. 修了に必要な科目を履修し、博士論文を完成させ、博士論文審査および最終試験に合格すること。
2. 医療薬学研究者・基礎薬学研究者として、修得した研究能力と専門的知識を医療・研究開発・教育の場で提供・実践し、組織の発展と変革に指導的役割を担う薬剤師・研究者・教育者として、グローバルな視点で社会に貢献できること。

なお本大学院では薬学部卒業者以外は受け入れていない。

iii) 大学院教員一覧（研究科教員一覧）

【薬学研究科】

研究科長：西 山 信 好

役 職	氏 名	専 門
教 授	東 純 一	臨床ゲノム薬理・分子薬物動態学
教 授	九 川 文 彦	臨床ゲノム薬理・分子薬物動態学
教 授	岩 崎 剛	分子病態解析学
教 授	安屋敷 和 秀	循環薬理学・分子毒性学
教 授	清 宮 健 一	循環薬理学・分子毒性学
教 授	西 山 信 好	中枢神経薬理学
教 授	青 木 俊 二	天然薬物学
教 授	森 山 雅 弘	臨床薬剤学
教 授	田 中 稔 之	免疫制御学
教 授	大河原 知 水	レドックス生物学
教 授	山 本 悟 史	神経病態制御学
教 授	宮 部 豪 人	医薬品化学
教 授	前 田 初 男	分子イメージング科学（可視化計測学） 医療ユニバーサルデザイン学
教 授	辻 野 健	分子循環器病治療学
教 授	田 中 明 人	創薬化学
教 授	斎 藤 あつ子	微生物・寄生体学
准 教 授	芝 崎 誠 司	分子病態解析学
准 教 授	伊 藤 壮 一	臨床薬剤学
准 教 授	上 田 晴 康	免疫制御学
准 教 授	戴 毅	神経病態制御学
准 教 授	前 田 拓 也	微生物制御学
講 師	長 野 基 子	微生物・寄生体学
講 師	甲 谷 繁	医薬品化学

iv) 学生の受け入れ

	募集人員	入学者数	在籍者数D 1 年
平成25年度	3 名	3 名	3 名

v) 教育活動

薬学研究科 D 1 （1 期生） 受講科目一覧（平成25年度）

枠組み	科 目 名	開講年次		単位数	院生 # 1	院生 # 2	院生 # 3
専門基礎科目	先端医薬学特論Ⅰ	1	前期	1	●	●	●
	先端医薬学特論Ⅱ	1	前期	1	●	●	●
	先端医薬学特論Ⅲ	1	後期	1	●	●	●
	先端医薬学特論Ⅳ	1	後期	1	●	●	●

枠組み	科 目 名	開講年次		単位数	院 生 # 1	院 生 # 2	院 生 # 3
専門演習科目	医薬品創製科学演習Ⅰ	1	通年	4			●
	循環器病学演習Ⅰ	1	通年	4	●		
	医薬品適正治療科学演習Ⅰ (分子薬物動態学演習)	1	通年	4		●	
研究指導科目	医療薬学特別研究	1～4	通年	18	○	○	○

(注1) ●平成25年度 単位取得済み科目

○平成25—28年度 履修中科目

(注2) 大学院生が平成25年度に受講した研究指導科目内容の概略

【分子循環器病治療学】

本研究指導科目においては、循環器疾患における鉄代謝と血管新生の異常に注目して研究指導を行う。鉄の過剰は酸化ストレスの原因となり、高血圧や糖尿病による臓器障害を進展させる一方、心不全においては鉄の欠乏が貧血や運動耐容能の低下をきたしている。さらに鉄は低酸素応答の重要な調節因子であり、血管新生とも深く係る。鉄は循環器疾患における「両刃の剣」であり、その代謝異常の機序を解明することにより、新しい治療薬の開発につなげる。

- ①高血圧、糖尿病の臓器障害における鉄代謝異常の機序に関する研究
- ②心不全における貧血と鉄代謝異常の機序に関する研究
- ③大動脈弁狭窄症の発症・進展における弁尖内出血に関する研究

上記のテーマに関して、基礎・臨床の両面からアプローチする。

【臨床ゲノム薬理・分子薬物動態学】

医薬品の個別化適正投与を目指し、臨床ゲノム薬理学と分子薬物動態学を基盤とした以下のテーマに関する研究指導を行う。

- ①薬物代謝酵素群および薬物標的分子をターゲットとする臨床ゲノム薬理学の確立および診断ツールの開発
- ②アポトーシス誘導型抗がん剤の分子薬物動態を基盤にした、テーラーメイドがん治療への挑戦
- ③疾病等による薬物代謝酵素活性変動の分子メカニズム解明と臨床現場への還元

これらの研究テーマの主題は「個の医療の確立」で、ゲノム薬理学、分子薬理学、分子薬物動態学、数理解析学を駆使した研究が主体となる。

【創薬化学】

製薬企業での創薬研究活動を基本とし、ADME等も考慮した試薬開発ではない“薬”の探索合成を行う。また、独自に開拓してきたアフィニティ樹脂を用いた生理活性物質のターゲット探索に関する基盤技術を活用し、新規創薬ターゲット探索および生理活性物質のターゲット探索を行う。

- ①新規抗認知症や抗がん剤などの探索合成に関する研究

国内外研究機関・企業と連携し創薬化学を実践する

- ②生理活性物質のターゲット探索に関する研究

ターゲット未知の開発（候補）品のターゲット探索等を行う

- ③その他創薬開発に関する研究

vi) 研究活動

【大学院生 1】

研究テーマ

Proton Pump Inhibitor は貧血を誘発し心不全増悪因子となるか

研究成果

- ・学会発表 第78回日本循環器学会 (2014.3. 東京)
「循環器外来患者におけるプロトンポンプ阻害剤使用によるヘモグロビン値への影響」

【大学院生 2】

研究テーマ

臨床ゲノム薬理学と薬物動態学を基盤とした抗うつ薬のテーラーメイド医療の実現に向けた研究

【大学院生 3】

研究テーマ

臨床を目指した創薬探索研究 (PCA-1阻害剤、TRPA1阻害剤)

研究成果

- ・原著論文 (査読あり) Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters 24, 1071-1074 (2014)
- ・学会発表 第8回ケミカルバイオロジー年会 (2013.6. 東京)
「2-Mercaptoethanol (2-ME) などの汎用される還元剤によるアフィニティ樹脂からのターゲットタンパク質の選択的溶出法の開拓」

2) 看護学研究科

i) 研究科の方針

看護学は実践科学として、その価値を高め進歩発展してきた。同時に、医療が高度化し複雑化する中で、安全安心を第一として質の向上が問われてる今日、看護現場のさらなる発展のために科学的根拠に基づく看護学の教育・研究並びに高度な実践能力が必要である。看護学研究科は、建学の精神に則り、真に人々にとって必要とされる看護学の専門的知識・技能を修得し、看護実践能力を強化して、社会の求めに応じた役割・機能を果たすことができる看護専門職者を育成する。特に「個性を引き出し自律を伸ばす大学院教育」を目指して、学生と教員が学修の目標を共有し、学生の自律を導き、常に相互交流を通して互いに成長するという特色のある教育の取り組みを進めてきた。

ii) 概要

(1) 教育理念・目的

看護学研究科の理念は、保健・医療・福祉及び社会の変動に対応して、生命と人権を尊重し、看護学の専門的知識と技術に立脚し、創造的かつ科学的に看護が実践できる人材ならびに看護学の教育と研究に携わる人材を育成し、人々の健康とQOLの向上及び看護学の進歩・発展に寄与することにある。

さらに、保健・医療・福祉の場で行う看護実践の科学的根拠となる基礎理論及びその応用について体系的に学修し、人々の尊厳を護り人間性豊かな看護専門職者として、看護学の専門的知識と技

術に立脚し、先駆的・創造的に高度看護実践できる能力、並びに看護現象を科学的に解明する看護学の教育・研究能力を育成することを目的とする。

(2) 教育目標

- ① 専攻する看護学専門分野に関連する科学的根拠と理論を修得し、看護実践に応用することができる。
- ② 専攻する看護学専門分野において、専門性の高い知識・技術を持って看護を実践し、相談・教育・調整機能を高め、看護の質向上と変革を推進することができる。
- ③ 人間愛と高い倫理観を持ち、複雑な倫理的問題を的確に判断し調整することができる。
- ④ 先進医療における看護実践を先導的に行うことを通じて、地域医療の向上に資することができる。
- ⑤ 専攻する看護学専門分野に関する研究課題に取り組み、研究能力を高める。

(3) アドミッションポリシー

看護学研究科は、生命と人権の尊重を基盤とし、保健・医療・福祉及び社会の動向に先駆的・創造的に対応できる看護実践能力をもち、人々の Quality of Life の向上及び看護学の発展に寄与できる人材を育成している。そのために、以下のような学生を求めた。

- ① 主体的に学び、目標に向かって邁進できる。
- ② 看護専門職者として高度看護実践・看護学の発展に貢献する意欲にあふれている。
- ③ 志望する専門分野に必要な基礎知識と技術を修得している。
- ④ 国際的視野に立ち、柔軟な発想ならびに理論的思考を探究する姿勢をもっている。

(4) ディプロマポリシー

看護学研究科の学位授与方針は、教育目標に基づき、修了時に身につけておく能力を以下のように設定し、修士課程の修了をもって修士（看護学）を授与した。

- ① 看護学およびその関連学問領域において、幅広く深く専門知識と理論、技術を備え応用できる。
- ② 専門分野における研究能力を身につけ、看護学の発展に寄与する課題を追求できる。
- ③ 専門分野における高度な専門知識と技術に基づき医療の質向上を推進する看護実践能力を発揮できる。
- ④ 高い倫理観に裏打ちされた批判的判断力に基づき倫理的課題に的確に対応できる。
- ⑤ グローバルな視点を持ち保健医療福祉チームにおける連携・協働を促進する役割を果たすことができる。
- ⑥ 看護学を主体的・創造的に考究し続ける専門職者としての態度を身につける。

iii) 大学院教員一覧

表 1. 24・25年度看護学研究科教員一覧

分 野	看護学基礎 研究領域	看護学課題研究・ 高度実践領域(CNS)	専 任 教 員			
			24年度		25年度	
基盤看護学分野	基礎看護学		教授	竹田千佐子	准教授	土田敏恵
			准教授	土田敏恵		
	看護教育学		教授	土居洋子	教授	竹田千佐子

分 野	看護学基礎 研究領域	看護学課題研究・ 高度実践領域(CNS)	専 任 教 員			
			24年度		25年度	
療養支援看護学分野	急性看護学	急性・重症患者看護	教授	網島ひづる	教授	網島ひづる
			准教授	清水令子		
	がん看護学	がん看護	教授	佐藤禮子	教授	鈴木久美
			教授	鈴木久美		
	慢性看護学				教授	鈴木久美
					准教授	松本麻里
	精神看護学		教授	新井信之	教授	新井信之
家族支援看護学分野	小児看護学		教授	藤井真理子	教授	藤井真理子
			准教授	石原あや	准教授	石原あや
	母性看護学	母性看護	教授	末原紀美代	教授	鈴井江三子
			准教授	西村明子	准教授	西村明子
	助産学		教授	鈴井江三子	教授	鈴井江三子
			准教授	斉藤雅子	准教授	斉藤雅子
生活支援看護学分野	老年看護学		教授	細見明代	教授	細見明代
	地域看護学		教授	上原ます子		
			准教授	富永真己	准教授	土井有羽子
			准教授	土井有羽子		
	在宅看護学		教授	上原ます子	准教授	青木菜穂子
			准教授	青木菜穂子		

看護学研究科の教育研究組織は、看護学の専門性に応じて基盤看護学、療養支援看護学、家族支援看護学、生活支援看護学の4分野で構成し、合わせて看護学基礎研究と看護課題研究・高度実践の2領域を担う構成である。研究科の理念・目的である看護学の科学的・専門的探究及び看護学教育・研究者と高度専門看護職者の両者の育成に適した組織構成としている。また、大学院学則に基づき研究科委員会を設置し、研究科長と大学院担当教員の教授及び准教授で構成し、研究科長が学事を統括し、研究科委員会を開催することで運営している。

iv) 学生の受け入れ

(1) 入学者選抜の概要

看護学研究科入学者の受け入れ方針は、本研究科の目的にある高度専門看護職者を志向し、熱意を持って就学・研究に取り組み、将来、地域の保健医療福祉及び看護の発展に貢献することができる学生を求めている。看護師及び保健師・助産師の免許を有すること、学士の学位を取得（取得見込み含む）していることが必要である。しかし、現在就業している看護職者の多くは専修学校等修了者である。大学院進学への要求に応えるために、看護学研究科において個別の出願資格認定審査を実施し、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で22歳に達した者に出願を認めている。

(2) 社会人受け入れのための具体的方策

社会人が受験しやすいように、学力検査と面接の日程を土・日・祝日に設定している。

授業の実施方法については、社会人入学生が無理なく受講できるように夜間に、あるいは夏季休業中に集中講義を行い、社会人が効果的に学習できるよう調整している。また、授業場所は兵庫医療大学だけでなく兵庫医科大学でも講師に合わせて授業を実施するよう設定した。今後も受講しや

すさを考慮して授業日・授業時間を設定する予定である。さらに、恒常的に勤務している者、または勤務する予定である者は、標準修業年数を超えて一定期間にわたり（４年以内）計画的に学修できる長期履修生として申請できる体制を整えた。

(3) 入学者選抜

看護学４領域特定分野において個々の学生に緻密な研究・論文指導を行うために、また、専門看護師を目指す看護学高度実践領域では、学生の実習等の指導が臨地の場合で必要であり、指導できる学生数が限られることから、適切な入学定員を８名と決定した。

入学者選抜は、学力検査（外国語、専門科目）と面接、調査書の内容を総合して判定している。受験者の看護学の共通する学力を判定することが必要と判断されたため、平成26年度大学院入試から専門科目の問題は看護学共通問題と専門科目問題とで構成することになった。

平成25年度大学院入学試験は一次試験を実施し、追加募集として二次試験を実施した。

〈一次試験〉

- ①選 抜 方 法：外国語（英語）、専門科目、面接
- ②試 験 日：平成24年９月29日（土）
- ③合格発表日：平成24年10月10日（水）午後３時
- ④募集人員等：８名

〈二次試験〉

- ①選 抜 方 法：外国語（英語）、専門科目、面接
- ②試 験 日：平成25年１月26日（土）
- ③合格発表日：平成25年２月６日（水）午後３時
- ④募集人員等：若干名

平成26年度大学院入学試験は年２回実施することとし、Ⅰ期、Ⅱ期入学試験を実施した。

〈Ⅰ期試験〉

- ①選 抜 方 法：外国語（英語）、専門科目、面接
- ②試 験 日：平成25年９月28日（土）
- ③合格発表日：平成25年10月９日（水）午後３時
- ④募集人員等：８名

〈Ⅱ期試験〉

- ①選 抜 方 法：外国語（英語）、専門科目、面接
- ②試 験 日：平成26年１月25日（土）
- ③合格発表日：平成26年２月５日（水）午後３時
- ④募集人員等：若干名

表２．大学院看護学研究科入学試験結果

区 分	平成25年度		平成26年度	
	一 次	二 次	Ⅰ 期	Ⅱ 期
募 集 人 員	８	若干	８	若干
出 願 者 数	６	５	１	７
受 験 者 数	６	５	１	７
合 格 者 数	４	４	１	７
入 学 者 数	８		８	

人数

表 3. 看護学研究科分野別院生数

人数

領 域	分 野		第 2 期生 (平成24年度入学)	第 3 期生 (平成25年度入学)
看護学基礎研究領域	基盤看護学	基礎看護学		1
		看護教育学	2	2
	療養支援看護学	急性看護学	2	1
		がん看護学	1	
		精神看護学	1	
	家族支援看護学	母性看護学	1	
		助産学		1
		小児看護学	1	
	生活支援看護学	老年看護学		1
		在宅看護学		1
看護学課題研究・高度実践 (CNS)	急性・重症患者看護専門看護師分野			1

v) 教育方法

(1) 教育体制

科学的根拠に基づく高い専門知識と看護実践への応用を教授する研究科共通科目については、本学3学部と共通教育センター、さらに兵庫医科大学・兵庫医科大学病院の協力を得て、本学の教育環境の特色を反映し、連携・協働を促進する教育体制をとっている。また、看護理論、看護倫理、看護教育論、看護研究、看護管理、看護政策論等については、学外の看護実践者・教育者の協力を得て教育の充実を図ってきた。

(2) 教育活動

①教育体制

各専門分野の理論的基盤となる講義科目及び研究科目は、専門分野の豊富な教育・研究業績を有する教授・准教授を中心に担当する。専門的看護実践能力を高める演習・実習科目については臨床経験や研究業績に合致した講師・助教が加わるなど、手厚い教育・指導体制をとってきている。また、看護学課題研究・高度実践領域における専門看護師（CNS）養成は専門分野の臨床経験及び看護師教育経験豊富な教授・准教授が担当している。特に卓越した看護実践と専門看護師の相談・教育・調整等の役割を果たす能力の育成は、各分野の資格を取得し活躍中の専門看護師が非常勤として教育にあたる体制を整えている。特に、看護学課題研究・高度実践領域；急性・重症患者看護専門看護師分野は、日本看護系大学協議会の専門看護師教育課程認定委員会において平成24年度専門看護師教育課程審査を受け、クリティカルケア教育課程（26単位）として課程認定を受けた。

②修了要件

看護学研究科に2年以上在学し、32単位以上を修得し、かつ修士論文又は課題研究報告書の審査及び最終試験に合格する。看護学基礎研究領域は、研究科共通科目2単位以上、看護学共通科目4単位以上、専門分野専門科目10単位以上、特別研究10単位を含み総計32単位以上を修得する。看護学課題研究・高度実践領域は、研究科共通科目2単位以上、看護学共通科目8単位以上、専門分野専門科目12単位以上、実習6単位、課題研究4単位の総計32単位を履修する。このような

修了要件を満たし、研究科委員会で修士（看護学）の学位を授与すべきと決定し学位を授与された学生数を分野別に表4に示した。

表4. 看護学研究科分野別大学院修了生数

人数

領 域	分 野		平成24年度修了 (第1期生)	平成25年度修了 (第2期生)
看護学基礎研究領域	基盤看護学	看護教育学		1
	療養支援看護学	急性看護学	1	1
		がん看護学		1
		精神看護学		1
	家族支援看護学	母性看護学	2	1
		小児看護学	1	
	生活支援看護学	在宅看護学	1	
看護学課題研究・ 高度実践（CNS）	急性・重症患者看護専門看護師分野		1	

③修士論文・課題研究報告書

提出された修士論文・課題研究報告書は、学位規程第6条に基づき研究科委員会から学位論文ごとに審査委員3名（主査1名、副査2名）から成る審査委員会を設け、主査、副査による審査及び最終試験を実施し、研究科委員会で可否を決定している。平成24年度、平成25年度に学位論文として認められた論文一覧を表5に示した。

修士研究報告会は修士論文・課題研究報告書審査及び最終試験合格後の3月初旬（平成24年度；平成25年3月5日（火）、平成25年度；平成26年3月4日（火））に開催した。1・2年学生は協力して報告会を運営すると共に、発表方法とそのプロセスを学ぶことができていた。

表5. 兵庫医療大学 看護学研究科 修士論文題目一覧

年 度	分 野	学位論文 種 別	論文タイトル	指導教員
平成 24 年度	母性看護学	修士論文	ダウン症児を養育する母親のエンパワメントを支える看護	末原紀美代
	在宅看護学	修士論文	病院における退院支援の効果に関する取り組みの現状と課題	上原ます子
	母性看護学・ 助産学	修士論文	助産外来における超音波診断装置を用いた妊婦健診時の助産診断 の課題に関する研究	鈴井江三子
	小児看護学	修士論文	入院中の学童期にある子どもの『教育的支援』に対する看護師の 考え	藤井真理子
	急性看護学	修士論文	心筋梗塞患者の急性期から回復期における病気に対する危険性認 知と自己管理行動	網島ひづる
	急性看護学	課題研究	ICUにおける安楽をもたらす看護実践に対する心臓血管外科術後 患者の体験と看護師の認識	網島ひづる

年度	分野	学位論文種別	論文タイトル	指導教員
平成25年度	精神看護学	修士論文	幻聴を訴える統合失調症患者の認識と思考－認知行動療法的な看護の在り方－	新井 信之
	急性看護学	修士論文	冠状動脈バイパス術を受ける高齢者の回復意欲を引き出す看護援助	網島ひづる
	母性看護学	修士論文	開業助産師を対象にしたNCPR講習会受講後の知識と技術を保持する促進因子と阻害因子に関する研究	鈴井江三子
	看護教育学	修士論文	リフレクションのプロセスにおける新人看護師の自己への気づきの分析	竹田千佐子
	がん看護学	修士論文	がん疼痛のある進行肺がん患者の情動体験	鈴木 久美

(3) 学生による授業評価・教育課程評価

看護学研究科において、学生への教育・研究指導および環境の充実を図るために、1年生に各授業評価、教育・研究支援に関する内容を、2年生には修了前にディプロマポリシーに沿った到達度の自己評価を自己記入式調査で、さらにカリキュラムに関する評価を面接にて毎年調査を実施している。その結果、平成24年～25年の共通科目に関しては専門的で詳細な内容に難しさを感じる科目・単元もあるが概ね満足との評価であった。平成25年の専門科目について、指導教員との1対1の講義に困惑しているとの記載があったことから複数の教員・学生で講義・演習を実施するように担当教員間で申し合わせた。また、平成25年度から研究科委員会の委員会組織に学生委員（2名）を設け、ハラスメント防止等に関する規程の周知徹底、防止等の取り組みに関する検討等を役割に含めた。学生委員の存在や対応について、掲示や研究科長から学生たちへ説明を行った。その結果、学生からの相談を1件受けた。

教育研究環境：パソコン数やコピーに関しては更新の希望はあるも院生室の環境については概ね満足であった。

修了生の到達度評価：平成24・25年度修了生の評価は、4段階評価の3（まあまあできる）あるいは4（十分できる）の評価が多かった。

vi) 研究活動

大学院生の研究活動の充実と大学院を担当する教員をはじめ看護学部の教員の研究能力の向上に寄与することを目的に、特別講義・講演を毎年計画・実施している。平成24・25年度は、平成25年2月14日（木）「研究における倫理を考える」兵庫県立大学看護学研究科長、片田範子氏、平成25年5月7日（火）「系統的文献検索」元大阪大学生命科学図書館司書、諏訪敏幸氏、そして平成26年3月14日（金）「看護学研究への脳科学応用」聖隷クリストファー大学教授、鯨島道和氏を招聘し特別講義・講演を開催した。

3) 医療科学研究科

i) 医療科学研究科の方針

人口の少子・高齢化や慢性疾患増加に伴う疾病構造の変化への対応、および、革新的な医療技術の開発など医療に寄せられる期待は高まっている。医療科学研究科では、リハビリテーション学の学問的な発展や高度な専門的知識を有する専門職者の育成に寄与するために次のような方針をたてている。

- 医療科学における科学的根拠ならびに最新の専門的知識を修得し、幅広い医療人としての教養を培う。
- 専攻する分野において、より高度な専門的知識ならびに技術を修得し、臨床現場で実践するとともに、更なる発展・向上に努めることができる素養を培う。
- 高度な臨床的推論に基づく臨床実践を展開するとともに、後進の育成に寄与できる指導者としての素養を培う。
- 専攻する分野における研究課題に取り組み、研究能力を培う。
- リハビリテーション科学領域における研究の発展と高度実践専門職者の養成を目指す。
- 理学療法士や作業療法士のみならず、リハビリテーションチームを構成する専門職者に対して広く門戸を開放する。
- 社会人が在職したまま大学院に進学して学問や研究を行うことができるように配慮する。

ii) 医療科学研究科の概要

学校法人兵庫医科大学の建学の精神のもとに、科学的思考に支えられた高度な実践力とチームを形成して活動する力を養い、リハビリテーション医学・医療に貢献できる人材を育成する。

医療科学研究科では、病態運動学分野と人間活動科学分野を設置し、それぞれの分野において研究志向の強い大学院生はリハビリテーション科学研究コースを、高度実践専門職者を志向する大学院生にはリハビリテーション課題研究コースを開設している。それぞれのコースの詳細は表1のとおりである。いずれのコースにおいても、平日夜間および土日を利用した開講や研究指導を行うことにより医療機関などに在職した社会人大学院生に配慮している。

表1. 医療科学研究科における研究指導コース

	「リハビリテーション科学研究」コース	「リハビリテーション科学課題研究」コース
コース選択の適性	1. リハビリテーション科学領域において、先駆的・学際的・発展的な研究を展開しようとする志向性を有する人 2. 将来、本領域において研究・教育を牽引していこうという意欲にあふれる人	1. 自らの臨床的知識・技術を積極的に高めたい人 2. 臨床的スキルの向上を図り、その結果をリハビリテーション医療の向上に貢献しようとする人
カリキュラムの特徴	1. 幅広い教養取得と医療人としてのキャリアアップを目指した共通科目・専門基礎科目の開講 2. 教育論（養成教育・臨床教育）、統計学等の研究者・教育者志向を目指した実践的科目の開講 3. 予備研究、倫理審査会、中間報告を含めた演習、研究指導、研究活動において、適宜、必要な研究組織を構築し、倫理審査委員会の承認を受けた上で研究活動の展開	1. 幅広い教養取得と医療人としてのキャリアアップを目指した共通科目・専門基礎科目の開講 2. 鑑別診断学（臨床推論）、症例提示・症例検討実践特論等の臨床能力向上を目的とした実践的科目の開講 3. 臨床研修施設・指導体制について事前審査を行った上で臨床研修を実施

	「リハビリテーション科学研究」コース	「リハビリテーション科学課題研究」コース
修了要件	1. 研究計画書に基づいた研究を遂行し、その結果を科学研究論文としてまとめることができる（その後、学術誌等への投稿を目指す）。 2. 修士論文審査会において、研究結果について十分な討議ができる。	1. 目的とした臨床的課題から得られた臨床的推論が、適切かつ十分な症例と科学的根拠に基づいていることを説明できる。 2. 臨床研修で経験した事例について、課題研究論文としてまとめることができる（その後、学術誌等への投稿を目指す）。 3. 自己の臨床的推論の裏付けとなる先行研究等をエビデンステーブルとして整理できる。 4. 修士論文審査会において、課題研究論文を報告し、十分な討議ができる。

平成23および24年度には、病態運動学分野のもとに専門分野として運動器系障害治療学、中枢神経系障害治療学、生活活動支援学を、人間活動科学分野のもとに身体・認知活動学、精神・心理、摂食嚥下リハビリテーション学を設置して大学院生の指導を行った。

平成25年度からは、大学院生のニーズや教員の専門性を勘案して、病態運動学分野のもとに専門分野として運動器障害、神経障害、内部障害を、人間活動科学分野のもとに身体・認知活動、精神活動、摂食嚥下障害を設置して大学院生の指導を行った。

また、これにあわせて、平成23および24年度の定員は6名であったが、平成25年度からは定員を8名とした。

iii) 医療科学研究科の教員一覧

大学院を担当する教員は学部教育も兼ねる本学専任教員を主として構成されている（表2）。本学専任教員以外にも、専門科目ならびに専門基礎科目などに臨床経験を十分に有する人材を充当している。また、学外から研究指導をしていただく委員として3名の先生にご指導を賜っている（表3）。

表2. 平成24および25年度医療科学研究科教員

氏 名	専 門 分 野	在 職 期 間
野崎 園子(平成24年度研究科長)	人間活動科学分野	平成22年4月1日～現在
藤岡 宏幸(平成25年度研究科長)	病態運動学分野	平成22年1月1日～現在
P. D. Andrew	病態運動学分野	平成23年4月1日～平成25年3月31日退職
川口浩太郎	病態運動学分野	平成23年4月1日～現在
玉木 彰	病態運動学分野	平成23年4月1日～現在
日高 正巳	病態運動学分野	平成23年4月1日～現在
坂口 顕	病態運動学分野	平成23年4月1日～現在
香川 真二	病態運動学分野	平成23年4月1日～平成26年3月31日退職
塚越 累	病態運動学分野	平成25年10月1日～現在
宮本 俊朗	病態運動学分野	平成25年4月1日～現在
森 明子	病態運動学分野	平成23年4月1日～現在
森沢 知之	病態運動学分野	平成23年4月1日～現在
山田 哲	病態運動学分野	平成23年4月1日～平成25年3月31日退職
土肥 信之	人間活動科学分野	平成23年4月1日～平成24年11月4日退職
松井 徳造	人間活動科学分野	平成23年10月1日～現在
山崎せつ子	人間活動科学分野	平成23年4月1日～現在
山田 大豪	人間活動科学分野	平成23年4月1日～現在

氏 名	専 門 分 野	在 職 期 間
伊藤 斉子	人間活動科学分野	平成23年 4 月 1 日～現在
稲富 宏之	人間活動科学分野	平成23年 4 月 1 日～平成25年 3 月31日退職
佐野 恭子	人間活動科学分野	平成23年 4 月 1 日～現在
有吉 正則	人間活動科学分野	平成25年 1 月 1 日～現在
櫛邊 勇	人間活動科学分野	平成23年 4 月 1 日～現在
坂本 利恵	人間活動科学分野	平成23年 4 月 1 日～現在
平上 尚吾	人間活動科学分野	平成25年10月 1 日～現在

表 3. 学外の研究指導委員

平成24年度	平成25年度
道免和久先生（兵庫医科大学リハビリテーション医学教授）	道免和久先生（兵庫医科大学リハビリテーション医学教授）
菅原洋子先生(国際医療福祉大学保健医療学部教授)	菅原洋子先生(国際医療福祉大学保健医療学部教授)
奈良勲先生（金城大学医療健康学部教授）	吉尾雅春先生(千里リハビリテーション病院副院長)

iv) 学生の受け入れ

平成24および25年度の入学者の分野は表4のとおりである。平成25および26年度入学試験は表5のとおり実施、いずれの年度でも募集人員を超える受験者があった。本学リハビリテーション学部の卒業生も診療の現場での経験をもとに、専門領域の研究を志して大学院医療科学研究科に入学する者が増えている。平成24年度入学生のうち1名、平成25年度入学生のうち2名が本学リハビリテーション学部卒業生であった。

表 4. 平成24年度及び平成25年度分野別入学者

分 野	専 門	平成24年度入学生 (第2期生 定員6)	専 門	平成25年度生 (第3期生 定員8)
病 態 運 動 学	運動器障害治療学	2	運動器障害	4
	生活活動支援学	2	内部障害	4
	中枢神経障害治療学	1	神経障害	0
人間活動科学	身体・認知活動学	2	身体・認知活動	0
	精神・心理	0	精神活動	0
	摂食嚥下リハビリテーション学	2	摂食嚥下障害	0
合 計		9		8

表 5. 平成25年度及び平成26年度入試

区 分	平成25年度入学試験	平成26年度入学試験
選 抜 方 法	外国語（英語）、専門科目、面接	外国語（英語）、専門科目、面接
試 験 日	平成24年 9 月29日（土）	平成25年 9 月28日（土）
合 格 発 表 日	平成24年10月10日（水）	平成25年10月 9 日（水）
募 集 人 員	8	8
出 願 者 数	14	9
受 験 者 数	14	9
合 格 者 数	10	9
入 学 者 数	8	9

v) 教育・研究活動

各科目の開講、各分野および専門研究グループごとのゼミにおいて、教育・研究指導を行っている。社会人大学院生に配慮して、各科目の開講および研究指導のゼミは、平日の午後5時以降や土日祝日などを中心に行っている。

科目の開講の特色は次のとおりである。

- 共通科目では、医療科学における科学的根拠ならびに最新の専門的知識を修得し幅広い医療人としての教養を培う。
- 専門基礎科目および専門科目では、専攻する分野における高度な専門知識ならびに技術を修得し、臨床現場で実践できるための素養を培い、臨床研究を遂行する能力を養い、診療現場で後進の指導に役立つ力をつける。

医療科学研究科全体で、大学院生の研究進捗状況を確認し、研究方針を議論する中間報告会を年に2回行った。平成24年度は平成24年7月12日と平成25年1月24日に、平成25年度は平成25年7月11日と平成26年1月30日に行った。

平成24および25年度の大学院修了者の修士学位論文を表6および7に示す。大学院修了後も指導教員とともに引き続き研究を行い、学術集会などで活発に発表を行っている。また、学術集会などから表彰された研究もある（表8）。

表6. 平成24年度修士学位論文

論文題目	氏 名	指導教員
ラットを用いた神経因性疼痛モデルに対する寒冷療法の試み	猪俣 陽一	川口浩太郎
腰部・股関節・膝関節障害患者に対する機能的診かたに基づく理学療法介入の検討～Lower Crossed Syndrome の概念を用いて～	小山 智士	川口浩太郎
上肢支持が呼吸運動に及ぼす影響	萩野 智之	玉木 彰
人工股関節全置換術後のリハビリテーションプログラム確立のための基礎的研究	永渕 輝佳	玉木 彰
Locomotor Respiratory Coupling誘発下でのペダリング運動の効果に関する研究	安福 祐一	玉木 彰
効率的な入浴動作指導の獲得 ―身体的、環境的要因に着目して―	水本 雄介	日高 正巳
精神科入院患者の退院困難要因の分析に基づく退院への意識を強化する作業療法プログラムの有用性に関する研究	奥谷 研	稲富 宏之
橈骨遠位端骨折後のADLにおける患側手の使用状況と治療成績の関連性	垣下 真宏	櫛邊 勇

表7. 平成25年度修士学位論文

論文題目	氏名	指導教員
脳血管障害を発症した慢性閉塞性肺疾患患者における摂食嚥下障害の臨床経過	太田 有美	野崎 園子
頭頸部肢位の違いが嚥下時の舌口蓋接触に及ぼす影響	福岡 達之	野崎 園子
腓骨筋群と後脛骨筋のエクササイズが踵上げ動作開始時において踵骨動的アライメント・足底圧中心位置に及ぼす影響	久保多喜子	川口浩太郎
産後腰痛に応用するための分節安定性トレーニングに関する基礎的研究	小松みゆき	玉木 彰
筋挫傷モデルラットにおける二相性微弱電流刺激の効果	鷗崎 智史	坂口 顕
咳嗽機能の運動的側面に関する研究	垣内 優芳	森 明子
手指の関節可動域制限が日常生活動作へ及ぼす影響 ―母指IP関節および示・中・環・小指PIP関節に着目して―	松下 卓也	櫛邊 勇

表 8. 大学院生関連の受賞

学術集会	受 賞	タイトル	発表者 (太文字は大学院生および本学教員)
日本言語聴覚学会総会 (平成24年 6 月福岡)	第 3 回日本言語聴覚 研究優秀論文賞	嚥下障害患者に対する随意咳 嗽の空気力学的測定と誤嚥の 関連 (言語聴覚研究 8 (3); 131 -138. 2011)	福岡達之、川阪尚子、野崎園子、 寺山修史、福田能啓、道免和久
第19回日本摂食嚥下リ ハビリテーション学術 大会 (平成25年 9 月倉敷)	奨励賞	Chin-down肢位のバリエー ションが嚥下時の舌口蓋接触 に及ぼす影響	福岡達之、野崎園子、小野高裕、 堀一浩、川阪尚子、萩野直子、 新宮正美、児玉典彦、道免和久

4. 研究活動の状況

1) 先端医薬研究センター

i) 施設の概要

研究教育推進を目的にG棟1階に先端医薬研究センターが設置されている。実験室は薬学研究室と同じ研究環境の研究スペースが3室用意されている（約100㎡（93.9～113.5㎡））。

同センターのうち、先端医薬研究センター1では医薬・医療に関する最先端の研究開発を行い、その成果を疾病の治療及び予防に反映させることを目的として、医学及び薬学等の関連分野の研究推進を図ることを目的とし、独自テーマの発展のみでなく、保有する先端技術の公的活用による社会還元も目的とし、外部研究機関との共同研究も実施している。

先端医薬研究センター2は、学校法人兵庫医科大学中医薬孔子学院（以下「孔子学院」という。）が平成24年11月9日に開設されたことに伴い、孔子学院の研究部門として中医薬に関する法人内の共同研究活動に使用している。

先端医薬研究センター3は平成25年度から研究室としての基本整備に着手しはじめた。まずは教員室および学生室に机、椅子、書籍棚、洗面・流し台を設置し、研究エリア内に中央実験台、大型流し台、CO₂インキュベーター、クリーンベンチを措置した。

ii) 活動内容

先端医薬研究センター1では、いくつかのプロジェクトが展開された。その中の一つとしては、安倍首相主導のいわゆる日本版NIHを目指した取り組みである医薬基盤研究所主導の革新的創薬を目指した「創薬支援ネットワーク」の支援の一環として当該研究室が大阪大学、三井化学等が共同で取り組んできた「がん細胞DNA脱メチル化酵素を分子標的とするFirst-in-classの癌治療剤の探索」(研究代表者：辻川教授)が採択され、画期的抗癌剤創出を目指した研究が実施された。

また、同研究室においては生理活性物質のターゲット同定に関する独自技術を活用した製薬企業との共同研究も併せて行われた（共同研究先：アステラス製薬、エーザイ）。

先端医薬研究センター2では、漢方薬に関連する研究テーマを中心に学内外との共同研究を含めて複数のプロジェクトを取り込んだ。本学教員主導による「TRPチャネルを標的とする漢方薬成分の探索」に加えて、兵庫医科大学解剖学神経科学部門（野口光一主任教授）との「難治性疼痛に対する漢方薬の治療効果と分子メカニズムの解析」に関する共同研究、あるいは兵庫医科大学病院消化器内科（三輪洋人主任教授）との「炎症性腸疾患に伴う免疫異常に対する漢方薬の効果と薬理機序の検討」をテーマとする共同研究が進められた。また、文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」（プロジェクト名：難治性疼痛・感覚異常に対する創薬基盤研究）の一部が同センターで展開された。

尚、平成25年度先端医薬研究センター・中医薬孔子学院研究報告会は平成26年度に入ってから実施する予定である。

2) 共同機器室

概 要

本学の研究・教育活動を推進するための共同利用施設として、高度な研究機器を配した共同機器室

がG棟に設置されている。核磁気共鳴装置やフローサイトメーターをはじめとする研究機器が導入され、ライフサイエンスを広くカバーする本学の研究・教育の基盤として重要な役割を担っている。

共同機器室は研究活動の場を提供するばかりでなく、本学研究者の活発な交流や次世代の医療科学を担う学生の教育にも重要な役割を担うことが期待されている。共同機器室の管理・運営は共同機器室運営委員会と共同機器室利用者が連携してこれにあたっている。

共同機器室に設置されている研究設備機器を表1に示す。

表1. 共同機器室研究設備機器一覧（平成26年10月31日現在）

共同機器室 1	
	超伝導フーリエ変換核磁気共鳴装置（NMR）
	・ NMR system PS600型（600MHz）（Agilent Technologies 社）
	・ JNM-ECX400PKS 型（400MHz）（日本電子株）
共同機器室 2	
	・ 生体成分相互作用解析装置 Biacore3000システム（GE Healthcare社）
	・ 走査型電子顕微鏡 SU1510（日立ハイテクノロジーズ社）
共同機器室 3	
	・ 共焦点レーザー顕微鏡 FV1000-D（オリンパス社）
	・ 正立蛍光顕微鏡 BX51-FL（オリンパス）
	・ Ca ²⁺ イメージング装置 Fura2レシオイメージングシステム（浜松ホトニクス社）
	・ マルチガスインキュベーター（TAITEC社）
	・ HS オールインワン蛍光顕微鏡 BZ-9000（キーエンス社）
	・ 実体顕微鏡 SZ61（オリンパス社）SZX10（オリンパス社）
	・ 倒立ルーチン顕微鏡 CKX41（オリンパス社）
	・ 磁気細胞分離システム AutoMACS（ミルテニー社）
	・ 超音波洗浄機 AU-507CB（EYELA社）
	・ セルソーター FACS Aria II（ベクトンディッキンソン社）
	・ フローサイトメーター Accuri C6（ベクトンディッキンソン社）
	・ P2実験室（細胞）
共同機器室 4	
	・ サーマルサイクラー PCR system 9700（Applied Biosystems社）
	・ サーマルサイクラー Veriti（Applied Biosystems社）
	・ RealTime PCR StepOnePlus-01（Applied Biosystems社）
	・ RealTime PCR 7500Fast（Applied Biosystems社）
	・ レーザースキャナ型イメージアナライザー Typhoon Trio（GE Healthcare社）
	・ CCDカメラ型イメージアナライザー ImageQuant400（GE Healthcare社）
	・ 卓上超遠心機 OptimaMax-XP（ベックマン社）
	・ 高速冷却遠心機 Avanti HP-30I（ベックマン社）
	・ 多本架け冷却遠心機 CF12RX（日立工機社）
	・ 非観血式自動血圧測定装置（ラット、マウス）BP-98A-L（株ソフトロン）
	・ クリオスタット HYRAX-C-50（ZEISS社）
	・ ABI PRISM 310 GENETIC ANALYZER（Applied Biosystems社）
	・ 振動刃ミクロトーム VT1200S（ライカ社）
	・ ポリトロンホモジナイザー PT3100/PT1200E（kinematica社）

	・超音波破碎装置 Model 250D-Advanced (Branson社)
	・遺伝子導入装置 Xcell コンプリートシステム (Bio-Rad社)
	・遺伝子導入装置 スクレオフェクター (Amaga社)
	・超純水製造装置 Milli-Q Integral (Merck Millipore社)
	・MAXART大判インクジェットプリンター PX-9550S (EPSON社)
	・分光光度計 Nanodrop1000 (Thermo Scientific社)
	・サイトスピン CYTOSPIN4 (Thermo Scientific社)
	・クロマトグラフィシステム AKTA prime (GE Healthcare社)
共同機器室 5	
	・低温室
	・P2実験室 (微生物)
	・LOCATOR 8 PLUS Rack and Box Systems (Thermo Scientific社)
	・超低温フリーザー (-80° C) MDF-U383 (三洋電機社)
共同機器室 6	
	・超高精度 ESI-Q TOF/LC-MS/MSシステム microTOF-Q (Bruker Daltonics社)
	・高速液体クロマトグラフ・三次元分析システム LaChrom Elite 2000 三次元分析システム (日立ハイテック社)
	・高速液体クロマトグラフ・分取分析用システム LaChrom Elite200 分取分析用システム (日立ハイテック社) * 紫外吸収検出器セットおよび示差屈折検出器セット
	・フーリエ変換赤外分光光度計 FT/IR-4100 (日本分光社)
	・旋光度計 P-2100 (日本分光社)
	・吸光/蛍光プレートリーダー SpectraMax M2e (Molecular Devices社)
	・発光プレートリーダー SpectraMax L Dual Injectors (Molecular Devices社)
	・ウルトラマイクロ天秤 XP26 (メトラートレド社)
	・ロータリーエバポレーター (減圧ポンプ、冷却水循環装置付き) R-210V (ビュッヒ社)
	・接触還元装置 (水素発生装置付き) CH-100 (石井理化学機器)
	・試料水平型多目的X線回折装置 Ultima IV (リガク社)
	・超純水製造装置 Milli-Q Integral (Merck Millipore 社)
	・凍結乾燥装置 FDU-2100 (EYELA社)
	・角型ドライチャンバー DRC-1000 (EYELA社)

3) 動物実験センター

i) 概要

動物実験センターおよび同分室は、「動物の愛護及び管理に関する法律」、「動物の愛護及び管理に関する条例」、「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準」、及び「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針」を厳密に遵守し、適正な実験動物の飼養と動物実験を行うための支援的機能をもつ施設として運営されている。実験動物学を科学的基盤とした薬理学的実験、生理機能実験、行動実験などのバイオサイエンス研究を行う研究者に利用されており、疾病の病態解明や難病の治療法開発などを支援している。

ii) 活動状況

動物実験センター（以下「センター」という。）、同分室（以下「分室」という。）及び動物実験センター運営委員会の活動状況等について、以下の表1～5に示す。

表1. 平成24年度活動実績

実施月	活 動 事 項
4 月	特定外来生物（ウシガエル）飼養等をする数量の増加、減少等の届出（近畿地方環境事務所） 動物実験センター及び分室利用者説明会 動物実験センター利用者DVD講習会 微生物モニタリング（SPFエリア、CONVエリア）（センター）
5 月	オートクレーブ定期点検（センター）
6 月	公私立大学実験動物施設協議会総会に出席 空調器フィルター交換に伴う一時空調停止・入室制限（センター）
7 月	微生物モニタリング（SPFエリア）（センター） クリーンラックの自動給水用濾過フィルター交換（センター）
10月	微生物モニタリング（SPFエリア、CONVエリア）（センター） 空調器フィルター交換に伴う一時空調停止・入室制限（センター）
1 月	微生物モニタリング（SPFエリア）（センター）
3 月	空調器フィルター交換に伴う一時空調停止・入室制限（センター・分室）

表2. 平成25年度活動実績

実施月	活 動 事 項
4 月	特定外来生物（ウシガエル）飼養等をする数量の増加、減少等の届出（近畿地方環境事務所） 動物実験センター及び分室利用者説明会 微生物モニタリング（SPFエリア、CONVエリア）（センター） パスボックス殺菌灯交換（センター）
5 月	オートクレーブ定期点検（日本ボイラー協会）（センター）
6 月	公私立大学実験動物施設協議会総会に出席 動物実験センター及び分室利用者DVD講習会 空調器フィルター交換に伴う一時空調停止・入室制限（センター・分室）
7 月	微生物モニタリング（SPFエリア）（センター）
10月	微生物モニタリング（SPFエリア、CONVエリア）（センター） 空調器フィルター交換に伴う一時空調停止・入室制限（センター・分室） 動物実験の実施体制に関する検証 動物実験センター運営委員会
11月	クリーンラックの自動給水用濾過フィルター交換（センター） 空調設備総点検に伴う一時空調停止・入室制限（センター）
12月	動物実験センター運営委員会（動物実験委員会合同開催）
1 月	動物実験センター及び分室利用者DVD講習会 空調器フィルター交換に伴う一時空調停止・入室制限（センター・分室） 微生物モニタリング（SPFエリア）（センター） クリーンラックのヘパフィルター交換（センター）
2 月	空調器フィルター交換に伴う一時空調停止・入室制限（センター・分室） 動物実験センター及び分室利用者説明会
3 月	動物実験センター及び分室利用者DVD講習会 クリーンラックの自動給水用濾過フィルター交換（センター）

表 3. 動物実験センターおよび同分室の延べ利用者数

年度	動物実験センター延べ利用者数(人)	同分室延べ利用者数(人)	総利用者数
平成24年度	6,454	1,073	7,527
平成25年度	6,715	699	7,414

表 4. 搬入実験動物匹数

() は自家繁殖匹数

年度	SPF マウス	CONV マウス	SPF ラット	CONV ラット	組換え マウス	モルモット	分室 ハムスター	分室 マウス	ウシ ガエル
平成24年度	340	497	0	1,509	(450)	8	7	137	42
平成25年度	241	353	0	1,509	(505)	8	0	69	67

表 5. 使用飼育ケージ数

年度	SPF マウス	CONV マウス	SPF ラット	CONV ラット	組換え マウス	モルモット	分室 ハムスター	分室 マウス	ウシ ガエル
平成24年度	6,265	1,795	0	10,972	29,691	46	608	3,943	
平成25年度	3,911	1,244	0	14,068	28,438	40	0	4,656	

4) RI実験センター

i) 概要

RI実験センターは放射性同位元素（ラジオアイソトープ）を用いたトレーサー実験を安全に行う為の実験施設である。本センターでは ^3H 、 ^{14}C 、 ^{32}P 、 ^{125}I 及び ^{131}I 等のベータ線またはガンマ線放出核種の使用が許可されており、生化学実験または分析化学実験に対応した実験器具及び放射線計測機器が設置されている。本センターは平成20年1月に放射線管理区域として認可され、翌年4月に放射線取扱主任者が選任され、同年9月より稼働している。本センターは放射線障害防止について総括的な監督を行う放射線取扱主任者の他、管理区域責任者、安全管理責任者及び施設管理責任者より構成された管理組織で運営されている。この他に各学部より選出された委員で構成された放射線障害予防委員会では、放射線予防規程の改訂や放射線管理状況報告書の審議を行っている。

ii) 平成24年度及び25年度の活動状況

(1) 放射線管理

1) 点検実施

年2回（3月と9月）施設点検を実施している。平成24年及び25年度の施設点検では補修等の措置を講じなければならない不具合の発生は認められなかった。

2) 非密封RIの保管状況

平成24年度のRI保管状況として ^{14}C 標識化合物は15.2MBq、 ^3H 標識化合物125.4MBqを保管していた。平成25年度は2品目の ^{14}C 標識化合物、1品目の ^3H 標識化合物の受け入れにて、11品目の ^{14}C 標識化合物として合計18.3MBq、2品目の ^3H 標識化合物として合計144.4MBqの放射性同位元素を保管している。

3) 放射線業務従事者数

平成24年度の放射線業務従事者の登録者は12名（含む女子登録者2名）、平成25年度登録者数は10名（含む女子2名）であった。いずれも年間被ばく線量は検出限界未満であり、個人実効線量分布は5mSv/年以下であった。

4) 放射線教育及び訓練

前項の放射線業務従事者として登録された10名及び学外にて放射線取扱作業を行う3名について放射線障害防止の為に必要な教育訓練を毎年3月に実施した。受講者へは予防規程に関する放射線教育及びガイガーミュラー（GM）式計数管を用いた自然放射線計測の実技を行った。また教育終了後は確認試験を行い、教育訓練の記録として保管した。

5) 放射線管理状況報告書の提出

前年度の3月31日までの放射線管理の記録類を放射線管理状況報告書（許可届出使用者）として集計し、放射線障害予防委員会の議を経て原子力規制委員会へ提出した。

(2) 放射性同位元素等に係る立ち入り検査への対応

平成25年8月29日に原子力規制庁放射線対策保障措置課放射線規制室の検査官2名による立ち入り検査が行われた。検査は放射性同位元素に関する（1）使用状況の聴取、（2）手続き事項の検査（許可申請書、予防規程、選任届、管理状況報告書）、（3）RIの使用、保管、廃棄に関する法定帳簿の調査、（4）作業環境測定記録を対象に行われた。承認許可後の初めての立ち入り検査であったが、検査結果の講評として放射線管理について特筆すべき項目は無いとの評価であった。

5) 薬物草園

1. 薬学部附属薬用植物園整備状況

医療における漢方薬の需要が高まる中、原料として使用される生薬は年々増加している。また、薬用植物に含有される化合物は現在でも医薬品としての活用が多数見られ、したがって、薬学教育において医薬品原料となる薬用植物や漢方生薬の基原植物を知ることは大変重要である。

本学でも開学時より「薬学部附属薬用植物園」の整備を進め、医療用生薬等の基原植物を観察できる環境を整え学生の教育に寄与している。以下にこれまでの整備状況を記す。

i) 施設

平成24年度

猛暑の影響で多数の植物が被害を受けたので、自動灌水装置を設置。現状でも十分な灌水が行えてはいないが、乾燥による植物へのダメージの緩和には役立っている。

平成25年度

前年度被害を受けた植物について、神戸薬科大学附属薬用植物園の御厚意により贈与を受け、栽培を再開。同時に数種類の薬用植物を新規購入し、栽培植物の充実を図った。

ii) 植物

平成24～25年度

日本薬局方収載生薬の基原植物を中心に、現在約130種の薬用植物を栽培している。以下にそのリストを示す。（50音順）

アカネ、アカメガシワ、アキノワスレグサ、アシタバ、アセロラ、アマ、アマチャ、アミガサユリ、アロエ、アンズ、イチョウ、イブキジャコウソウ、ウイキョウ、ウコン、ウスバサイシン、ウツボグサ、ウド、ウマノスズクサ、ウメ、ウンシュウミカン、エビスグサ、エンジュ、オウレン、オオバコ、オケラ、オタネニンジン、オミナエシ、オリーブ、カカオ、カキ（マメガキ）、ガジュツ、カラスビシャク、カリン、カルダモン、カワラナデシコ、カワラヨモギ、キキョウ、キク、キササゲ、キハダ、キンミズヒキ、クコ、クサノオウ、クスノキクチナシ、クヌギ、クララ、クロタネソウ、クロモジ、クワ、ケジギタリス、ケツトウ、ゲンノショウコ、コウホネ、コガネバナ、ゴシュユ、コノテガシワ、サイカチ、ザクロ、サボンソウ、サラシナショウマ、サンザシ、サンシュユ、サンショウ、ジギタリス、シナマオウ、シナレンギョウ、シャクヤク、ジャノヒゲ、シラン、ジロボウエンゴサク、ストロファンツス、セネガ、センキュウ、センダン、センナ、タイサンボク、ダイダイ、タケニグサ、タチバナ、タムシバ、タラノキ、チガヤ、チャ、チョウセンゴミシ、ツワブキ、テンダイウヤク、トウキ、トウネズミモチ、トキワイカリソウ、トクサ、ドクダミ、トチバニンジン、トチュウ、ナツメ、ナルコユリ、ナンテン、ニガキ、ニホンハッカ、ニワトコ、ヌルデ、ノイバラ、ハシリドコロ、ハス、ハトムギ、ハナスゲ、バナナ、ハナミョウガ、パパイア、ハブソウ、ハマゴウ、ハマナス、ハマボウフウ、ビャクブ、ヒヨス、ビワ、ヘラオオバコ、ホウノキ、ボタン、マルバアイ、マンゴー、ミシマサイコ、ミラクルフルーツ、ムラサキ、メハジキ、モモ、ヤブツバキ、ヤマザクラ、ヤマノイモ、ヤマボウシ、レモングラス、ワタ

【計132種】

6) 学外研究費の取得一覧

i) 概要

(1) 科学研究費助成事業（科学研究費補助金／学術研究助成基金助成金）

平成24年度科学研究費助成事業は、42件が採択され総額76,960,000円（うち直接経費59,200,000円、間接経費17,760,000円）の交付があった。

平成25年度科学研究費助成事業については、43件が採択され総額76,090,000円（うち直接経費58,600,000円、間接経費17,490,000円）の交付があった。平成24・25年度科研費交付の詳細については、表1～2に示す。

ii) 研究活動の内容

表1. 平成24年度科学研究費補助金交付一覧

研究種目	研究課題名	所属部局	職名	研究代表者	交付額(円)
基盤研究(B)	乳がん早期発見のための乳房セルフケア促進プログラムの開発と妥当性の検討	看護学部	教授	鈴木 久美	2,100,000
基盤研究(B)	遺伝子多型情報に基づくワルファリンの適正投与量設定へ向けた前向き臨床試験	薬学部	教授	東 純一	4,200,000
基盤研究(B)	集団感染予防のための環境を汚染しない陰部洗浄とおむつ交換技術の開発	看護学部	准教授	土田 敏恵	1,800,000
基盤研究(C)	在宅嚥下リハビリテーションのEBMの確立—高齢者の誤嚥性肺炎予防プログラムの構築—	リハビリテーション学部	教授	野崎 園子	1,200,000
基盤研究(C)	ラジカル種の特性を活用した合成法開拓の新展開	薬学部	教授	宮部 豪人	900,000
基盤研究(C)	疾患による免疫系の活性化が肝薬物代謝酵素の機能に及ぼす影響	薬学部	教授	九川 文彦	400,000
基盤研究(C)	血小板減少症治療薬インターロイキン-11を用いた有効な心不全発症予防療法の確立	薬学部	講師	前田真貴子	1,000,000
基盤研究(C)	シスプラチン腎障害のメカニズム解明とその軽減に向けた薬物療法の創出	薬学部	准教授	上田 晴康	600,000

研究種目	研究課題名	所属部局	職名	研究代表者	交付額(円)
基盤研究(C)	高内皮細静脈特異的な細胞動員シグナルによる自然免疫と獲得免疫を繋ぐ細胞動態制御	薬学部	教授	田中 稔之	1,000,000
基盤研究(C)	薬物輸送通路の解明—トランスポーターとギャップ結合の関連—	薬学部	助教	三浦 大作	700,000
基盤研究(C)	肥満と活性酸素：メタボリック症候群と動脈硬化の病態に対するSODの関与	薬学部	教授	大河原知水	500,000
基盤研究(C)	転移性肝がん患者への原発がん手術の体験を反映させた周手術期看護援助方法の考案	看護学部	講師	小西美ゆき	1,100,000
基盤研究(C)	メンタルヘルス不全により休職した看護師の実態調査及び復職支援ツールの開発	看護学部	准教授	富永 真己	1,100,000
基盤研究(C)	神経因性疼痛における新規Kチャンネルと交感神経の役割に関する研究	薬学部	教授	山本 悟史	1,000,000
基盤研究(C)	光切断リンカー付アフィニティ樹脂を用いた汎用的な生理活性物質探索法の開拓	薬学部	教授	田中 明人	1,600,000
基盤研究(C)	臨床検体に基づく実践的生体分子を標的とする天然由来分子標的抗がん剤の探索	薬学部	教授	青木 俊二	1,000,000
基盤研究(C)	膜破壊型殺菌消毒剤を活用した細菌の多剤耐性獲得に関する転写調節因子の分子機構解明	薬学部	准教授	前田 拓也	500,000
基盤研究(C)	ペインセンサーTRPA1のチャンネル活性抑制メカニズムの解明	薬学部	准教授	戴 毅	1,200,000
基盤研究(C)	規則性ナノ空間光触媒の創製とラジカル化学的CO ₂ 固定化反応への展開	薬学部	講師	甲谷 繁	2,600,000
基盤研究(C)	HGFディスプレイ乳酸菌によるGVHDの制御	薬学部	教授	岩崎 剛	2,200,000
基盤研究(C)	炎症性腸疾患薬のファーマコゲノミック・バイオマーカーの機能的探索及び活用法の提案	薬学部	講師	大野 雅子	2,200,000
基盤研究(C)	慢性心不全における鉄代謝異常の検討	薬学部	教授	辻野 健	1,600,000
基盤研究(C)	慢性閉塞性肺疾患患者の急性増悪の予防・対処行動に関する測定尺度の開発	看護学部	講師	松本 麻里	1,600,000
基盤研究(C)	父親・母親に対する産後うつ病予防統合プログラムの開発	看護学部	准教授	西村 明子	900,000
基盤研究(C)	色弱に配慮した服薬安全に資する「服薬トレイ」の開発研究	薬学部	研究員	石崎真紀子	1,900,000
基盤研究(C)	医療過誤防止と服薬アドヒアランス向上に資する医薬品カラーデザイン戦略の確立	薬学部	教授	前田 初男	1,600,000
基盤研究(C)	定常型社会におけるケアとそのシステム	共通教育センター	准教授	紀平 知樹	1,200,000
挑戦的萌芽研究	関節拘縮予防のための安全な他動運動の実施に関する研究	リハビリテーション学部	教授	日高 正巳	400,000
挑戦的萌芽研究	新規ミトコンドリア融合抑制因子HPGBによる心臓／代謝機能制御の同定		副学長	馬場 明道	1,000,000
挑戦的萌芽研究	サーモグラフィを手法とした感染制御のための発熱判定ガイドラインの構築	薬学部	助手	芝田 宏美	800,000
挑戦的萌芽研究	C型肝炎患者の治療中のセルフマネジメントを促すグループ介入プログラムの効果の検証	看護学部	教授	鈴木 久美	700,000

研究種目	研究課題名	所属部局	職名	研究代表者	交付額(円)
挑戦的 萌芽研究	miRNA発現プロファイルを用いた肝薬物代謝能の変動予測	薬学部	助手	森家 望	1,500,000
挑戦的 萌芽研究	コーチングソフトウェアを用いた「見て、気づき、考える」車椅子移乗技術指導への挑戦	看護学部	助教	増田富美子	1,300,000
挑戦的 萌芽研究	フィジカルアセスメント能力を高める協働学習型シミュレーション教育システムの開発	看護学部	教授	網島ひづる	1,500,000
若手研究(A)	微弱電流刺激のエビデンスを創造する	リハビリテーション学部	講師	坂口 顕	2,100,000
若手研究(B)	PKC- ε 選択的活性化による新規抗認知症治療剤創製と新規ターゲット探索	薬学部	助教	清水 忠	1,200,000
若手研究(B)	人工抗体のシグナル伝達阻害薬への応用	薬学部	准教授	芝崎 誠司	2,100,000
若手研究(B)	ベンザイン等の不安定化学種を活用した新規反応の開発とその応用研究	薬学部	助教	吉岡 英斗	1,100,000
若手研究(B)	X線結晶解析法及びX線溶液散乱法を用いた難分解性動物タンパク質分解機構の解明	薬学部	助教	中野 博明	2,400,000
若手研究(B)	DNAメチル化をマーカーとした抗うつ薬個別化適正医療の基盤構築	薬学部	講師	南畝 晋平	1,600,000
若手研究(B)	効果的な腸管運動促進手法の検討	リハビリテーション学部	講師	森沢 知之	1,600,000
若手研究(B)	入院している小児の転倒・転落防止プログラム改訂版の作成とその効果の検証	看護学部	助教	藤田 優一	2,200,000
合 計				42件	59,200,000

表 2. 平成25年度科学研究費助成事業交付一覧

研究種目	研究課題名	所属部局	職名	研究代表者	交付額(円)
基盤研究(B)	遺伝子多型情報に基づくワルファリンの適正投与量設定へ向けた前向き臨床試験	薬学部	教授	東 純一	4,200,000
基盤研究(B)	集団感染予防のための環境を汚染しない陰部洗浄とおむつ交換技術の開発	看護学部	准教授	土田 敏恵	4,400,000
基盤研究(C)	疾患による免疫系の活性化が肝薬物代謝酵素の機能に及ぼす影響	薬学部	教授	九川 文彦	500,000
基盤研究(C)	転移性肝がん患者への原発がん手術の体験を反映させた周手術期看護援助方法の考案	看護学部	講師	小西美ゆき	800,000
基盤研究(C)	光切断リンカー付アフィニティ樹脂を用いた汎用的な生理活性物質探索法の開拓	薬学部	教授	田中 明人	1,600,000
基盤研究(C)	臨床検体に基づく実践的生体分子を標的とする天然由来分子標的抗がん剤の探索	薬学部	教授	青木 俊二	800,000
基盤研究(C)	膜破壊型殺菌消毒剤を活用した細菌の多剤耐性獲得に関する転写調節因子の分子機構解明	薬学部	准教授	前田 拓也	500,000
基盤研究(C)	ペインセンサーTRPA1のチャネル活性抑制メカニズムの解明	薬学部	准教授	戴 毅	1,200,000
基盤研究(C)	規則性ナノ空間光触媒の創製とラジカル化学的CO ₂ 固定化反応への展開	薬学部	講師	甲谷 繁	800,000
基盤研究(C)	HGFディスプレイ乳酸菌によるGVHDの制御	薬学部	教授	岩崎 剛	1,100,000

研究種目	研 究 課 題 名	所属部局	職名	研究代表者	交付額(円)
基盤研究(C)	炎症性腸疾患薬のファーマコゲノミック・バイオマーカーの機能的探索及び活用法の提案	薬学部	講師	大野 雅子	1,200,000
基盤研究(C)	慢性心不全における鉄代謝異常の検討	薬学部	教授	辻野 健	1,600,000
基盤研究(C)	慢性閉塞性肺疾患患者の急性増悪の予防・対処行動に関する測定尺度の開発	看護学部	准教授	松本 麻里	1,700,000
基盤研究(C)	父親・母親に対する産後うつ病予防統合プログラムの開発	看護学部	准教授	西村 明子	1,800,000
基盤研究(C)	色弱に配慮した服薬安全に資する「服薬トレー」の開発研究	薬学部	研究員	石崎真紀子	1,300,000
基盤研究(C)	医療過誤防止と服薬アドヒアランス向上に資する医薬品カラーデザイン戦略の確立	薬学部	教授	前田 初男	1,100,000
基盤研究(C)	定常型社会におけるケアとそのシステム	共通 教育センター	准教授	紀平 知樹	1,400,000
基盤研究(C)	要介護高齢者の嚥下障害と服薬方法に関する研究	リハビリテーション学部	教授	野崎 園子	1,100,000
基盤研究(C)	ラジカル反応プロセスの触媒化研究	薬学部	教授	宮部 豪人	1,200,000
基盤研究(C)	C型肝炎ウイルスとマラリア原虫の肝特異的発現蛋白質が相互の増殖に及ぼす影響の解析	薬学部	講師	長野 基子	1,400,000
基盤研究(C)	リンパ節特異的な細胞動員シグナルによる免疫細胞の組織特異的動員と自己応答性の制御	薬学部	教授	田中 稔之	1,600,000
基盤研究(C)	神経因性疼痛における新規KチャネルとATPの役割に関する研究	薬学部	教授	山本 悟史	2,800,000
基盤研究(C)	学童保育における「学童保育版児童虐待対応マニュアル」の開発に関する研究	看護学部	教授	鈴井江三子	1,600,000
挑戦的 萌芽研究	C型肝炎患者の治療中のセルフマネジメントを促すグループ介入プログラムの効果の検証	看護学部	教授	鈴木 久美	700,000
挑戦的 萌芽研究	miRNA 発現プロファイルを用いた肝薬物代謝能の変動予測	薬学部	助手	森家 望	800,000
挑戦的 萌芽研究	コーチングソフトウェアを用いた「見て、気づき、考える」車椅子移乗技術指導への挑戦	看護学部	助教	増田富美子	700,000
挑戦的 萌芽研究	フィジカルアセスメント能力を高める協働学習型シミュレーション教育システムの開発	看護学部	教授	網島ひづる	1,400,000
挑戦的 萌芽研究	サーモグラフィを体温管理に応用した基礎および感染症看護ケアシステムの構築	薬学部	助手	芝田 宏美	2,000,000
若手研究(A)	微弱電流刺激のエビデンスを創造する	リハビリテーション学部	講師	坂口 顕	1,800,000
若手研究(B)	排尿障害を有する脳卒中患者における自立支援からみた排尿誘導法の有用性	看護学部	助教	鈴木みゆき	2,200,000
若手研究(B)	人工抗体のシグナル伝達阻害薬への応用	共通 教育センター	准教授	芝崎 誠司	1,400,000
若手研究(B)	ベンザイン等の不安定化学種を活用した新規反応の開発とその応用研究	薬学部	助教	吉岡 英斗	900,000
若手研究(B)	X線結晶解析法及びX線溶液散乱法を用いた難分解性動物タンパク質分解機構の解明	薬学部	助教	中野 博明	900,000

研究種目	研 究 課 題 名	所属部局	職名	研究代表者	交付額(円)
若手研究(B)	DNAメチル化をマーカーとした抗うつ薬個別化適正医療の基盤構築	薬学部	講師	南畝 晋平	1,500,000
若手研究(B)	効果的な腸管運動促進手法の検討	リハビリテーション学部	講師	森沢 知之	500,000
若手研究(B)	入院している小児の転倒・転落防止プログラム改訂版の作成とその効果の検証	看護学部	助教	藤田 優一	400,000
若手研究(B)	老化制御シグナルによるタウリン欠乏センシング機構とサルコペニアにおける役割の解明	薬学部	助教	伊藤 崇志	1,700,000
若手研究(B)	非可逆反応を利用した高感度かつ高選択的なカドミウムイオン蛍光プローブの開発	薬学部	助教	塚本 効司	1,500,000
若手研究(B)	患者講師による学内教育プログラムの開発に関する研究	リハビリテーション学部	講師	森 明子	400,000
若手研究(B)	医療サービス施設の立地競争に関する空間計量分析	共通教育センター	講師	西田喜平次	800,000
研究活動スタート支援	骨格筋電気刺激による新たな糖尿病運動療法の確立	リハビリテーション学部	講師	宮本 俊朗	1,100,000
研究活動スタート支援	炎症性腸疾患に伴う内臓痛の発症メカニズムにおける免疫調節因子とTRP受容体の相関	薬学部	助教	王 勝蘭	1,100,000
研究活動スタート支援	新型出生前診断に直面した女性の自己決定を支える看護：一般女性のニーズからの検討	看護学部	助教	片田 千尋	1,100,000
合 計				43件	58,600,000

(iii) その他、平成24・25年度研究助成金・寄付金

その他財団法人及び企業等からの受託研究、共同研究など学外研究費の取得については、平成24年度では取得件数10件、総額28,335,000円、25年度の取得件数は8件、総額15,630,000円であった。学外研究費の詳細な取得状況については表3～8に示す。

表3. 平成24年度研究助成金

財 団 名	所属部局	職 名	研究代表者	助成額(円)
日本私立学校振興・共済事業団	薬学部	准教授	芝崎 誠司	1,600,000
(社) 日本アロマ環境協会	看護学部	助 教	大山 未美	800,000
(財) 飯島記念食品科学振興財団	薬学部	助 教	塚本 効司	1,400,000
(公財) ニッセイ財団	看護学部	講 師	堀口 和子	1,060,000
合 計			4 件	4,860,000

表 4. 平成25年度研究助成金

財 団 名	所属部局	職 名	研究代表者	助成額 (円)
日本私立学校振興・共済事業団	共通教育	准教授	芝崎 誠司	1,400,000
(社) 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会	リハビリテーション学部	教 授	野崎 園子	200,000
(財) 杉浦地域医療振興財団	リハビリテーション学部	教 授	野崎 園子	1,800,000
(財) 日本理学療法士協会	リハビリテーション学部	講 師	宮本 俊朗	450,000
(財) 中富健康科学振興財団	薬学部	教 授	田中 稔之	1,000,000
合 計			5 件	4,850,000

表 5. 平成24年度受託研究

委託企業等	所属部局	職名	研究代表者	委託費 (円)
(独) 医薬基盤研究所	薬学部	教 授	青木 俊二	9,000,000
エーザイ (株)	薬学部	教 授	田中 明人	2,000,000
アステラス製薬 (株)	薬学部	教 授	田中 明人	5,775,000
アステラス製薬 (株)	薬学部	教 授	田中 明人	3,000,000
合 計			4 件	19,775,000

表 6. 平成25年度受託研究

委託企業等	所属部局	職名	研究代表者	委託費 (円)
(独) 医薬基盤研究所	薬学部	教 授	青木 俊二	9,000,000
白鷗 (株)	薬学部	教 授	前田 拓也	780,000
合 計			2 件	9,780,000

表 7. 平成24年度共同研究

共同研究先企業等	所属部局	職名	研究代表者	共同研究費
(独) 宇宙航空研究開発機構	薬学部	教 授	中野 明博	700,000
大正製薬 (株)	薬学部	教 授	東 純一	3,000,000
合 計			2 件	3,700,000

表 8. 平成25年度共同研究

共同研究先企業等	所属部局	職名	研究代表者	共同研究費
倉敷紡績 (株)	薬学部	教 授	東 純一	1,000,000
合 計			1 件	1,000,000

7) 教育・研究・社会活動における新聞記事

表 1. 平成24年度 2012年 4月～2013年 3月

月 日	新 聞 社	記 事 内 容	学 部	職 位	氏 名
5月7日	毎日	朝	松田暉学長 「心臓外科医の見た医療事情」出版	学 長	松田 暉
5月31日	神戸	朝	世界禁煙デーの特集記事 兵庫医療大学にて実施している学生の吸い殻 拾い活動について紹介	講 師	前田真貴子
6月12日	毎日	朝	キャンパス通信 ポーアイ4大学連携講座 「薬の開発」	教 授	山本 悟史
6月19日	毎日	朝	キャンパス通信 ポーアイ4大学連携講座 「私を守る免疫部隊」	教 授	田中 稔之
6月26日	毎日	朝	キャンパス通信 ポーアイ4大学連携講座 「医薬品の適正使用」	教 授	門林 宗男
7月10日	毎日	朝	キャンパス通信 ポーアイ4大学連携講座 「有機合成化学研究」	教 授	宮部 豪人
7月20日	神戸	朝	8月25日・26日兵庫医療大学開催 「乳がん早期発見のための乳房セルフケアプ ログラム」案内		
7月20日	神戸	朝	7月21日開催 兵庫医療大学×兵庫医科大学病院 合同イベント 「絶対に他では聞けない！？クスリの話」案内		
7月24日	毎日	朝	キャンパス通信 ポーアイ4大学連携講座 「感染症」	教 授	斎藤あつ子
7月30日	読売	朝	ロンドン五輪で金メダルを取った内村選手の ゆかの演技について分析しコメントした内容 が掲載	リハビリ テーション 学部	講 師 山田 哲
8月3日	神戸	朝	ロンドン五輪で金メダルを取った内村選手の ゆかの演技について分析しコメントした内容 が掲載	リハビリ テーション 学部	講 師 山田 哲
8月27日	神戸	朝	兵庫医療大学で開催 「血圧をモニタリングしてみよう～日常生活 ふりかえりプログラム～」案内		
8月31日	神戸	朝	9月6日開催 兵庫医療大学学術講演会『「死にざま」こそ 人生―「ありがとう」と言って逝くための10 のヒント―』案内		
9月9日	読売	朝	9月15日兵庫医療大学開催 公開講座 「食べるよろこび つながる健康」案内		
11月3日	神戸	朝	「ひょうごの医療」コーナー 兵庫医科大学病院の呼吸器・RCU科で治療を 受けた患者さんの事例掲載 東純一薬学部長らが進めているニコチン依存 症のなりやすさや薬の効きやすさなどの遺伝 子的な要因との関連性についての研究内容	薬 学 部	教 授 東 純一
11月6日	毎日	朝	キャンパス通信 ポーアイ4大学連携講座 「摂食嚥下障害の研究」	リハビリ テーション 学部	教 授 野崎 園子
11月20日	毎日	朝	キャンパス通信 ポーアイ4大学連携講座 「COPDと診断されたら」	リハビリ テーション 学部	教 授 玉木 彰
11月27日	毎日	朝	キャンパス通信 ポーアイ4大学連携講座 「スポーツ理学療法」	リハビリ テーション 学部	教 授 川口浩太郎

月 日	新 聞 社		記 事 内 容	学 部	職 位	氏 名
12月3日	神戸	朝	嚙下障害などの方にもおいしい料理を「やわらかフランス料理で家族と楽しむクリスマス」 神戸のホテルと兵庫医療大連携	リハビリテーション学部	教 授	野崎 園子
12月4日	毎日	朝	キャンパス通信 ポーアイ4大学連携講座 「心と体、両方に病気」	リハビリテーション学部	教 授	松井 徳造
12月11日	毎日	朝	キャンパス通信 ポーアイ4大学連携講座 「高齢者の健康増進」	リハビリテーション学部	准教授	伊藤 斉子
12月18日	毎日、神戸、産経、朝日	朝	松田暉学長の任期満了に伴い、馬場明道副学長が平成25年4月1日より新学長に就任	薬 学 部	学 長	馬場 明道
12月19日	読売	朝	松田暉学長の任期満了に伴い、馬場明道副学長が平成25年4月1日より新学長に就任	薬 学 部	学 長	馬場 明道

表 2. 平成25年度 2013年4月～2014年3月

月 日	新 聞 社		記 事 内 容	学 部	職 位	氏 名
5月21日	毎日	朝	キャンパス通信 ポーアイ4大学連携講座 「アフリカから助産師研修」	看護学部	教 授	鈴木江三子
5月28日	毎日	朝	キャンパス通信 ポーアイ4大学連携講座 「産後うつ病」	看護学部	准教授	西村 明子
5月30日	神戸	朝	2013年6月6日開催「第1回学術講演会～来る南海トラフ巨大地震という『国難』と対策～」案内			
6月2日	毎日	朝	2013年6月6日開催「第1回学術講演会～来る南海トラフ巨大地震という『国難』と対策～」案内			
6月4日	毎日	朝	キャンパス通信 ポーアイ4大学連携講座 「聴覚障害者とのコミュニケーション」	看護学部	准教授	土井有羽子
6月8日、11日	神戸	朝	2013年6月15日開催 兵庫医療大学公開講座「食の安全・安心について」案内			
6月11日	毎日	朝	キャンパス通信 ポーアイ4大学連携講座 「学生がデンマークで学んだこと」	看護学部	教 授	竹田千佐子
6月13日	毎日	朝	「キャンパスNOW」 馬場明道学長が大学設立の経緯、大学の特色、チーム医療、今後の展望などについてコメント	薬 学 部	学 長	馬場 明道
6月14日	日経	朝	8月10日、11日、24日、25日開催 兵庫医療大学オープンキャンパス案内			
6月18日	毎日	朝	キャンパス通信 ポーアイ4大学連携講座 「重要性増す看護師間の連携」	看護学部	教 授	網島ひづる
6月29日	読売	朝	大学関西フォーラム 第12回シンポジウム 教員のプロとしての役割	薬 学 部	学 長	馬場 明道
7月7日	朝日	朝	7月13日開催 医療系学部・大学セミナー&進学ガイダンス案内 8月10日、11日、24日、25日開催オープンキャンパス情報			
7月19日	神戸、読売	朝	7月18日兵庫医療大学にて アフリカの助産師に対する日本の助産技術や新生児の保健指導などを学ぶ研修について			

月 日	新 聞 社		記 事 内 容	学 部	職 位	氏 名
8月25日、 26日	毎日、 神戸	朝	9月14日開催 ポーアイ健康・生活支援ステーション公開講座 「楽しく♪気軽に《免疫力アップ》のコツ」案内			
9月16日	神戸	朝	9月25日開催「兵庫医科大学病院市民健康講座」、10月26日、27日開催「乳がん早期発見のための乳房セルフケアプログラム」案内			
9月28日	神戸	朝	「ロコモティブシンドロームを防ごう」	リハビリ テーション 学部	教 授	藤岡 宏幸
10月8日	毎日	朝	キャンパス通信 ポーアイ4大学連携講座 「多職種連携しチーム医療を」	薬 学 部	教 授	辻野 健
10月12日	週刊ダイ ヤモンド	朝	「大学徹底比較」特集 兵庫医療大学看護学部、医療系学部の就職率 ランキング1位			
10月22日	毎日	朝	キャンパス通信 ポーアイ4大学連携講座 「薬の効き方に影響する使い方」	薬 学 部	教 授	森山 雅弘
10月29日	毎日	朝	キャンパス通信 ポーアイ4大学連携講座 「活性酸素の役割」	薬 学 部	教 授	大河原知水
11月4日	神戸	朝	2013年11月13日開催 兵庫医科大学病院市民健康講座 2013年11月16日開催 兵庫医療大学地域交流プロジェクト「健康って、なに色？ ポーボキ・ピース・ネットワーク」案内			
11月12日	毎日	朝	キャンパス通信 ポーアイ4大学連携講座 「時代のニーズに対応」	薬 学 部	教 授	戴 毅
11月19日	毎日	朝	キャンパス通信 ポーアイ4大学連携講座 「100年後も生き残れる学問」	薬 学 部	教 授	九川 文彦
11月21日	読売	朝	入浴と健康に関する記事 疲れを取るための入浴法や、入浴関連死の原因と予防法	共通教育	講 師	常見 幸
12月5日	神戸	朝	高次脳機能障害の人と家族に関する記事 「頭部外傷や病気による後遺症を持つ若者と家族の会」	リハビリ テーション 学部	准教授	佐野 恭子
2014年 2月号	CoopCoop ステーション		「美人をつくるバスタイム」共通教育センター 内科学の常見幸講師が解説	共通教育	講 師	常見 幸
2月25日	毎日	朝	キャンパス通信 ポーアイ4大学連携講座 「電気刺激療法」	リハビリ テーション 学部	准教授	坂口 顕
3月4日	毎日	朝	キャンパス通信 ポーアイ4大学連携講座 「女性特有の悩みに対する理学療法」	リハビリ テーション 学部	講 師	森 明子
3月11日	毎日	朝	キャンパス通信 ポーアイ4大学連携講座 「作業療法の役割」	リハビリ テーション 学部	准教授	佐野 恭子
3月13日	神戸	朝	2014年3月19日開催 兵庫医科大学病院市民健康講座・兵庫医療大 学学術講演会案内			
3月18日	毎日	朝	キャンパス通信 ポーアイ4大学連携講座 「ハンドセラピスト」	リハビリ テーション 学部	講 師	櫛邊 勇
3月25日	毎日	朝	キャンパス通信 ポーアイ4大学連携講座 「認知症の作業療法」	リハビリ テーション 学部	講 師	坂本 利恵

Ⅲ. 管理・運営活動

1. 学生の受け入れ

1) 入学試験状況

i) 概要

平成24年度～平成26年度入学試験の日程及び募集人員等は次のとおりであり、当該入学試験の結果については、表1～15に示す。

なお、看護学部看護学科三年次編入学試験については、平成24年度から編入学生の募集を停止した。

(1) 平成24年度入学試験

①推薦入学試験（専願公募制）

募集人員：薬学部 20名

看護学部 30名

リハビリテーション学部理学療法学科 10名

リハビリテーション学部作業療法学科 15名

選抜方法：薬学部（外国語、理科、調査書）

看護学部（外国語、小論文、調査書）

リハビリテーション学部理学療法学科（外国語、小論文、調査書）

リハビリテーション学部作業療法学科（外国語、小論文、調査書）

試験日：平成23年11月5日（土）

合格発表日：平成23年11月15日（火）

②推薦入学試験（薬学部指定校推薦入学制度）

募集人員：薬学部 10名

合格発表日：平成23年11月15日（火）

③推薦入学試験（公募制A日程）

募集人員：薬学部 15名

選抜方法：薬学部（外国語、理科、調査書）

試験日：平成23年11月6日（日）

合格発表日：平成23年11月15日（火）

④推薦入学試験（公募制B日程）

募集人員：薬学部 10名

選抜方法：薬学部（理科、調査書）

試験日：平成23年12月3日（土）

合格発表日：平成23年12月9日（金）

⑤一般入学試験（前期A日程）

募集人員：薬学部 40名

看護学部 57名

リハビリテーション学部理学療法学科 約25名

リハビリテーション学部作業療法学科 約12名

選抜方法：薬学部（外国語、数学、理科）

看護学部（外国語、国語、理科）

リハビリテーション学部理学療法学科（外国語、数学、理科）

リハビリテーション学部作業療法学科（外国語、国語、理科）

試 験 日：平成24年2月2日（木）

合格発表日：平成24年2月10日（金）

⑥一般入学試験（前期B日程）

募 集 人 員：薬学部 25名

リハビリテーション学部作業療法学科 約8名

選 抜 方 法：薬学部（外国語、理科）

リハビリテーション学部作業療法学科（外国語、数学、理科）

試 験 日：平成24年2月3日（金）

合格発表日：平成24年2月10日（金）

⑦一般入学試験（前期C日程）

募 集 人 員：薬学部 15名

選 抜 方 法：薬学部（理科、外国語・数学〔1教科選択〕）

試 験 日：平成24年2月18日（土）

合格発表日：平成24年2月24日（金）

⑧一般入学試験（後期日程）

募 集 人 員：薬学部 10名

看護学部 5名

リハビリテーション学部理学療法学科 若干名

リハビリテーション学部作業療法学科 若干名

選 抜 方 法：薬学部（外国語、数学、理科）

看護学部（外国語、国語、理科）

リハビリテーション学部理学療法学科（外国語、小論文、理科）

リハビリテーション学部作業療法学科（外国語、小論文、理科）

試 験 日：平成24年3月3日（土）

合格発表日：平成24年3月9日（金）

⑨大学入試センター試験利用入学試験前期日程

募 集 人 員：薬学部 5名

看護学部 5名

リハビリテーション学部理学療法学科 2名

リハビリテーション学部作業療法学科 2名

選 抜 方 法：薬学部（外国語、理科）

看護学部（外国語、国語、理科）

リハビリテーション学部理学療法学科（外国語、国語、数学、理科〔3教科選択〕）

リハビリテーション学部作業療法学科（外国語、国語、数学）

試 験 日：本学独自の学力試験はなし

合格発表日：平成24年2月10日（金）

⑩大学入試センター試験利用入学試験後期日程

募 集 人 員：看護学部 3名

選 抜 方 法：看護学部（外国語、国語、理科）

試 験 日：本学独自の学力試験はなし

合格発表日：平成24年 3 月28日（水）

表 1．平成24年度推薦入学試験（薬学部）

区 分	専願公募制	指定校推薦	公募制 A 日程	公募制 B 日程	計
募 集 人 員	20	10	15	10	55
出 願 者 数	34	2	73	51	160
受 験 者 数	34	2	71	50	157
合 格 者 数	30	2	43	27	102
入 学 者 数	30	2	25	20	77

表 2．平成24年度一般入学試験（薬学部）

区 分	前期 A 日程	前期 B 日程	前期 C 日程	センター前期	後期日程	計
募 集 人 員	40	25	15	5	10	95
出 願 者 数	182	103	88	72	65	510
受 験 者 数	177	99	78	71	65	490
合 格 者 数	71	61	19	20	19	190
入 学 者 数	33	25	11	2	11	82

表 3．平成24年度推薦・一般入学試験（看護学部）

区 分	専願公募制	前期 A 日程	センター前期	後期日程	センター後期	計
募 集 人 員	30	57	5	5	3	100
出 願 者 数	194	542	80	106	10	932
受 験 者 数	194	521	79	101	10	905
合 格 者 数	30	126	11	5	4	176
入 学 者 数	30	68	0	2	3	103

表 4．平成24年度推薦・一般入学試験（リハビリテーション学部理学療法学科）

区 分	専願公募制	前期 A 日程	センター前期	後期日程	計
募 集 人 員	10	約25	2	若干名	40
出 願 者 数	78	218	50	27	373
受 験 者 数	77	213	50	26	366
合 格 者 数	14	49	10	3	76
入 学 者 数	14	25	2	3	44

表 5．平成24年度推薦・一般入学試験（リハビリテーション学部作業療法学科）

区 分	専願公募制	前期 A 日程	前期 B 日程	センター前期	後期日程	計
募 集 人 員	15	約12	約8	2	若干名	40
出 願 者 数	32	45	55	13	8	153
受 験 者 数	32	45	54	13	8	152
合 格 者 数	16	24	22	4	4	70
入 学 者 数	16	20	12	1	3	52

(2) 平成25年度入学試験

①推薦入学試験（専願公募制）

募集人員：薬学部 20名

看護学部 30名

リハビリテーション学部理学療法学科 10名

リハビリテーション学部作業療法学科 15名

選抜方法：薬学部（外国語、理科、調査書）

看護学部（外国語、小論文、調査書）

リハビリテーション学部理学療法学科（外国語、小論文、調査書）

リハビリテーション学部作業療法学科（外国語、小論文、調査書）

試験日：平成24年11月3日（土）

合格発表日：平成24年11月13日（火）

②推薦入学試験（薬学部指定校推薦入学制度）

募集人員：薬学部 10名

合格発表日：平成24年11月13日（火）

③推薦入学試験（公募制A日程）

募集人員：薬学部 15名

選抜方法：薬学部（外国語、理科、調査書）

試験日：平成24年11月4日（日）

合格発表日：平成24年11月13日（火）

④推薦入学試験（公募制B日程）

募集人員：薬学部 10名

選抜方法：薬学部（理科、調査書）

試験日：平成24年12月1日（土）

合格発表日：平成24年12月7日（金）

⑤一般入学試験（前期A日程）

募集人員：薬学部 35名

看護学部 57名

リハビリテーション学部理学療法学科 20名

リハビリテーション学部作業療法学科 13名

選抜方法：薬学部（外国語、数学、理科）

看護学部（外国語、国語、理科）

リハビリテーション学部理学療法学科（外国語、数学、理科）

リハビリテーション学部作業療法学科（外国語、国語、理科）

試験日：平成25年2月1日（金）

合格発表日：平成25年2月8日（金）

⑥一般入学試験（前期B日程）

募集人員：薬学部 25名

リハビリテーション学部理学療法学科 6名（新規）

リハビリテーション学部作業療法学科 8名

選抜方法：薬学部（外国語、理科）

リハビリテーション学部理学療法学科（外国語、数学）

リハビリテーション学部作業療法学科（外国語、数学）

試 験 日：平成25年2月2日（土）

合格発表日：平成25年2月8日（金）

⑦一般入学試験（前期C日程）

募 集 人 員：薬学部 15名

選 抜 方 法：薬学部（理科、外国語・数学〔1教科選択〕）

試 験 日：平成25年2月17日（日）

合格発表日：平成25年2月22日（金）

⑧一般入学試験（後期日程）

募 集 人 員：薬学部 10名

看護学部 5名

リハビリテーション学部理学療法学科 2名

リハビリテーション学部作業療法学科 2名

選 抜 方 法：薬学部（外国語、理科）

看護学部（外国語、国語、理科）

リハビリテーション学部理学療法学科（外国語、小論文、理科）

リハビリテーション学部作業療法学科（外国語、小論文、理科）

試 験 日：平成25年3月2日（土）

合格発表日：平成25年3月8日（金）

⑨大学入試センター試験利用入学試験前期日程

募 集 人 員：薬学部 5名

看護学部 5名

リハビリテーション学部理学療法学科 2名

リハビリテーション学部作業療法学科 2名

選 抜 方 法：薬学部（外国語、理科）

看護学部（外国語、国語、理科）

リハビリテーション学部理学療法学科（外国語、数学、国語、理科〔3教科選択〕）

リハビリテーション学部作業療法学科（外国語、数学、国語）

試 験 日：本学独自の学力試験はなし

合格発表日：平成25年2月8日（金）

⑩大学入試センター試験利用入学試験後期日程

募 集 人 員：薬学部 5名（新規）

看護学部 3名

選 抜 方 法：薬学部（理科）

看護学部（外国語、国語、理科）

試 験 日：本学独自の学力試験はなし

合格発表日：平成25年3月27日（水）

表 6. 平成25年度推薦入学試験（薬学部）

区 分	専願公募制	指定校推薦	公募制 A 日程	公募制 B 日程	計
募集人員	20	10	15	10	55
出願者数	45	12	94	63	214
受験者数	45	12	93	63	213
合格者数	30	12	55	25	122
入学者数	30	12	31	21	94

表 7. 平成25年度一般入学試験（薬学部）

区 分	前期 A 日程	前期 B 日程	前期 C 日程	センター前期	後期日程	センター後期	計
募集人員	35	25	15	5	10	5	95
出願者数	221	151	116	55	125	16	684
受験者数	216	150	109	54	120	15	664
合格者数	61	35	30	20	10	5	161
入学者数	22	18	25	3	6	3	77

表 8. 平成25年度推薦・一般入学試験（看護学部）

区 分	専願公募制	前期 A 日程	センター前期	後期日程	センター後期	計
募集人員	30	57	5	5	3	100
出願者数	178	568	72	91	18	927
受験者数	178	555	72	86	18	909
合格者数	33	152	10	12	3	210
入学者数	33	64	0	8	3	108

表 9. 平成25年度推薦・一般入学試験（リハビリテーション学部理学療法学科）

区 分	専願公募制	前期 A 日程	前期 B 日程	センター前期	後期日程	計
募集人員	10	20	6	2	2	40
出願者数	100	185	115	61	34	495
受験者数	100	182	115	60	34	491
合格者数	13	45	9	6	3	76
入学者数	13	26	3	0	2	44

表10. 平成25年度推薦・一般入学試験（リハビリテーション学部作業療法学科）

区 分	専願公募制	前期 A 日程	前期 B 日程	センター前期	後期日程	計
募集人員	15	13	8	2	2	40
出願者数	40	67	62	18	12	199
受験者数	40	65	62	18	12	197
合格者数	15	27	16	5	3	66
入学者数	15	20	5	3	3	46

(3) 平成26年度入学試験

①推薦入学試験（専願公募制）

募集人員：薬学部 20名

看護学部 25名

リハビリテーション学部理学療法学科 10名

リハビリテーション学部作業療法学科 15名

選抜方法：薬学部（外国語、理科、調査書）

看護学部（外国語、小論文、調査書）

リハビリテーション学部理学療法学科（外国語、小論文、調査書）

リハビリテーション学部作業療法学科（外国語、小論文、調査書）

試験日：平成25年11月2日（土）

合格発表日：平成25年11月12日（火）

②推薦入学試験（薬学部指定校推薦入学制度）

募集人員：薬学部 10名

合格発表日：平成25年11月12日（火）

③推薦入学試験（公募制A日程）

募集人員：薬学部 15名

看護学部 10名（新規）

選抜方法：薬学部（外国語、理科、調査書）

看護学部（外国語、調査書）

試験日：平成25年11月3日（日）

合格発表日：平成25年11月12日（火）

④推薦入学試験（公募制B日程）

募集人員：薬学部 10名

選抜方法：薬学部（理科、調査書）

試験日：平成25年12月7日（土）

合格発表日：平成25年12月13日（金）

⑤一般入学試験（前期A日程）

募集人員：薬学部 35名

看護学部 50名

リハビリテーション学部理学療法学科 20名

リハビリテーション学部作業療法学科 13名

選抜方法：薬学部（外国語、数学、理科）

看護学部（外国語、国語、理科）

リハビリテーション学部理学療法学科（外国語、数学、理科）

リハビリテーション学部作業療法学科（外国語、国語、理科）

試験日：平成26年1月31日（金）

合格発表日：平成26年2月7日（金）

⑥一般入学試験（前期B日程）

募集人員：薬学部 25名

リハビリテーション学部理学療法学科 6名

リハビリテーション学部作業療法学科 8名

選 抜 方 法：薬学部（外国語、理科）

リハビリテーション学部理学療法学科（外国語、数学）

リハビリテーション学部作業療法学科（外国語、数学）

試 験 日：平成26年2月1日（土）

合格発表日：平成26年2月7日（金）

⑦一般入学試験（前期C日程）

募 集 人 員：薬学部 15名

選 抜 方 法：薬学部（理科、外国語・数学〔1教科選択〕）

試 験 日：平成26年2月16日（日）

合格発表日：平成26年2月21日（金）

⑧一般入学試験（後期日程）

募 集 人 員：薬学部 10名

看護学部 7名

リハビリテーション学部理学療法学科 2名

リハビリテーション学部作業療法学科 2名

選 抜 方 法：薬学部（外国語、理科）

看護学部（外国語、国語、理科）

リハビリテーション学部理学療法学科（外国語、小論文、理科）

リハビリテーション学部作業療法学科（外国語、小論文、理科）

試 験 日：平成26年3月1日（土）

合格発表日：平成26年3月7日（金）

⑨大学入試センター試験利用入学試験前期日程

募 集 人 員：薬学部 5名

看護学部 5名

リハビリテーション学部理学療法学科 2名

リハビリテーション学部作業療法学科 2名

選 抜 方 法：薬学部（外国語、理科）

看護学部（外国語、国語、理科）

リハビリテーション学部理学療法学科（外国語、数学、国語、理科〔3教科選択〕）

リハビリテーション学部作業療法学科（外国語、数学、国語）

試 験 日：本学独自の学力試験はなし

合格発表日：平成26年2月7日（金）

⑩大学入試センター試験利用入学試験後期日程

募 集 人 員：薬学部 5名

看護学部 3名

選 抜 方 法：薬学部（理科）

看護学部（外国語、国語、理科）

試 験 日：本学独自の学力試験はなし

合格発表日：平成26年3月26日（水）

表11. 平成26年度推薦入学試験（薬学部）

区 分	専願公募制	指定校推薦	公募制 A 日程	公募制 B 日程	計
募集人員	20	10	15	10	55
出願者数	54	9	191	142	396
受験者数	53	9	189	141	392
合格者数	25	9	62	27	123
入学者数	24	9	29	21	83

表12. 平成26年度一般入学試験（薬学部）

区 分	前期 A 日程	前期 B 日程	前期 C 日程	センター前期	後期日程	センター後期	計
募集人員	35	25	15	5	10	5	95
出願者数	309	208	182	77	164	10	950
受験者数	303	206	166	76	161	10	922
合格者数	85	46	22	18	16	5	192
入学者数	39	17	11	1	4	4	76

表13. 平成26年度推薦・一般入学試験（看護学部）

区 分	専願公募制	公募制 A 日程	前期 A 日程	センター前期	後期日程	センター後期	計
募集人員	25	10	50	5	7	3	100
出願者数	175	273	532	74	86	14	1,154
受験者数	175	273	528	74	85	14	1,149
合格者数	25	30	119	11	7	4	196
入学者数	25	16	55	0	5	2	103

表14. 平成26年度推薦・一般入学試験（リハビリテーション学部理学療法学科）

区 分	専願公募制	前期 A 日程	前期 B 日程	センター前期	後期日程	計
募集人員	10	20	6	2	2	40
出願者数	120	253	124	43	19	559
受験者数	120	250	124	42	18	554
合格者数	14	47	16	8	2	87
入学者数	14	23	5	1	2	45

表15. 平成26年度推薦・一般入学試験（リハビリテーション学部作業療法学科）

区 分	専願公募制	前期 A 日程	前期 B 日程	センター前期	後期日程	計
募集人員	15	13	8	2	2	40
出願者数	52	75	42	22	8	199
受験者数	51	75	41	22	7	196
合格者数	15	31	20	6	2	74
入学者数	15	18	12	1	2	48

2) 学生数の修学状況

表 1. 平成24年度学生数（4月1日現在）

学 部	学 科	第1 学年次	第2 学年次	第3 学年次	第4 学年次	第5 学年次	第6 学年次	計
薬 学 部	医療薬学科	181	204	107	138	155	146	931
看 護 学 部	看護学科	108	106	103	109※	—	—	426
リ ハ ビ リ テーション学部	理学療法学科	44	48	46	46	—	—	184
	作業療法学科	54	45	49	46	—	—	194
計		387	403	305	339	155	146	1,735

※看護学部第4学年次には、編入学生2名を含んでいます。

表 2. 平成25年度学生数（4月1日現在）

学 部	学 科	第1 学年次	第2 学年次	第3 学年次	第4 学年次	第5 学年次	第6 学年次	計
薬 学 部	医療薬学科	179	192	173	104	135	176	959
看 護 学 部	看護学科	110	107	104	103	—	—	424
リ ハ ビ リ テーション学部	理学療法学科	45	44	47	45	—	—	181
	作業療法学科	46	52	50	43	—	—	191
計		380	395	374	295	135	176	1,755

2. 学生の福利厚生

1) 奨学金の貸与状況

i) 奨学金制度の概要

本学における各種奨学金（日本学生支援機構奨学金、兵庫医療大学貸与奨学金、兵庫医科大学病院奨学金（返還免除特典付）、兵庫医科大学ささやま医療センター奨学金（返還免除特典付））の貸与を受けている学生の割合は、平成24年度では全学生の50%、25年度は51%となり、奨学金へのニーズは年々増加している。

また、平成21年度より、日本学生支援機構奨学金において奨学金高額貸与者に対して減額指導する制度が始まったこともあり、本学独自の奨学金返還の自覚促進サポートについては、本機構の減額指導制度に合わせて、貸与額の確認や各学生部委員が面談を行い指導している。

さらに、卒業前に返還説明会を開催し、卒業後の返還対応についてもサポートを行っている。平成24・25年度における奨学金制度の利用状況を図1～2に示す。

ii) 入学生・在学生特別奨学金の新設

平成23年度より、入学試験の成績上位者に対する初年度学納金の全額免除又は入学後に優秀な成績を修め、他の模範となる資質を有すると認められる在学生に対する学費の全額免除もしくは半額免除する入学生・在学生特別奨学金制度を新設した。この制度は、学生全体の学習意欲を高め、優秀な学生を輩出し、次代の医療をリードする人材の育成を目指すことを目的としている。平成24年度については、新入生13名、在学生38名が採用され、平成25年度については、新入生2名、在学生49名が採用されている。

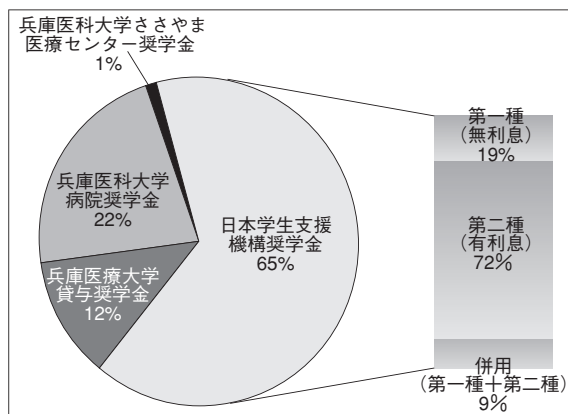


図1. 平成24年度奨学金採用者種類別割合（延人数）

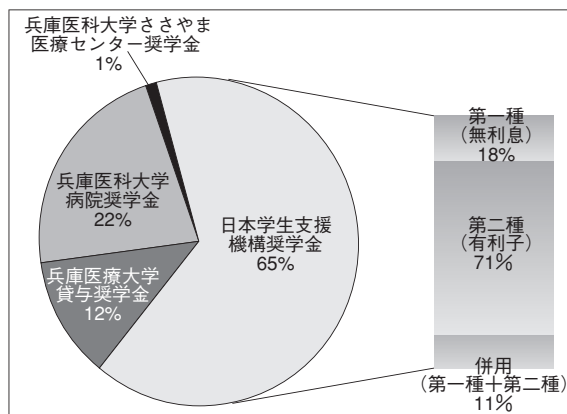


図2. 平成25年度奨学金採用者種類別割合（延人数）

2) 学生会活動

i) 概要

課外活動の参加状況については、平成24年度では816名、25年度1,014名の学生が参加しており、参加人数は平成24年度に減少したものの、平成25年度には大幅に増加している。在学学生数の比率も同

様に、平成24年度では47%と前年度の57%から減少したが、25年度には59%に増加している。開学時からの在学学生数比率では、平成24年度に過去最低となったが、平成25年度には大幅に増加している。

公認活動団体における学部別の参加人数では、薬学部の学生が多いが、在学学生数の比率からではリハビリテーション学部の学生が一番多い結果となっている。また、学年別では、第1～3学年次の学生が多い結果となった。学生の課外活動状況の詳細を図1～3に示す。

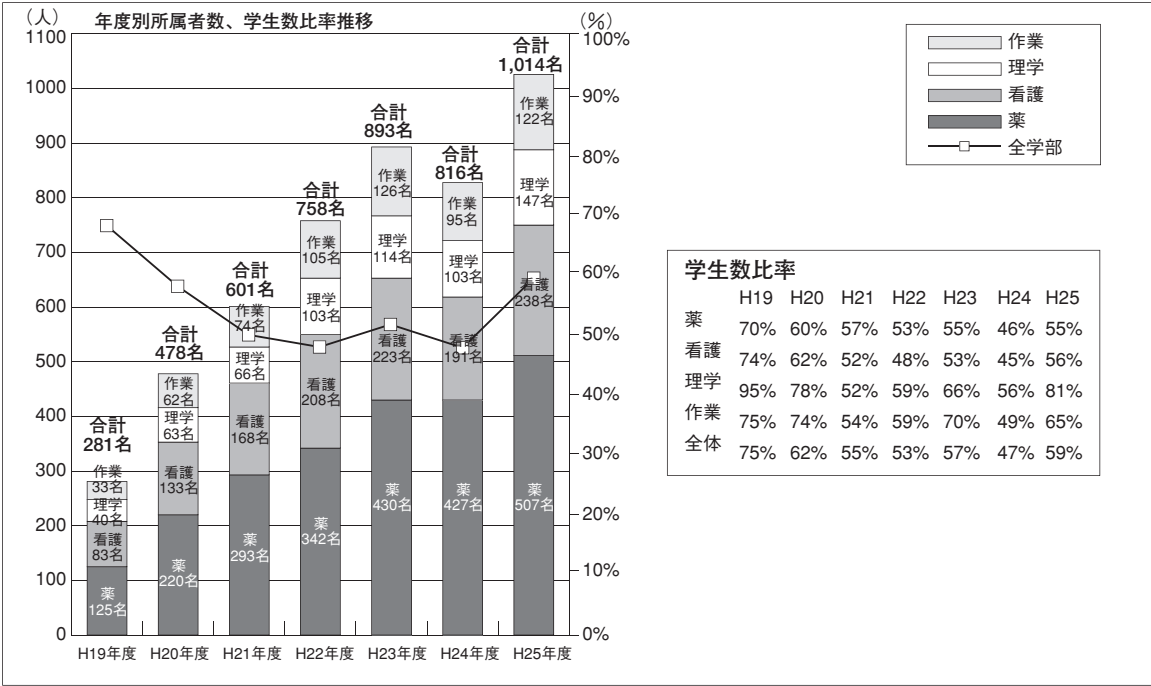


図1. 年度別課外活動所属者数、学生数比率推移

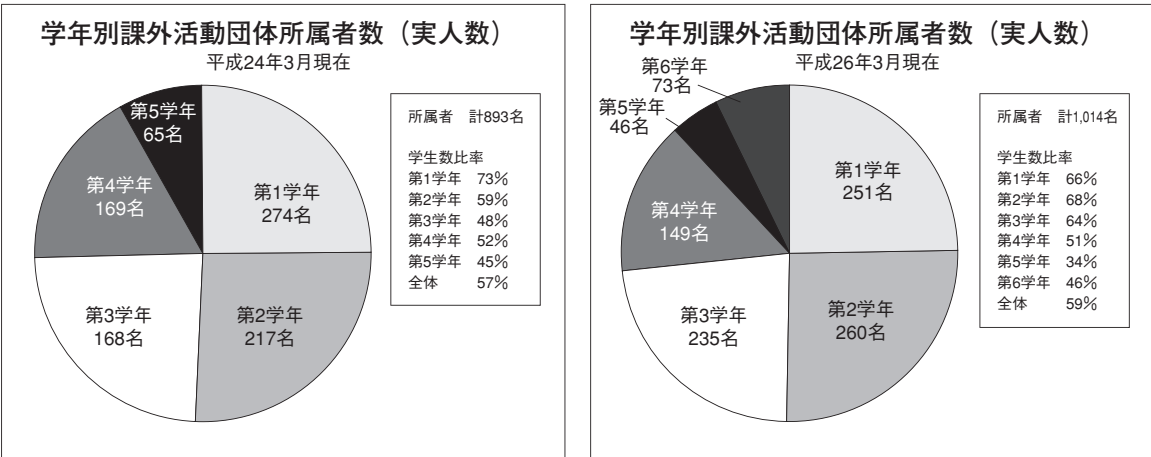


図2. 学年別課外活動所属者人数（実人数）

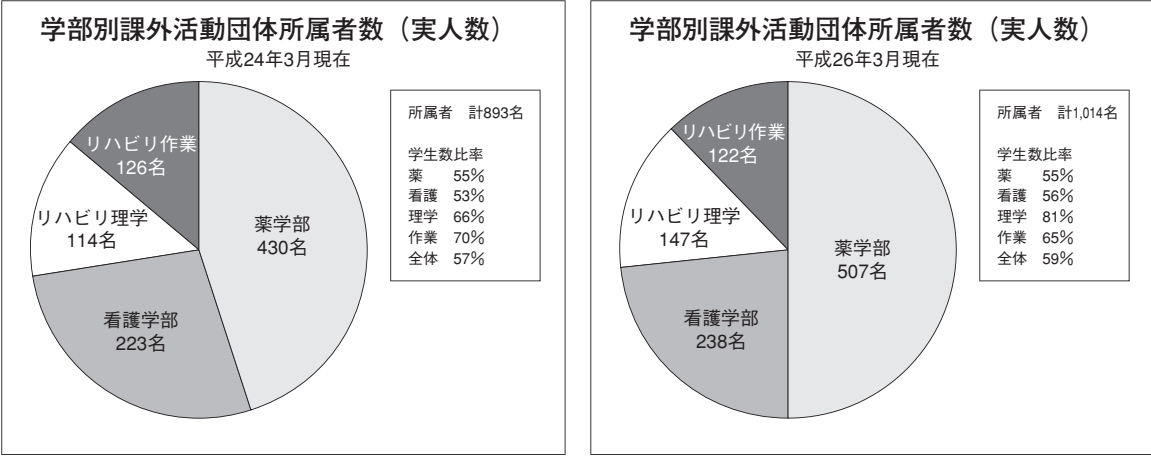


図 3. 学部別課外活動団体所属者人数（実人数）

ii) 課外活動の状況

平成25年度時点で、学生組織2団体、部活動10団体、同好会活動19団体の計31団体が公認を受けて活動している。平成24年度に1団体、25年度には1団体が新たに公認課外活動団体へと昇格が認められている。大学公認課外活動団体の一覧及び顧問（指導者）を表1. に示す。

表 1. 大学公認課外活動団体一覧

団体区分	団 体 名 称	所属人数	顧 問（指導者）		
学生会組織	兵庫医療大学 学生会	23			
	兵庫医療大学 大学行事实行委員会	66			
小 計		89			
部活動団体	兵庫医療大学 アーチェリー部	18	薬学部	教授	田中 明人
	兵庫医療大学 バスケットボール部	41	リハビリテーション学部 共通教育センター	講師 (准教授)	森 明子 賀屋 光晴
	兵庫医療大学 バドミントン部	83	共通教育センター	教授	伊東 久男
	兵庫医療大学 野球部	53	薬学部	教授	前田 初男
	兵庫医療大学 テニス部	50	薬学部	教授	青木 俊二
	兵庫医療大学 サッカー部	45	薬学部	教授	田中 稔之
	兵庫医療大学 水泳部	16	リハビリテーション学部	教授	川口浩太郎
	兵庫医療大学 軽音楽部	176	共通教育センター	教授	磯 博行
	兵庫医療大学 Jazzバンド部	78	薬学部	准教授	前田 拓也
	兵庫医療大学 卓球部	34	リハビリテーション学部	教授	日高 正巳
小 計		594			
同好活動団体	HUHS バスケットボールサークル	64	リハビリテーション学部	講師	森沢 知之
	兵庫医療大学 フットサルサークル	66	リハビリテーション学部	教授	山田 大豪
	兵庫医療大学 ソフトテニスサークル	17	リハビリテーション学部	講師	有吉 正則
	兵庫医療大学 ダンスサークル	84	リハビリテーション学部	准教授	佐野 恭子
	兵庫医療大学 ソフトボールサークル	51	リハビリテーション学部	教授	山崎せつ子
	兵庫医療大学 合気道同好会	6	看護学部	教授 (師範)	土田 敏恵 琴地 茂
	兵庫医療大学 フットサルサークル	58	共通教育センター	准教授	紀平 知樹

団体区分	団 体 名 称	所属人数	顧 問（指導者）		
同好活動団体	兵庫医療大学 陸上競技サークル	32	薬学部	講師	中野 博明
	兵庫医療大学 ヨガサークル	33	薬学部	講師	長野 基子
	兵庫医療大学 バレーボールサークル	61	看護学部	准教授	西村 明子
	HUHS 弓道サークル	11	薬学部	講師	上田 寛樹
	兵庫医療大学 漫画研究サークル	30	看護学部	助教	吉岡 なつき
	兵庫医療大学 映画鑑賞サークル	8	薬学部	講師	藤野 秀樹
	兵庫医療大学 天文サークル	29	共通教育センター	教授	加藤 精一
	兵庫医療大学 写真サークル	39	薬学部	教授	山本 悟史
	兵庫医療大学 医療研究サークル	33	共通教育センター	教授	柏村 信一郎
	兵庫医療大学 書道華道茶道サークル	20	リハビリテーション学部	准教授 (正教授)	伊藤 斉子 山内 翠澄
	兵庫医療大学 柔道サークル	6	共通教育センター	准教授	賀屋 光晴
	兵庫医療大学 室内楽団サークル	8	共通教育センター	准教授	芝崎 誠司
小 計		656			
合 計		1,339			

iii) 公認課外活動団体の活動場所

平成21年3月より使用可能となった体育館（G棟アリーナ）を中心に、学内の各施設（講義室、オクタホール、ミニグラウンド等）を毎月開催する学内施設使用者会に利用計画を提出し協議したうえ公認課外活動団体が優先し使用している。

学内に活動施設を持たない団体（アーチェリー部等）については、公認団体が個別に学外施設を確保契約して活動を行っている。以前より制度化している学外施設利用に対する補助制度により、各部活動団体及び同好活動団体への活動支援を実施している。平成22年7月より関西電力グラウンドを時間借りし、野球部、サッカー部、テニス部等の部活動団体及び同好活動団体が使用するグラウンドやテニスコートなどの練習場所を確保する支援を行っていた。関西電力グラウンドについては、関西電力の都合により平成24年12月末日をもって利用停止となったため、兵庫医科大学鳴尾浜グラウンドの使用要請、環境整備を行った。公認課外活動団体の主な活動場所を表2.に示す。

表2. 公認課外活動団体活動場所一覧

施設区分	施 設 名	
学内施設	Garden Wing Arena	アリーナ、多目的ホール1・2
		スタジオ
		工作室、アトリエ
		共同施設（ミーティングルーム・ピロティ）
	テニスコート	
	グラウンド	ミニグラウンド（サッカーゴール）
	バスケットゴール（野外）	センタープラザ
	講義室	
	オクタホール	500席
	実習室	
	学内構内スペース	図書館、M棟4Fバルコニー、芝生広場（レストラン前）

施設区分	施 設 名	
学外施設	兵庫医科大学	鳴尾浜グラウンド、平成記念会館、アリーナ、トレーニングルーム
	関西電力グラウンド	
	学外屋内施設	スタジオ（三宮近辺）
		プール（ポートアイランド島内）
		体育館（三宮近辺）
		公民館（三宮近辺）
	学外屋外施設	テニスコート
		グラウンド
		フットサルコート
	学外屋外施設	アーチェリー場
	その他	個人制作、海・山・川

iv) 学生会行事・イベントの活動状況

平成24・25年度には、4月に新入生歓迎会、6月には学生総会、10月には第5回海梟祭、11月に臨時学生総会及び次年度学生会等役員選挙、11月、12月にはスポーツ大会、クリスマスイルミネーション点灯式を開催した。

また、学生会活動や課外活動における学生会、大学行事实行委員会、公認課外活動団体としてのあり方について理解を深め、各々の役割を認識するとともに学生会を中心とした組織作りを行うことを目的に、学生会執行部、大学行事实行委員会及び公認課外活動団体所属学生を対象に、1泊2日の課外活動リーダーズキャンプを実施している。さらに、平成24年度には、公認課外活動団体の顧問に対し、情報交換、指導上の協力を得ることを目的として顧問懇談会を開催した。平成24・25年度に学生委員会が実施した行事の詳細を表3に示す。

表3. 平成24・25年度学生会及び課外活動関連行事

平成24年度			行事内容			平成25年度			行事内容		
4月	7日		新入生歓迎会			4月	6日		新入生歓迎会		
5月	17日		顧問懇談会			5月					
6月	9～10日 29日		課外活動リーダーズキャンプ 学生総会			6月	15～16日 24日		課外活動リーダーズキャンプ 学生総会		
7月						7月					
8月						8月					
9月						9月					
10月	6～7日		第5回兵庫医療大学大学祭 (海梟祭)			10月	12～13日		第6回兵庫医療大学大学祭 (海梟祭)		
11月	26日 27日		臨時学生総会 学生会等役員選挙公示 スポーツ大会			11月	29日		臨時学生総会 学生会等役員選挙公示		
12月	3日 7日		スポーツ大会 クリスマスイルミネーション点灯式			12月	2日 13日		スポーツ大会 クリスマスイルミネーション点灯式		
1月						1月					
2月						2月					
3月	4～6日 10日		公認課外活動団体更新・昇格ヒアリング 卒業記念パーティー			3月	3～5日 15日		公認課外活動団体更新・昇格ヒアリング 卒業記念パーティー		

平成24年度には、上記以外にも姉妹校兵庫医科大学との交流戦として、4団体（バドミントン、テニス、卓球、サッカー）が試合を行った。学生委員会としても、交流戦の懇親会や親睦会の経費に対する補助を行うなど両大学の交流を積極的に支援している。

また、課外活動功労賞については、学生が在学期間を通じて他の学生の模範となり、学生会活動やクラブ活動、課外活動及び人道活動等の諸活動を通じて、兵庫医療大学の発展に功労のあった学生を讃えるとともに、積極的に取り組む風土を育てることを目的として設け、平成22年度第1回卒業式より表彰しており、平成24年度には5名、平成25年度には4名の学生を表彰している。

3) 保健管理センター

i) 施設の概要

保健管理センターは、保健室と学生相談室の2部門より構成され、学生を対象として体調の変化や心の悩みの相談に応じている。定期健康診断や予防接種などが主な業務であるが、学内の感染症の集団発生や事故の予防、学生の健康管理やメンタルヘルスケアの積極的支援を心がけている。病気や事故の際には、当センターを当然利用することになるが、本来これらの事柄は発生しないことが望ましい。病気になるまでに、何らかの徴候を自覚した時点で気楽に相談してもらえるように努めている。

ii) 保健室の活動状況

スタッフ：医師1名、保健師3名

(1) 健康診断

健康診断については、平成24年度は兵庫県健康財団、平成25年度は近畿健康管理センターに委託して実施している。委託先の変更に伴い健康診断の検査を追加、変更した。検査項目を表1に示す。

表1. 平成24・25年度学生健康診断の検査項目

年度	第2～6学年次	新 入 生
平成24年度	身体計測（身長・体重・BMI）、視力検査、内科診察、胸部X線直接撮影	身体計測（身長・体重・BMI）、腹囲測定、血圧測定、視力検査、聴力検査、内科診察、尿検査（糖・蛋白・潜血）、胸部X線直接撮影、心電図検査、血液検査（RBC・Hb・Ht・WBC、AST・ALT・ γ -GTP、TG・HDL-CHO・LDL-CHO・GLU）
平成25年度	身体計測（身長・体重・BMI）、血圧測定 ^{※1} 、視力検査、内科診察、胸部X線デジタル撮影 ^{※2} 、	身体計測（身長・体重・BMI）、腹囲測定、血圧測定、視力検査、聴力検査、内科診察、尿検査（糖・蛋白・潜血）、胸部X線デジタル撮影 ^{※2} 、心電図検査、血液検査（RBC・Hb・Ht・WBC、AST・ALT・ γ -GTP、TG・HDL-CHO・LDL-CHO、GLU）

※1 平成25年度から血圧測定を追加した

※2 胸部X線直接撮影からデジタル撮影に変更

健康診断では、「健康調査票」を学生に提出させ、既往歴、現病歴、アレルギー等と学生生活での支障や医師・保健師との相談希望の有無を調査している。記載内容から面談が必要と医師が判断した学生については、掲示板で呼び出し、医師・保健師による面談を行い、学生生活での健康管理に役立つように指導や助言を行っている。また、新入生については、大学生活を始めるに際し、健康状態を把握して運動許容を決める安全配慮目的と生活習慣を見直して健康増進を支援するように努めている。

「健康診断結果のお知らせ」（個人票）の返却は、平成24年度はセントラルオフィスの教育・学生

支援グループで、平成25年度は保健室で行った。また、要精密検査や要治療者については、平成24年度は「健康診断結果のお知らせ」（個人票）と兵庫県健康財団からの「紹介状（診療情報提供書）」、平成25年度は「健康診断結果のお知らせ」（個人票）を渡し、医療機関の受診と精密検査を勧めている。また、受診医療機関の診断結果と検査結果、医師の指示や指導内容を受診した学生から確認している。健康診断の身体計測や血液検査、血圧測定結果から、生活習慣を改善する必要がある学生には、保健師から保健指導をしている。学生定期健康診断の実施状況は、表2に示す。受診者数と受診率は、表3・4に示す。

表2. 平成24・25年度学生健康診断の実施状況

年度	受付日・受付時間	対 象 学 生		
平成24年度	4月2日（月）	9:00～12:00 13:00～17:00	看護学部 リハビリテーション学部	第2～4学年次
	4月3日（火）	9:00～12:00	薬学部	第2～6学年次
	4月24日（火）※	11:00～17:00	全学部	第2～6学年次
	4月26日（木）※	11:00～17:00		
	4月7日（土）	11:30～13:00 14:00～17:00	全学部新入生	第1学年次
平成25年度	4月1日（月）	9:30～12:00 13:00～17:00	看護学部 リハビリテーション学部	第2～4学年次
	4月2日（火）	9:00～12:00 13:00～17:00	薬学部	第2～6学年次
	4月6日（土）	9:00～13:00	全学部新入生	

※4月3日（火）暴風警報発令し12:00で中止となり、4月24日、26日に振替実施をした。

会 場：多目的ホール1、2 体育館（G棟アリーナ1F 2F）

実施健診機関：平成24年度 兵庫県健康財団

平成25年度 近畿健康管理センター

表3. 平成24年度学生定期健康診断実施者数

対象部署	対象者数	健康診断		胸部X線直接撮影	
		実施者数	受診率	実施者数	受診率
薬学部	927	922	99.5	921	99.9
看護学部	425	423	99.5	423	100.0
リハビリテーション学部	374	373	99.7	373	100.0

※対象者は休学者を省く

表4. 平成25年度学生定期健康診断実施者数

対象部署	対象者数	健康診断		胸部X線デジタル撮影	
		実施者数	受診率	実施者数	受診率
薬学部	953	943	99.0	943	100.0
看護学部	422	422	100.0	422	100.0
リハビリテーション学部	367	367	100.0	367	100.0

※対象者は休学者を省く

(2) 抗体検査とワクチン予防接種

病院実習での感染予防対策として、本学では抗体検査とワクチン予防接種を平成24年度は兵庫県健康財団、平成25年度は近畿健康管理センターに委託し、学内において実施している。平成25年度から委託先を変更したが、平成24・25年度の新入生に対し、これまでと同じ麻疹・風疹・水痘・ムンプスの4種ウィルスのEIA法によるIgG抗体検査を実施している。予防接種は、委託先を変更した後もこれまでと同じ生ワクチン接種をしている。抗体検査の結果、陰性者及び擬陽性者には、早期臨床体験実習までに学内においてワクチンを接種した（表5・6）。体調不良等の理由で接種できなかった学生は、医療機関で個別にワクチン接種した。接種後の確認抗体検査については、統一した基準で確認するため学内で行っている。

第1学年次のワクチン接種により抗体を獲得できなかった場合、第2学年次に再度ワクチン接種を実施している。2回接種しても陽性とならなかった場合は、第3学年次において、希望者にワクチン接種を実施している。学年が上がるごとに抗体陽性率が上昇していることから、ワクチン接種が有用であると考えられる。ワクチン接種後の抗体陽性状況について表7・8に示す。

表5. 平成24年度 抗体検査及びワクチン予防接種

日 時		検査、予防接種	対 象 学 生
4月10日(火)	9:30～12:30 13:30～16:30	抗体検査 (健康診断時の採血)	第1学年次全員
5月18日(金)	12:30～16:10	ワクチン予防接種	第1・2学年次対象者 第3学年次希望者
6月15日(金)	12:30～15:20	ワクチン予防接種	第1・2学年次対象者 第3学年次希望者
7月20日(金)	12:30～13:40	ワクチン予防接種	第1・2学年次対象者
7月20日(金)	13:10～13:40	確認抗体検査	看護学部・リハビリテーション学部 第3学年次のワクチン接種者
10月1日(月)	11:10～13:40 14:30～16:30	確認抗体検査	第1・2学年次、薬学部3学年次 ワクチン接種者
10月15日(月)	11:10～13:40 14:30～16:30	確認抗体検査	第1・2学年次、薬学部3学年次 ワクチン接種者

会 場：多目的ホール1、体育館（G棟アリーナ1階、2階）、地域連携実践センター（P棟2階）
実施健診機関：兵庫県健康財団

表6. 平成25年度 抗体検査及びワクチン予防接種

日 時		検査、予防接種	対 象 学 生
4月6日(土)	9:00～12:00	抗体検査 (健康診断時の採血)	第1学年次全員
5月16日(木)	12:30～16:10	ワクチン予防接種	第1・2学年次対象者 第3学年次希望者
6月13日(木)	12:30～15:20	ワクチン予防接種	第1・2学年次対象者 第3学年次希望者
7月18日(木)	12:30～13:40	ワクチン予防接種	第1・2学年次対象者
7月18日(木)	13:10～13:40	確認抗体検査	看護学部、リハビリテーション学部 第3学年次 ワクチン接種者
10月1日(火)	11:00～13:00	確認抗体検査	看護学部 第1学年次 ワクチン接種者

日 時		検査、予防接種	対 象 学 生
10月7日(月)	11:00～16:30	確認抗体検査	薬学部 第1～3学年次、看護学部 第1・2学年次 ワクチン接種対象者
10月31日(木)	11:00～16:30	確認抗体検査	リハビリテーション学部 第1・2学年次 ワクチン接種者

会 場：多目的ホール1、体育館（G棟アリーナ1階、2階）
実施健診機関：近畿健康管理センター

表7. 平成24年度 各学年のワクチン接種後の抗体陽性率 (平成25年3月末現在)

	麻 疹	風 疹	水 痘	ムンプス
第1学年次 (平成24年度入学)	99.4 (97.2)	97.2 (91.6)	99.1 (95.0)	89.2 (62.8)
第2学年次 (平成23年度入学)	100.0 (98.4)	98.6 (92.1)	98.6 (95.1)	93.1 (63.8)
第3学年次 (平成22年度入学)	100.0 (98.0)	99.7 (91.9)	99.4 (92.2)	98.8 (78.8)

※（ ）は各学年の入学時の抗体陽性率

表8. 平成25年度 各学年のワクチン接種後の抗体陽性率 (平成26年3月末現在)

	麻 疹	風 疹	水 痘	ムンプス
第1学年次 (平成25年度入学)	100.0 (96.7)	96.7 (90.2)	98.1 (95.1)	91.3 (68.0)
第2学年次 (平成24年度入学)	99.7 (97.2)	97.7 (91.6)	99.1 (95.0)	95.7 (62.8)
第3学年次 (平成23年度入学)	100.0 (98.4)	98.6 (92.1)	99.4 (95.1)	96.3 (63.8)

※（ ）は各学年の入学時の抗体陽性率

(3) 保健室の利用状況

保健室利用者は新年度が始まる4・5月が多い。この時期は抗体検査やワクチン接種関連の説明及び健康診断の結果説明や要医療・要精密検査対象学生への保健指導が多い。また、「健康調査票」の記載内容に応じ、学業上の配慮が必要な学生に対する医師、保健師の「面談・説明」の件数も多い。新生活に慣れずに体調不良となり、ベッドを利用する学生もこの時期に多い。また、10月から翌年1月の時期は、発熱や上気道感染症状、消化器症状など内科症状の利用者が多くなり、検温や問診結果により早期受診勧奨や感染拡大防止（手洗い・うがい・マスク装着）の指導を行っている。平成24・25年度における保健室利用状況を表9・10に示す。

表9. 平成24年度症状別保健室利用者数

利用内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	50	68	68	60	11	23	60	72	48	37	13	3	513
外科	24	37	30	38	8	15	15	16	8	11	2	1	205
その他診療科	18	31	13	25	7	10	19	8	6	1	0	0	138
相談	8	4	6	7	2	4	4	5	2	3	4	0	49
ベッド休養	9	24	31	28	8	11	24	25	9	8	4	1	182
医療機関タクシー搬送	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	3

利用内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
救急車搬送	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
面談・説明	401	330	182	250	170	153	283	225	202	205	173	158	2,732
測定	7	10	14	18	13	15	63	46	20	19	7	2	234
その他	30	43	50	27	5	30	35	48	16	16	10	3	313
合 計	538	523	363	425	216	250	479	420	302	292	209	167	4,184

表10. 平成25年度症状別保健室利用者数

利用内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	35	58	43	36	16	29	37	43	31	21	10	2	361
外科	9	21	22	15	5	10	10	15	7	2	2	2	120
その他診療科	13	11	14	10	5	0	6	7	7	2	0	2	77
相談	3	31	6	4	7	7	5	12	7	3	0	0	85
ベッド休養	13	8	15	13	6	10	12	12	6	6	0	0	101
医療機関タクシー搬送	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3
救急車搬送	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
面談・説明	409	235	202	179	93	75	137	128	133	118	125	62	1,896
測定	14	18	17	12	4	16	13	19	33	12	4	0	162
その他	21	21	31	35	5	26	16	18	18	17	4	2	214
合 計	504	395	335	291	135	163	224	242	236	175	145	70	2,915

※ ベッド休養は内科の再掲

※ 医療機関搬送（タクシー）・救急車搬送は内科あるいは外科の再掲

※ 平成25年度から教職員の事務連絡は数に含まない

(4) インフルエンザの出席停止措置について

①「感染症罹患報告受付」状況

インフルエンザに罹患した学生の保健室への報告については、平成25年度は15名（A型8名、B型2名、型不明5名）、24年度では、25名（A型21名、B型1名、型不明3名）であった。

②「出席停止措置」の状況

学校保健安全法に定める感染症に罹患した学生については、登校許可日に保健室へ提出した「感染症罹患届」（診断書添付）を保健管理センター長が確認して出席停止期間を認定し、教務部長に報告している。認定者は、平成25年度で13名、24年度で24名であった。

(5) その他

①食生活支援

平成25年度健康診断の問診結果で「朝食を週に3回以上抜くことがある」と答えた学生が29.5%であった。朝食の摂取を促進するため、平成25年7月8日～9日に「朝食で脳力アップ」を学内の地域連携実践センターで開催した。参加者は、両日合わせ9名であった。朝食の効用についての説明を行った後、フードカードを用い、自分の朝食メニューを選び、栄養バランスのチェックを行った。

②体組成測定

平成25年10月21日に株式会社エイチ・アイからインボディ（高機能体組成計測器）が兵庫医療大学に寄贈され、保健室に設置した。学生の健康増進を図り、インボディを周知するため、

平成25年11月29日に「カラダの中をチェックしよう」を学内の地域連携実践センターで開催した。体組成についての講座、各参加者に体組成測定と結果説明を個別に実施した。学生35名(男性：26名 女性：9名)教職員1名の参加があった。

③保健だより

「保健だより」を有志の学生スタッフが協力し、年4回(春・夏・秋・冬)発行を続けている。学生スタッフが健康に関するテーマを自主的に選び、調べた記事や保健管理センター長の健康に関する記事、保健管理センター行事等を掲載している。

④証明書発行(健康診断証明書、抗体検査・予防接種証明書)

薬学部5年生の実務実習や他学部の学外実習に必要な「実習用健康診断証明書」(平成24年度218通、平成25年度287通)と「抗体検査及び予防接種証明書」(平成24年度88通、平成25年度294通)を発行している。また、就職活動に必要な学生の「就職活動用健康診断証明書」(平成24年度254通、平成25年度236通)も発行している。

iii) 学生相談室の活動状況

スタッフ：相談員2名

(1) 学生相談室利用状況

学生相談室は、相談員2名体制、開室日は火・木・金の週3日である。平成24年度の相談室利用件数は133件で、25年度は282件であった。

相談室では、新入学オリエンテーション時において、パワーポイントでの施設案内や相談員の紹介及び学生相談室春のイベント案内など相談室の広報活動を行っている。

相談内容を区分的にみると「性格」、「友人等との対人関係」、「授業などの学業」が上位に位置している。大学時代は社会に出る一歩手前の自分自身の将来について考える時期でもあり、今の自分に不適應感を感じて、「性格」の問題が浮かび上がってくると思われる。また、医療専門職を目指す大学であることから、グループワークや実技実習、学部学科の学生同士が同じ講義を受講する中で、学業に関する様々な問題や人間関係に関する悩みが生じやすいといえる。社会性の発達に関してサポートを必要としている学生の支援や教職員とのコミュニケーション問題が見られる。さらに、学生を取り巻く関係者(教職員・保護者)とのコンサルテーションを中心とした支援体制について、試行錯誤しながら整備充実に努めている。また、発達障がい学生支援の一環として、相談窓口を当該学生に伝えるための「発達障がい学生支援のしおり」と支援実施のための「発達障がい学生支援フローチャート」を作成し、学生相談室が発達障がい学生支援のキャンパスネットワークの拠点として機能していくこととなった。

表11. 平成24年度相談内容別件数

相談内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
就職や将来の進路								1					1
異性問題	1							1					2
授業など学業	2		2	1		1	1		1				8
友人等との対人関係	5	4	4	2			21	5	2				43
性格	3	2	8	5	4	4	1	3	4	4	4	3	45
経済問題 (家計・学費・ローン)													0
価値観													0
健康	2	1					1	2					6

相談内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
課外活動													0
家族や家庭内のこと													0
その他							2		2	12	9	3	28
合 計	13	7	14	8	4	5	26	12	9	16	13	6	133

表12. 平成24年度コンサルテーション件数

	教 職 員	保 護 者	そ の 他	合 計
件 数	11	0	0	11

表13. 平成25年度相談内容別件数

相談内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
就職や将来の進路		2	5									1	8
異性問題		4	2			5	9	5					25
授業など学業	2	4	3	8		4	5				2	1	29
友人等との対人関係	3	8	2						5	6			24
性格	11	9	16	12	4		14	22	19	8	6	7	128
経済問題 (家計・学費・ローン)													
価値観													
健康							2	2					4
課外活動													
家族や家庭内のこと		1	1	1		2	2			2			9
その他	8	8	7	2	5	3	6	2	7	3		4	55
合 計	24	36	36	23	9	14	38	31	31	19	8	13	282

表14. 平成25年度コンサルテーション件数

	教 職 員	保 護 者	そ の 他	合 計
件 数	43	27	0	70

(2) 学生相談室イベントの開催

学生相談室主催のイベントを平成24年度は春と秋の年2回、25年度は2月にも実施し年3回行った。イベント開催は、学生が、学生生活において、悩んだり困ったりしたときに相談室に来談しやすいように、相談員との交流を図り、相談室の敷居を低くする取り組みのひとつとして行っている。

表15. 平成24 23年度学生相談室イベント開催状況

年度	月日	時 間	場 所	内 容	参加者
平成24年度	4月14日 (木)	13:40～15:10 15:20～16:50	くつろぎスペース ひだまり	学生相談室主催イベント 「自分を知る」 ～より良い人間関係のために～	39名
	4月19日 (火)	13:40～15:10 15:20～16:50			
	11月15日 (木)	14:00～15:30	くつろぎスペース ひだまり	実習や国試の時にも役立つ 心と体がほっとする プログレッシブ・リラクセーション	8名
	12月6日 (火)	14:00～15:30			

年度	月日	時 間	場 所	内 容	参加者
平成 25 年度	7月2日 (火)	13:00～14:00	くつろぎスペース ひだまり	学生相談室イベント 「コミュニケーションを楽しもう ～宝探しゲーム～」	19名
	7月4日 (木)	13:00～14:00			
	11月26日 (火)	11:20～12:05 12:50～13:35	くつろぎスペース ひだまり	学生相談室イベント 「コミュニケーションワークショップ あなたのイメージは？」	10名
	2月4日 (火)	12:50～13:30	くつろぎスペース ひだまり	学生相談室イベント 『デコチョコ作り』 チョコレートにデコレーション する	25名

(3) 保健管理センター便り

保健管理センター便り「ぱたぱた幸せふくろう便」を保健管理センターから年間4回（春・夏・秋・冬）発行した。

(4) 発達障がい学生支援

相談窓口を当該学生に伝えるための「発達障がい学生支援のしおり」と、支援実施のための「発達障がい学生支援フローチャート」を作成した。

3. 学内広報

本学は平成24年度に薬学部を設置完成年を迎え、平成25年度には第二代学長の下に新執行部による、本学の「第2ステージ」がスタートした。

その第2ステージにおける本学の教育研究並びに管理運営等の取り組みの現況について、学内にタイムリーな情報を発信し、現状認識を共有化することを目的に、下記の新媒体により学内広報（インナーコミュニケーション）の充実を図った。

また、この学内広報業務は、神戸キャンパスオフィスの若手事務職員の情報の共有化と意識の活性化も意図され、10名の若手事務職員による「学内広報プロジェクト」を設置し、下記の2つの新媒体における企画、編集（編成）及び発刊（発信）等の業務を遂行した。

1) 学内広報誌「HUHS NOW」の刊行

学内広報は、そのステークホルダーに対し、如何にタイムリーで、組織的ニーズに基づく情報を発信し、共有化できるかが重要である。

学内広報誌「HUHS NOW」は、前述の目的を果たすために、教職員版、学生版、保護者版を表1のとおり制作し、発行・配布した。

なお、平成25年度の実績は下表1のとおりである。

表1. HUHS NOWの発行状況

媒体名	版 名	Vol.	発 行 日	主なコンテンツ
学内広報誌 HUHS NOW	教職員版	1 (創刊号)	平成25年 8 月 6 日	<ul style="list-style-type: none"> ・学長挨拶「HUHS NOW」発刊に向けて ・「大学協議会・教授会」の機能強化 ・セカンドステージを歩む—新執行部達成目標と方策— ・大学運営に学生の意見を ・卒業生への支援
		2	平成26年 1 月31日	<ul style="list-style-type: none"> ・学長挨拶「年頭に当たって」 ・教育支援室の運営体制について ・平成26年度入試現状報告 ・平成25年度卒業生 就職内定状況 ・平成25年度事業計画進捗状況 ・大学コンプライアンスの遵守
	学生版	1	平成25年11月11日	<ul style="list-style-type: none"> ・課外活動奨励賞を受賞 ・本学と医科大の新・広告が完成 ・学びをサポートする教育支援室を設置 ・インボディを保健室に導入 ・同窓会設立に向けて ・学生アンケート（主な質問への回答） ・IB（インフォメーションボード）の学生活用を
	保護者版	1	平成25年 8 月 6 日	<ul style="list-style-type: none"> ・学長挨拶「HUHS NOW」発刊に向けて ・新執行体制 —担当副学長紹介— ・在学生への教育支援を強化 ・保護者会役員連絡会を結成 ・地震・津波防災訓練報告 ・特別奨学金に全在学生のチャンス ・同窓会の設立に向けて ・大学の運営に学生の意見を

2) IB (インフォメーションボード) における情報発信

学内用電子掲示板を平成25年4月から設置し、多機能・高画質のインフォメーションボードとして、在学生・教職員間の情報伝達及び情報の共有化のためのツールとして、学内情報のオンエアーを開始した。

また、本キャンパスへの日常的来訪者やオープンキャンパス等のイベント来訪者などの学外者に対する本学へのイメージ訴求媒体としても活用している。

平成25年度運用状況は、下図1～4のとおりである。



図1. インフォメーションボード設置場所

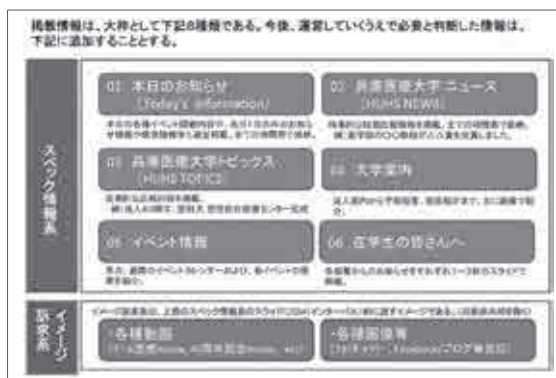


図2. 発信情報(コンテンツ)について

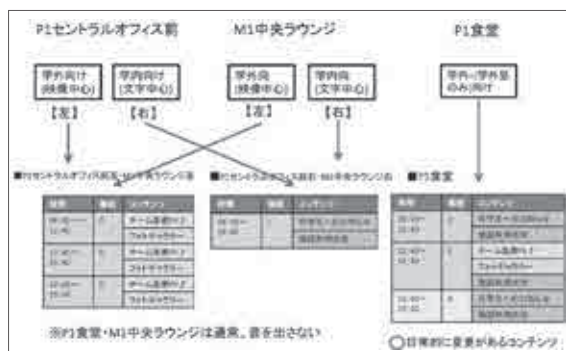


図3. コンテンツ配信状況

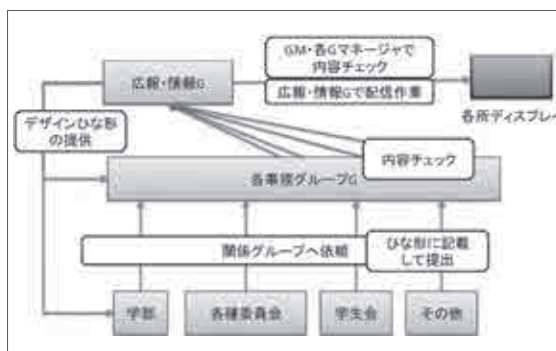


図4. 運用体制(現在)

4. 付属施設・活動状況

1) 図 書 館

i) 施設概要

(1) 設備（平成25年度末現在）

図書館面積	2,305㎡
グループ学習室面積	437㎡
閲覧席	408席
グループ学習室	20室
情報端末	22台
蔵書検索専用端末	2 台
視聴覚機器	4 台
コイン式コピー機	1 台
複合機	1 台

(2) 所蔵資料数

	平成24年度末現在	平成25年度末現在
図書（冊）	22,183	25,170
雑誌（種）	426	441
視聴覚資料（タイトル）	1,489	1,544
電子ジャーナル（利用可能種数）	3,796	3,931
電子書籍（タイトル）	54	54

(3) 年間受入数

	平成24年度実績	平成25年度実績
図書（冊）	1,118	3,066
雑誌（種）	375	298
視聴覚資料（タイトル）	32	58

（文部科学省 学術情報基盤実態調査回答より）

ii) 特記すべき図書館の動き

(1) 平成24年度

- ・ 館内ブラウジングゾーンの改修工事を行い、閲覧席を58席増設し、傾斜棚板により最新号の表紙見せができ、内部にバックナンバーが収納できるタイプの雑誌架を配置した。
- ・ 薬学部の国試対策の一環として、11月19日～2月28日の間、閲覧席に薬学部6学年次生優先利用エリアを設けた。
- ・ 平成13年4月に閉校した兵庫医科大学附属看護専門学校に所蔵していた看護系図書・製本雑誌を本学へ移送した。
- ・ 電子書籍を導入した。
- ・ 平成25年3月、開学以来使用していた図書館システム「ODIN」（京セラ丸善システムインテグレーション株式会社）を、同社図書館システムの「CARIN-i」にリプレイスを行った。

(2) 平成25年度

- ・孔子学院より寄贈された図書を受入れた。
- ・従来の図書・雑誌（冊子体）に加え、版元がILL可と判断している電子ジャーナルについて、他機関に対し、ILL（図書館間相互利用サービス）対応を開始した。
- ・教員研究費等で購入した図書・視聴覚資料で、教員研究室所在のものについて、所在調査を行った。
- ・平成24年度に移送した旧兵庫医科大学附属看護専門学校の図書・製本雑誌を受入れた。

iii) 利用状況

(1) 入館者数・貸出冊数

	平成24年度実績	平成25年度実績
開館日数	310	313
入館者数（延数）	168,230	150,320
貸出冊数（延数）	12,948	13,130

(2) グループ学習室（20室）

	平成24年度実績	平成25年度実績
利用総時間数（時間）	12,704	13,666
講義利用数（コマ）	180	209

（平成24年12月10日～平成25年2月13日（土日祝日を含む）の間、20室のうち5室を薬学部6学年次生優先利用とした）

iv) 学習支援

(1) 平成24年度

全学部1学年次生「情報科学」・「情報の科学」、看護学部「学士課程入門」、「研究方法論」等8コマの講義において、教員の要請を受け、図書館職員が文献情報検索についての講義を実施した。また、利用者向けの「EndNote講習会」を開催した。

(2) 平成25年度

全学部1学年次生「アカデミックリテラシー」、看護学部「研究方法論」等7コマに加え、平成25年10月に開設された認定看護師教育課程の「文献検索・文献講読」4コマについて文献情報検索の講義を実施した。

v) 研究支援

図書館では研究支援の一環として、本学に所蔵のない文献の複写や図書を他機関に依頼して取り寄せたり、逆に、他機関から文献複写や図書の貸出希望を受付ける相互利用サービスを行っている。実績統計を以下に示す。

		平成24年度実績		平成25年度実績	
		件数	複写枚数	件数	複写枚数
依頼	文献複写	484	2,420	529	2,403
	貸借（図書の借受）	9	—	2	—
受付	文献複写	901	4,018	598	2,610
	貸借（図書の貸出）	1	—	0	—

vi) 図書館職員研修

文部科学省や国立情報学研究所、企業等が主催する研修・セミナーに参加し、学術情報の最新動向を知り、専門知識を習得するため研鑽している。

(1) 平成24年度

研修テーマ	主 催	場 所
大学図書館向けソリューションセミナーin関西： 次世代OPACとMARC21への対応	富士通株式会社	富士通 関西システムラボラトリ
Web of Science アップデートセミナー ～図書館員の新たな可能性： 学習支援から研究戦略支援まで～	トムソン・ロイター	アクセス梅田フォーラム
ILLシステム講習会	国立情報学研究所	大阪大学
大学図書館セミナー2012： 電子書籍の最新動向と電子図書館	京セラ丸善システム インテグレーション株式会社	クロス・ウェーブ梅田
Ex Libris ソリューションディ： ディスカバリーサービス、SFX	ユサコ株式会社	滋慶医療科学大学院大学
学校経営改善セミナー2012 “秋” ～Read & Researchmapの動向をふまえた 今後の業績公開とは～	株式会社エデュース	常翔学園大阪センター
第7回新人研修会	日本看護図書館協会	岐阜県立看護大学
実務者研修会： 相互貸借～わたしの悩み、わたしの工夫	日本薬学図書館協議会等共催	京都大学
SFX ASP管理者向け講習会	ユサコ株式会社	兵庫医療大学

(2) 平成25年度

研修テーマ	主 催	場 所
学術情報ソリューションセミナー2013 in 大阪： 学術情報ビックバン～情報の効率的発見と管理につ いて～	株式会社サンメディア	ヒルトンプラザウエスト オフィスタワー
Web of Science アップデートワークショップ： Web of Science 最新情報、大学ビジョン策定支援に ついて	トムソン・ロイター	アクセス梅田フォーラム
図書館等職員著作権実務講習会	文化庁	京都大学
シンポジウム～電子化される図書・文献の著作権を 考える～	日本薬学図書館協議会共催	大阪市立大学
丸善図書館システムユーザー会	京セラ丸善システム インテグレーション株式会社	京セラ丸善システムイン テグレーション株式会社
大学図書館セミナーin関西： OPACからディスカバリーインターフェイスへ	京セラ丸善システム インテグレーション株式会社	クロス・ウェーブ梅田

2) 情報センター

i) 施設の概要

情報センターは、学長直轄の組織として、各学部及び共通教育センターからそれぞれ1名ずつ選出された教員及び広報・情報グループの事務職員で構成され、兵庫医療大学の情報ネットワークを含む情報システムの企画・整備・運用により、本学の教育・研究を支援し、本学の発展に資することを目

的としている。

ii) 活動状況

教育および業務に情報機器がなくてはならない存在であることから、情報センターの業務は様々な分野と関わりを持っている。平成24・25年度においては、引き続き学内ネットワークや各種業務系情報システムのサーバ管理・運用、ホームページの作成支援、情報処理演習室の管理・運用、情報システムの利用に関する教職員及び学生のサポート等を行った。さらに、月1回の定例会議において、後述の案件について議論を行い、適宜情報センター運営委員会を開催し承認を得たうえで実行している。特に、平成24年度末には、懸案事項であった開学当時導入した各種情報システムの更新について、当該システムのうち6年が経過し保守が終了したものを対象に更新を行った。今後は、平成24年度末の更新を見送った講義室AV機器や平成27年度末に保守が終了する各種情報システムの更新を計画していく必要がある。

iii) 平成24・25年度に実行した案件

- a. CBT 運用に関する支援
- b. メールシステムのクラウドサービス (Gmail) への移行
- c. Learning Management System 「moodle」の運用管理
- d. 英語e-learningシステムの導入支援
- e. 外向けインターネット回線の高速化
- f. 学生分析システムの導入支援
- g. ディスカッションボードシステムの導入支援 (70インチタッチパネル付PC)
- h. ディスカッションボードを利用した講義支援
- i. 情報システムの更新
 - 教育用端末、教育用ウェブサーバ
 - 教務、図書、事務情報等の業務系システム
 - 電子情報掲示板 (新規)
 - 講義録画・ビデオ配信システム (新規)
 - 他
- j. 情報システム更新に伴う改善
 - 利用者情報管理システムの法人統合
 - 各種サーバ機器の仮想化による機器集約と省電力化
 - 各種システム、データの災害対策 (法人別拠点への遠隔バックアップ)

3) キャリアデザインセンター

i) 施設の概要

社会に有用な卒業生の排出を目指す専門職業教育支援の拠点とするため、平成21年4月からキャリアデザインセンターをM棟1階に設置している。また、その目的達成のためキャリアデザイン委員会を制定し、毎月委員会を開催している。卒業年次を対象とした病院・企業説明会、各種ガイダンス・講座、求人情報の提供、応募書類の作成、面接指導などの「就職支援」および、進路を考え、キャリ

アデザインの基盤作りとなる「キャリア支援」を行うことにより、学生の卒業後の充実した進路選択をサポートしている。活動状況については、表1～14に示す。

ii) 活動内容

(1) キャリア支援

- ・ 仕事研究セミナー（表1、表8）
- ・ 病院・施設等職場見学
- ・ 合同病院説明会（「学校法人兵庫医科大学連携病院の会」）

(2) 就職支援

- ・ 求人票案内
- ・ 就職相談、求人紹介
- ・ 面接対策（講座、模擬面接）
- ・ 書類の書き方指導、添削
- ・ 学内合同病院説明会（表2、表9）
- ・ 薬学部 企業説明会・就職・実習説明会（表3、表10）
- ・ 社会人スキル対策講座（表4、表11）
- ・ 社会人スキルガイダンス（表5、表12）
- ・ 公務員採用試験ガイダンス・保健師ガイダンス（表6、表13）
- ・ グループディスカッション講座（表7、表14）
- ・ 求人開拓

(3) その他

- ・ 新学期オリエンテーション
- ・ オープンキャンパスでのキャリア、就職支援の紹介
- ・ キャリアデザイン委員会の運営
- ・ PI 4 大学連携キャリア実務者会議

＜平成24年度＞

表1. 仕事研究セミナー

回	開催日	テーマ	対象	参加数
第16回	4月10日（火）	科学捜査研究所の概要について	薬学部（全学年）	55名
第17回	5月28日（月）	国際社会と看護活動	看護学部（全学年）	6名
第18回	6月29日（金）	家屋改造に関する作業療法士の仕事について	作業療法学科（全学年）	27名
第19回	10月29日（月）	甲子園球児から理学療法士へ	理学療法学科（全学年）	131名
第20回	11月15日（木）	がん看護CNSの概要について	看護学部（全学年）	39名
第21回	12月14日（金）	回復期リハビリテーション病院に就職して思ったこと	作業療法学科（全学年）	25名

表 2. 学内合同病院説明会

回	開催日	テーマ	対象	参加数
第 3 回	4 月 28 日 (土)	学校法人兵庫医科大学連携病院の会	全学部 (全学年)	313名
第 3 回	2 月 8 日 (金)	兵庫医科大学病院・兵庫医科大学ささやま医療センター	看護学部 (3 年生)	96名

表 3. 薬学部 企業説明会・就職・実習説明会

回	開催日	テーマ	対象	参加数
第 2 回	12月22日 (土)	薬学部 企業説明会	薬学部 (5 年生)	148名
第 3 回	3 月 7 日 (木)	就職・実務実習説明会	薬学部 (4 年生)	117名
	3 月 8 日 (金)			117名

表 4. 社会人スキル対策講座

回	開催日	テーマ	対象	参加数
第 7 回	4 月 9 日 (月)	就職試験対策 (履歴書の書き方、面接対策、マナー)	看護学部 (4 年生)	97名
第 8 回	4 月 10 日 (火)			84名
第 9 回	8 月 9 日 (木)		リハビリテーション学部 (4 年生)	89名

表 5. 社会人スキルガイダンス

回	開催日	テーマ	対象	参加数
第 5 回	2012年 9 月 20 日 (木)	接遇・マナー講座	看護学部 (3 年生)	45名
第 6 回	2013年 2 月 13 日 (水)	就職ガイダンス (年間スケジュール、試験対策、ビジネスマナー等) 就職関係手続き説明 就活メイク講座 (印象の良いメイク法)	看護学部 (3 年生)	86名
第 7 回	12月10日 (月)	接遇・マナー講座	リハビリテーション学部 (3 年生)	87名

表 6. 公務員採用試験・保健師ガイダンス

回	開催日	テーマ	対象	参加数
第 5 回	8 月 10 日 (金)	保健師の採用状況、試験内容、対策ポイント	看護学部 (全学年)	3 名
第 6 回	12月27日 (木)	保健師の採用状況、試験内容、対策ポイントおよび資格職の採用状況、必要な公務員試験の勉強方法の具体的な説明	全学部 (全学年)	16名

表 7. グループディスカッション対策講座

回	開催日	テーマ	対象	参加数
第 2 回	8 月 28 日 (火)	グループディスカッション対策講座	全学部 (全学年)	17名

〈平成25年度〉

表 8. 仕事研究セミナー

回	開催日	テーマ	対象	参加数
第22回	6月20日（木）	防衛省自衛隊薬剤師業務の概要について	薬学部（全学年）	67名
第23回	7月25日（木）	点と点をつなぐ	理学療法学科（全学年）	57名
第24回	11月5日（火）	私が経験した仕事とこれからの薬剤師	薬学部（全学年）	15名
第25回	11月6日（水）	作業療法士から作業所開設へ	作業療法学科（全学年）	14名
第26回	12月2日（月）	卒業生からのメッセージ	薬学部（全学年）	19名
第27回	12月16日（月）	二刀流理学療法士になるまでの道のり	理学療法学科（全学年）	93名
第28回	12月17日（火）	卒業生からのメッセージ	看護学部（全学年）	22名

表 9. 学内合同病院説明会

回	開催日	テーマ	対象	参加数
第4回	4月27日（土）	学校法人兵庫医科大学連携病院の会	全学部（全学年）	388名
第4回	2月13日（金）	兵庫医科大学病院・兵庫医科大学ささやま医療センター	看護学部（3年生）	96名

表10. 薬学部 企業説明会・就職・実習説明会

回	開催日	テーマ	対象	参加数
第3回	12月21日（土）	薬学部 企業説明会	薬学部（5年生）	125名
第4回	2月21日（金）	就職・実務実習説明会	薬学部（4年生）	102名

表11. 社会人スキル対策講座

回	開催日	テーマ	対象	参加数
第10回	4月8日（月）	就職試験対策（履歴書の書き方、面接対策、マナー）	看護学部（4年生）	95名
第11回	4月9日（火）			92名
第12回	8月5日（月）		リハビリテーション学部（4年生）	85名

表12. 社会人スキルガイダンス

回	開催日	テーマ	対象	参加数
第8回	2012年 9月20日（金）	接遇・マナー講座	看護学部（3年生）	91名
第9回	2013年 2月17日（月）	就職ガイダンス（年間スケジュール、試験対策、ビジネスマナー等） 就職関係手続き説明 就活メイク講座（印象の良いメイク法）	看護学部（3年生）	87名
第10回	12月17日（火）	接遇・マナー講座	リハビリテーション学部（3年生）	91名

表13. 公務員採用試験・保健師ガイダンス

回	開催日	テーマ	対象	参加数
第6回	8月8日(木)	保健師の採用状況、試験内容、対策ポイント	看護学部(全学年)	7名
第7回	12月24日(火)	保健師の採用状況、試験内容、対策ポイントおよび資格職の採用状況、必要な公務員試験の勉強方法の具体的な説明	全学部(全学年)	35名

表14. グループディスカッション対策講座

回	開催日	テーマ	対象	参加数
第3回	8月27日(火)	グループディスカッション対策講座	全学部(全学年)	4名

4) 地域連携実践センター

i) 施設の概要

地域連携実践センターは、本学の創立と同時にP棟の2階に設置され、地域連携推進委員会を中心に、本学教員がそれぞれの専門分野に則して、地域住民の方々が参加しやすい公開講座や健康相談事業などを実施している。平成20年度からは「神戸ポートアイランド・キャンパス4大学連携事業」によって本学に設置された「ポーアイ健康・生活支援ステーション」と連動する実践活動と地域連携実践センター独自の活動を行っている。

ii) 社会との連携・協力に関する方針

大学の特色として、本学の教育研究分野はすべてが生活と密接にかかわる分野であることから、地域との連携を重視し、地域との連携を推進するために地域連携推進委員会を組織し、地域連携実践センターをその活動主体としている。本委員会は地域連携実践センターの運営及び本学の地域連携に関する企画を立案し、本学教員による市民健康公開講座の開催、及び個別の健康相談事業、地域交流プロジェクト等を実施している。

iii) 地域連携実践センターの活動

地域連携実践センターでは、「公開講座・健康相談」、「地域交流プロジェクト」、「講演会・ワークショップ」の3つのカテゴリーの企画を実施している。また、イベント開催時以外にも地域住民に開放し、本学教員の教育研究活動成果のポスター、漢方薬処方や生薬標本も展示して、医療に関するさまざまな情報を公開している。これまでに医療関係から子供の絵本に至る210冊の書籍を購入し、地域住民の方々が閲覧できるように図書を開架している。ホームページ上に蔵書リストを公開し、蔵書の貸出しやコピーサービスも行っている。この他、健康や医療などに関する情報検索ができるようにインターネットに接続した2台のパソコンや子供が自由に遊べるように玩具を備えた部屋なども設置している。

iv) 公開講座及び健康相談

薬学部、看護学部、リハビリテーション学部、共通教育センターが各々企画し、この2年間で8回開催した。また、各公開講座のテーマに関連した参加者の健康相談を併せて実施した。受講者に対するアンケート調査を取り入れ、情報の発信だけにとどまらず、参加者の意見を取り入れるなど参加者

に密着した運営に取り組んでいる。参加者は、平成24年度では368名（4回開催）、平成25年度では433名（4回開催）であり、1講座あたりの参加者は平均100名と、毎年参加人数が着実に増加し、参加者の認知度が高く維持されるようになった。

「全国同時七夕記念講演会」、「HIV講演会」は平成21年度から継続して、年1回ずつ、2年間で計4回開催し、本学の学生も多く参加した。

平成24年度は、兵庫県と大学コンソーシアムひょうご神戸が協働する少子化対策及び子育て支援推進事業「まちの寺子屋師範塾」に参画し、「子どもの感染症と予防接種について学ぼう」のテーマのワークショップを薬学部が実施した。

平成25年度からは、コミスタこうべ 神戸市生涯学習支援センターが開催する「こうべ生涯学習カレッジ」に参画し、「入浴・温泉を利用した健康づくり」のテーマのセミナーを共通教育センターが実施した。また、みなとじま地域包括支援センターの依頼により、リハビリテーション学部が講演会を実施した。

v) 地域交流プロジェクト

地域交流プロジェクトは、地域住民の健康の維持・増進・回復のために、本学教員の専門領域に即したテーマについて、受講者を募集し、双方向での数回の講義を実施するもので、平成20年度より実施している。平成24年度は6つのプロジェクトを、平成25年度は6つのプロジェクトを採択し、実施した。延参加人数は、平成24年度では275名、平成25年度では190名であり、参加者からは好評を得ている。

vi) 教員教育研究活動の展示

地域連携実践センター内のロビーの掲示板に、薬学部、看護学部、リハビリテーション学部、共通教育センターの教員の教育研究活動成果のポスター、漢方薬処方や生薬標本を展示して、医療に関するさまざまな情報を公開している

vii) PR活動

公開講座などの広報先は、これまでのポートアイランド内の神戸新聞1紙の折り込みから新聞6紙に増やし、配布地域をポートアイランドに加えて神戸市内灘区まで拡大した。

本学のホームページに地域連携センターの活動を掲載した。公開講座や地域交流プロジェクトの前には案内を、事後には講座の内容や反響の様子を掲載した。

表1. 平成24年度 活動報告

実施日 (回数)	事業名	所属	担当者	参加者 (延人数)
公開講座 5月19日	くすりの飲み合わせについて ～薬物相互作用について一緒に考えませんか～	薬学部	藤野 秀樹	103名 (健康相談7名)
公開講座 10月8日	食べるよろこびつながる健康	看護学部	細見 明代	89名 (健康相談5名)
公開講座 11月19日	脳の若返り～キーワードはバランス～	リハビリテーション学部	山崎せつ子	77名 (健康相談1名)
公開講座 3月16日	身近な健康づくり ～毎日の正しい入浴法・温泉の楽しみ方など～	共通教育センター	常見 幸	99名

実 施 日 (回 数)	事 業 名	所 属	担 当 者	参 加 者 (延人数)
講演会 7月9日	全国同時七夕記念講演会2012 太陽活動と地球、そして人類	共通教育 センター	加藤 精一	38名
講演会 12月6日	HIV講演会 マイノリティの人と生きる社会とは ～ホジティブ（HIV+）なボクからあな たへのメッセージ～	看護学部	末原紀美代	130名
地域交流プロジェクト 年度内（8回）×2班	いきいき倶楽部 ～注意力を高めて認知症を予防しま しょう～	リハビリテ ーション学部	坂本 利恵	128名
地域交流プロジェクト 年度内（3回）	がんサポートグループプログラム ～語りあい・学びあい・支えあい～ ーがんと共に生きるー	看護学部	上原ます子	16名
地域交流プロジェクト 年度内（2回）	健康みなおしプロジェクト ～トイレに悩む前に～	リハビリテ ーション学部	森 明子	24名
地域交流プロジェクト 年度内（4回）	血圧をモニタリングしてみよう 日常生活ふりかえりプログラム	看護学部	土居 洋子	16名
地域交流プロジェクト 年度内（4回）	乳がん早期発見のための乳房セルフケ ア促進プログラム	看護学部	鈴木 久美	64名
地域交流プロジェクト 11月10日	ポーポキ・ピース・ネットワーク ～健康と平和について感じたりしま せんか？～	薬学部	桂木 聡子	27名

表 2. 平成25年度 活動報告

実 施 日 (回 数)	事 業 名	所 属	担 当 者	参 加 者 (延人数)
公開講座 6月15日	食の安全・安心について	薬学部	清宮 健一 前田 拓也	79名 (健康相談 4 名)
公開講座 10月8日	楽しく♪気楽に《免疫力アップ》の コツ	リハビリテ ーション学部	山田 大豪	130名 (健康相談 7 名)
公開講座 11月27日	家庭で役立つ東洋医学 ～ツボと養生（健康法）～	看護学部	基盤看護学 教員	83名 (健康相談 6 名)
公開講座 3月8日	あなたはどこで最期を迎えますか	看護学部	青木菜穂子	141名 (健康相談 7 名)
講演会 7月12日	全国同時七夕記念講演会 宇宙の大きさ	共通教育 センター	加藤 精一	64名
講演会 12月4日	HIV講演会 ブラジル、希望の未来を生み出すボク たちの生き方 ～エイズ当事者のちからが社会を変える～	看護学部	工藤 里香	130名
地域交流プロジェクト 年度内（3回）	がんサポートグループプログラム ～語りあい・学びあい・支えあい～ ーがんと共に生きるー	看護学部	小西美ゆき	36名
地域交流プロジェクト 年度内（2回）	健康みなおしプロジェクト ～トイレに悩む前に～	リハビリテ ーション学部	森 明子	33名
地域交流プロジェクト 年度内（4回）	血圧をモニタリングしてみよう 日常生活ふりかえりプログラム	看護学部	細見 明代	21名
地域交流プロジェクト 年度内（3回）	乳がん早期発見のための乳房セルフケ ア促進プログラム	看護学部	鈴木 久美	17名

実 施 日 (回 数)	事 業 名	所 属	担 当 者	参 加 者 (延人数)
地域交流プロジェクト 年度内（3回）	食の楽しみをささえるために ～摂食嚥下ケアのポイント～	リハビリテー ション学部	野崎 園子	50名
地域交流プロジェクト 11月16日	ポーポキ・ピース・ネットワーク ～健康と平和について感じたりしま せんか？～	薬学部	桂木 聡子	33名

表 3. 平成24年度 大学コンソーシアムひょうご神戸

実 施 日 (回 数)	事 業 名	所 属	担 当 者	参 加 者 (延人数)
年度内（6回）	まちの寺子屋師範塾 ～子どもの感染症と予防接種について 学ぼう～	薬学部	斎藤あつ子 長野 基子	42名

表 4. 平成25年度 こうべ生涯学習カレッジ

実 施 日	事 業 名	所 属	担 当 者	参 加 者 (延人数)
大学連携セミナー 8月21日	入浴・温泉を利用した健康づくり	共通教育 センター	常見 幸	80名

表 5. 平成25年度 みなとじま地域包括支援センター

実 施 日	事 業 名	所 属	担 当 者	参 加 者
講演会 3月14日	回想法	リハビリテー ション学部	坂本 浩	20名

表 6. 公開講座広報先

方 法	配布先・掲示先	部数 2012.04～	部数 2014.03～
新聞折込	神戸新聞（ポートアイランド内）	2,300	
	ポートアイランド内（6紙）	5,900	5,900
	神戸新聞葺合東専売所（神戸市中央区全域）		19,500
ポートアイランド内	ふれあいセンター（港島自治連合協議会）	100	100
	兵庫県退職公務員連盟	5	5
	「新老人の会」兵庫支部 世話人 ひまわりの会	5	5
	神戸ポートビレジ管理組合生活クラブ	5	5
	チャレンジショップ	15	0
医療関係	日本調剤ポートアイランド薬局	40	40
	フタツカ薬局ポートアイランド	40	40
	藤本内科クリニック	10	10
	神戸市立医療センター中央市民病院	50	50
	兵庫医科大学病院	100	100
その他	神戸学院大学	50	50
	神戸女子大学・短期大学	70	50
	夙川大学		50

方 法	配布先・掲示先	部数 2012.04～	部数 2014.03～
その他	学内（全教員他）	50	150
	(株)紀伊国屋書店（そごう三宮店分）		
	他講座開催時	50	50
	過去参加者・案内希望者へ郵送・FAX・メール（※）		168
	ポータルライナー（三宮・市民病院前）にポスター掲示		
	ニュースリリース（ボーアイ4大学連携推進センターから）		各新聞紙
	合 計	2,890	26,273

5. 神戸ポートアイランド4大学連携事業 ー安全・安心・健康のための総合プログラムを軸としてー

1) 実務者会議

(1) ポーアイ健康・生活支援ステーション

平成20年10月に文部科学省「戦略的大学連携支援事業」の第1期事業として実施してきた「神戸学院大学、神戸女子大学、兵庫医療大学及び神戸女子短期大学の4大学の取組む総合的連携事業（ポーアイ4大学連携事業）」は、平成22年度末にて文部科学省の支援事業としての活動は終了した。

平成23年度から、本ポーアイ4大学連携事業は新たな局面を迎えた。本学内に設置された「ポーアイ健康・生活支援ステーション」は、この3年間の経験を礎に、地域住民の健康・生活支援を目的として、啓蒙活動、リカレント教育、情報公開等に取り組んできた。

平成24年度及び平成25年度の事業については、地域連携実践センターの活動として実施した。活動内容については、Ⅲ－3.－4) 地域連携実践センターの項（172～176頁、表1～5参照）に掲載する。

2) 部会活動

(1) 入試広報部会

i) 概要

ポートアイランド内にある4大学が連携して、学生募集広報、オープンキャンパス及び大学説明会等を合同で実施することについて協議を行う目的で、入試広報部会が設置された。

ii) 開催状況

平成24年度・25年度において、表1のとおり入試広報部会を開催し、オープンキャンパス同時開催等について協議を行うとともに、広報イベントの内容、参加実績等に関して情報交換を行った。

表1. 平成24・25年度4大学入試広報部会の開催日時

回数	日時	開催場所
第34回	平成24年4月23日（金）16:00～17:30	兵庫医療大学
第35回	平成24年11月29日（木）16:00～17:30	神戸夙川学院大学
第36回	平成25年5月2日（金）16:00～17:30	神戸女子大学・神戸女子短期大学
第37回	平成25年11月22日（金）15:28～16:35	神戸学院大学

iii) 活動状況

以前から懸案となっているオープンキャンパスの同時開催について、各大学の開催日程を基に検討したが、現状では同時開催となる日程はなく、今回の同時開催は実施できないこととなった。

ただし、オープンキャンパス合同告知については、4大学合同により開催案内チラシを制作し、近畿、中国、四国地方の高等学校に配布することになった。

(2) 教務部会

i) 概要

神戸ポートアイランド4大学連携協定書に基づく連携活動の一環として、交流と充実を図る目的で「神戸ポートアイランド4大学連携」単位互換制度及び「ポーアイ教養科目」単位互換制度を実施している。神戸ポートアイランド4大学連携教務部会は当該制度の事務を担当している。

ii) 開催状況（教務部会開催実績）

平成24年度

開催日	会議名	当番校
平成24年5月25日	第33回4大学教務部会（事務WG）	神戸女子大学
平成24年6月22日	第34回4大学教務部会（事務WG）	神戸学院大学
平成24年10月12日～31日	第35回4大学教務部会（事務WG）	兵庫医療大学
平成24年12月18日	第36回4大学教務部会（事務WG）	神戸夙川学院大学
平成25年2月15日	第37回4大学教務部会	神戸女子大学

平成25年度

開催日	会議名	当番校
平成25年5月27日	第38回4大学連携教務部会（事務WG）	神戸学院大学
平成25年6月25日	第39回4大学連携教務部会	兵庫医療大学
平成25年10月2日	第40回4大学連携教務部会（事務WG）	神戸夙川学院大学
平成25年11月15日	第41回4大学連携教務部会	神戸女子大学
平成25年12月20日	第42回4大学連携教務部会（事務WG）	神戸学院大学
平成26年1月27日	第43回4大学連携教務部会（事務WG）	兵庫医療大学

iii) 神戸ポートアイランド4大学連携単位互換提供科目（兵庫医療大学）

平成24年度

提供科目	科目責任者	単位数	開講期
行動科学（臨床心理学を含む）	磯 博行	1	前期
心理学	磯 博行	2	前期
生命・医療倫理学	紀平 知樹	2	前期
漢方医学入門	戴 毅	1	前期
新興再興感染症	斎藤あつ子	1	前期
リハビリテーション概論	野崎 園子	1	前期
運動発達論	伊藤 斉子	1	前期
認知障害治療学	山崎せつ子	1	前期
チーム医療概論	末廣 謙	1	後期
災害看護	末原紀美代	1	後期

平成25年度

提 供 科 目	科目責任者	単位数	開講期
医療概論	末廣 謙	1	前期
心理学	磯 博行	2	前期
哲学	紀平 知樹	2	前期
人間発達学	磯 博行	2	前期
リハビリテーション概論	野崎 園子 山崎せつ子 他	1	前期
運動発達論	有吉 正則	1	前期
漢方医学入門	戴 毅	1	前期
新興再興感染症	斎藤あつ子 長野 基子 他	1	前期
認知障害治療学	山崎せつ子	1	前期
生物学	伊東 久男 柏村信一郎	2	後期
生命・医療倫理学	紀平 知樹	2	後期
臨床心理学 (カウンセリング論を含む)	磯 博行	2	後期
災害看護	細見 明代 他	1	後期

ポアイ教養科目

平成24年度

提 供 科 目	科目責任者	単位数	開講期
健康づくり・生活支援入門	奥野 直	2	前期
健康づくり・生活支援ワークショップ	藤井真理子 末原紀美代	2	後期
健康・生活支援指導論実習	賀屋 光晴	1	後期

平成25年度

提 供 科 目	科目責任者	単位数	開講期
健康づくり・生活支援入門	奥野 直	2	前期
健康づくり・生活支援ワークショップ	藤井真理子 工藤 里香	2	後期
健康・生活支援指導論実習	賀屋 光晴	1	後期

(3) 学生部会

i) 概要

ポートアイランド内の4大学学生部会の連携により、4大学に関連した学生生活環境の改善、学生会活動及び課外活動を含む学生生活に関することを協議し、問題の解決に当たっている。

ii) 平成24・25年度 4 大学学生部会の開催状況

表 1、2 のとおり、4 大学学生部会を年 4 回開催し、協議・報告・情報交換を実施した。

表 1. 平成24年度4大学学生部会の開催日時

回 数	日 時	開催場所
第24回	平成24年 4 月25日 (水) 15:00～16:30	兵庫医療大学
第25回	平成24年 6 月27日 (水) 15:00～16:30	神戸女子大学・神戸女子短期大学
第26回	平成24年10月17日 (水) 15:30～16:40	神戸学院大学
第27回	平成25年 2 月14日 (水) 15:00～16:30	神戸夙川学院大学

表 2. 平成25年度 4 大学学生部会の開催日時

回 数	日 時	開催場所
第28回	平成25年 4 月26日 (水) 13:30～15:15	兵庫医療大学
第29回	平成25年 6 月28日 (金) 10:00～11:30	神戸女子大学・神戸女子短期大学
第30回	平成25年10月 4 日 (金) 10:00～11:30	神戸学院大学
第31回	平成26年 2 月12日 (水) 15:00～16:50	神戸夙川学院大学

iii) 4 大学学生部会の活動状況

(1) 平成24年度連携した活動

①ボーアイ 4 大学連携事業・活動〈留学生異文化体験プログラム〉(年 4 回)

神戸学院大学の協力の下に留学生異文化体験ツアーを実施

- ・アジュール舞子 参加者36名 (5/13)
- ・西陣織会館、嵐山、保津峡、美山町 参加者44名 (6/3)
- ・国立吉備青少年自然の家 参加者38名 (10/13～10/14)
- ・明石魚の棚、明石城、明石天文台、舞子 参加者17名 (11/23)

②合同スポーツ大会

神戸学院大学の協力によるマラソン大会・駅伝大会 (12/16)。参加者402名

- ・第33回尾上杯マラソン大会
- ・第21回学長杯駅伝大会

③交通信号機交差点歩行者横断状況と信号無視学生への啓発・指導

- ・立哨場所 (港島 4 丁目交差点、港島 5 丁目交差点、港島 2 丁目交差点)

- ・春期及び秋期啓発指導立哨の期間

平成24年 5 月 7 日～11日	兵庫医療大学
平成24年 5 月14日～18日	神戸夙川学院大学
平成24年 5 月21日～25日	神戸学院大学
平成24年10月29日～11月1日	神戸学院大学
平成24年11月 5 日～ 8 日	兵庫医療大学
平成24年11月12日～15日	神戸夙川学院大学

④大学周辺のバイク・自転車不法駐輪対応

⑤喫煙マナー指導、啓発キャンペーンの実施

(2) 平成25年度連携した事業・活動

①ポーアイ4大学連携事業〈留学生異文化体験プログラム〉(年2回)

神戸学院大学の協力の下に留学生異文化体験ツアーを実施

- ・相生ペーロン競漕 参加者34名 応援者24名 (5/19、5/26)
- ・淡路島 雨天中止 (10/26～27)
- ・六甲山、フラワーパーク 参加者33名 (12/15)

②合同スポーツ大会

神戸学院大学の協力の下、マラソン大会・駅伝大会を開催した。参加者454名 (12/8)

- ・第34回尾上杯マラソン大会
- ・第22回学長杯駅伝大会

③交通信号機交差点歩行者横断状況と信号無視学生への啓発・指導

- ・春期及び秋期啓発指導立哨の期間

平成25年5月13日～17日	神戸夙川学院大学
平成25年5月20日～24日	兵庫医療大学
平成25年5月27日～31日	神戸学院大学
平成25年10月28日～11月1日	神戸学院大学
平成25年11月5日～8日	兵庫医療大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学
平成25年11月11日～15日	神戸夙川学院大学

- ・兵庫県企画県民部県民文化局交通安全室による指導

④ポートアイランド病院駐車場学生通り抜け対策

- ・駐車場管理業者メディカルダイネットと協議
- ・みなとじま駅前のポスター掲示、病院駐車場入口付近へ植木鉢設置

⑤大学周辺のバイク・自転車不法駐輪対応

- ・警備員による巡回指導、警備員増員による駐輪排除対策

⑥喫煙マナー指導、啓発キャンペーンの実施

- ・喫煙マナー指導、啓発キャンペーン(喫煙巡回指導、吸い殻拾い、禁煙講義等)

⑦ポートアイランド6大学スポーツ大会

- ・神戸学院大学のサークルを中心とする6大学スポーツ大会の開催

(4) 図書館部会

i) 活動状況

4大学間で、来館利用及び資料の貸出等相互利用を行っており、6月～12月には合同巡回展示を開催している。また、平成25年度からは、4大学の学生がお互いに他の連携大学図書館を知るための取り組みとして、スタンプラリー(スタンプを4つ集めれば大学グッズと交換)を開始した。

ii) 4 大学間相互利用状況

(1) 登録者数・入館者数

	平成24年度	平成25年度
登録者数	16	15
入館者数 (延数)	96	77

(参考：他の連携大学実績)

	神戸学院大学ポートアイランドキャンパス図書館		神戸女子大学・神戸女子短期大学図書館(ポートアイランド)		神戸夙川学院大学図書館	
	平成24年度	平成25年度	平成24年度	平成25年度	平成24年度	平成25年度
登録者数	117	138	1	7	0	16
入館者数 (延数)	313	415	2	12	11	31

(2) 貸出人数・貸出冊数

	平成24年度	平成25年度
貸出人数 (延数)	9	11
貸出冊数 (延数)	26	22

(参考：他の連携大学実績)

	神戸学院大学ポートアイランドキャンパス図書館		神戸女子大学・神戸女子短期大学図書館(ポートアイランド)		神戸夙川学院大学図書館	
	平成24年度	平成25年度	平成24年度	平成25年度	平成24年度	平成25年度
貸出人数 (延数)	81	130	0	7	0	19
貸出冊数 (延数)	117	178	0	10	0	27

(3) スタンプラリー

	平成25年度
スタンプカード発行数	22
スタンプ押印数	9
グッズ交換数	0

(参考：他の連携大学実績)

	神戸学院大学ポートアイランドキャンパス図書館	神戸女子大学・神戸女子短期大学図書館(ポートアイランド)	神戸夙川学院大学図書館
	平成25年度	平成25年度	平成25年度
スタンプカード発行数	25	175	35
スタンプ押印数	18	189	25
グッズ交換数	1	0	16

iii) 巡回展示

自館で6月に展示した後、10月～12月にかけて1ヵ月ずつ、他の連携大学図書館において合同巡回展示を開催。

(1) 平成24年度

	出展テーマ
兵庫医療大学附属図書館	安全で健やかな食生活を送る ～食中毒～
神戸学院大学ポートアイランドキャンパス図書館	経済・くらし・環境からみたエネルギー問題 ～再生可能エネルギーを中心に～
神戸女子大学・神戸女子短期大学図書館 (ポートアイランド)	有教無類 ～「教育」の役割を考える～
神戸夙川学院大学図書館	地域を支える文化力 ～観光を通じて～

(2) 平成25年度

	出展テーマ
兵庫医療大学附属図書館	からだのリズムと健康 ～健康の鍵を握る体内時計～
神戸学院大学ポートアイランドキャンパス図書館	震災を語り継ぐ、震災に備える
神戸女子大学・神戸女子短期大学図書館 (ポートアイランド)	“凜”と生きる ～「ハンサムウーマン」な生き方に学ぶ～
神戸夙川学院大学・夙川学院短期大学図書館	食・農・環境と旅 ～Green Tourism～

(5) キャリア部会

i) 概要

当初は就職対象の学年が在籍しておらず、エクステンション（課外）講座を中心にエクステンション部会として資格取得を共同で実施する目的で結成された。他大学からも受講可能な独自資格講座（資格取得やキャリアアップの講座）として設置し、連携を進めていった。その後、平成21年度末より就職対象の学年の在籍に伴いキャリア支援の内容も議論されるようになり、平成22年度よりキャリア支援部会という名称に変更した。部会は隔月の第2週の火曜日に4大学が順番で幹事を行い開催している。部会では主に各校の予定行事や資格講座を報告した後に、連携可能なもの（事業）を検討している。将来的には生涯学習やインターンシップに関しても、共同で取り組もうという方向で検討をかさねている。

ii) キャリア支援専門部会の開催状況

表1. 平成24年度キャリア支援部会

	日 時	開催場所
第27回	平成24年5月15日（火）	兵庫医療大学
第28回	平成24年7月10日（火）	神戸夙川学院大学
第29回	平成24年9月25日（火）	神戸女子・短期大学
第30回	平成24年11月13日（火）	神戸学院大学
第31回	平成25年1月25日（火）	兵庫医療大学
第32回	平成25年3月19日（火）	神戸夙川学院大学

表 2. 平成25年度キャリア支援部会

	日 時	開催場所
第33回	平成25年 5 月14日 (火)	神戸女子・短期大学
第34回	平成25年 7 月 9 日 (火)	兵庫医療大学
第35回	平成25年 9 月10日 (火)	神戸学院大学
第36回	平成25年11月19日 (火)	神戸夙川学院大学
第37回	平成26年 2 月 4 日 (火)	神戸女子・短期大学

iii) 4 大学連携事業の活動状況

(1) 平成24年度連携した事業

- ①神戸学院大学による
 - a. 4 年生向け学内合同企業説明会 11/17 13:30～
- ②神戸夙川学院大学による
 - a. グループディスカッション 12/19、1/16

(2) 平成25年度連携した事業

- ①神戸学院大学による
 - a. 学内合同企業説明会 7/13、11/16
- ②神戸夙川学院大学による
 - a. グループディスカッション 12/18、1/15
- ③神戸女子・短期大学
 - a. 短大生向けの企業セミナー（女子学生のみ） 3/19、3/20

編集後記

平成24・25年度版兵庫医療大学年報をお届けいたします。平成19年に開学した本学も、ようやく薬学部、看護学部、リハビリテーション学部の3学部すべてが完成年度を迎えることができました。全学部、全学年すべてがそろった初めての年報になります。

大学を取り巻く環境が大きく変化したといわれてすでに久しく、そのような変化に対応すべく、大学もさまざまな試みを通じて、変革に挑んでいます。もちろんこれまでの大学のあり方のすべてが変わるべきものでもありません。守るべき事柄と変えるべき事柄をみきわめて、教職員は言うまでもなく、学生も日々の活動を行っております。この年報は本学のそうした取り組みの記録です。

最後になりますが、本年報を作成するにあたって、原稿の執筆や編集作業にあたっていただいた方々に厚くお礼を申し上げます。

年報編集委員会

編集委員長	共通教育センター准教授	紀平 知樹
図書館長	共通教育センター教授	末廣 謙
	薬学部教授	九川 文彦
	薬学部講師	上田 寛樹
	看護学部准教授	田中 登美
	看護学部講師	岡野 明美
	リハビリテーション学部教授	野崎 園子
	リハビリテーション学部講師	坂本 利恵
神戸キャンパスオフィスシニアマネジャー		梶 勝博
	神戸研究支援課長	木原 淳彦
	図書館グループリーダー	津田 雅代
	図書館グループ（主任）	藤本 茶千

兵庫医療大学年報（平成24・25年度）

発行日	平成27年3月20日
編集・発行	兵庫医療大学 年報編集委員会 〒650-8530 神戸市中央区港島1丁目3番6号 TEL 0798-304-3000 FAX 078-304-2700
印刷	株式会社小西印刷所

Hyogo University of Health Sciences



学校法人 **兵庫医科大学**

西宮市武庫川町1丁目1番 TEL.0798-45-6111